



歴代大管長の教え

ハワード・W・ハンター





歴代大管長の教え

ハワード・W・ハンター

発行

末日聖徒イエス・キリスト教会
ユタ州ソルトレーク・シティー

『歴代大管長の教え』シリーズの書籍

『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』(アイテム番号 36481 300)

『歴代大管長の教え—ブリガム・ヤング』(35554 300)

『歴代大管長の教え—ジョン・テーラー』(35969 300)

『歴代大管長の教え—ウィルフォード・ウッドラフ』(36315 300)

『歴代大管長の教え—ロレンゾ・スノー』(36787 300)

『歴代大管長の教え—ジョセフ・F・スミス』(35744 300)

『歴代大管長の教え—ヒーバー・J・グラント』(35970 300)

『歴代大管長の教え—ジョージ・アルバート・スミス』(36786 300)

『歴代大管長の教え—デビッド・O・マッケイ』(36492 300)

『歴代大管長の教え—ジョセフ・フィールドینگ・スミス』(36907 300)

『歴代大管長の教え—ハロルド・B・リー』(35892 300)

『歴代大管長の教え—スペンサー・W・キンボール』(36500 300)

『歴代大管長の教え—エズラ・タフト・ベンソン』(08860 300)

『歴代大管長の教え—ハワード・W・ハンター』(08861 300)

これらの書籍を注文するには、地元の配送センターで購入するか、store.lds.org にアクセスしてください(訳注— store.lds.org での日本語版書籍の入手可能時期は未定)。これらの書籍は LDS.org およびモバイル用アプリ「福音ライブラリー」で、デジタル版も入手できます。

本書に関するご意見、ご提案をお寄せください。宛先は以下のとおりです。

Curriculum Development

50 East North Temple Street

Salt Lake City, UT 84150-0024 USA

Email: cur-development@ldschurch.org

お名前、ご住所、所属ステーク・地方部名、ワード・支部名を明記してください。また、本書の題名も忘れずにお書きください。ご意見やご提案には、本書の良い点や改善できると思われる点についてお書きください。

© 2015 Intellectual Reserve, Inc.

All rights reserved.

印刷：日本

英語版承認：2011年3月

英語版承認：2011年3月

原題：*Teachings of Presidents of the Church: Howard W. Hunter*

Japanese

08861300

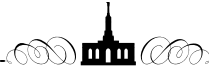


目次

序	v
経歴のまとめ	ix
ハワード・W・ハンターの生涯と教導の業	1
1 イエス・キリスト — 希望と喜びにつながる唯一の道	33
2 「わたしの平安をあなたがたに与える」	43
3 逆境 — わたしたちの永遠の進歩のための神の計画の一部	54
4 高い所からの助け	67
5 ジョセフ・スミス, 回復の預言者	79
6 イエス・キリストの贖罪 <small>しよくざい</small> と復活	90
7 生ける預言者を通して絶えず与えられる啓示	101
8 福音を全世界に携えて行く	110
9 什分 <small>じゅうぶん</small> の一の律法	120
10 聖文 — 学習の中で最も有益なもの	129
11 真の偉大さ	140
12 戻って来て, 主が備えられた食卓に着く	152
13 神殿 — 会員であることを示す偉大な象徴	160
14 家族歴史と神殿の業を速める	170
15 主の晩餐 <small>ばんさん</small> の聖餐 <small>せいさん</small>	179
16 結婚 — 永遠の協力関係	189
17 家族を守り, 擁護する	199
18 わたしたちは正直であるべきことを信じる	210
19 神への忠誠を決意する	219
20 救い主が示された慈愛の道を歩む	230
21 信仰 <small>あかし</small> と証	242
22 福音を教える	253
23 「劣らずよく働く」	264
24 イエス・キリストの模範に従う	276



Howard W. Hunter



序

大管長会ならびに十二使徒定員会は、教会員が天の御父にさらに近づけるように、またイエス・キリストの回復された福音への理解を深められるように、『歴代大管長の教え』シリーズを作成した。本シリーズに新たな書籍が追加されるにつれ、家庭で活用するための福音の参考図書のコレクションが増えるであろう。本シリーズの書籍は、個人学習と日曜日のレッスンの両方における使用を目的として作成されている。また、家庭の夕べのレッスンや、その他のレッスンや話を準備する際、および教会の教義についての質問に答える際にも役立てることができる。

本書では、1994年6月5日から1995年3月3日まで末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長を務めたハワード・W・ハンター大管長の教えを採り上げている。

個人学習

ハワード・W・ハンター大管長の教えを研究するとき、よく祈って御霊の導きを求めるようにする。各章の最後に載っている質問は、ハンター大管長の教えについて深く考え、教えを理解し、実践する助けとなるであろう。以下のアイデアも役立つであろう。

- 研究するときに聖霊から受けた考えや思いを書き留める。
- 覚えておきたい語句に下線を引く。そのような語句を暗記したり、聖典の関連聖句の横にそれを書き込んだりするとよい。
- 理解を深められるよう、章や文章を複数回読む。
- 次のように自問する。「ハンター大管長の教えは、福音の原則に対するわたしの理解をどのように深めてくれるだろうか。」「主は、これらの教えからわたしが何を学ぶよう望んでおられるだろうか。」
- 自分の問題や心配事に対処するうえで本書の教えをどのように役立てられるか自問する。
- 学んだ事柄を家族や友人と分かち合う。

本書から教える

家庭や教会で本書から教える際に、以下の指針が役立つであろう。

教える準備をする

教える準備をするときに聖霊の導きを求める。該当する章をよく祈って研究し、ハンター大管長の教えを理解できたという確信を持てるようにする。教師自身がハンター大管長の言葉から影響を受けるとき、より一層力強く教えられるようになるであろう(教義と聖約 11: 21参照)。

ほとんどの章にはクラスの時間内に十分話し合えない量の内容が含まれている。最も役立つと感じる教えを、よく祈って選ぶ。

参加者には、レッスンの前に該当する章を研究しておくように勧める。そうするとき、話し合いに参加して互いに教化し合う準備がさらによくできるであろう。

教える準備をする際には、各章の最後にある「研究とレッスンのための提案」に特に注意を払う。この項には、質問、関連聖句、学ぶ際のヒントや教える際のヒントが書かれている。質問と聖句は、各章の内容と具体的な関連がある。学ぶ際のヒントと教える際のヒントは、福音を学び、教える際に役立つ、より一般的な指針である。

レッスンの導入を行う

該当する章についての導入を行うとき、御霊^{みたま}が参加者の心と思いに触れることのできる雰囲気を作るように努める。以下の方法を一つ、または複数用いるとよい。

- 章の冒頭にある「ハワード・W・ハンターの生涯から」の項を読み、話し合う。
- 章に載っている引用文や写真や絵、引用されている聖句について話し合う。
- 賛美歌を一緒に歌う。
- テーマに関する個人的な経験を簡潔に述べる。

ハンター大管長の教えについての話し合いを促す

本書から教えるときには、自分の考えを述べ、質問をし、互いに教え合うように人々に勧める。人は積極的に参加するとき、学び、個人的な啓示を受ける備えがさらによくなるようになる。

全ての教えを網羅しようとせず、有意義な話し合いを続けさせる。ハンター大管長の教えに焦点を当てられるよう話し合いを導く。

話し合いを促すために、章の最後にある質問を活用する。また、参加者のために特別に教師自身で質問を用意してもよい。話し合いを促す方法として、他にも以下のようなものが考えられる。

- 参加者に、その章について個人学習で学んだことを発表してもらう。前もって数人の参加者に連絡を取り、学んだことを発表する準備をしておくように依頼するとよいであろう。
- 章の最後にある質問を幾つか選び、それを読むように参加者に割り当てる（個人または小さなグループで行わせる）。質問に関連のある教えを章の中から探すように言う。その後、自分の考えや理解したことを発表してもらう。
- 章の中から選んだハンター大管長の教えと一緒に読む。参加者に、ハンター大管長が教えていることを示している例を、聖文や自分自身の経験から話してもらう。
- 参加者に、一つの項を選んで黙読するように言う。同じ項を選んだ人同士で2、3人のグループを作り、学んだことを話し合うように勧める。

分かち合いと応用を促す

ハンター大管長の教えが最も大きな意味を持つのは、参加者がそれを他の人々に分かち合い、また自分の生活に応用するときである。以下の方法を一つ、あるいは複数用いるとよい。

- 家庭や教会で責任を果たす際に、ハンター大管長の教えをどのように応用できるか参加者に尋ねる。例えば、夫や妻、親、息子や娘、ホームティーチャーや訪問教師として大管長の教えをどのように応用できるかについて深く考え、話し合ってもらおうとよい。
- 学んだことを実践した経験を分かち合うように、参加者に勧める。
- ハンター大管長の教えの幾つかを家族や友人に分かち合うように、参加者に勧める。

話し合いを終える

教師がレッスンを簡単に要約するか、または一人か二人の参加者に要約してもらおう。話し合ってきた教えについて^{あかし}証する。また、証を述べるように他の人に勧めてもよい。

本書で引用されている資料に関する情報

本書に収められている教えは、ハワード・W・ハンター大管長の説教や記事から直接引用したものである。出版物からの引用文は、読みやすくするために編集上または印刷上必要な変更が加えられている場合を除いて、原文で使われている句読点、語のつづり、大文字の使用、段落分けをそのまま使用している。引用文は出版物に忠実であるため、読者は本文に多少統一を欠く点があることに気づくかもしれない。例えば、「神会」を指す代名詞は小文字で始まっている場合とそうでない場合とがある（訳注 — 英文のみに適用）。

また、ハンター大管長は度々、男性と女性の両方に対して“men”, “man”, “mankind”などの用語を使用している。また男女両方を指す代名詞として頻繁に“he”, “his”, “him”を使用している。これは当時の言葉遣いにおいて一般的なことであった。ハンター大管長がこれらの代名詞を使うとき、通常女性と男性の両方を指していた（訳注 — 英文のみに適用）。



経歴のまとめ

以下の年表は、本書で紹介されているハワード・W・ハンター大管長の教えの歴史的な背景を簡単に紹介するものである。

- | | |
|-------------|--|
| 1907年11月14日 | アイダホ州ボイシで、ジョン・ウィリアム（ウィル）・ハンターとネリー・マリー・ラスマッセン・ハンターの元に誕生する。 |
| 1920年4月4日 | ボイシでバプテスマと確認の儀式を受ける。 |
| 1923年5月 | イーグルスカウト賞を受賞する。ボイシで二人目の受賞者であった。 |
| 1927年1月-2月 | 自らが結成したバンド「ハンターズ・クルーネーダーズ」とともに、2か月間アジアを航海する客船で音楽を演奏する。 |
| 1928年3月 | カリフォルニア州南部に移る。 |
| 1928年4月 | カリフォルニア州の銀行に就職する。 |
| 1931年6月10日 | クララ・メイ（クレア）・ジェフスとソルトレーク神殿で結婚する。 |
| 1932年1月 | 大恐慌により銀行が倒産し、失職したため、臨時仕事で生計を立てる。 |
| 1934年1月 | ロサンゼルス郡洪水防止地区の権原部門 <small>けんげん</small> に勤め始める。 |
| 1934年3月20日 | 息子、ハワード・ウィリアム（ビリー）・ハンター・ジュニアが誕生する。 |
| 1934年10月11日 | 息子、ハワード・ウィリアム（ビリー）・ハンター・ジュニアが死去する。 |
| 1935年9月 | ロサンゼルス <small>ロス</small> のサウスウェスタン法科大学（現サウスウェスタン・ロースクール）に入学する。 |
| 1936年5月4日 | 息子、ジョン・ジェーコブ・ハンターが誕生する。 |
| 1938年6月29日 | 息子、リチャード・アレン・ハンターが誕生する。 |

- 1939年6月8日 ロースクールを学年第3位の成績で卒業する。
- 1940年4月 民間の弁護士業を開業する。始めは非常勤で働いていたが、1945年までには常勤で働くようになる。1959年に使徒に召されるまで弁護士業を営む。
- 1940年9月 - 1946年11月 カリフォルニア州エルセレノワードのビショップとして奉仕する。
- 1950年2月 - 1959年11月 カリフォルニア州パサディナステーキの会長として奉仕する。
- 1953年11月14日 46歳のときにアリゾナ州メサ神殿で両親に結び固められる。
- 1959年10月9日 デビッド・O・マッケイ大管長より十二使徒定員会会員に召される。
- 1959年10月15日 デビッド・O・マッケイ大管長から使徒に聖任され、十二使徒定員会の会員に任命される。
- 1964年 - 1972年 教会の系図協会の会長として奉仕する。
- 1965年 - 1976年 ハワイ州ライエにあるポリネシア文化センターの所長を務める。
- 1970年 - 1972年 教会歴史家として奉仕する。
- 1974年 - 1979年 エルサレムのオーソン・ハイド記念公園の開発計画、資金集め、建設の監督を手伝う。
- 1975年11月 一週末のうちにメキシコシティの5つのステーキを15のステーキに再組織するうえで指導的役割を果たす。
- 1979年 - 1989年 プリガム・ヤング大学 (BYU) 近東研究エルサレムセンターの計画と建設を監督する。
- 1979年10月24日 エルサレムのオーソン・ハイド記念公園の奉獻式の司式を行う。
- 1983年10月9日 10年以上の闘病の末、クレア・ハンターが死去する。

- 1985年11月10日 十二使徒定員会会長であったマリオン・G・ロムニーの健康状態の悪化に伴い、会長代理に任命される。
- 1988年6月2日 十二使徒定員会会長であったマリオン・G・ロムニーの死去に伴い、会長に任命される。
- 1989年5月16日 BYU近東研究エルサレムセンターを奉獻する。
- 1990年4月12日 イニッシ・バニース・イーガン・スタントンとソルトレーク神殿で結婚する。
- 1994年6月5日 末日聖徒イエス・キリスト教会第14代大管長に任命される。
- 1994年10月1日 総大会において教会の大管長として支持される。
- 1994年10月9日 フロリダ州オーランド神殿を奉獻する。
- 1994年12月11日 教会で2,000番目となるステーキ（メキシコ・メキシコシティー・コントレラスステーキ）の組織を管理する。
- 1995年1月8日 ユタ州バウンティフル神殿を奉獻する。
- 1995年3月3日 87歳のときにユタ州ソルトレーク・シティーの自宅で死去。





ハワード・W・ハンターの 生涯と教導の業

ハワード・W・ハンターは末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長に任命された翌日の1994年6月6日、二つのことを行うよう勧めた。穏やかな口調でこのように勧めたのである。

「まず初めに、主イエス・キリストの生涯と模範、特に主が示された愛と希望と慈悲に、これまで以上の注意を払って生活するよう全ての教会員にお勧めします。わたしたちが互いにもっと思いやりを示し、もっと礼儀を尽くし、もっと謙遜で、忍耐強く、赦し合えるように祈っています。」¹

何十年にもわたり、ハンター大管長は救い主の模範に従うよう勧めることに焦点を当てて教えた。その数年前、ハンター大管長はこのように述べている。「このことを忘れないでください。わたしたちの生活と信仰がイエス・キリストとその回復された福音を基としたものであれば、物事のうまくいかない状態がいつまでも続くことはありません。一方、救い主とその教えを基とした生活を送っていなければ、どんな成功も永続しません。」²

ハンター大管長が次に教会員に勧めたのは、神殿の祝福を一層完全に受けることだった。

「さらに、わたしは教会員の皆さんに、主の宮を、教会員であることの崇高な象徴とし、最も神聖な聖約を交わす至高の場所として確立するようお勧めします。わたしは全ての教会員が神殿に参入するにふさわしくなるよう心の底から望んでいます。また、全ての成人会員が神殿推薦状を受けるにふさわしく、たとえ距離的な問題ですぐには神殿に参入できなくても、あるいはしばしば参入できなくても、現在有効な神殿推薦状を所持することを望みます。……

わたしたちは神殿に参入し、神殿を愛する民となろうではありませんか。時間と金銭と個人的な状況が許す限り、しばしば神殿に足を運ぼうではありませんか。亡くなった親戚のためだけでなく、神殿の礼拝によって個人の祝福を受け、この神聖かつ聖別された建物の中で与えられる聖めと守りを受けるために参入しようではありませんか。神殿は美しい場所です。啓示を受ける場所であり、平安を受ける場所です。そこは主の宮です。主に聖さをささげる所です。わたしたちにとって聖なる場所です。」³



幼い頃のハワード・W・ハンター

ハンター大管長は、大管長として在任中、この二つの勧めを強調し続けた。大管長在任期間はたった9か月だったが、これらの勧めは、もっとキリストに似た者となり、神殿の祝福を得るためにさらに献身するよう、世界中の教会員を鼓舞した。

初期の頃

1800年代半ば、4か国に住んでいたハワード・W・ハンターの先祖たちが末日聖徒イエス・キリスト教会に改宗した。母方の先祖は、デンマークとノルウェー出身で、母国から移住した後、ユタ州マウントプレザントの初期の入植者となった。この忠実な開拓者たちの子孫であるネリー・ラスマッセンは、後に預言者の母となった。

ハワードの父方の先祖は、代々スコットランドとニューイングランドに住んでいた。教会に入った先祖たちは大きな犠牲を払ったが、数年後にはほとんどの者が教会との関係を絶った。1879年に生まれたジョン・ウィリアム（ウィル）・ハンターは、ハンター家において教会との結びつきがなくなってから3世代目の最初の子として誕生した。にもかかわらず、ウィル・ハンターは後に預言者の父となる。

ウィル・ハンターが8歳のときに、家族はアイダホ州ボイシに移り住んだ。16年ほどたった頃、ウィルは、ボイシのおじ夫妻の家に下宿していたネリー・ラスマッセンと出会った。ウィルは間もなくネリーと交際を始め、2年後にプロポーズをした。ネリーは少しの間躊躇していたが、ウィルの粘り強さに負け、ついにプロポーズを受け入れた。二人はユタ州マウントプレザントで結婚し、ボイシに戻って家庭を築いた。第1子であるハワード・ウィリアム・ハンターは、1907年11月14日にボイシで生まれた。もう一人の子供である娘のドロシーは1909年に誕生した。

生活の基礎を築く

ハワードが生まれた当時、ボイシには一つの小さな支部しか教会がなかった。ハワードの母はその支部の活発な会員で、子供たちを福音の中で育てた。ハワードは母についてこのように述べている。「母は常に忠実でした。……初等協会と〔若い女性〕の会長として奉仕しました。母が召しを果たせるよう、集会の時刻よりも早く一緒に教会に行き、集会後も教会に残っていたのを覚えています。」⁴ハワードの父は教会員ではなかったが、家族が教会に集うことに反対はせず、時折一緒に聖餐会せいさんに参加した。

ネリー・ハンターは子供たちが活発な教会員となるよう導いただけでなく、家庭で堅固な宗教的な基盤を築けるよう子供たちを助けた。「母が率先して子供たちに福音を教えてくださいました」とハワードは振り返る。「子供たちは母から祈り方を学びました。……わたしが少年の頃に証を得たのも、母の教えのおかげです。」⁵

ボイシ支部は1913年にワードになった。ハワードの6歳の誕生日の数日前のことである。2年後、8歳になったハワードは、バプテスマを受けることを楽しみにしていた。「わたしはバプテスマを受けられると思い、わくわくしていました」とハワードは言っている。しかし、バプテスマを受けることを父に許してもらえなかった。ハワードはこう振り返る。「父は……自分でどのような人生を送りたいかを決められるまで待つべきだと思っていました。わたしはバプテスマを受けたいと願っていましたが、その祝福を受けることなく時は過ぎていきました。」⁶

ハワードはバプテスマを受けていなかったため、12歳になっても執事の聖任を受けることができなかった。「その頃には、友達は何人か聖任されていました」とハワードは言う。「わたしは正式な教会員ではなかったため、友達にしているのに自分ではできないことがたくさんありました。」⁷ハワードは、聖餐を配れないことを特に残念がった。「聖餐会では他の少年たちと一緒に座っていましたが、聖餐を配る時間になると、しょんぼりと席に座っていました。取り残されたような気分だったのです。」⁸

ハワードはもう一度父に話しに行った。今度は妹のドロシーを伴って行った。「[わたしたちは]バプテスマを受けさせてほしいと父を説得し始めました。また、父の承諾をもらえるよう二人で祈りました。とうとう父からバプテスマを受ける許可をもらい、わたしたちは大喜びしました。」⁹ハワードが12歳になって9か月後、ハワードとドロシーは公営プールでバプテスマを受けた。間もなく、ハワードは執事に聖任され、初めて聖餐を配った。「どきどきしましたが、その特権を得たことに大きな喜びを感じていました」と言った。¹⁰ハワードはその他にも、オルガンに空気を送ったり、寒い日曜日の朝に礼拝堂を暖めるために火を起こしたりする役割を担っていた。「教会員としての責任と神権者の務めを学ぶにつれ、新しい世界が開けていきました。」¹¹

若い男性であったハワードは、ワードのボーイスカウトの団に所属し、イーグルスカウトと呼ばれる最高の賞を獲得するために懸命に努力した。目標達成を目前に控えたハワードは、友達と切磋琢磨した。「わたしたちはボイシ初のイーグルスカウトを巡って競い合いました。」¹²もう一人の若い男性が最初に要件を満たしたが、ハワードは2番目に同賞を獲得したことに満足しているようだった。¹³



ハワード・W・ハンター (中央)。1927年、「ハンターズ・クルーネーダーズ」とともに

ハワードは勤勉に働くことの大切さを若い頃から知っていた。夫に先立たれた女性や隣人を助け、新聞を売り、おじの牧場で働いた。大きくなるにつれ、ゴルフコースのキャディーや電報配達、薬局や新聞社、ホテル、デパート、美術商関連の仕事もした。

妹のドロシー・ハンターは、ハワードは「やる気にあふれ」「頭脳^{めいせき}明晰だった」と語っている。¹⁴ハワードはそのような気質に加え、思いやり深く寛大な特質も備えていた。ドロシーはハワードの思いやり深い気質を振り返り、こう言った。「ハワードはいつも善いことを行い、善い人になりたいと思っていました。面倒見のよい、すばらしい兄でした。両親に対しても思いやりがありました。」¹⁵

ハワードは動物にも親切だった。「野良猫を拾ってきては、家族に反対されても家で飼っていました」とハワードは言っている。¹⁶あるとき、近所の少年たちがハンター家のそばの用水路に猫を落として、いじめていた。子猫ははい上がって来るたびに、少年たちはまた水路に落とした。間もなくしてハワードが通りかかって子猫を救出した。「死にかけて横たわっているのを、家へ連れて帰りました」とドロシーは言う。¹⁷

子猫はもう生きられないと母は言ったが、

ハワードは「お母さん、やれることはやってみよう」と言って聞かなかった。¹⁸

ドロシーの話によると、二人は「猫を毛布にくるんで温かいオープンのそばに置き、看病しました。」おかげで子猫は息を吹き返し、その後何年もハンター家で飼われたという。

1923年、ハワードは教師に聖任された。ボイシ第2ワードができる直前のことだった。地元の教会指導者はもう一つ集会所を探すに当たり、今後の教会の発展を見越してステーキ用の集会所の建設を提案した。ボイシの聖徒たちは、この建物の建設のために2万ドルを献金するよう求められた。¹⁹ 集会で指導者が献金を呼びかけると、若きハワード・W・ハンターは真っ先に手を挙げて献金することを約束した。ハワードが約束した25ドルという額は、1923年当時、それも15歳の少年にとっては大金だった。ハンターは「わたしは働き、貯金し、とうとう約束の金額を全て納めることができました」と後に回想している。²⁰ 1925年、集会所は完成し、12月にヒーバー・J・グラント大管長が来て、建物を奉献した。²¹

ハワードは若い頃から音楽の分野で頭角を現し、10代の頃には数種類の楽器を演奏できるようになっていた。16歳のときに自身の楽団を作り、「ハンターズ・クルーネーダーズ」と名付けた。この楽団は、ダンスパーティーや結婚披露宴、その他ボイシ近辺で行われた行事で演奏した。

19歳のときにはアジア行きの巡航船で音楽を演奏する契約の申し出を受けた。1927年の1月から2月にかけて、5人組のハワードの楽団は、日本や中国、フィリピンなどに立ち寄りながら太平洋を横断する船の中で、夕食時やダンスパーティーのときに演奏した。この航海はハワードにとって有意義な経験となり、他の国の人々や文化を学ぶ機会にもなった。ハワードは稼いだお金のほとんどを観光とおみやげに使い果たしたが、「この経験から得た知識はそれ相応の価値があった」と結論づけている。²²

大きな決断のとき

ハワードが航海から帰ってくると、家ではうれしい知らせが待っていた。ハワードの留守中に、父親がバプテスマを受けていたのだ。次の日曜日、ハワードは初めて父と一緒に神権会に出席した。愛に満ちたビショップはウィル・ハンターにバプテスマを受けるよう勧め、ハワードによれば「〔ホーム〕ティーチャーの働きかけを通して父は以前よりも教会に関心を寄せるようになった。」²³

航海から帰って来たハワードは、将来の計画を決めかねていた。音楽関連の行事や他の仕事で忙しくしていたが、どれもよい職業につながりそうにはなかった。1928年3月、新たに始めた事業が行き詰まると、南カリフォルニアに住む友人を訪れることにした。1、2週間だけ滞在する予定だったが、程なくそこに留まって、ハワードは「チャンスをはらんだ仕事」を探すことにした。²⁴ その後、カリフォルニア州では仕事だけでなく、妻とも出会い、教会におけるさらなる奉仕の機会を受け、30年以上にわたって暮らすことになる。

カリフォルニア州でのハワードの最初の仕事は、靴の販売と、かんきつ類の箱詰め工場での仕事だった。工場では、数日間で40トンから45トンほどのオレンジを貨物列車に詰め込んだこともあった。「この世にこんなにたくさんオレンジがあるとは知りませんでした」とハワードは楽しげに昔を振り返った。ある「散々な日」には、レモンを色ごとに仕分けなければならなかったが、ハワードは色盲であったために黄色と緑色を判別できなかった。「1日の終わりにはノイローゼになってしまいそうでした」と振り返る。²⁵

かんきつ工場で2週間働いた後、ハワードはロサンゼルス銀行の仕事に応募し、すぐに採用され次々と昇進した。一方で音楽活動も継続しており、夜にはさまざまな楽団と演奏していた。1928年9月、ハワードがカリフォルニア州に移ってからおよそ6か月後、両親と妹も引っ越し、一家は再び一緒に暮らすようになった。

ハワードは若い頃、教会に出席してはいたものの、福音をそれほど深く学んではいなかった。カリフォルニア州にいる間に、福音の学習にもっと注意を向けるようになった。「福音に目覚めさせてくれたのは、アダムズワードでピーター・A・クレイトン兄弟が教えていた日曜学校のクラスでした」とハワードは振り返る。「クレイトン兄弟は豊かな知識があり、若い人たちを感化する能力にたけた人でした。わたしはレッスンを学び、出された課題を読み、割り当てられたテーマに関する話し合いに参加しました。……福音の真理をよく理解し始めたのはこの頃でした。それまでも福音に対する^{あかし}証はありましたが、突如理解の目が開けたのです。」²⁶ハワードにとって、その日曜学校のクラスでの経験は、生涯にわたり福音を学習するきっかけとなった。

ハワードはロサンゼルス地区の他のヤングアダルトとの交わりを楽しんだ。ヤングアダルトたちとともに教会に集い、日曜日に2、3のワードに出席することもあり、さまざまな活動に参加した。その一つが、ハワードにとって永遠に重要な意味を持つこととなる。カリフォルニア州に到着して数か月後、ハワードは何人かの友人と、教会が主催するダンスパーティーに参加し、その後浜辺で波遊びをしていた。その晩、ハワードは友人がデート相手として連れて来たクララ・メイ（クレア）・ジェフスと出会った。ハワードとクレアは間もなく互いにひかれ合うようになり、やがて恋愛へと発展した。

1928年に数回デートを重ね、翌年にはもっと真剣な交際をするようになった。「クレアは薄茶色の髪をしていて、かなりの美人でした」とハワードは後に振り返っている。「最も印象深かったのは、彼女の強い証でした。」²⁷出会ってから3年近かった1931年のある春の夜、ハワードは太平洋を一望できる場所にクレアを連れて行き、結婚を申し込み、クレアはそれを受け入れた。ハワードはこう振り返っている。



ハワード・ハンターとクレア・ハンター。息子のジョン、リチャードとともに

「わたしたちはパロス・ベルデスまで行き、崖の上に車を止めて、満月の光に照らされた波が太平洋から流れ込んで岩に当たって砕ける様子を眺めていました。将来の計画について話した後、わたしは彼女の指にダイヤの指輪をはめました。その晩、わたしたちは幾つものことを決心しました。自分たちの人生に関する幾つかのことを固く決意したのです。」²⁸

このときの決心をきっかけに、ハワードは結婚式の4日前に、人生を変える決意をする。その晩、楽団の演奏が終わると楽器をケースにしまい、その後二度とプロとして演奏することはなかった。ダンスパーティーやその他のパーティーで音楽を提供することは「ある面では華やかで、報酬も良かった」とハワードは語った。しかし、そのような生活には、自分の家族のために思い描いている生活と矛盾する部分があると感じたのである。それから何年も後、「心の楽しみがなくなった寂しさはありましたが、あの決意を後悔したことはありません」とハワードは述べている。²⁹ ハワードの息子リチャードはこう語った。「深く愛していたものを、さらに大切なもののために諦めた、父の驚くべき自制心（わたしはこれを「根性」と呼んでいます）について、わたしは幾度となく考えてきました。」³⁰

結婚して間もない頃に受けた試練と祝福

ハワードとクレアは1931年6月10日にソルトレーク神殿で結婚し、南カリフォルニアに戻って新婚生活を始めた。大恐慌のために合衆国内の景気は悪化の一途をたどっており、1932年1月にはハワードの勤めていた銀行が倒産を余儀なくされた。その後2年間、ハワードはさまざまな仕事をして生計を立て

た。ハワードとクレアはできる限り自立した生活をしようと決意していたが、1年後、少しの間同居してはどうかというクレアの両親の申し出を受け入れた。

1934年3月20日、ハワードとクレアに初めての子供が誕生した。二人は息子をハワード・ウィリアム・ハンター・ジュニアと名付け、ビリーと呼んだ。その夏、二人はビリーがぐったりしていることに気づいた。医師からは貧血症と診断された。ハワードは輸血のために2度血液を提供したが、ビリーの容体は良くならなかった。さらに詳しく検査をすると腸に異状が見つかり、医者から手術を勧められた。ハワードはこう振り返っている。「手術中、わたしは同じ部屋でビリーの隣の台に横たわって血液を提供しました。手術は終わりましたが、医者の見通しはよくありませんでした。」³¹3日後、ベッドのわきの両親に見守られ、7か月のビリーは亡くなった。「わたしたちは悲しみに打ちひしがれ、茫然としながら、夜の闇の中へ紛れるように病院を後にしました」とハワードは書いている。³²「わたしたちにとって大きな試練でした。」³³

ビリーが生まれる2か月前、ハワードはロサンゼルス郡洪水防止地区で仕事を見つけていた。そこでの仕事を通して、法律文書や司法手続きの手ほどきを受け、弁護士になろうと決意した。その目標を達成するには、何年もの間固い決意をもって熱心に取り組まなければならなかった。学位のなかったハワードは、ロースクールに入学する前に幾つもの単位を取得する必要があるがあった。仕事も続けなければならなかったため、夜間授業を受講した。ロースクールに入っても、常勤で働き続けた。「日中働いて夜に学校に行き、さらに勉強の時間を見つけることは、容易ではありませんでした」とハワードは書いている。³⁴「夜中まで勉強することも珍しくありませんでした。」³⁵ハワードはこの厳しい日課を5年間こなし、1939年、ついに学年3位の成績で卒業した。

ロースクールに在籍中、クレアとの間に二人の息子が生まれた。1936年にジョン、1938年にリチャードが生まれたのだ。ハワードが洪水防止地区に勤めていたため、一家は小さな家を購入することができた。

エルセレノワードのビショップ

ロースクールを卒業した翌年の1940年、ハワードはカリフォルニア州にできたばかりのエルセレノワードのビショップに召された。この召しに驚いたハワードは、こう言っている。「ビショップは年輩の人がなるものだと思っていたので、32歳の若さでどうやってワードの父になれるのかと尋ねました。」ステーク会長会は、ハワードが「この責任にふさわしくなるだろう」と答えて、彼を安心させた。ハワードは圧倒される思いだったが、「最善を尽くす」と約束し、³⁶ビショップとして奉仕した6年余りの間、献身と靈感、思いやりの限りを尽くしてその約束を果たした。

ハワードは再び時間とエネルギーを駆使する必要に迫られたが、奉仕からたくさんの祝福を得ていると感じていた。ハワードは「多大な努力と時間を要する責任に圧倒されました」が、「その栄えある業から大きな祝福を頂きました」と言っている。³⁷

その新しいワードで急務となったことは、集会所探しだった。ビショップリックは地元のビルの数部屋を間借りし、ワードの会員たちは集会所を建設するための資金を集め始めた。程なくして、第二次世界大戦が起きたために教会の建物の建設は保留となったが、ワードの会員たちは将来を見越して資金集めを続けた。資金集めの一環として「タマネギプロジェクト」が行われ、会員らはピクルス工場に行ってタマネギを切った。タマネギの臭いが残ったため、ハンタービショップは「聖餐会せいさんで、どの人がタマネギを切っていたかすぐに分かりました」とユーモアを交えて話した。³⁸

資金集めとして他に、ザウアークラウト（塩漬け発酵キャベツ）工場でキャベツを切ったり、余った朝食用シリアルシリアルの袋詰めや販売などを行ったりした。「楽しい日々でした。さまざまな職業や能力の人たちが一丸となってビショップリックを支え、礼拝所を建設する資金を集めたのです」とハンタービショップは振り返る。「ワードは、幸せな大家族のようでした。」³⁹多大な忍耐と犠牲の末、ワードの集会所を建てるという目標はついに1950年に実現した。ハワードがビショップを解任されてから4年近くたったときのことだった。

第二次世界大戦中にビショップを務めたハワードは、独特の試練に直面した。ワードの大勢の男性会員は軍務に就いていたため、家庭では夫や父親が不在だった。男性が少ないことは、教会の責任に召すうえでも問題が生じた。そのため、ハワードは一時期、ビショップの職にありながらスカウト隊長も務めた。ハワードはこう語っている。「ワードには、見過ごすことのできない優れた若い男性たちがいました。わたしは2年近くの間彼らとともに活動しましたが、彼らは大きな成長を遂げました。」⁴⁰

1946年11月10日、ハワードはビショップを解任された。「この特権と、この期間に多くの事柄を学んだことにいつまでも感謝するでしょう」と語った。ビショップの経験は「多くの面で大変だった」が、ハワードとクレアは「これを通して家族にもたされた価値観に感謝した。」⁴¹ワードのある会員はハンタービショップの奉仕に感謝を述べて、次のように書いている。「ビショップは、この小さなワードの会員たちを一致団結させて、実現できそうになかった目標を達成することを教えてくれました。ワード全体がともに働き、祈り、遊び、礼拝しました。」⁴²

ハワードは1946年に解任されたが、エルセレノワードの会員との特別なきずなは続いた。息子のリチャードはこう語っている。「父は生涯の終わりまで彼

らと連絡を取り合い、彼らの居場所や状況を知っていました。昔のワードの会員の住む場所を訪れると、必ずその人と連絡を取っていました。エルセレノワードの会員に対する愛は生涯薄らぐことはありませんでした。」⁴³

家族を養い、キャリアを積む

ハワード・ハンターとクレア・ハンターは愛にあふれた両親で、息子たちに価値観や責任、福音の大切さを教えた。教会が月曜日の晩に家庭の夕べをするよう定めると前から、ハンター家は月曜日の晩に子供たちを教え、話を聞かせ、ゲームで遊び、一緒に出かけることに決めていた。一家は旅行に行くと、時折神殿を訪れて、ジョンとリチャードが死者のために身代わりのバプテスマを受けられるようにした。ハワードと息子たちは、鉄道模型作りやキャンプ、その他の野外活動を一緒に楽しんだ。

ハワードはジョンとリチャードが生まれた当時、常勤の仕事しながらロースクールに通い、子供たちがとても幼い頃（4歳と2歳）にビショップに召された。そのため、堅固な家庭を築くにはクレアの一層の献身が必要だった。クレアは喜んで献身した。「わたしの望みと最大の願いは……よき妻、よき主婦、そしてとてもよい母親になることでした」とクレアは言った。「わたしたちは、息子たちが教会から離れないよう、とても努力しました。わたしは息子たちと楽しく過ごしました。」⁴⁴ハワードは、息子たちを育てるうえでクレアが与えた影響と犠牲を何度も称えた。

家族を養い、教会の指導者として奉仕しつつ、ハワードは自身の法律事務所を繁盛させた。大半の顧客が企業や法人であったハワードは、南カリフォルニアで弁護士として高い評価を得るようになり、20社以上の企業の理事会の取締役員に選出された。

ハワードは仕事において、高潔さと明晰な頭脳、明快なコミュニケーション技術と公正さを備える人物として知られていた。「庶民派の弁護士」としても知られ、「人々の問題を解決することに常に関心を持ち、そのために時間を費やしていた。」⁴⁵ある弁護士はハワードが「報酬を受け取ることよりも、依頼人が必要としている支援が得られることに強い関心を持ってい[た]」と語っている。⁴⁶

カリフォルニア州パサディナステーキ会長

1950年2月、十二使徒定員会のスティーブン・R・リチャーズ長老とハロルド・B・リー長老はカリフォルニア州を訪れ、急速に発展するパサディナステーキを分割した。二人は、ステーキ内の大勢の神権者と面接した。その中にハワードもいた。二人は主が誰にステーキ会長として奉仕するよう望んでおられ

るか、祈りながらよく考えた後、真夜中近くにハワードを迎えに人をやり、召しについて伝えた。リチャーズ長老とリー長老はハワードに、よく寝るように、また翌朝早く二人に電話をして顧問を推薦するように言った。「その晩、家に帰っても寝られませんでした」とハワードは語っている。「召しに圧倒されました。クレアと長い時間話していました。」⁴⁷

ハンター会長と顧問たちは支持を受けると、ステーキ内のさまざまな必要を見極め始めた。新しいステーキ会長会にとって優先度が高かったのは、会員が霊的な強さを築けるように助けることだった。懸念事項の一つは、家族があまりに多くの活動に関わっているために、ばらばらになりつつあることだった。指導者らはともに祈り、話し合った後、家庭の夕べについて強調し、月曜日の晩を家族のために取っておくよう勧めるべきだと感じた。ステーキ内の全ての教会の建物は月曜日の晩には閉館し、「この神聖な晩に他の活動は一切行われませんでした」とハンター会長は説明している。⁴⁸

ハンター会長はステーキ会長になったばかりの頃、高校生向けのセミナープログラムについて、南カリフォルニアの他のステーキ会長たちとスティーブン・R・リチャーズ長老と話し合った。ハンター会長はこう振り返っている。「[リチャーズ長老は、学校の] 授業時間以外の宗教教育について法律に規定のない地域で早朝セミナーのクラスを試験的に行いたいと説明しました。」⁴⁹ハンター会長はそのアイデアの実現の可能性を調査する委員会の長に指名された。調査が終了すると、委員会は、3つの高校の生徒たちに早朝セミナーを導入することを提案した。当時青少年だった、ハンター会長の息子リチャードはこの試験的な早朝セミナーに参加していた。リチャードはこう振り返る。「朝の6時に授業をするなんて、誰かの気がふれたのかと思いましたが、教会の友達と一緒に学べるその時間は大好きな時間になりました。」⁵⁰程なくして、他の生徒たちもこのプログラムの対象となり、教会の青少年の早朝セミナープログラムの先駆けとなった。

1951年10月の総大会で、大管長会は南カリフォルニアのステーキ会長たちと集会を持ち、ロサンゼルスに神殿を建設したいという要望を伝えた。近くに神殿ができるという展望は大きな喜びをもたらすとともに、大きな犠牲が求められた。教会員は神殿の建設に向けて100万ドルを献金するよう求められたのだった。ハンター会長はカリフォルニア州へ戻ると、ステーキおよびワードの指導者と集会を持ち、こう言った。「神殿のために惜しみなく献金することにより豊かに祝福を受ける機会を、人々に与えてください。」⁵¹南カリフォルニアの会員らは、神殿建設に向けて半年間で160万ドルを献金することを約束し、1956年に神殿が奉献された。



パサディナステーキの指導者たち (1950 年)。左から右へ——デーケン・K・ブロードヘッド
(ステーキ会長会第一顧問)、ハワード・W・ハンター (会長)、
A・ケイ・ベリー (第二顧問)、エムロン「ジャック」ジョーンズ (書記)

会員は、神殿や他の教会の建物の建設資金のために献金しただけでなく、ボランティアとして働いた。集会所を建設する際、ハンター会長は何時間もシャベルやハンマー、ペンキを塗るためのブラシを手に作業を手伝った。さらに、会員は教会福祉プロジェクトのために、養鶏所やかんきつ農園、缶詰工場などでボランティアとして働いた。ハンター会長は 8 年間、これらのプロジェクトにおいて 12 のステーキの取りまとめ役を担い、自分自身も頻繁にプロジェクトを手伝った。「彼は、自分でやらないことを誰かにやるように言ったり、割り当てたりすることはありませんでした」と一人の友人は話している。⁵² 何年も後に、当時十二使徒だったハンター長老はこう述べた。

「気がめいるような福祉プロジェクトに携わったことは一度もありません。木に登ったり、レモンを摘んだり、果物の皮をむいたり、ボイラーの手入れをしたり、箱を運んだり、トラックの荷物を降ろしたり、缶詰め工場の掃除をしたり、その他数え切れないたくさんのおこなったことがありますが、最も心に残っているのは、主の業に携わる人々の笑い声や歌声、彼らとの親しい交わりでした。」⁵³

1953 年 11 月、ハンター会長とハンター姉妹、それにパサディナステーキの会員らはアリゾナ州メサ神殿に赴き、儀式の奉仕をした。ハンター会長の 46 歳の誕生日だったこの 11 月 14 日、セッションが始まる前に神殿会長はハンター会長に、礼拝堂に集まっていた人たちに話をするよう依頼した。ハンター会長はこのときの経験について後にこう書いている。

「わたしが集会で話をしていると、……父と母が白い服を着て礼拝堂に入ってきました。父が神殿の祝福を受ける準備ができていたとは考えてもみませんでした。しかし、母は長い間それを熱心に願ってきたのです。わたしは感激で

胸がいっぱいになり、話を続けることができませんでした。ピアス会長〔神殿会長〕はわたしの横に来て、話がとぎれるまでのいきさつを説明してくれました。父と母は、その朝、神殿にやって来たとき、自分たちが来ていることを息子には伝えないようにと会長にお願いしていました。わたしを驚かせる、誕生日の贈り物にしたいと思ったのです。それは生涯忘れることのできない誕生日となりました。なぜなら、両親がエンダウメントを受け、わたしは二人の結び固めの儀式の証人となる特権にあずかり、さらにその後で両親に結び固められたからです。』⁵⁴

約3年後、新たに奉献されたカリフォルニア州ロサンゼルス神殿でドロシーが両親に結び固められ、ハンター会長一家のきずなは永遠のものとなった。

ハワードはステーキ会長として愛をもって導いた。ステーキの召しを受けて奉仕していたある女性はこう言った。「誰もがステーキ会長から感謝され、必要とされていると感じていました。……ステーキ会長は、召しを受ける人に責任を持たせましたが、会長の意見や勧告が必要などときにはいつもいてくれました。わたしたちは、ステーキ会長が全力で支え、関心を寄せてくれていることを知っていました。』⁵⁵顧問の一人はこう語っている。「彼は何かを成し遂げた人に賛辞を送り、期待されている高いレベルまで人々を引き上げました。』⁵⁶自分に最も大きな影響を与えた教師はハンター会長だと語ったステーキのある姉妹は、「ハンター会長は、人のことを最優先し、耳を傾けて理解し、自分の経験を分かち合っただけで人を愛し……ました」と語った。⁵⁷

1959年の秋、ハワード・W・ハンターがパサディナステーキを管理して9年がたった。その間、南カリフォルニアに住む何千人もの末日聖徒に仕え、祝福をもたらした。その務めの対象が広がり、世界中の教会員に祝福をもたらすようになる日が間近に迫っていた。

十二使徒定員会

「あなたは……わたしの名について証あかししなければならない。また、地の果てまでわたしの言葉を送り出さなければならない。」(教義と聖約 112:4)

1959年10月9日、ソルトレーク・シティで開かれた総大会の部会の合間に、ハワードはデビッド・O・マッケイ大管長が彼に会いたがっていることを知った。すぐさま教会執務ビルに行くと、マッケイ大管長はハワードを温かく迎えてこう言った。「ハンター会長、……主が語られました。あなたは主の特別な証人となるよう召されました。明日、十二使徒評議会の一員として支持を受けます。』⁵⁸この経験についてハワードはこう書いている。



十二使徒定員会、1965年。腰掛けている使徒（左から右へ）
エズラ・タフト・ベンソン、マーク・E・ピーターセン（椅子の肘掛けに腰掛けています）、
ジョセフ・フィールディング・スミス（定員会会長）、リグランド・リチャーズ。
立っている使徒（左から右へ）—ゴードン・B・ヒンクレイ、デルバート・L・ステープリー、
トーマス・S・モンソン、スペンサー・W・キンボール、ハロルド・B・リー、
マリオン・G・ロムニー、リチャード・L・エバンズ、ハワード・W・ハンター

「そのときの気持ちを説明することなどとうていできない。目に涙があふれ、言葉もなかった。この偉大で、優しく、思いやりのある主の預言者の前に座ったときほど、へりくだる思いに満たされたことはなかった。マッケイ大管長は、この召しによりどれほど大きな喜びがもたらされ、幹部の兄弟たちとのすばらしい交わりを得られるかを話してくださった。また、今後わたしの人生と時間を主の僕としてささげ、これからは教会と全世界の人々に仕えることになるとおっしゃった。……大管長はわたしに腕を回し、主がわたしを愛しておられること、そして大管長会と十二使徒評議会は必ずわたしを支えてくれることを断言してくださった。……わたしは〔大管長に〕、自分の時間と人生と持っているもの全てをこの務めのために喜んでささげる、と言った。』⁵⁹

ハワードはマッケイ大管長の執務室を出ると真っ先にホテルの部屋に行き、クレアに電話をかけた。クレアはそのとき、プロボに住む息子のジョンとその妻と赤ん坊の元を訪れていた。最初、ハワードは言葉が出なかった。ようやく召しについてクレアに伝えると、二人とも感極まった。

翌日、総大会の土曜午前の部会で、ハワード・ウィリアム・ハンターは十二使徒定員会の一員として支持された。「世界が自分の肩に重くのしかかってきた……心地でした」とハワードは当時を振り返っている。「大会の間、わたしの



ハンター会長。奉献式の前、ブリガム・ヤング大学近東研究エルサレムセンターにおいて

心は落ち着かず、自分がこの場にふさわしいと感じる日がいつか来るのだろうかと考えた。」⁶⁰

マッケイ大管長はハンター長老に、総大会の日曜午後の部会で話すよう指示した。ハンター長老は、それまでの人生を簡単に振り返り、証を述べた後、こう言った。

「今日、目にあふれる涙に何の申し開きもしません。なぜなら、ここにいらっしゃる友人や教会の兄弟姉妹たちも、福音と人々への奉仕の喜びに胸躍らせる方たちだと知っているからです。

マッケイ大管長、……わたしに課せられたこの召しをためらうことなくお受けします。また、わたしの生活とわたしの持てる全てを、この奉仕に喜んでささげます。ハンター姉妹とともにお約束申し上げます。」⁶¹

1959年10月15日、ハンター長老は使徒に聖任された。平均年齢が約66歳だった当時の十二使徒の中で、51歳のハンター長老は最年少だった。

その後1年半の間、ハンター長老はカリフォルニア州とユタ州を行き来しながら弁護士業において完遂しなければならない仕事を終わらせ、引っ越しの準備をした。顧客の中には、こんなに成功を収めている法律事務所をたたくのだから、「教会から相当魅力的な申し出があったのだろう」と言う人がいた。ハンター長老はそのことについて日記にこう書いている。

「この教会の人たちがなぜ召しに応じ、全てをささげて献身するのか、ほとんどの人は理解できない。……わたしは弁護士業を心から楽しんできたが、わたしに与えられた今回の召しは、キャリアを積むことや金銭的な報酬を得ることをはるかにしのぐ貴いものだ。」⁶²

ハンター長老の使徒としての務めは35年以上に及んだ。その間、世界のほとんどの国々を巡り、イエス・キリストの特別な証人としての責務を果たした。(教義と聖約 107:23 参照)

ユタ系図協会

「ささげ物を主にささげましょう。……わたしたちの死者の記録を載せた、そのまま受け入れるに値する書を……ささげましょう。」(教義と聖約 128:24)

1964年、大管長会はハンター長老を教会の系図協会会長に任命した。当時、同協会はユタ系図協会として知られていた。同組織は教会の家族歴史部の前身であり、全世界の系図情報を集め、保存し、共有することを目的としていた。ハンター長老は同協会を8年間管理し、その間に家族歴史の業の促進と改善、普及に関して、広い範囲に及ぼす改革を行った。

同組織は1969年までに、「67万巻以上のマイクロフィルムを収集した。これは、1巻300ページの本300万冊分に相当する。」また、「完成した家族の記録600万部、3600万人分のカードファイル索引、9万巻以上の文庫」も収集した。⁶³毎週、世界各地から約1,000巻のマイクロフィルムが追加された。これらの記録を処理し、探求と神殿の業のために使えるようにするには、膨大な作業を必要とした。ハンター長老の指導の下、系図協会は最新のコンピューター技術を導入してこの業に役立てるようになった。ある作家は、同協会が「革新的な記録保存活動を行うことで専門団体に世界的に名が知られる」ようになったと書いている。⁶⁴

ハンター長老は1972年に系図協会会長から解任された。ハンター長老の取り組みが与えた影響について、リチャード・G・スコット長老はこう述べている。「ハンター長老はこの業に多くの時間をささげ、基盤と方向性を築きました。教会は今でもその恩恵を受けています。」⁶⁵

ポリネシア文化センター

「遠くの民よ、聴きなさい。海の島々にいる者よ、ともに耳を傾けなさい。」(教義と聖約 1:1)

1965年、大管長会はハンター長老を、ハワイ州ライエにあるポリネシア文化センター管理委員会の会長兼委員長に任命した。当時、同センターは営業開始

からわずか15か月で、多くの問題に直面していた。観光客の来場者数は少なく、センターの目的とプログラムについて意見が分かれていた。数週間後、任命されたハンター長老はライエに赴き、センターの長所と必要について精査し始めた。

ハンター長老の指導の下、ポリネシア文化センターはハワイで最も人気のある観光名所となり、1971年には100万人近くの人が来場した。ハンター長老はさらに、センターとそのプログラムも拡大した。ハンター長老の言葉によると、それらと同様に、センターが雇用の機会を与えることにより「〔それなしには〕自分の島を出て学校に行くことのできない南太平洋出身の生徒たちが教育の機会を得られるようになった」ことだった。⁶⁶

ポリネシア文化センターを12年間管理した後、ハンター長老は1976年に解任された。ハンター長老のセンター長としての務めは、デビッド・O・マッケイ大管長が1955年に語った次の言葉が成就する助けとなった。小さな村であったライエは「伝道の手段となり、数千、数万どころか、何百万人もの人に影響を与えるでしょう。すなわち、この町とその重要性を知るために多くの人が訪れるでしょう。」⁶⁷

教会歴史家

「主が任命された主の書記の義務は、歴史を記録し、シオンで起こるすべてのことについて……一般教会記録を書き残すことである。」(教義と聖約85:1)

1970年1月、デビッド・O・マッケイ大管長が死去し、ジョセフ・フィールディング・スミスが新たな大管長として聖任された。教会歴史家を49年間務めたジョセフ・フィールディング・スミスが大管長になると、ハンター長老がその割り当ての後継者に召された。「スミス大管長は長年家族歴史家を務めてきたので、自分がその職に就くことがあまり想像できませんでした」とハンター長老は述べている。⁶⁸

ハンター長老はいつものように熱心にこの新しい責任に取り組んだ。「啓示を通して主から与えられたこの割り当ては、途方もなく難しいものでした。記録や書物を収集するという任務を果たすことも、それらの資料を教会員が利用できるようにすることも、困難を極めました」とハンター長老は述べた。⁶⁹『チャーチ・ニュース』(Church News)によれば、教会歴史家は「議事録や神殿記録、あらゆる儀式記録、祝福師の祝福、……現在の教会歴史の編さんなど、あらゆる記録を保存する責任」を負っていた。⁷⁰

1972年、十二使徒定員会の会員は、一部の重い管理責任を解かれ、使徒としての務めに注力できるようになった。この変更の一環として、ハンター長老は教会歴史家から解任された。しかし、教会歴史部の顧問としての役割は据え

置かれた。ハンター長老は「これにより、わたしは指導的立場のまま、実際の業務からは解放された」と書いている。⁷¹ 顧問の役割は1978年まで続いた。

聖地での奉仕

ハワード・W・ハンターは1958年と1960年に家族とともに聖地を巡り、聖地への特別な愛を深めた。使徒職にある間、20回以上聖地を訪れている。「救い主が歩き、教えられた地にいたいというハンター長老の思いは、飽くことがないようでした」と十二使徒定員会のジェームズ・E・ファウスト長老は言った。⁷²

その地域で起こっている紛争をはっきりと認識していたハンター長老は、愛と平和のメッセージを伝えた。「ユダヤ人もアラブ人も、わたしたちの御父の子供です。双方ともに、約束の子であり、わたしたちは教会として、どちらの側にも立ちません。わたしたちはどちらも愛し、どちらにも関心を抱いています。イエス・キリストの福音の目的は、最も高いレベルの愛と一致と兄弟愛とをもたらすことです。」⁷³

1972年から1989年にかけて、ハンター長老はエルサレムにおける二つの特別なプロジェクトで主要な役割を担った。オーソン・ハイド記念庭園とブリガム・ヤング大学(BYU)近東研究エルサレムセンターの建設である。教会の初期の時代、1841年に、十二使徒定員会のオーソン・ハイド長老はエルサレム東部にあるオリブ山で奉獻の祈りをささげた。1972年、大管長会はオーソン・ハイド記念庭園を建設するための候補地をエルサレムで探すようハンター長老に依頼した。1975年、エルサレム市は後にオーソン・ハイド記念庭園となる公園を建設する道を開いてくれた。

その後数年間にわたり、ハンター長老は何度もエルサレムを訪れ、庭園のための契約交渉をし、その設計や建設の監督を行った。このプロジェクトは1979年に完成し、同年スペンサー・W・キンボール大管長により奉獻された。奉獻式の司会を終えたハンター長老は、庭園が「教会についてよいイメージを広めるうえで大きな影響力を持つでしょう」という確信を述べた。⁷⁴

オーソン・ハイド記念庭園がまだ完成しないうちから、ハンター長老はBYUの海外研修プログラムを実施する施設用地を探していた。センターは、エルサレム支部の会員の集会所の役割も併せ持つ。このプロジェクトの監督は、ハンター長老が在任中に与えられた、最も複雑で慎重を要する割り当ての一つであった。

教会指導者が用地を選定したものの、借地と建設計画の承認を得るのにおよそ5年もかかり、ハンター長老は「果てしない取り組み」だったと語った。⁷⁵ 幅広い議論と交渉の末、イスラエル政府はセンターの建設を許可した。



ブリガム・ヤング大学近東研究エルサレムセンター

1988年5月までに建設はほぼ完了し、借地契約の署名を待つばかりであった。その頃、ハワード・W・ハンターは十二使徒定員会会長代理を務めていた。前年に背中の大手術を受け、歩くことができなかったが、飛行機でエルサレムに赴き、借地契約に署名した。エルサレムに滞在中、BYUの学生とエルサレム支部の会員が感謝を込めてささやかな歓迎会を催した。同支部の歴史記録は、この感動的な場面についてこう述べている。会が始まると、「聖歌隊が「聖き町」(“The Holy City”)を歌って歓迎する中、背中の手術後で療養中のハンター会長は、[ブリガム・ヤング大学のジェフリー・R・ホランド学長とともに中央口から車椅子に乗って入場した。]⁷⁶ハンター会長の頬を涙が伝った。

1989年5月、ハンター会長はエルサレムに戻り、センターを奉献した。この奉献式は、ハンター会長をはじめとする人々がエルサレムセンター建設の夢を実現するために10年にわたり払った甚大な努力の結晶だった。「ハワード・W・ハンター会長は……、まだこの計画が夢にすぎない頃から、愛に満ちた塔の上の見張り人として終始この計画に携わってきました」とジェフリー・R・ホランド長老は語った。⁷⁷奉献の祈りの中でハンター会長はこう言った。

「この建物は、……あなたを愛し、あなたについて学ぼうと努め、御子、すなわち救い主、贖い主の足跡を歩む人々の住まいとして建設されました。あらゆる点で美しく、この建物が象徴するものの美しさを体現しています。おお、父よ、あなたの息子、娘のため、また彼らの学びのためにこの家を建てるという特権に感謝します。」⁷⁸

発展する教会

「シオンは美しさと聖さを増し、その境は広げられ、そのステーキは強くされなければならない。」(教義と聖約 82 : 14)

ハワード・W・ハンターが 1959 年に使徒に召された当時、教会員の数はいくつだった。その後数十年間、ハンター長老は教会が世界各地で空前の発展を遂げるうえで主要な役割を果たした。数百回に及ぶ週末に各ステーキを巡り、会員を強め、新しい指導者を召した。また、多くの国家で政府関係者と会談し、伝道活動の道を開く手助けをした。

1975 年までに、教会員数は約 340 万人に達し、特に中南米で教会は急速に発展した。その年の後半、ハンター長老と十二使徒補佐の J・トーマス・ファイアンス長老はメキシコシティの 5 つのステーキの分割を割り当てられた。現地の指導者と話し合い、ステーキ会長たちから集めた情報を基に、ハンター長老は、同じ週末にこの 5 つのステーキから 15 のステーキを組織するよう指示した。⁷⁹ ハンター長老はいつものように控えめにこう書いている。「こんなに大掛かりなことを教会で行ったことがかつてあっただろうか。家に戻る頃には疲れきっていた。」⁸⁰

献身的な伴侶、クレア

「妻は、優しく愛に満ちた伴侶です。」⁸¹ 1959 年に十二使徒定員会に召されたときにハンター長老はこう言った。クレアは長年にわたり、ハンター長老が使徒として各地を訪れるときは決まって同行した。トーマス・S・モンソン大管長は、クレアがトンガの子供たちに愛を示す様子を見たときのことをこう振り返っている。「クレアはトンガのかわいらしい幼い子供たちを腕に抱いて膝に乗せ、語り掛けていました。そして、貴い幼子たちを教える機会を受けることがいかに祝福であり特権であるか、初等協会の教師たちに説明しました。クレアは人の価値を知っていました。」⁸²

1974 年に受けた取材の中で、ハンター長老はクレアについてこう述べている。「結婚以来、クレアは常にわたしの傍らで愛と思いやりを示し、励ましてくれました。……わたしをよく支えてくれました。」⁸³

その取材を受けた頃、クレアはさまざまな深刻な健康問題を抱え始めていた。最初はひどい頭痛に悩まされ、時折記憶障がいと見当識障がいを併発した。その後、重い脳卒中に襲われ、話したり、手を使ったりすることが困難になった。常時介護が必要になると、ハンター長老は十二使徒定員会の責任を果たしながらできる限りのことをしようと決心した。日中は誰かにクレアの付き添いを頼んだが、夜は自分でクレアの世話をした。ハンター長老は 1980 年に心臓発作を起こすなど、同じ時期に自分も健康上の問題を抱えていた。



ハワード・ハンターとクレア・ハンター

クレアは1981年と1982年に脳出血を患った。二度目の脳出血で普通に生活できなくなったため、適切な医療処置を受けられる医療センターに入院するよう医師らに強く勧められ、クレアは最後の1年半をそこで過ごした。その間、ハンター会長は教会の割り当てで出張しているとき以外は、毎日少なくとも1度はクレアを見舞った。クレアがハンター会長を認識することはほとんどなかったが、ハンター会長は愛を伝え続け、クレアが心地よく過ごせるようにした。孫の一人はこう言っている。「祖父は常に急いで祖母の見舞いに行き、祖母の傍らで世話をしていました。」⁸⁴リチャード・ハンターは母の世話をする父についてこう回想する。

「母は晩年、父のおかげで望み得る最高の世話を受けました。介護人として働く父の姿を、家族は皆大きな畏敬の念を抱いて見守っていました。……医師から次のように忠告されたときに父が感じた苦悶を、わたしは覚えています。『奥さんが高度な看護施設に入らず在宅療養を続けるなら最悪の事態を招くでしょう。なぜなら、奥さんが家にいれば、あなたにも肉体的な限界があるせいで、あなたは奥さんの世話をしながら命を落としてしまうからです。そうなる、奥さんは世話してくれる人をなくしてしまいます。』父が母に尽くす姿は、わたしたち家族にとっていつまでも心温まる思い出です。」⁸⁵

クレアは1983年10月8日に死去した。10年以上闘病していたクレアを世話するハンター長老の姿を見てきたジェームズ・E・ファウスト長老はこう言った。「二人の会話に表れる思いやりに心を動かされました。夫が妻にこんなに尽くす姿をわたしは見たことがありません。」⁸⁶

十二使徒定員会会長

1985年11月にスペンサー・W・キンボール大管長が亡くなり、エズラ・タフト・ベンソンが次の大管長となった。マリオン・G・ロムニーは十二使徒定員会の前任会員であったため、同定員会の会長になった。ロムニー会長の健康状態が悪かったため、次の前任使徒であったハンター長老が十二使徒定員会会長代理に任命された。そして、ロムニー会長が亡くなった2週間後の1988年6月、十二使徒定員会会長となった。

ハンター会長は十二使徒定員会会長代理および会長として8年半奉仕した。その間、149の国と領土のワードおよび支部に在籍する教会員数は590万人から870万人に増加し、これに伴って十二使徒の、世界における教導の業の範囲は広がり続けた。1988年、ハンター会長はこうに言った。「今は、教会歴史上胸躍る時代です。歩いているのはスピードが間に合いません。この業のスピードについていき、業を前進させるためには駆け足で取り組まなければなりません。」⁸⁷ハンター会長は、イエス・キリストの証^{あかし}を述べる責任と、世界中に教会を築く責任を果たすうえで、模範により導いた。ハンター会長は十二使徒定員会会長として全米各地と25か国以上の国々を巡って務めを果たした。

ハンター会長は、健康上の問題があったにもかかわらず、前進し続けた。1986年には心臓切開手術、1987年には背中^{あかし}の手術を受けた。背中は治癒したが、神経の損傷や他の合併症のために歩くことができなかった。その年の10月の総大会では、車椅子に座って説教した。「失礼とは思いますが、座ったままで話をさせていただきたいと思います。特に車椅子の上から話したいというわけではありませんが、皆さんが椅子に座って楽しく話を聴いておられる様子を見て、わたしもその模範に従いたいと思います。」⁸⁸

再び歩けるようになろうと決意していたハンター会長は、厳しい理学療法を受け、次の総大会となる1988年4月、歩行器を使ってゆっくりと説教台まで歩いた。12月には歩行器を使って大管長会と十二使徒の月例の神殿集会に出席した。最後に車椅子を使わないで来たときから1年以上たっていた。「評議員室に来ると、兄弟たちが立ち上がって拍手をしてくれました」とハンター会長は言った。「神殿で拍手の音を聞いたのは初めてでした。……ほとんどの医師から、二度と立ったり歩いたりすることはできないだろうと言われていましたが、彼らは祈りの力を考慮するのを忘れていました。」⁸⁹

1990年4月、十二使徒定員会の集会が終わりに差し掛かったときにハンター会長はこう尋ねた。「議題に出ていないことで、何か話したい方はいますか。」誰も発言しないのを見て、ハンター会長はこう発表した。「では、……誰もおっしゃりたいことがないので、少し発表させていただきたいと思います。今日の午後、わたしは結婚します。」十二使徒の一人は、あまりに唐突な発



ハワード・ハンターとイニッシ・ハンター

表だったために「誰もが聞き間違いかと思った」と言う。ハンター会長は兄弟たちに、「カリフォルニア時代の知り合いにイニッシ・スタントン姉妹という人がいます。最近彼女と何度か会い、結婚することに決めました。」⁹⁰ イニッシは、ハンター会長がエルセレノワードのビショップを務めていたとき、同ワードの会員だった。後に、イニッシはユタ州に引っ越しして教会本部ビルの受付をするようになり、二人は再会した。1990年4月12日、二人はソルトレーク神殿でゴードン・B・ヒンクレー大管長の司式により結婚した。

クレアが亡くなってから、7年近くがたっていた。イニッシはハンター会長が十二使徒定員会会長および大管長の務めを果たすうえで、大きな慰めと力の源となった。イニッシはハンター会長とともに世界中を巡り、聖徒と集会を持った。

1993年2月7日、ハンター会長はブリガム・ヤング大学に行き、1万7千人が集うファイヤサイドで話をした。話し始めてすぐに、片手にブリーフケース、もう片手に黒い物を持った男が壇上に駆け上がって来た。「動くな!」と男は叫んだ。男は、自分が用意してきた文書をハンター会長が読み上げなければ、爆弾と称する物を爆発させると脅した。ハンター会長はその要求を断り、男が脅迫する間ずっと、説教台の前に毅然と立っていた。会場内に不安と動揺が広がる中、聴衆は「感謝を神に捧げん」を歌い始めた。緊迫した数分間の後、二人の警備員が男を捕らえ、安全のためハンター会長は床に伏させられた。会場内に秩序が戻ると、ハンター会長は少し休息を取ってから再び話し始めた。

「人生にはかなり多くのチャレンジがあります」と言ってからこう付け加えた。「ただいまご覧になったように。」⁹¹

それまでの20年間、クレアの健康状態の悪化と最終的な死、自分の健康問題による幾度も入院、大きな苦痛と肉体的な障がいなど、ハンター会長は幾つもの試練を堪え忍んできた。この間、ハンター会長は頻繁に逆境について話し、試練のときに救い主イエス・キリストを通して平安と助けを得られることについて証した。ハンター会長はある説教の中でこう話した。

「教会の預言者や使徒は……個人的な困難に直面してきました。わたしも多少なり経験してきましたが、きっと皆さんも今経験している最中か、あるいは今後経験することでしょう。これらの経験により謙遜になり、精錬され、教えと祝福を受けるとき、このような経験は主の御手に使われる強力な手段となって、わたしたちをより善い人間へと変えてくれます。わたしたちはさらに感謝と愛にあふれ、苦しんでいる人にもっと思いやりを持つことができるようになるでしょう。」⁹²

苦難に遭っている人たちにとって、このような教えは愛情深い慰めの言葉であった。ハワード・W・ハンター会長の靈感あふれる言葉は、ハンター会長自身がそうしたように、救い主に頼るよう多くの人を促した。

教会の大管長

「ハンター大管長は、これまでわたしたちが知っている人の中で、最も愛情にあふれたキリストのような方の一人です。彼の霊性の高さは計り知れないほど高いものです。長年主の特別な証人として主イエス・キリストの導きの下で仕えてきたハンター大管長の霊性は、驚くべき方法で高められてきました。それは彼の全身にみなぎる力の源となっています。」(ジェームズ・E・ファウスト)⁹³

1994年5月30日、エズラ・タフト・ベンソン大管長は長患いの末亡くなった。6日後、十二使徒定員会はソルトレーク神殿に集まり、大管長会を再組織した。前任使徒のハワード・W・ハンターは大管長に任命された。ハンター大管長は、ベンソン大管長の顧問を務めていたゴードン・B・ヒンクレーとトーマス・S・モンソンを顧問として召した。

翌日の記者会見で、ハンター大管長は大管長として初めて公式に語った。「わたしたちの友人であり兄弟であるエズラ・タフト・ベンソンの死後、わたしたちは心を痛めています。ベンソン大管長が亡くなってからわたしが受けた新しい責任について考えると、大管長の死の重みを特に個人的な意味で実感して



ハンター大管長、大管長会顧問のゴードン・B・ヒンクレー管長(左)と
トーマス・S・モンソン管長(右)とともに

います。わたしは多くの涙を流し、天の御父に熱烈な祈りをささげ、わたしに与えられた高次の聖なる召しにふさわしくあれるようにと願いました。

ここ数日間、わたしを最も支えてくれたのは、揺るぎない証^{あかし}でした。すなわち、これは人の業ではなく神の御業であり、イエス・キリストは権能を持った、この教会の生ける頭であり、言葉と行いにより教会を導いておられるという証です。命と力と霊の限りを尽くしてイエス・キリストに仕えることを約束します。』⁹⁴

ハンター大管長は愛を伝えた後、教会員に二つの勧告を与えた。一つ目は、さらに熱心にイエス・キリストの模範に従うこと、もう一つは、さらに神殿の祝福にあずかることであった(1-3 ページ参照)。ハンター大管長はさらに、傷つき、もがき、恐れを抱いている人々をこのように招いた。「わたしたちは皆さんの味方です。わたしたちに皆さんの涙を拭わせてください。戻って来てください。』⁹⁵

ハンター大管長は体調の悪い中、聖徒と集まり聖徒を強めるために全力を尽くす覚悟を決めていた。大管長になってから2週間後、ハンター大管長は最初

の主要な説教をした。最初は新任の伝道部会長に向けて、その次に2,200人の宣教師に向けて語った。その月、ハンター大管長はさらにイリノイ州のカーセージとノーブーを訪れ、ジョセフ・スミスとハイラム・スミスの殉教150周年を祝った。「行く先々でハンター大管長は人に囲まれていました」とゴードン・B・ヒンクレイ大管長は言った。「ハンター大管長は何千人もの人と握手を交わしました。子供たちが周りに集まってきてじっと大管長の目を見て大管長の手を握ると、ハンター大管長はとびさりの笑顔を向けるのでした。」⁹⁶

1994年10月1日、総大会の土曜午前の部会で、教会員は末日聖徒イエスキリスト教会の大管長として、また預言者、聖見者、啓示者として、公式にハワード・W・ハンターを支持した。ハンター大管長は最初の説教の中で、救い主の模範に従い「主の神殿を教会員であることの崇高な象徴とするよう」繰り返し勧めた。⁹⁷翌週、フロリダ州オーランド神殿を奉獻するためにフロリダを訪れた際にも神殿について再度強調した。「主が明らかにされた福音の計画は、神殿なしには完全ではありません」と教えた。「なぜなら、命と救いの計画に必要な儀式は神殿で執行されるからです。」⁹⁸

11月、ハンター大管長は系図協会の100周年記念の衛星放送で話した。この行事は、1964年から1972年まで同組織を管理したハンター大管長にとって特別な意味を持っていた。「振り返ってみると、神殿と家族歴史の業の前進において主の御手がそこかしこに現れていたことに驚きを覚えます」と述べて、こう宣言した。「大切なメッセージがあります。この業を速めなければなりません。」⁹⁹

ハンター大管長はその年の終わりまで精力的に働き続けた。第1回目の大管長会クリスマスディナーで、ハンター大管長は救い主について証し、主の模範に従うことの大切さを再度強調した。

「救い主は人々を祝福するために生涯をささげられました。……見返りを期待して何かをお与えになったことは一度もありません。主は惜しみなく、愛をもって、計り知れない価値のある贈り物を与えられました。目の見えない人に目を、耳の聞こえない人に耳を、足の不自由な人に足を、清くない人に清さを、衰弱した人に健康を、命を失っている人に命の息を与えられたのです。また、虐げられた人に機会を、抑圧された人に自由を、悔い改めた人に赦しを、失望した人に希望を、暗闇に光をもたらされました。主は愛と奉仕と命を与えてくださいました。そして何より、わたしたちや全ての死すべき人に復活と救いと永遠の命を下されたのです。

わたしたちは、主が与えられたように与える努力をしなければなりません。自分をささげることは、神聖な贈り物です。主から全てを与えられていることを記念して、わたしたちも与えるのです。」¹⁰⁰

ハンター大管長はこの説教の中で、使徒に召された年に出版された機関誌の中のメッセージを言い換えて話した。

「このクリスマスに、争いを修復してください。忘れられている友を探し出してください。疑念をはねつけ、それを信頼に変えてください。手紙を書いてください。穏やかな返答をしてください。青少年を励ましてください。言葉と行いであなたの誠実さを示してください。約束を守ってください。人へのわだかまりを捨ててください。敵対する人を赦してください。謝ってください。理解するように努めてください。他の人々に対するあなたの要望を吟味してください。まず他の人のことを考えてください。親切であってください。優しくあってください。もう少し笑ってください。感謝を述べてください。見知らぬ人を歓迎してください。子供の心を喜ばせてください。地上の美しさと驚異を楽しんでください。あなたの愛を何度も言葉にして告げてください。」¹⁰¹

翌週、ハンター大管長はメキシコシティーを訪れ、教会の2,000番目のステーキを組織した。ハンター大管長は19年前のある週末、メキシコシティーの5つのステーキから15ステーキを組織するのを指導した。ゴードン・B・ヒンクレー大管長は2,000番目のステーキが組織されたことを「教会歴史上記念すべき出来事」と語った。¹⁰²

この頃のある晩、ハンター大管長の息子リチャードはジョセフ・スミス記念館を訪れた際、案内係の女性が車椅子に乗っているのに気づいた。「車椅子にまだ慣れていないことが一目で分かりました。わたしは彼女に話し掛け、父もよく似た車椅子を持っていると伝えました。すると彼女は、大管長も自分とそっくりな車椅子を持っていて、大管長にできるなら自分もできるかもしれない、と言いました。そのことが彼女に希望を与えたのです。父は大勢の人に愛されていたと思います。その理由の一つは、人々と同じように苦しみ、重荷に耐える父の姿が、人々に希望を与えたからかもしれません。」¹⁰³

1995年の初め、ハンター大管長はユタ州バウンティフル神殿を奉献した。6つの奉献の部会を管理した後、疲労のあまり入院することになった。数日後に大管長が退院すると、教会は、大管長が前立腺がんを患っており、がんが骨に転移しているという声明を出した。ハンター大管長は、生涯最後の6週間、二度と公の場に姿を現すことはなかったが、自宅で引き続き顧問と集会を持ち、教会の諸事を運営した。ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう述べている。「ハンター大管長が以前、教会員に『主の神殿を教会員であることの崇高な象徴とする』よう強く勧めたことを考えると、大管長が〔神殿を〕奉献する機会があったことに感謝しています。」¹⁰⁴

ハワード・W・ハンター大管長は1995年3月3日に87歳で死去した。ベッドの周りにいた人たちに「とても静かで優しい声で」最後に語ったことは、「あ

りがとう」という簡潔な言葉だった。¹⁰⁵大管長としての在任期間はわずか9か月だったが、非常に大きな影響を与えた。「世界中の教会員は、預言者、聖見者、啓示者であるハンター大管長と特別なきずなで結ばれ〔まし〕た」とジェームズ・E・ファウスト長老は語った。「会員たちは、大管長が救い主の特質を体现しているのを目の当たりにしました。そのため会員たちは、ハンター大管長の要請に見事に応えて、キリストにさらに似た者となり、神殿を礼拝の中心とするよう努力したのです。」¹⁰⁶

ハンター大管長の葬儀で、ゴードン・B・ヒンクレイ大管長は次のような追悼の言葉を述べた。

「森の壮麗な大木が倒れ、ぽっかりと穴が空いてしまいました。偉大で穏やかな力がわたしたちから離れ去りました。

ハンター大管長の苦しみについては多くが語られてきました。おそらく、わたしたちが思っている以上に、長く、つらい苦しみが続いてきたはずです。大管長は苦しみに対して大きな忍耐力を育み、不平を漏らすことはありませんでした。これほど長く生きたこと自体が奇跡です。苦しみに耐える大管長の姿は、苦しむ大勢の人々を勇気づけ、彼らの苦痛を和らげてきました。人々は、大管長が彼らの重荷の重さを理解していたことを知っています。大管長は苦しむ人々に特別な愛の手を差し伸べました。

大管長の思いやりや気遣い、親切について語られてきた多くの言葉は全て真実です。大管長は、彼の愛した主の模範に倣いました。穏やかで思慮深い人でしたが、力強い声で賢明な意見を言うこともありました。……

ハンター兄弟は優しく穏やかな人でした。しかし、力強く説得力のある話をすることもありました。……ハンター兄弟は、問題を提起する方法を心得ていました。整然と根拠を示し、その後結論へと話を展開していきました。誰もがハンター兄弟の話に耳を傾け、その提案にはほとんどの場合従いました。しかし、自分の主張が受け入れられなくても、彼は一歩引く柔軟性も持ち合わせていました。……

今まで36年間、ハンター兄弟は聖なる使徒職がいうの外套を身にまとい、先頭に立ってイエス・キリストの福音の教えを力強く宣言し、教会の業を前進させてきました。主に仕える、有能な真の代理人として世界中を飛び回ってきました。……

預言者、聖見者、啓示者であるハワード・W・ハンターは、永遠の御父であられる神が生きておられることについて、確かで確固とした証を抱いていました。ハワード・W・ハンターは、人類の贖あがない主であられる主イエス・キリストの神性について強い確信を込めて証を述べました。預言者ジョセフ・スミスをはじめとする、ハンター大管長より前に召された全ての大管長について愛をもって語りました。……

神よ、ハンター大管長の模範がわたしたちの心に刻まれますよう、祝福してください。」¹⁰⁷

注

1. ジェイ・M・トッド, "President Howard W. Hunter: Fourteenth President of the Church," *Ensign*, 1994年7月号, 4
2. ハワード・W・ハンター, "Fear Not, Little Flock" (1989年3月14日にプリガム・ヤング大学で行った説教) 2; speeches.byu.edu
3. トッド, "President Howard W. Hunter," 5
4. J M・ヘスロップ, "He Found Pleasure in Work," *Church News*, 1974年11月16日付, 4
5. ヘスロップ, "He Found Pleasure in Work," 4, 12
6. ヘスロップ, "He Found Pleasure in Work," 4
7. ケリー・リックス「小さなお友だちへ——ハワード・W・ハンター長老」『フレンド』1991年5月号, 12参照
8. ケリー・アバント, "Elder Hunter—Packed Away Musician's Career for Marriage," *Church News*, 1985年5月19日付, 4
9. リックス, 「小さなお友だちへ」12参照
10. ヘスロップ, "He Found Pleasure in Work," 4
11. リックス, 「小さなお友だちへ」12参照
12. アバント, "Elder Hunter," 4
13. "Eagle Scout Qualifies," *Idaho Statesman*, 1923年5月12日付 参照: エレノア・ノウルズ, *Howard W. Hunter* (1994年), 41
14. ドン・L・サル, "President Howard W. Hunter: Acting President of the Quorum of the Twelve Apostles," *Ensign*, 1986年4月号, 22
15. ジェームズ・E・ファウスト「ハワード・W・ハンター大管長——空を飛ぶ鷲のように」『聖徒の道』1994年9月号, 5参照
16. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 22
17. ジェームズ・E・ファウスト「空を飛ぶ鷲のように」5参照
18. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 22
19. 末日聖徒イエス・キリスト教会ボイシステークの略史 (1924年), 6, ソルトレーク・シティ, 教会歴史図書館所蔵
20. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 41
21. ボイシタバナクルは, 数年前にそれを教会から購入したボイシ学区により1992年に取り壊された ("Preservationists Protest Demolition Work on Tabernacle in Boise," *Deseret News*, 1992年9月9日付, B3参照)
22. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 55
23. ヘスロップ, "He Found Pleasure in Work," 4; ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 57も参照
24. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 64
25. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 65
26. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 71
27. ケリー・アバント, "She Made Home a Happy Place," *Church News*, 1974年11月16日付, 5
28. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 79-80
29. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 81
30. リチャード・A・ハンターによる未出版の原稿。この書籍には, ハンター大管長の息子リチャードの引用文が幾つか掲載されている。リチャードはこの書籍の準備中に情報と洞察を提供した。ハンター大管長の息子ジョンは2007年に亡くなったため, 話をする事ができなかった
31. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 87
32. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 88
33. ヘスロップ, "He Found Pleasure in Work," 4
34. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 91
35. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 90
36. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 94参照
37. ヘスロップ, "He Found Pleasure in Work," 4
38. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 97
39. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 98
40. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 98
41. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 100-101
42. チャールズ・C・パウシファー, "My Most Influential Teacher" *Church News*, 1981年1月10日付, 2
43. リチャード・A・ハンターによる未出版の原稿
44. ドイル・L・グリーン, "Howard William Hunter: Apostle from California" *Improvement Era*, 1960年1月号, 37
45. クリー・L・コフォードの言葉。ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 120
46. ジョン・S・ウェルチの言葉。ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 119
47. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 123
48. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 125
49. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 131
50. リチャード・A・ハンターによる未出版の原稿
51. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 127
52. チャールズ・C・バルシファー, "My Most Influential Teacher," 2
53. ハワード・W・ハンター, "Welfare and the Relief Society" *Relief Society Magazine*, 1962年4月号, 238
54. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 135。リチャード・A・ハンターは祖父についてこう記している。「祖父は常に忠実な教会員でした。いつも善い行いをしていました。「ミスターモルモン」と呼べるほどでした。祖父の近所に住む人々やワードの会員の多くは, 祖父が行った親切な行いや気遣いについて話してくれました。祖父は教会員に愛されていました。」(未出版の原稿)
55. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 137
56. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 139
57. ベティー・C・マクイーワン, "My Most Influential Teacher," *Church News*, 1980年6月21日付, 2
58. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 144
59. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 144
60. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 145-146

61. Conference Report, 1959年10月, 121
62. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 151
63. ダグラス・D・バーマー, "The World Conference on Records," *Improvement Era*, 1969年7月号, 7
64. ジェイ・M・トッド, "Elder Howard W. Hunter, Church Historian" *Improvement Era*, 1970年4月号, 27
65. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 194
66. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 208
67. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 205
68. トッド, "Elder Howard W. Hunter, Church Historian" 27
69. トッド, "Elder Howard W. Hunter, Church Historian" 27
70. "New Church Historian Called," *Church News*, 1970年2月14日付, 3
71. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 197
72. ジェームズ・E・ファウスト, "Howard W. Hunter: Man of God," *Ensign*, 1995年4月号, 27
73. ハワード・W・ハンター, "All Are Alike unto God," *Ensign*, 1979年6月号, 74
74. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 215
75. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 218
76. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 222. 省略せずに記載
77. ゲリー・アバント, "He Wanted to Visit the Holy Land 'Just One More Time,'" *Church News*, 1995年3月11日付, 9
78. フランシス・M・ギボンズ, *Howard W. Hunter: Man of Thought and Independence, Prophet of God* (2011年), 119
79. "Growth in Mexican Cities Explodes into 16 Stakes" *Church News*, 1975年11月22日付, 3 参照
80. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 202
81. Conference Report, 1959年10月号, 121
82. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 168-169
83. アバント, "She Made Home a Happy Place," 5
84. サール, "President Howard W. Hunter," 25
85. リチャード・A・ハンターによる未出版の原稿
86. ジェームズ・E・ファウストの言葉。"President Howard W. Hunter: The Lord's 'Good and Faithful Servant.'" *Ensign*, 1995年4月号, 15
87. デル・ファン・オーデン, "Exciting Time in Church History," *Church News*, 1988年6月25日, 6
88. ハワード・W・ハンター「扉」『聖徒の道』1988年1月号, 60
89. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 284
90. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 291
91. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 305-306
92. ハワード・W・ハンター, "An Anchor to the Souls of Men." *Ensign*, 1993年10月号, 71
93. ジェームズ・E・ファウスト「ハワード・W・ハンター 大管長—空を飛ぶ鷲のように」2
94. トッド, "President Howard W. Hunter," 4
95. トッド, "President Howard W. Hunter," 5 ハワード・W・ハンター「尊く、大いなる約束」『聖徒の道』1995年1月号, 9も参照
96. ゴードン・B・ヒンクレー「力強い、真実の証」『リアホナ』1995年8月号, 34
97. ハワード・W・ハンター「尊く、大いなる約束」『聖徒の道』1995年1月号, 9
98. ゲリー・アバント, "Temple Is Dedicated in Sunshine State," *Church News*, 1994年10月15日付, 3
99. ハワード・W・ハンター, "We Have a Work to Do," *Ensign*, 1995年3月号, 64
100. ハワード・W・ハンター, "The Gifts of Christmas," *Ensign*, 2002年12月号, 18
101. ハワード・W・ハンター, "The Gifts of Christmas," 18-19. 出典は "What We Think Christmas Is," *McCall's*, 1959年12月号, 82-83
102. ゴードン・B・ヒンクレー, "A Prophet Polished and Refined," 34
103. リチャード・A・ハンターによる未出版の原稿
104. ゴードン・B・ヒンクレー, "A Prophet Polished and Refined," 34
105. デル・ファン・オーデン, "14th President of the Church Dies at Age 87; He Touched Millions of Lives across the World," *Church News*, 1995年3月11日付, 3
106. ジェームズ・E・ファウスト, "Howard W. Hunter Man of God," 26
107. ゴードン・B・ヒンクレー, "A Prophet Polished and Refined," 33-35



「わたしたちは救い主のことをどれほど頻繁に考えているでしょうか。どれほど深く、どれほどの感謝を込めて、どれほどの賛美の念をもって、救い主の生涯について考えているでしょうか。救い主がわたしたちの人生にとってどれほど重要な御方であるか知っているでしょうか。」



イエス・キリスト — 希望と喜びにつながる唯一の道

「わたしたちの生活と信仰がイエス・キリストと回復された福音を中心としたものであるなら、物事がいつまでも悪い方へ進むということは決してあり得ません。」

ハワード・W・ハンターの生涯から

ノハワード・W・ハンター大管長の教えの重要なテーマは、イエス・キリストを知り、従うように努めるときにのみ、まことの平安、癒やし、幸福が得られるということである。ハンター大管長は次のように教えている。「キリストの道は正しいばかりではなく、希望と喜びにつながる唯一の道です。」¹

ハンター大管長は救い主の神聖な使命についても同様に力強く証し、次のように断言している。「聖任された使徒、キリストの特別な証人として、わたしはイエス・キリストが実際に神の御子であられることを厳粛に証します。キリストは、旧約聖書の預言者たちが待ち望んだメシヤです。キリストはイスラエルの望みです。アブラハム、イサク、ヤコブの子孫は何世紀にもわたって、入念に定められた礼拝の方式に従い、キリストの来臨を祈り続けてきたのです。……

わたしは聖霊の力によって証を述べます。わたしは自分の目で見、耳で聞いたかのようにキリストの存在を知っています。また、信仰の耳をもって聞く全ての人の心に、わたしの証が真実であるということを聖なる御霊が証してくださることを知っています。」²

イエスが教え導かれた場所を訪れたいという願いから、ハンター大管長は 20 回以上聖地へ赴いた。十二使徒定員会のジェームズ・E・ファウスト長老はこう述べている。「エルサレムは磁石のように彼を引き付けました。……救い主が歩き、教えられた場所にいたいという彼の願いは抑え切れないほど強かったようです。全ての景色と音が大好きでした。特にガリラヤが大好きでした。けれども、とりわけ一つの場所が大好きでした。いつも次のように言っていました。『以前のように、もう一度だけ園の墓へ行きましょう。』よくその場所に座り、瞑想にふけていました。その様子はあたかも自分と救い主の間にある幕を通り抜けているかのようでした。」³

ハワード・W・ハンターの教え



わたしたちは今まで以上に深くキリストを知り、
これまで以上に頻繁に主を思い起こさなくてはならない

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員はこの歌を敬虔に歌います。

主イエスよ、わが胸

喜び^み満つ

み前^いに出づれば

さらにうれし……

……わたしたちは救い主のことをどれほど頻繁に考えているのでしょうか。どれほど深く、どれほどの感謝を込めて、どれほどの賛美の念をもって、救い主の生涯について考えているのでしょうか。救い主がわたしたちの人生にとってどれほど重要な御方であるか知っているのでしょうか。

例えば、ふだんの1日、仕事に明け暮れる1週間、矢のように過ぎる1か月のどれほどの時間を割いて「主イエスを思っているのでしょうか。」もっと時間を割く必要のある人々がいるのではないのでしょうか。

イエス・キリストの「喜び満つ」福音でさらに胸を満たすことができれば、生活に平安が増し、結婚や家族のきずなが強まり、近隣や国家はより安全になり、親切な人が増え、建設的な社会になることは間違いないでしょう。

心の思いにもっと注意を払わない限り、さらに大きな喜びとすばらしい報い、すなわちいつの日か愛にあふれた主の御顔^{みかお}を拝し、御前^{みまえ}にあつて安息を得るといふ喜びと報いを望めないでしょう。

何年も前に、イエスはエルサレムへの勝利の入城を果たした後、人々に次のようにお尋ねになりましたが、毎日、そして年間を通じてどの時期にも、……イエスはわたしたち一人一人に同じように尋ねておられます。「あなたがたはキリストをどう思うか。だれの子なのか。」(マタイ 22:42)

わたしたちは断言します。イエスは神の御子です。その事実が真実であるゆえに、わたしたちの心はもっと頻繁に奮い立つことでしょう。⁴

わたしたちは今まで以上に深くキリストを知り、これまで以上に頻繁に主を思い起こし、従来より一層雄々しく主に仕えなくてはなりません。そうするなら、わたしたちは永遠の命に至る湧き上がる水を飲み、命のパンを食べるようになるでしょう。⁵



「キリストの弟子としてさらに献身を深め、修練を積むことができますように。
主を大切に思い、愛を込めて主の名を語ることができますように。」

2

イエスは希望と永続する喜びをもたらす唯一まことの源である

悔いる心には
望み与え
へりくだるものに
喜び^{あた}与う

何と美しい歌詞でしょう。キリストの福音に根ざした何とすばらしい希望の歌でしょう。希望が必要でない人、より大きな喜びを求めない人が、この世に一人でもいるでしょうか。希望と喜びは全ての人が必要とし、切望しているものです。そして、主に従う者たちに与えられたキリストの約束なのです。「悔いる心」には希望が、「へりくだるもの」には喜びが与えられます。

悔いる心には代償が伴います。すなわち、思い上がりや無関心を、特に罪を捨てるといふ代価を払わなくてはなりません。なぜなら、ラモーナイ王の父親が2,000年前に知っていたように、これはまことの希望の代価なのです。彼はこう呼びました。「おお、神よ、……あなた御自身のことをわたしにお知らせください。わたしはあなたを知り、死者の中からよみがえり、終わりの日に救われるように、自分の罪をすべて捨てます。」(アルマ 22 : 18) わたしたちもまた、進ん

で全ての罪を捨てて、主を知り、主に従うとき、永遠の命の喜びに満たされます。

では、「へりくだるもの」つまり柔和な人はどうでしょうか。他者を脅かしてまで優位に立とうとするこの世では、柔和になるよう勧める本を買い求める人はあまりいません。しかし、柔和な人は地を受け継ぎます。実に見事に、他者を脅かすことなく行われるでしょう。遅かれ早かれ、むしろ、遅いよりは早いことを祈っていますが、誰もが次のことを認めるでしょう。キリストの道は正しいばかりではなく、最終的には希望と喜びにつながる唯一の道です。全ての膝がかがみ、全ての舌が次のように告白するでしょう。温厚は粗暴よりも望ましく、優しさは強制よりも重要で、柔らかい答えは憤りをとどめます。最終的には、できればなるべく早く、わたしたちは主のようにならなければなりません。……

主はわが喜び

わが誇りよ

今もとこしえも

み栄えあれ

これこそ、世界中の人々のためにわたしが祈り、願うことです。……わたしは証あかしします。イエスは永続する喜びの唯一まことの源です。唯一の永続する平安はイエスにあります。常にイエスの「栄光」がありますように。イエスの栄光は、わたしたち一人一人が願い求めるものであり、個人にとっても国家にとっても永久に大切にできる唯一の貴い誉れです。主はこの世においても永遠にわたってわたしたちの誉れです。他の誉れは全て、最終的には価値がなくなります。他の威光は全て、時がたつと衰え、この世のものとともに消えうせてしまいます。最終的には……まことの喜びはキリストにしかないことが分かるでしょう。

……キリストの弟子としてさらに献身を深め、修練を積むことができますように。主を大切に思い、愛を込めて主の名を語ることができますように。柔和な心と憐れみをもって、主の前にひざまずくことができますように。また、他の人を幸せにし、他の人に奉仕して、彼らも同様のことができますように。⁶

3

全世界で最も必要とされているのは、救い主とその教えを 積極的に、また真心から信じる信仰である

聖書を信じるのは時代遅れだと断言する人がいます。神を信じ、生ける神の御子イエス・キリストを信じることは時代遅れでしょうか。主の贖あがないの犠牲と復活を信じることは時代遅れでしょうか。もしそうなら、わたしは自分が時代

遅れであり、教会も時代遅れであると申し上げます。主は、永遠の命の原則、および信じる信仰を持った人々に幸福をもたらす教えを非常に分かりやすい言葉で授けてくださいました。こうした主の教えを現代風にする必要があると考えるのは、理にかなっているとは思えません。主のメッセージは永遠の原則に関わるものです。⁷

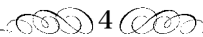
現代でも、過去および将来のどの時代でも同様に、全世界で最も必要なのは、生ける神の生ける御子であるナザレのイエスの基本的な教えを積極的に、また真心から信じる信仰です。多くの人がこの教えを拒んでいます、それだからこそイエス・キリストの福音を心から信じる人は、福音が真実であると宣言し、義にかなった穏やかな生活をもたらす力と安らぎを模範によって示してください。……

心を傷つけられる、誤解される、不当な扱いや心ない扱いを受ける、あるいは罪深い行いをされる場合、どのように対処したらよいでしょうか。愛する人に傷つけられる、昇進の機会を先送りにされる、ぬれぎぬを着せられる、あるいは自分の動機に対する不当な非難を受ける場合、どうしたらよいでしょうか。

仕返しをしますか。攻撃姿勢を強めますか。目には目を、歯には歯をというやり方に戻りますか。それとも、……そのようなやり方では結局自分の目と歯を失うことになると悟るでしょうか。……

キリストはその高貴な生涯と模範による教えの中で、多くの勧告を与え、確かな約束も必ず添えてくださいました。キリストは威厳と権能をもってお教えになり、学識のある人もない人も、富める人も貧しい人も、健康な人も病気の人も、その教えを聞いて希望に満たされました。⁸

イエス・キリストと贖罪^{しよくざい}について個人的な証を強めるように努力してください。わたしたち各自が努めるべきことは、キリストの生涯を研究し、キリストの實在について証を持つことです。わたしたちは主の使命と、主が成し遂げられた贖罪を理解するようになると、もっと主のように生活したいと望むようになります。⁹



わたしたちが救い主を信じる信仰を働かせるとき、 主はわたしたちの人生の荒波を静めてくださる

わたしたちは誰でも、人生の中で突然嵐^{あらし}に見舞われることがあります。中には、……激しく、恐ろしく、破壊的な威力を持つ嵐もあります。個人や家族の生活、地域社会、国、教会の中にさえ突風が起り、わたしたちは次のように言ったことがあるでしょう。「先生、わたしどもがおぼれ死んでも、おかまいにならないのですか。」〔マルコ4：38〕嵐の後の静けさの中で、わたしたちは次のよう



救い主はわたしたちの人生における^{あらし}嵐を静めてくださる。

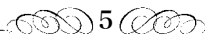
な^{みこえ}御声を聞くのです。「なぜ、そんなにこわがるのか。どうして信仰がないのか。」〔マルコ 4：40〕

誰も自分には信仰がないとは考えたくないでしょう。しかし、主の優しい^{しっ}叱責は概してもっともだと思います。わたしたちが信じると言明し、その御名を^{せき}引き受けたこの大なるエホバは、こう言われました。「水の間におおぞらがあつて、水と水とを分けよ。」(創世 1：6) また、こうも言われました。「天の下の水は一つ所に集まり、かわいた地が現れよ。」(創世 1：9) さらに、紅海を分け、イスラエルの人々が乾いた地の上を歩いて行けるようにしてくださったのも主でした(創世 14：21 - 22 参照)。主がガリラヤ湖で荒れ狂う自然の力に命じられたからといって、何の不思議もありません。わたしたちに信仰があれば、主がわたしたちの人生の荒波を静めることがおできになることを思い起こすはずです。……

人は皆、人生において何らかの逆境を経験します。人々がそう確信するのはもっともなことだと思います。中には激しく、悲惨で、破壊的なものもあるでしょう。中には、わたしたちを救済する力のある愛に満ちた神を信じる信仰を弱めるものさえあるかもしれません。

そのような心配に対して、わたしたち全ての者の御父はこう言われるでしょう。「なぜ、そんなにこわがるのか。どうして信仰がないのか。」もちろん、嵐のときだけの一時的なものではなく、人生の旅路の全体、現世の経験の最初から最後まで生涯にわたって信仰を貫かなければなりません。……

イエスはこう言われました。「あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている。」(ヨハネ 16:33)¹⁰



わたしたちは救い主を中心とした生活を送るなら、 恐れる必要はなく、不安は喜びに変わる

わたしは皆さんが忙しく気ぜわしい生活を送っており、時折いらいらすることがあるということをよく知っています。時には、少し不安になることもあるでしょう。そのことは承知しています。……

本日皆さんに伝えたいのは、「恐れるな、小さい群れよ」というメッセージです。人生の大いなる祝福を享受するようにお勧めします。福音に従う生活と天の御父の愛に大きな喜びを感じるようにお勧めします。たとえ困難などであっても、人生はすばらしいものです。そして人生の旅路の折々に幸福と喜びと平安があり、終着地では永遠の幸福と喜びと平安が待っています。

確かに、心配事はたくさんあります。中には非常に深刻なものもあります。けれども、だからこそわたしたちは、信仰と希望と慈愛という福音の言葉を語るのです。末日聖徒であるわたしたちは「豊かな人生」を送ることができます。失望や不安に捕らわれることなく、祝福と機会に目を向けるように努めましょう。聖文にはこう書かれています。「熱心に探し、常に祈り、そして信じていなさい。……万事があなたがたの益となるようにともに働くであろう。」(教義と聖約 90:24) その約束を思い起こしていただきたいと思います。……

この一つのことを忘れないでください。わたしたちの生活と信仰がイエス・キリストと回復された福音を中心としたものであるなら、物事がいつまでも悪い方へ進むということは決してあり得ません。他方、わたしたちの生活が救い主とその教えを中心としたものでないなら、他のことがうまくいっても、それは決して長続きしません。……

わたしたちは皆、ときどき、健康上の問題に悩みます。絶えず悩んでいる人もいます。病気は死すべき世の重荷の一部です。信仰を持ち、前向きであってください。神権の力は現実にあります。また、たとえ肉体の問題があっても、人生には良いものがたくさんあります。復活の時には負傷や病気がなくなるということを知るのは喜ばしいことです。

わたしたちの心配事の中には、誘惑という形を取るものもあります。また、教育や職業、金銭や結婚について難しい決断を迫られることもあります。自分の重荷が何であろうと、皆さんは必要な力をキリストに見いだすでしょう。イエス・キリストはアルパでありオメガであり、文字どおり、初めであり終わりです。初めから終わりまで、主はわたしたちとともにおられます。わたしたちの人生の単なる傍観者にとどまっておられることはありません。……

もしわたしたちを苦しめているくびきが罪そのものだとしても、伝えたいメッセージは同じです。キリストはわたしたちの罪の重荷を全て御存じです。なぜならその重荷を最初に背負われたのはキリストだからです。わたしたちの重荷が罪や誘惑ではなく、病気、貧困、拒絶であろうと、同じです。主は御存じです。……

主はわたしたちの罪よりもっと大きな重荷を背負われました。イザヤが「悲しみの人」と呼んだ主は（イザヤ 53：3；モーサヤ 14：3）、わたしたちが経験するあらゆる問題を全て御存じです。なぜなら主はわたしたちの全ての悩みと苦痛の重荷を背負うことを選びになったからです。……

兄弟姉妹の皆さん、さまざまな心配事や困難な問題が今も、そして今後もあるでしょう。しかし、喜びと十分な信仰をもって人生を受け入れてください。定期的に聖文を研究してください。熱心に祈ってください。御霊みたまと預言者の声に従ってください。他の人を助けるためにできることを全て行ってください。そのようにするとき、大きな幸福を見いだすでしょう。いつか訪れる輝かしい日に、あらゆる悩みは喜びに変わるでしょう。

ジョセフ・スミスはリバティーの監獄から苦闘する聖徒たちに次の言葉を書き送っていますが、そのように行いましょう。

わたしたちの力の限りすべてのことを喜んで行おう。そして願わくは、その後、わたしたちがこの上ない確信をもって待ち受けて、神の救いを目にし、また神の腕が現されるのを見ることができるようになる。〔教義と聖約 123：17、強調付加〕

〔預言者ジョセフ・スミスに告げられた主の言葉：〕

それゆえ、小さい群れよ、恐れてはならない。善を行いなさい。この世と地獄をあなたがたに対して連合させなさい。あなたがたがわたしの岩の上に建てられるならば、それらは打ち勝つことができないからである。……

あらゆる思いの中でわたしを仰ぎ見なさい。疑ってはならない。恐れてはならない。

わたしのわきを突き刺した傷跡と、わたしの手と足にある釘^{くぎ}の跡を見なさい。忠実であり、わたしの戒めを守りなさい。そうすれば、あなたがたは天の王国を受け継ぐであろう〔教義と聖約6:34-37〕。¹¹

研究とレッスンのための提案

質問

- 第1項にあるハンター大管長の質問に自分ならどう答えるかを考えてください。さらにイエス・キリストを中心とした生活を送るには、どうしたらよいでしょうか。さらに主を中心とした家庭にするには、どうしたらよいでしょうか。今よりもキリストを一層深く知るようになるには、どうしたらよいでしょうか。
- キリストが与えてくださる希望と喜びと平安を頂くには、何を代価として払わなければならないでしょうか（第2項参照）。救い主から与えられる希望と平安と喜びを感じたのは、どのようなときでしょうか。
- 「全世界で最も必要なのは、……ナザレのイエスの基本的な教を積極的に、また真心から信じる信仰」であるのは、なぜだと思いますか（第3項参照）。心を傷つけられた、誤解された、不当な扱いや心ない扱いを受けた、あるいは罪深い行いをされたと感じる場合、キリストの教を信じる信仰を示すにはどうしたらよいでしょうか。
- 恐れと信仰についてのハンター大管長の教えからどのようなことを学べるでしょうか（第4項参照）。信仰は恐れを克服するのにどのような助けとなるでしょうか。あなたが救い主を信じる信仰を働かせた際に主があなたの人生^{あらし}の嵐を静めてくださったときのことについて考えてください。
- 第5項にあるハンター大管長の勧告は、悲しみや失望、病気のときにさえ「喜び……をもって人生を受け入れ」るとき、どのように助けとなるでしょうか。永遠の観点に立てるようになるには、どうしたらよいでしょうか。あなたが一層豊かな人生を送るために、救い主はどのような助けを与えてくださっているでしょうか。

関連聖句

マタイ 11:28-30; ヨハネ 14:6; 2 ニーファイ 31:19-21; アルマ 5:14-16; 7:10-14; 23:6; ヒラマン 3:35; 5:9-12; 教義と聖約 50:40-46; 93:1

学ぶ際のヒント

「学んでいるときに、……心に浮かんでくる考えと湧き上がる感情に十分な注意を払ってください。」(『わたしの福音を^の宣べ伝えなさい』18) 受けた印象が自分の読んでいる言葉と無関係なように思えるときにも、その印象を記録するようにしてください。それはまさに主があなたに啓示したいと望んでおられる事柄かもしれません。

注

1. 「主イエスよ、わが胸」『聖徒の道』1993年7月号, 67
2. 「使徒が語るキリストの証^{あかし}」『聖徒の道』1984年8月号, 8-9 参照
3. ジェームズ・E・ファウスト, “Howard W. Hunter: Man of God” *Ensign*, 1995年4月号, 27
4. 「主イエスよ、わが胸」66 参照
5. 「^{あかし} 汝らはいかなる人物にてあるべきか」『聖徒の道』1994年7月号, 67 参照。「主は従うように招いていらっしゃいます」『聖徒の道』1994年10月号, 6も参照
6. 「主イエスよ、わが胸」67 参照
7. 「エレノア・ノウルズ, *Howard W. Hunter* (1994年) 318で引用
8. 「平和な港の光」『聖徒の道』1993年1月号, 21-22 参照
9. *The Teachings of Howard W. Hunter*, クライド・J・ウィリアムズ編 (1997年), 30
10. 「主よ、暴風すさび」『聖徒の道』1985年1月号, 34-35 参照
11. “Fear Not, Little Flock”(プリガム・ヤング大学での説教, 1989年3月14日) 1-2, 4-5; speeches.byu.edu



「わたしの平安を あなたがたに与える」

「人が平安を得ることができる方法はただ一つです。
それは、平安を与える力を持っておられる
平和の君に無条件に身を委ねることです。」

ハワード・W・ハンターの生涯から

十二使徒定員会でハワード・W・ハンター大管長の同僚だったある人が、大管長のことを「深い心の平安が生む並外れた忍耐力」を持った人だと述べている。¹ ハンター大管長はしばしば心の平安について語り、人が平安を頂ける唯一の方法は、神に心を向けること、すなわち神を信頼し、信仰を働かせ、御心みこころを行うように努めることだと教えた。そのような平安は大管長が多くの困難な時を耐え抜く助けとなった。

1975年の終わり頃、ある医師がハンター大管長の妻クレアに脳の手術を勧めた。ハンター大管長はその手術がクレアにとって最良の道かどうかを決断する苦しい選択に迫られた。手術の結果、弱った体がさらに衰弱し、病状が改善しない恐れもあったからである。大管長は神殿に行き、家族と相談し、間もなく、クレアの苦痛をいくらか緩和するために手術が最も望ましいと感じた。手術の日に感じた気持ちについて、大管長はこう書いている。

「わたしは手術室のドアまで付き添って行き、妻にキスしました。妻はドアの向こうに運ばれて行きました。時間が経過するにつれ、あれこれ心配しながら待っていました。……突然、張り詰めた不安が平安な気持ちに変わりました。正しい決断をしたこと、そして祈りがこたえられたことが分かりました。」²

1989年、ハンター大管長はもう一つの経験をした。問題が起きたときに平安を感じた経験である。ブリガム・ヤング大学近東研究エルサレムセンターを奉獻するために、エルサレムに行ったときのことである。エルサレムにこの教会が拠点を置くことに幾つかの団体が抗議し、暴力に訴えると脅す人たちもいた。奉獻式の話者の一人が十二使徒定員会のボイド・K・パッカー長老であった。長老は後にこの出来事についてこう語っている。

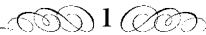


わたしたちは「イエスにしっかりと目を向け」、
決して「信じるべきキリストから目をそらし」てはならない。

「わたしが話していると、ホールの後方がいくらか騒がしくなりました。軍服を着た男たちが部屋に入って来たのです。ハンター大管長にメモが渡されました。わたしは振り返り、指示を求めました。大管長は言いました。『爆破予告がありました。怖いですか?』わたしは『いいえ』と答えました。大管長は言いました。『わたしも怖くありません。話を続けてください。』」³奉獻式は何事もなく進み、爆弾はなかった。

このような状況でもハンター大管長は、救い主が次のように約束された平安を信頼していた。自身がよく引用した主の約束である。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおどけるな。」(ヨハネ 14:27)

ハワード・W・ハンターの教え



イエス・キリストはまことの平安の源である

キリストの降誕について、実際に起きる700年以上前に預言した預言者イザヤは、大いなる賛美を表す称号を用いました。……現代の世の中で特に関心を引く称号の一つが「平和の君」です(イザヤ9:6)。「そのまつりごとと平和とは、増し加わって限りな[い]」とイザヤは断言しています(7節)。戦争にうんざりしている人、罪の重荷を負っている人にとっては、何と胸躍る希望でしょう。⁴

世の人々が切望している平和(peace)は敵対心がやむときに訪れます。しかし、平安(peace)は神が定められた諸条件に従うときにのみ訪れる状態であり、他の方法では得られないことに人々は気づいていません。

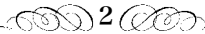
イザヤ書の中にはこのような言葉があります。「あなたは全き平安をもってころごしの堅固なものを守られる。彼はあなたに信頼しているからである。」(イザヤ26:3)イザヤが述べたこの全き平安は、神を信じる信仰を通してのみ訪れるのです。これは信仰のない人々には理解できません。

イエスは十二使徒と食事をともにした最後のときに、弟子たちの足を洗い、彼らのためにパンを裂き、杯さかづきを回されました。その最中にユダが去った後、主は弟子たちにしばらく話をされました。何よりも、迫り来る御自身の死について、また一人一人の弟子に残していくものについて話をされました。イエスは所有物もなく、財産も富も蓄えてはおられませんでした。記録されているとおり、イエスには身につけていた着物以外に何の所有物もありませんでした。その着物すら、翌日はりつけにされた後、兵士たちがぐじ引きで分け合ったのです。主は次のような簡潔ではあるが深遠な言葉で、弟子たちに贈り物をお授けになりました。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがた

に与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」(ヨハネ 14:27)

主は挨拶と祝福のユダヤ式の言葉をお使いになりました。「わたしの平安をあなたがたに与える。」この挨拶の言葉と贈り物は、普通の意味に解釈してはいけないものでした。なぜなら、主はこう言われたからです。「わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。」世の人々が習慣的に使う口先だけの儀礼の言葉ではなく、平和をつくり出す御方、平和の君として、主は弟子たちにこの言葉をお与えになったのです。主は平安をお授けになり、こう言われました。「あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」それから数時間のうちに、弟子たちは困難に出遭うこととなりますが、主の平安に満たされ、恐れを克服し、揺るがずに信仰を貫くことができたのです。

その記念すべき夜の散会の祈りの前に、主は最後に次のように言われました。「あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている。」(ヨハネ 16:33)⁵



福音の原則に従って生活するとき平安が育まれる

世界には導き手となる唯一の御方がおられます。その御方は絶対に確実な唯一の光であり、世の人々に常に正しい方角を示す灯台です。その光とは、世の光であり命であるイエス・キリストです。モルモン書の預言者の一人はこの光を、「決して暗くなることのない無窮の光」とであると述べています(モーサヤ 16:9)。

個人、家族、地域社会、国家の別を問わず、安全で平和な港を求めるなら、最終的に頼ることのできる光はキリスト以外にありません。キリストは御自身の使命についてこう言われました。「わたしは道であり、真理であり、命である。」(ヨハネ 14:6)……

一つの例として、キリストが弟子たちにお与えになった次の教えについて考えてください。「敵を愛し、迫害する者のために祈れ。」(マタイ 5:44)

わたしたちの隣人、また皆さんと皆さんの子供たちの住む地域社会、あるいは一つの大きな家族を形成する国家の中であって、この勧告一つ取ってみても、それによってどのような変化が生じるのか考えてみてください。確かにこの教義は非常に大きなチャレンジです。しかし世界が今も直面している戦争、貧困、苦悩が引き起こす大きな困難を考えれば、これは受け入れることのできるチャレンジです。⁶

わたしたちは自分を傷つけた人を助けようとするときや、自分を不当に利用した人のために祈るとき、豊かな人生を送ることができます。わたしたちが御霊みたまに従い、互いに一致して主に仕え、主の戒めを守るとき、平和を得ることができます。⁷

わたしたちが住んでいるこの世の人々は、わたしたちの近くにいるかどうかを問わず、イエス・キリストの福音を必要としています。福音は世の人々に、平和を知るための唯一の道を示しています。……わたしたちは一層平穏な家庭や近隣、地域社会を基にした、さらに平和な世界が必要です。そのような平和を確保し築くために、「人々を、すなわち友はもちろん、敵でさえも愛さなければなりません。」[『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』394]……わたしたちは友情の手を差し伸べなければなりません。もっと親切で、もっと優しく、もっと寛容になり、怒るのをもっと遅くしなければなりません。⁸

神が用いられる方法は、説得と忍耐と寛容によるものであり、強制や厳しい対決によるものではありません。神は優しく求め、優しく促されます。⁹

神を拒む人や神の戒めを守らない人、神の律法を破る人には、平安が約束されていません。預言者イザヤは指導者たちの墮落と退廃について語り、続けて次のような訓戒を述べています。「しかし悪しき者は波の荒い海のような。静まることのできないで、その水はついに泥と汚物とを出す。わが神は言われる、『よこしまな者には平安がない』と。」(イザヤ 57:20 - 21)……

……救い主に無関心な人や神の戒めを守らない人は、不安や悩みにさいなまれ、争いに巻き込まれます。これらは平安とは正反対のものです。人が平安を得ることができる方法はただ一つです。それは、平安を与える力を持っておられる平和の君に無条件に身を委ねることです。¹⁰

目を引く見出しによく書かれるような世の騒乱を見ると、わたしたちはきっと平安を求めるようになるでしょう。その平安はキリストの福音の簡潔な原則を実践することから得られます。もしわたしたちが同胞ほらからを愛し、救い主の贖いの犠牲を信じる信仰を持ち、永遠の命を得られるという、主が与えてくださる穏やかな確信を持つなら、騒々しい少数の人のために、心の平安が乱されることはありません。苦悩に満ちた世にあって、そのような信仰はどこに見いだせるでしょうか。主はこう言っておられます。「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。すべて求める者は得、捜す者は見だし、門をたたく者はあけてもらえるからである。」(ルカ 11:9 - 10)¹¹

もしわたしたちがこの世において平和を、また来るべき世きたにおいて永遠の命を受けようとするなら、二つの永遠の真理を受け入れなければならないように思われます。(1) イエスはキリストであり、わたしたちの天の御父のまさしく永遠の御子であり、人類を罪と死から贖あがなうという明確な目的のために地上に来ら

れ、わたしたちを御父のもとへ連れ戻すために生きておられる。(2) ジョセフ・スミスは主の預言者であり、背きのゆえに人類が失っていた真理を回復するためにこの末日に立てられた。もし全ての人がこの二つの基本的な真理を受け入れ、それに従って生活するなら、平和が世にもたらされることでしょう。¹²

もしあなたが、あなた自身が、誘惑を拒むなら、そして日々の努力を惜しまず、収穫の律法に従おうと決心するならば、自由と心の平安と繁栄という収穫を刈り取ることでしょう。その方法として、清い道徳的な思いと行いの習慣を身につける、正しく正直に人々と接する、誠実にまた入念に福音を研究する、断食と祈りと礼拝を行うなどがあります。¹³

無私の奉仕に満ちた生活もまた、人の理解を超えた平安に満たされることでしょう。……この平安は、福音の原則に従って生活することによってのみ得られるものです。こうした原則は平和の君がお進めになる計画の本質を成しています。¹⁴

この世の非常に多くのものが、さまざまな種類の罪と誘惑により個人の平安を脅かそうとしています。聖徒たちの生活がナザレのイエスによって示された理想と調和したものとなるよう祈ります。

サタンの努力が徒労に帰し、人々の生活が平安で穏やかになりますように、家族のきずなが強まり、一人一人を思いやるようになりますように、ワードやステーク、支部や地方部が偉大なキリストの体を形成し、あらゆる必要を満たし、あらゆる痛みを和らげ、あらゆる傷を癒やしますように、その結果ニーファイが懇願したように全世界が「キリストを確固として信じ、完全な希望の輝きを持ち、神とすべての人を愛して力強く進」むように祈ります。……

ニーファイはこう続けています。「わたしの愛する同胞よ、これが道である。そして、このほかには……道〔は〕……ない。」(2 ニーファイ 31:20 - 21) ¹⁵

3

周りの混乱にもかかわらず、平安を見いだせるように 救い主は助けを与えてくださる

イエスは悲しみや苦痛、苦悩や打撃を免れることはありませんでした。主が背負われた言語に絶する重荷を表現できる人は誰もいません。また、わたしたちには預言者イザヤがイエスを「悲しみの人」と表現した意味を理解する知恵もありません(イザヤ 53:3)。イエスの舟はその生涯の大半荒波にもまれ、少なくともこの世的な観点からすれば、カルバリという苦難の岸に打ちつけられて砕け散ってしまいました。わたしたちはこの世的な目で人生を見ないように言われています。霊的な目で見れば、十字架上でまったく別のことが起きていたことが分かります。



「無私の奉仕に満ちた生活もまた、人の理解を超えた平安に満たされることでしょう。」

どんなにすさまじい嵐が荒れ狂っていても、救い主の心と言葉は平安に満ちていました。そのようにわたしたちの心の中に、わたしたちの家庭に、世界の国々に、またときどき教会が打撃を受ける際にも、平安がありますように。わたしたちは、個人としても集団としても、何の障害もなく人生を乗り切れると考えるはいけません。¹⁶

人は美しく整った平和な環境で暮らしていても、心の中にある葛藤^{かっとう}や不調和のために、絶えず不安を抱えることがあります。他方、きわめて破壊的な状況や流血

の戦争のさなかにあっても、言葉で表現できない穏やかな平安に満たされていることがあります。人やこの世のやり方に頼るなら、不安と混乱を招くでしょう。しかし、神に頼りさえすれば、不安な心に平安が訪れるでしょう。これは救い主の言葉からも明らかです。「あなたがたは、この世ではなやみがある。」(ヨハネ 16:33) そして、主は十二使徒と全人類に次のような言葉を残して行かれました。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。……」(ヨハネ 14:27)

もしわたしたちが主の大いなる賜物^{たまもの}と、次のような主の招きを受け入れるなら、葛藤に満ちた世にあってこの平安を見いだすことができます。「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。

わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。」(マタイ 11:28 - 29)

この平安はこの世の混乱からわたしたちを守ってくれます。神は生きておられ、わたしたちは神の子であり、神はわたしたちを愛しておられるということを知ると、悩む心が慰められます。平安を求める人への答えは、神と神の御子イエス・キリストを信じる信仰にあります。この信仰が、今も、また永遠にわたしても平安をもたらすのです。¹⁷

混乱し、性急に一時的な進歩を追い求めるこの世にあって、わたしたちはキリストの簡潔な教えに立ち戻る必要があります。……主が教えられた真理の簡潔な基本原則を研究し、論争を排除する必要があります。神を信じる信仰は、現実のものであって、憶測による不確かなものであってはなりません。イエス・キリストの回復された福音は、力強く、影響力があるものです。わたしたちが真心から受け入れるなら、有意義な宗教的経験をすることができます。モルモンの宗教のすばらしい長所の一つは、信仰を日々の思いや行いに変えることです。この結果として、不安と混乱が平安と平穩に取って代わるのです。¹⁸

4

わたしたちはイエスにしっかりと目を向けることにより、 平安を乱す嵐^{あらし}に打ち勝つことができる

わたしたちを試し、悩まし、恐れを抱かせると思われるものにもキリストは打ち勝たれました。それを伝えるすばらしい話の一つについて話したいと思います。キリストの弟子たちはしばしばガリラヤ湖を渡りました。ある晩のことです。その夜は暗く、風が吹きすさんでいました。波が荒くなり、風が激しく吹く中で、人間的な弱さを持った人たちは恐怖におびえました。残念ながら、不安

を和らげ、助けてくださる御方はそばにおられませんでした。イエスは一人で岸に残っておられたからです。

けれどもいつものように、イエスは弟子たちを見守っておられました。弟子たちを愛し、心に掛けておられたのです。弟子たちは不安を募らせ、不安が極みに達したとき、暗闇くらやみの中に、風に衣をなびかせながら、うねる波の上を自分たちの方に向かって歩いてくる人影が見えました。その光景を見て、弟子たちは恐怖のあまり叫びました。波の上を歩く幽霊だと思ったのです。弟子たちが経験した嵐と暗闇はわたしたちにもしばしば訪れます。人生の暗闇の中で、海はあまりにも大きく、自分の舟はあまりにも小さく思えるときがあります。そのとき、最も大きな安心感を与えてくれる声が聞こえてきたのです。それはこのような簡潔で力強い言葉でした。「わたしである。恐れることはない。」するとペテロが大声で言いました。「主よ、あなたでしたか。では、わたしに命じて、水の上を渡ってみもとに行かせてください。」そこでキリストはペテロにお答えになりました。それはわたしたち全てへの答えと同じでした。「おいでなさい。」

ペテロは舟から荒れる海へ降りました。そして、主にしっかりと目を向けている間は、風に髪が巻き上げられ、水しぶきで衣がびしょぬれになっても平然としていました。ところが、信仰が揺らぎ、主から目をそらして、足元の荒れ狂う波と暗い海に目を向けたとたん、まさにその瞬間にペテロは沈み始めたのです。またもや、わたしたちの大半がするように、ペテロは叫びました。「主よ、お助けください。」そしてまた、イエスも、ペテロを見捨てることはされませんでした。手を伸ばし、溺れかかっている弟子をつかまえて、優しくお叱りになりました。「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか。」

それから二人が無事に小さな舟に乗り込むと、風がやみ、荒波が静まったのです。間もなく一行は避難所である安全な港に着きました。わたしたちも皆、いつかそのような場所に至ることを望んでいます。舟のこぎ手も弟子たちも、ひどく驚きました。中にはイエスに、今日わたしが宣言する称号を使って呼びかけた人もいました。「ほんとうに、あなたは神の子です。」(ファーラー、*The Life of Christ*, 310 - 313 を基に翻案。マタイ 14:22 - 33 参照)

個人、家族、地域社会、そして国として、ペテロのようにイエスにしっかりと目を向けているなら、「不信仰という荒波」に打ち勝ってその上を歩き、「疑いという激しく吹きすさぶ嵐の中にあってもひるむことはない」と、わたしは固く信じています。しかし、もしわたしたちが信じるべきキリストから目をそらしたら、どうなるでしょうか。それはたやすく起こり得ることです。この世にはそのような誘惑があふれています。わたしたちを助け、救う力のある御方ではなく、周囲に渦巻く破壊的で恐ろしい嵐の猛威に目を奪われたら、争い、悲しみ、絶望の海の中に沈んでいくに違いないのです。

皆さんが洪水に押し流され、信仰を激しく揺さぶられ、今にも深みに飲み込まれてしまうのではと感じるときに、その嵐と闇の中からも世の救い主のあの優しい言葉を聞くことができるように祈っています。「しっかりとるのだ、わたしである。恐れることはない。」(マタイ 14:27)¹⁹

研究とレッスンのための提案

質問

- イエス・キリストはまことの平安の源であられると、ハンター大管長は教えています(第1項参照)。この真理を知るのに、どのような経験が助けとなりましたか。イエスが与えてくださる平安を受けるには、どうしたらよいでしょうか。
- 他の人を愛することによって、どのように平安がもたらされるでしょうか(第2項参照)。福音に従って生活することは、平安を得るのにどのような助けとなるでしょうか。平安を得るために救い主に「無条件に身を委ねる」ことが必要なのは、なぜでしょうか。
- 第3項にあるハンター大管長の教えを復習してください。救い主は重荷を背負っている人々がみもとへ来るなら、「あなたがたを休ませてあげよう」と約束されています。その約束が成就することについて、どのような経験をしたことがありますか。
- ベテロが海の上を歩いたことについて述べたハンター大管長の話について考えてください(第4項参照)。苦難に遭うときに平安を見出す方法について、この話からどのようなことを学べるでしょうか。困難なときにも「しっかりとる」ように、そして「恐れること[が]ない」ように、救い主はあなたをこれまでどのように助けてくださったでしょうか。

関連聖句

詩篇 46:10; 85:8; イザヤ 32:17; マルコ 4:36 - 40; ローマ 8:6; ガラテヤ 5:22 - 23; ペリピ 4:9; モーサヤ 4:3; 教義と聖約 19:23; 59:23; 88:125

教える際のヒント

クラスの生徒たちに、本章の中で話し合いたいと思う項を一つ選び、同じ項を選んだ人とグループを作ってもらいます。各グループに、本章の最後に書かれた関連のある質問について話し合ってもらいます。

注

1. エレノア・ノウルズ, *Howard W. Hunter* (1994年) 185で引用
2. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 266で引用
3. ボイド・K・バッカー, "President Howard W. Hunter—He Endured to the End," *Ensign*, 1995年4月号, 29
4. "The Gifts of Christmas," *Ensign*, 2002年12月号, 16
5. Conference Report, 1966年10月, 15-16
6. 「平和な港の光」『聖徒の道』1993年1月号, 21参照
7. *The Teachings of Howard W. Hunter*, クライド・J・ウィリアムズ編 (1997年), 40
8. 「最も優れた道」『聖徒の道』1992年7月号, 64, 66参照
9. 「黄金の選択の糸」『聖徒の道』1990年1月号, 18参照
10. Conference Report, 1966年10月, 16
11. Conference Report, 1969年10月, 113
12. *The Teachings of Howard W. Hunter*, 172-173
13. *The Teachings of Howard W. Hunter*, 73-74
14. "The Gifts of Christmas," 19
15. Conference Report, 1976年4月, 157
16. 「主よ、暴風すさび」『聖徒の道』1985年1月号, 36参照
17. Conference Report, 1966年10月, 16-17
18. Conference Report, 1970年10月, 131-132
19. 「平和な港の光」22参照



救い主は、ベテスダの池で一人の病人に「なおりたいのか」と問いかけられたように、
試練の中にあるわたしたち一人一人にも同じ言葉を掛けられる（ヨハネ 5：6）。



逆境——わたしたちの永遠の 進歩のための神の計画の一部

「〔死すべき世の苦難が〕わたしたちを謙虚にさせ、
精錬し、教え、祝福をもたらすとき、それは
神の御手に使われる力強い手段となって、
わたしたちをより善い人にします。」

ハワード・W・ハンターの生涯から

1980年4月の総大会で、当時十二使徒定員会会員であったハワード・W・ハンター長老は、サモアで大群衆に混じってロングボートレースを見たときのことを次のように語っている。「観衆は落ち着かない面持ちで、最初に姿を現すボートを見ようと、目を凝らして沖を見やっていました。すると突然、観衆から大歓声が上がリ、はるかかなたにボートが見えてきました。それぞれのボートには、50人から成る屈強なこぎ手が乗っていて、呼吸を合わせてこいでいます。水しぶきを上げて波間を一条乱れず巧みにこぎ進むさまは、まさに絵のようでした。

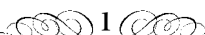
ゴールに近づくにつれて、ボートに乗っている人々の姿がはっきりと見えてきました。力自慢の若者たちが一生懸命にこいでいますが、50人を乗せたボートはその重さのために、水の抵抗という大きな反対の力に逆らいながら進んでいます。

最初のボートがゴールしたとき、群衆の歓声はまさに最高潮に達しました。」

レースの後、ハンター長老はボートが係留されている場所へ歩いて行き、こぎ手の一人と言葉を交わした。その人はボートについてこう説明した。ボートの船首は「抵抗をできるだけ少なくしてスピードが上げられるように、水を突っ切って、つまり水を分けて進むように造られています。逆に、オールでこぐ人は水の抵抗を利用してこぐことによって、ボートを前進させます。このように、抵抗は、妨げる力にも、前進させる力にもなるのです。」¹

ハンター長老はサモアのボートレースでの経験を紹介してから、逆境の目的についての話を始めた。使徒としての務めを果たしながら、何度も逆境について語り、助言と希望と励ましを与えた。また、個人的な経験から、命に関わる病気やその他の試練に耐えることについて語った。ハンター長老は、苦難のときに「イエス・キリストにはわたしたちの重荷を軽くする力がある」と、確固とした信念をもって証^{あかし}を述べている。²

ハワード・W・ハンターの教え



逆境はわたしたちの永遠の進歩のための神の計画の一部である

だれの人生を見ても、良い時もあれば悪い時もあります。確かにわたしたちは世の中で数多くの喜びと悲しみを目にします。計画を変えて、新しい方向に進む場合もたくさんあります。また初めは必ずしも祝福のように見えないもの、あるいは感じられないものが、わたしたちを謙虚にし、忍耐や信仰を強めてくれる祝福となることも多くあります。わたしたちは皆、時折そのような経験をします。これから先もそうだと思います。……

……スペンサー・W・キンボール大管長は、苦しみ、落胆、また自分の力ではどうにもならない状況について深い洞察を持つ人でしたが、あるときこう述べています。

「わたしたち人間は、自分の人生から肉体の苦痛や精神的な苦悩を追い出し、安楽と慰めを保ち続けようとしています。しかし、もし悲しみと苦痛に対して扉を閉ざしたとすれば、最良の友と恩人を締め出していることになるかもしれません。苦しみは、人が忍耐と堅忍と克己を学ぶときに、その人を聖徒にするのです。」〔*Faith Precedes the Miracle* (1972年), 98〕

この言葉の中でキンボール大管長は、人生のある種の経験に対して扉を閉ざすことについて言及しています。……わたしたちの人生では、扉が度々閉ざされ、その結果、ひどい苦悩と心痛を味わうことがあります。しかしわたしは、そのような扉が一つ閉まると、人生の他の領域に希望と祝福をもたらす別の扉（しかもおそらく二つ以上）が新たに開かれると信じています。その希望と祝福は、そのような経験をしなければ見いだすことができなかつたかもしれないものなのです。

……〔マリオン・G・ロムニー会長〕は数年前、最も信仰が篤^{あつ}く忠実な人も含めて、人は皆その人生の中で逆境と苦難を経験すると語り、ジョセフ・スミスの次の言葉を引用しました。「シオンの山にやって来て、天に上げられるために、

人は苦しみを受けなければなりません。』『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』230。Conference Report, 1969年10月, 57参照]

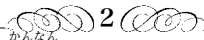
ロムニー会長はさらにこう言っています。

「だからと言ってわたしたちはことさらに苦しみを追い求めているわけではありません。避けられるものは、避けるようにしています。しかし、この世では逆境と苦難という試練の中で試されるということを、わたしたちは今知っていますし、死すべき世に来ることを選んだときにも皆知っていました。……

〔さらに〕神の子供たちを試みるために〔そして、精錬するために〕御父が立てられた計画では、救い主御自身もその試みを免れることはありませんでした。主が耐えると約束し、実際に耐えてくださった苦痛は、全人類が受ける苦痛を合わせたものに等しかったのです。救い主は身を震わせ、血を流し、できればその杯^{さかずき}を避けたいと望みながらもこう言われました。『わたしは杯を飲み、人の子らのためにわたしの備えを終えたのである。』（教義と聖約19：18－19）」（Conference Report, 1969年10月, 57）

わたしたちも皆「人の子らのために……備え」を終えなければなりません〔教義と聖約19：19〕。キリストの備えはわたしたちの備えとまったく違うものですが、確かにわたしたち全員になすべき備えがあり、開くべき扉があるのです。その大切な備えをするためには、多少の苦しみ、人生における予期せぬ方向転換、また「子供が父に従うように」従順を求められることがしばしばあります〔モーサヤ3：19〕。神から命じられた備えを終えて、日の栄えの扉を開けるのには、時間が掛かるかもしれません。実に、確かに、死すべき生涯の最後の数時間まで掛かることでしょ^う。³

わたしたちがこの死すべき世に来たのは、反対のものに遭うためです。反対のものに遭うことは、永遠に進歩するための計画の一部です。誘惑や病氣、苦痛、悲しみがなければ、善も徳も、幸福に対する感謝も喜びもありません。……わたしたちの進歩を妨げるこの反対の力が、それに打ち勝つ機会をも与えるということを忘れてはなりません。⁴



死すべき世の艱難は成長と経験のためにある

〔死すべき世の苦難が〕わたしたちを謙虚にさせ、精錬し、教え、祝福をもたらすとき、それは神の御手^てに使われる力強い手段となつて、わたしたちをより善い人、もっと感謝する人、もっと愛情ある人とし、また苦難の時期を過ごしている他の人々をもっと思いやる人にします。

実に、わたしたちは皆、個人としても集団としても困難な時期を迎えることがあります。しかし、昔も現代も、最も厳しい時でさえ、そのような問題や預言が

与えられる目的は、義人を祝福すること、そして義の度合いが少ない人々を悔い改めに導くように助けることにほかならないのです。神はわたしたちを愛しておられ、聖文にはこう述べられています。「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」〔ヨハネ 3：16〕⁵

モルモン書の偉大な族長リーハイは、困苦と対立のさなかに荒れ野で生まれた息子ヤコブに励ましの言葉を与えました。ヤコブの生涯は、彼が期待していたようなものではなく、理想どおりのものではありませんでした。ヤコブは数々の苦難と挫折を味わいましたが、そのような苦難は聖別されて息子ヤコブの益になると、リーハイは約束しました（2 ニーフアイ 2：2参照）。

それからリーハイは、人々によく知られている次の言葉を付け加えています。

「それは、すべての事物には反対のものがなければならないからである。……もし事物に反対のものがなければ、義は生じ得ないし、邪悪も、聖さも惨めな状態も、善も悪も生じ得ない。」（2 ニーフアイ 2：11）

わたしは、人生の苦痛や落胆について説かれたこの言葉から、長年にわたって大きな慰めを得てきました。また神の御子も含めて、男女を問わず最も偉大な人々が、義と邪悪、聖さと惨めな状態、善と悪の違いをよく理解するためにそれらの反対のものに出遭ったということから、わたしはさらに大きな慰めを得てきました。暗くじめじめしたリバティーの監獄の中で、預言者ジョセフ・スミスは次のことを学びました。すなわち、もし艱難を経験するように定められたとしても、それはわたしたちを成長させ、体験を得させるためのものであり、最終的にはわたしたちの益になるということです（教義と聖約 122：5 - 8参照）。

一つの扉が閉まると、別の扉が開きます。獄中の預言者もそれを体験しました。わたしたちは、何が入り口となり出口となるか、すべてを適切に判断できるだけの知恵と体験を持っているとは限りません。神が御自分の愛する子供たち一人一人のために備えておられる住まいには、特に定められた廊下や手すり、特別なカーペットやカーテンがあり、主はわたしたちに、その住まいを受け継ぐためにそこを通って行くようにと望んでおられるのです。……

わたしたちは、人生のさまざまな時期に、しかもおそらく何度も繰り返して、神はわたしたちが知らないことを御存じであり、わたしたちが理解していないことを理解しておられるということを認める必要があります。「わが思いは、あなたがたの思いとは異なり、わが道は、あなたがたの道とは異なっていると主は言われる。」（イザヤ 55：8）

皆さんの中に、道からそれた子供を抱えて悩んでいる人がいるなら、経済的な問題や情緒的な苦しみで自分の家庭や幸福が危機的な状態にある人がいるなら、また死に直面したり健康を害したりしている人がいるなら、皆さんの心に



ジョセフ・スミスがリバティーの監獄にいたとき、主は彼に啓示を与え、
逆境は人に経験を与え、益をもたらすと告げられた。

平安がありますように。わたしたちは、自分の力で耐えられないような誘惑を受けることはありません〔1コリント10：13；アルマ13：28；34：39参照〕。わたしたちには回り道や失望と思える道が、主の目にはまっすぐで狭い道なのです。⁶

3

わたしたちには苦難の時期でさえ楽観的であり自信を 持ち続けるに足る十分な根拠がある

死すべき生涯にはいつも多少の苦難がありました。また、今後も常にそうです。しかし、わたしたちが知るべき事柄を知っており、望まれているような生活をしていれば、悲観や絶望の入り込む余地はなく、言い訳することはありません。

わたしはこれまでに2度の世界大戦と、朝鮮戦争、ベトナム戦争、その他を目にしてきました。世界恐慌の時代を過ごし、また法科大学院に通いながら新たな家庭を築きました。株式市場と世界経済が混乱するのを目にし、また数人の独裁者が異常な行動に走るのを見ました。そのような出来事が全世界に多くの苦難をもたらしました。

世界の問題は皆さんの時代だけにあると、あるいは皆さんが経験している以上の悪い事態はないと、あるいは事態は決してよくなるないと、皆さんが考えることのないようわたしは願っています。わたしは皆さんに断言します。事態はこれまでの方が悪かったのであって、必ずよくなっていきます。特に、イエス・キリストの福音に従って生活し、福音を大切に人生に祝福がもたらされるようにするとき、必ずよくなります。……

一部の人が語っていることとは違って、この世界には幸せであり楽観的であり自信を持ち続けるに足る十分な根拠があります。時の初め以来、いつの時代にも、克服すべき事柄があり、また解決すべき問題がありました。⁷

4

人がキリストのもとに来るとき、キリストはその人の重荷を軽くしてください

「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。

わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。

わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」(マタイ 11:28 - 30)……

神の御子御自身によるこの驚くべき援助の手は、当時のガリラヤ人だけに差し伸べられたものではありません。負いやすい主のくびきを負い、主の軽い荷を引くようにとの呼びかけは、過去の世代に限って与えられたものではありません。それは、全ての民、全ての町や国、あらゆる所に住む全ての男女、子供に向けた普遍の招きなのです。

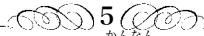
困難な問題に満ちた現代にあって、わたしたちは、この世の煩いや悩みを解決するこの決して誤ることのない答えを無視することがあってはならないのです。ここに一人一人に平安と守りが与えられるとの約束があります。あらゆる時代の罪を赦す^{ゆる}力があります。わたしたちもまた、イエス・キリストにはわたしたちの重荷を軽くする力があることを信じなければなりません。キリストのもとへ行き、そこで労苦を解かれ休みを得なければなりません。

確かに、そうした約束には義務が伴います。「わたしのくびきを負[いなさい]」と主は告げておられます。聖書の時代に、くびきは畑を耕す者にとって非常に助けとなる道具でした。くびきを使えば、畑を耕したり荷車を引いたりするときに荷重を分散させながら、2頭の動物が力を合わせて働くことができました。1頭ではとても負いきれない荷重でも、くびきでつながれた2頭が一緒になれば、それぞれ同じ力で難なく引くことができるのです。主のくびきを負うに

は、大きな、熱心な努力を必要とします。しかし、心から改心した人々にとって、そのくびきは負いやしく、荷は軽くなるのです。

キリストはお尋ねになります。「なぜ独りで人生の重荷に立ち向かおうとするのですか。なぜ一時的な解決にしかならないこの世的な力に頼ろうとするのですか。」重荷を負っている人のために、キリストのくびきがあります。それは神の傍らにいて得られる力と平安であって、それにより、さまざまなチャレンジに立ち向かい、この死すべき世の硬い土壌を掘り起こす仕事に耐える支えとバランスと力が与えられるのです。

確かに、人生の重荷は人によってさまざまですが、全ての人が重荷を負っています。……もちろん、悲しみの中には、天の御父の勧告に従わずに世の罪に染まったためにもたらされるものもあります。理由はどうあれ、人生のチャレンジから完全に逃れられる人はだれもいないように思われます。キリストは一人一人に、そして全ての人にこう呼びかけておられます。「いずれにせよ皆が何らかの重荷を負い、くびきを負わなければならないのであれば、わたしのくびきを負ってみたらどうでしょうか。わたしのくびきは負いやしく、わたしの重荷は軽いと約束しましょう。」(マタイ 11:28 - 30参照)⁸



末日聖徒は終わりの時の艱難かんなんを恐れる必要はない

聖文が告げているように、将来、全世界が何らかの苦難に出遭う時があります。わたしたちの神権時代には、遺憾ながら不義が広く見られ、それに伴う苦難と苦痛と罰が及ぶことは避けられません。神は御自分がふさわしいと思われるときにその不義を短くされます。しかし、わたしたちの務めは、完全に忠実に生活することであり、世に災いが下されることや世界が終わることを心配しすぎることはありません。わたしたちの務めは、福音を生活に生かすこと、また輝く光となり、丘の上の町となることです。そして、イエス・キリストの福音の麗しさと、戒めを守る全ての時代の全ての人に必ず与えられる喜びと幸せを広めるのです。

この最後の神権時代には、大きな艱難があります(マタイ 24:21参照)。戦争と戦争のうわさがあり(教義と聖約 45:26参照)、また全地が混乱するということ(教義と聖約 45:26参照)、わたしたちは知っています。全ての神権時代にそれぞれ苦難の時期がありましたが、わたしたちの時代にはひどい苦難があるでしょう(2テモテ 3:1参照)。悪人が栄えるでしょう(2テモテ 3:13参照)。とは言え、悪人は非常に頻繁に栄えてきました。数々の災害が起こり、不法がはびこります(教義と聖約 45:27参照)。



「あらゆる時代に、キリストの弟子たちは、完全な希望の輝きを心に満たすように勧められており、実にそう命じられています。」

このような数々の預言があることからおのずと恐れのお気持ちが生じることは避けられません。その恐れは若い世代に限りません。わたしたちが理解していることを理解していないあらゆる年代の人が抱く恐れです。

しかし、忠実な末日聖徒はこのような気持ちを抱く必要がないことを、わたしは強調したいと思います。そのような気持ちは神から来るものではありません。大いなるエホバは古代のイスラエルにこう告げておられます。

「あなたがたは強く、かつ勇ましくなければならない。彼らを恐れ、おののいてはならない。あなたの神、主があなたと共に行かれるからである。主は決してあなたを見放さず、またあなたを見捨てられないであろう。……

主はみずからあなたに先立って行き、またあなたと共におり、あなたを見放さず、見捨てられないであろう。恐れてはならない、おののいてはならない。」(申命 31:6, 8)

また、現代のイスラエルのすばらしい世代である皆さんに、主はこう告げておられます。

「それゆえ、小さい群れよ、恐れてはならない。善を行いなさい。この世と地獄をあなたがたに対して連合させなさい。あなたがたがわたしの岩の上に建てられるならば、それらは打ち勝つことができないからである。……

あらゆる思いの中でわたしを仰ぎ見なさい。疑ってはならない。恐れてはならない。」(教義と聖約 6:34, 36)

このような勧告が現代の聖文の方々がちりばめられています。次のすばらしい励ましの言葉に耳を傾けてください。「幼い子供たちよ、恐れてはならない。あなたがたはわたしのものであり、わたしはすでに世に勝っており、そしてあなたがたは父がわたしに与えてくださった者に属しているからである。」(教義と聖約 50:41)「まことに、わたしは友であるあなたがたに言う。恐れてはならない。心に慰めを得なさい。まことに、いつも喜び、すべてのことについて感謝しなさい。」(教義と聖約 98:1)

このすばらしい勧告を踏まえて、わたしたちにはもっと多くのことを喜び、落胆することを少なくし、わたしたちに与えられているものや豊かな神の祝福について感謝し、与えられていないものや、この世代や他の世代に多難な時代が訪れるかもしれないという心配をあまり口にしないようにする義務があると、わたしは考えています。

希望にあふれ、胸の高鳴る時代

末日聖徒にとって、この時代は希望にあふれ、胸の高鳴る時代です。すなわち、回復における最も大いなる時代の一つであり、したがってあらゆる神権時代の中で最も大いなる時代の一つです。わたしたちの時代は全ての神権時代の中で最も大いなる神権時代だからです。わたしたちは信仰と希望を持つ必要があります。この二つはキリストの弟子にとって重要な、基本的な徳なのです。わたしたちは神を信頼し続けなければなりません。それがわたしたちの信仰の規範における第一の原則だからです。神が一切の権威を持っておられること、わたしたちを愛しておられること、またわたしたち個人の生涯においても広く世界においても神の業はとどめられることや妨げられることはないということを、わたしたちは信じなければなりません。……

わたしは主の僕として主の御名により約束します。神は御自分の民を常に守り、気遣ってくださいます。あらゆる時代にあらゆる人が苦難を経験してきたように、わたしたちも苦難を経験することでしょう。しかし、イエス・キリストの福音があるので、皆さんには絶対的な希望と約束と確信があります。主は聖徒たちを治める権威をお持ちであり、御自分の民のために平安と防御と安全の地を必ず備えてくださいます。神を信じる信仰を持つとき、わたしたちは、個人としても全人類としても、もっと良い世界を望むことができます。かつて預言者エテルは次のように教えました(彼は苦難についてよく知っていました)。

「さて、神を信じる者はだれであろうと、もっと良い世界を、まことに神の右に一つの場所を、確かに望むことができる。この望みは信仰から生じ、人々にとってその心をしっかりとした不動のものにする錨となる。そしてそのような人々はいつも多く善い行いをし、神をあがめるようになる。」(エテル 12:4)

あらゆる時代に、キリストの弟子たちは、完全な希望の輝きを心に満たすように勧められており、実にそう命じられています(2 ニューファイ 31:20参照)。

恐れを払拭するように努める

……キリストとキリストの教え、戒め、約束をわたしたちの信仰と希望の基とすれば、わたしたちは、実に驚くべき、まったく奇跡的なものに頼ることができます。それは、紅海を分け、現代のイスラエルを「聖徒を悩ますものそこにあらず」と言われる地に導く力のあるものです(『賛美歌』17番)。困難な日々に人々が感じることのある恐れ^{いかり}の気持ちは、サタンが人類を不幸にするために用いる武器庫の中の主要な武器の一つです。恐れる人は、人生の戦いで悪と戦う力を失います。そのため、悪しき者の力は常に人の心の中に恐れを生じさせようとします。あらゆる時代に、人類は恐れに直面してきました。

神の子供、またアブラハム、イサク、ヤコブの子孫として、わたしたちは人々の中から恐れを払拭するように努めなければなりません。気弱で、恐れを抱いている人々はよい働きができませんし、決して神の業を行えません。末日聖徒には神から割り当てられた果たすべき使命があり、恐れや不安でそれを無にしてはなりません。

初期の主の使徒の一人がこう言っています。「恐れを克服する鍵が預言者ジョセフ・スミスを通して与えられました。『備えていれば恐れることはない。』(教義と聖約 38:30) この神聖なメッセージを今日、全てのステーキとワードで繰り返し述べる必要があります。」(ジョン・A・ウイツォー長老, Conference Report, 1942年4月, 33)

わたしたちは神の戒めに完全に従う備えができていますでしょうか。自分の欲を制する備えができていますでしょうか。義の律法に従う備えができていますでしょうか。これらの質問に正直に「はい」と答えることができれば、自分の生活から恐れを立ち去らせることができます。確かに、わたしたちの心の中の恐れ^{いかり}の度合いは、義にかなった生活を送る備えによって測ることができるのです。それは、あらゆる時代の全ての末日聖徒を特徴づける生き方です。

末日に生きるという特権と誉れと責任

話を終えるに当たって、わたしが預言者ジョセフ・スミスの言葉から読んだ最もすばらしい言葉の一つを引用します。預言者はその生涯において数々のひどい苦難に直面し、言うまでもなく、勝利を得るためにこの上ない代価を払いまし

た。それでも勝利を収めました。預言者は幸せで、強健で、楽観的な人でした。彼を知っていた人々は、最も悲惨な時期でさえ彼の力強さと勇気を感じたのです。彼は落ち込むことがなく、落胆しても長くその状態のままではありませんでした。

彼はわたしたちの時代、すなわち、皆さんとわたしの時代のことを「〔過去のさまざまな時代の〕預言者たち、祭司たち、王たちが、特別な喜びをもって語ってきた」と述べています。いにしへの神の証人であるこれらの人々は皆、「わたしたちが生きている時代を、喜びに満ちた期待をもって待ち望み、すばらしい喜びに満ちた期待に胸を高鳴らせながら、このわたしたちの時代について歌い、書き記し、預言しました。……わたしたちは、末日の栄光をもたらすために神に選ばれている恵まれた民です。」〔『歴代大管長の教え — ジョセフ・スミス』186〕

何とすばらしい特権でしょうか。何とすばらしい誉れでしょうか。何とすばらしい責任でしょうか。そして、何という喜びでしょうか。わたしたちにはこの世においても永遠にわたっても、わたしたちの恵まれた生活と与えられている約束を喜び、感謝するに足る十分な根拠があるのです。⁹

研究とレッスンのための提案

質問

- 逆境がわたしたちの永遠の進歩のための神の計画の一部であるということを知るのは、わたしたちにとってどのような助けとなるのでしょうか（第1項参照）。逆境が死すべき世に必要なのはなぜだと思いますか。
- 逆境の目的について述べた第2項のハンター大管長の教えを復習してください。これまでに逆境がどのような形でわたしたちの益になるのを目にしましたか。どうすれば主の永遠の観点から逆境を見ることができるようになるのでしょうか。
- ハンター大管長が教えているように、わたしたちには苦難の時期でさえ幸せであり楽観的であるに足る十分な根拠があります。それはなぜでしょうか（第3項参照）。どうすればそのような時期にもっと楽観的になれるのでしょうか。非常に厳しい逆境の中であつてもわたしたちが受け続ける祝福に、どのようなものがあるでしょうか。
- 重荷を負い、軽くしてあげようという救い主の招きの言葉を、わたしたちはどのように受け入れているのでしょうか（第4項参照）。主のくびきを負うとは、

どういう意味でしょうか。苦難のときに救い主はどのようにあなたを助けてくださったでしょうか。

- 終わりの時の^{かんなん}艱難について抱く恐れ^{かんなん}の気持ちは神から来るものではないと、ハンター大管長は教えています（第5項参照）。恐れをもって生活することは、どのような点で有害でしょうか。どうすれば恐れではなく、希望と信仰をもって生活できるでしょうか。

関連聖句

ヨハネ 14：27；16：33；ヘブル 4：14－16；5：8－9；1ニコライ 1：20；アルマ 36：3；教義と聖約 58：2－4；101：4－5；121：7－8；122：7－9

学ぶ際のヒント

「学ぶのに最も良い時間は夜の休息の後の朝であると、多くの人が感じています。……一日の仕事や煩わしいことが一段落した静かな時間に学ぶことを好む人々もいます。……大切なのは、一日のいつかということよりも、学ぶために決まった時間を取るということです。」（ハワード・W・ハンター，“Reading the Scriptures,” *Ensign*, 1979年11月号, 64）

注

1. 「神は人々を試される」『聖徒の道』1980年9月号, 35参照
2. 「わたしのもとにきなさい」『聖徒の道』1991年1月号, 19参照
3. 「扉」『聖徒の道』1988年1月号, 60－61参照
4. 「神は人々を試される」36, 38参照
5. “An Anchor to the Souls of Men,” *Ensign*, 1993年10月号, 71
6. 「扉」62－63参照
7. “An Anchor to the Souls of Men,” 70
8. 「わたしのもとにきなさい」18－19参照
9. “An Anchor to the Souls of Men,” 71－73



高い所からの助け

「必要な折々に神の助けと霊的な導きを与えられる
という約束ほど、わたしたちを元気づけてくれる
約束はおそらくないでしょう。」

ハワード・W・ハンターの生涯から

ハワード・W・ハンターは幼いときに祈ることを学んだ。「母は、祈ることと、与えられている全てのものについて天の御父に感謝することをわたしに教えてくれました」と、彼は語っている。「わたしは美しい地球について、また牧場や川やスカウト活動ですばらしい時間を過ごせたことについて、御父にしばしば感謝しました。また、自分が欲しいものや必要としているものについて御父にお願いすることも学びました。……神がわたしを愛し、わたしの言葉に耳を傾けてくださることを、わたしは知っていました。」¹

生涯を通して、ハンター大管長は神の助けの源として祈りに頼り、他の人々にもそうすることを教えた。例えば、彼がビショップとして奉仕していたとき、ワードのある人が別の人について苦情を述べた。そのときのハンター大管長の勧告は、祈りによって助けが与えられるという大管長の証を表すものであった。

「わたしは彼に言いました。『兄弟、家に帰り、毎朝毎晩彼のために祈っていただけませんか。今日から2週間後のこの時間にまたお会いして、どうするかを二人で決めましょう。』」

この勧告を受けた後、その人は戻って来て、謙虚にその相手のことを「彼には助けが必要です」と言った。

「彼を助けてくださいますか」と、ハンター大管長は尋ねた。

「ええ、もちろんです」と、その人は答えた。

「怒りの気持ちはすっかり消え去り、苦々しい思いはまったくなくなりました」と、ハンター大管長は当時のことを語っている。「わたしたちがお互いのために祈るとき、このようなことが起こるのです。」²



「わたしたちは必要な折々にへりくだって主に助けを求めるならば、『強くされ、高い所から祝福を受け……る』と、主は約束されました。」(教義と聖約 1:28)

ハワード・W・ハンターの教え

1

天の御父は必要な折々に助けと導きを与えると約束しておられる

人は誰でも、天の特別な助けを緊急に必要とすることがあります。状況に圧倒されたり、他の人々から与えられる助言に困惑したりするとき、また霊的な導きを受けることがとても必要であって、正しい道を見つけて正しいことを行う必要が大いにあると感じたりするときが、誰にでもあります。わたしたちは必要な折々にへりくだって主に助けを求めらるならば、「強くされ、高い所から祝福を受け、また折々知識を与えられる」と、主はこの末日の神権時代における聖典のはしがきの中で約束されました(教義と聖約1:28)。わたしたちがそれを求め、信頼し、ベニヤミン王がモルモン書の中で「聖なる御霊の勧め」と呼んだものに従いさえすれば、そのような助けが得られるのです(モーサヤ3:19)。

必要な折々に神の助けと霊的な導きを与えられるという約束ほど、わたしたちを元気づけてくれる約束はおそらくないでしょう。それは豊かに与えられる天よりの賜物、ごく幼いときから生涯の最後の日々までわたしたちに必要な賜物です。……

イエス・キリストの福音によって、わたしたちは高い所から助けを受けることができます。主は言うておられます。「元気を出しなさい。わたしがあなたがたを導いて行くからである。」(教義と聖約78:18)「わたしはあなたにわたしの御霊を授けよう。わたしの御霊はあなたの思いを照らし、あなたの霊に喜びを満たすであろう。」(教義と聖約11:13)

わたしはイエス・キリストが神の御子であられることを証します。神は生きておられ、御霊をわたしたちに与えてくださいます。わたしたちが人生の問題に直面し、またこの世の務めを果たすときに、父なる神が与えてくださるこの賜物を求めて霊的な喜びを見いだせますように。³

2

ジョセフ・スミスと同じように、わたしたちは聖文に心を向けて祈れば、高い所から教えを受けることができる

少年預言者ジョセフ・スミスは、混乱と不安の時期に、主の思いと望みを知りたいと願いました。……ジョセフが少年時代を過ごしたニューヨーク州パルマイラの辺りでは、「宗教に関する異常な騒ぎ」が起きていました。ジョセフにはその地方全体がそれに影響されているように思われました。「大勢の群衆」がさまざまな教派に分かれて、人々の間にひどい「騒ぎと分裂」を引き起こしていたと、彼は記しています〔ジョセフ・スミス—歴史1:5〕。

当時スミス家の家族はそれぞれ別の教派に加わっていたため、14歳になったばかりの少年にとって、真理を見いだすことはなおさら難しく困惑するものでした。

さて、皆さんもよくご承知のこのような状況の下で、年端のいかない少年が考え、感じた、目を見張るような事柄について考えていただきたいと思います。彼はこう記しています。

「このひどい騒ぎの間、わたしは心の中で深く考えさせられ、大きな不安を感じないではいられなかった。しかし、わたしの気持ちに深く、またしばしば痛烈に感じるものがあつたにもかかわらず、なおわたしはこれらすべての教派から遠ざかっていた。……様々な教派間の混乱と争いが非常に激しかったので、わたしのように若く、世間のことを知らない者にとって、だれが正しく、だれが間違っているか、確かな結論を出すことは不可能であった。

わたしの心は時々ひどくかき乱され、叫び声と騒ぎの渦は熾烈しれつなもので絶えることがなかった。……

この言葉の争いと見解の騒動の渦のただ中であつて、わたしはしばしば心に問うた。『何をしなければならぬのだろうか。これらすべての教派のうちのどれが正しいのだろうか。それとも、ことごとく間違っているのだろうか。もし彼らのうちのどれかが正しいとすれば、それはどれで、どうすればそれが分かるのだろうか。』

これら宗教家たちの論争によって引き起こされた、極度に難しい事情の下で苦しんでいたある日のこと、わたしは、ヤコブの手紙第一章五節を読んでいた。『あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。』

この聖句が、このとき、かつて人の心に力を与えたいかなる聖句にも勝って、わたしの心に力強く迫って来たのであつた。それはわたしの心の隅々に大きな力で入り込んで来るように思われた。もしだれか神からの知恵を必要とする者がいるとすれば、それは自分であることを悟って、わたしはこの言葉を再三再四思い巡らした。なぜならば、わたしはどうしてよいか分からず、また自分がそのときに持っていた知恵よりも深い知恵を得られなければ、どのように行うべきかまったく分からなかったからである。』〔ジョセフ・スミス—歴史 1:8-12〕

言うまでもなく、これに続いて人類の歴史を変える出来事が起きました。少年ジョセフは「神に願い求める」決心をして、自分の家の近くの森の中に入りました。そこで、彼の熱烈な祈りにこたえて永遠の父なる神と御子イエス・キリストがジョセフのもとを訪れ、彼に指示を与えられました。わたしはへりくだって証あかしします。この偉大な顕現によって、少年ジョセフが加わるべき教会や加わっ



わたしたちはジョセフ・スミスの模範に倣って神からの知恵を求めることができる。

てはならない教会について告げられただけではなく、わたしたちの神権時代の数多くの疑問にも答えが与えられたのです。

これは聖文の中でも最も神聖な話の一つですが、……わたしの話の目的は、回復に関する最初の出来事のあらましを述べることではありません。わたしが申し上げたいことは、この非常に若い無学な少年が示した霊的な感受性のすばらしさです。

どれだけの人が14歳で、いやたとえ何歳であっても、外部のさまざまな力に揺さぶられながらもなお理性を保ち、精神を研ぎ澄まして、永遠の救いというとりわけ重要な事柄と取り組むことができるでしょうか。両親が教派を異にしているとき、どれだけの人が心の葛藤かっとうに耐えられるでしょうか。14歳であろうと50歳であろうと、どれだけの人が使徒パウロが「神の深み」と呼んだものについて答えを得ようと、聖文を調べ、内省するでしょうか（1コリント2：10）。

何と驚くべきことでしょう。この少年は聖文を大いに調べ、次に、自分で祈ったのです。おそらくこの二つは、霊的な洞察力と霊的な促しを得るために誰もが行える最も大いなる方法でしょう。……さまざまな意見の中でジョセフは悩んだことでしょう。しかし、彼は正しいことを行い、正しい道を見つけようと決心しました。彼は高い所から教えと祝福が得られると信じ、事実それを得たのでした。わたしたちも同じように信じなければなりません。

でもジョセフ・スミスは非常に特別な人であり、彼の場合は特別だ、と言う人がいるかもしれません。現在彼よりも年上で、少なくとも14歳より上であり、福音の神権時代を開くという役割を担っていないわたしたちはどうでしょうか。

わたしたちも人生に影響を及ぼすさまざまな問題の中で、いろいろなことを決断し、混乱を解決し、論争を切り抜けなければなりません。世の中には決断を下すのが難しい事柄がたくさんあります。時にはそれに直面して、自分の年齢や弱さを感じることもあるかもしれません。

ときどき霊的な感覚が鈍ったように感じることもあるかもしれません。試練の日に、神から忘れられ、混乱と不安の中に独り置き去りにされたとさえ感じるかもしれません。しかし、そのような気持ちは、若い人々や経験の少ない人々と同様、年老いた人々にとっても正当化されるものではありません。神は全ての人々を知っていて、愛しておられます。わたしたちは皆、神の息子、娘であり、どのような人生の試練に遭遇しても、次の約束は依然として真実なのです。「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせずに惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。」(ヤコブの手紙 1:5)⁴

3

祈りは霊的な知識と導きを受ける一つの方法である

この世の学識や知恵、また物質的なものはすべて、肉体的な感覚を通してこの世的な方法でわたしたちのもとにやって来ます。触れ、見、聞き、味わい、においをかぐことによって学ぶのです。しかしながら、霊的な知識は、パウロが言うように、霊的な源から霊的な方法で与えられます。パウロはこう続けています。

「生れながらの人は、神の御霊の賜物を受けいれない。それは彼には愚かなものだからである。また、御霊によって判断されるべきであるから、彼はそれを理解することができない。」(1コリント 2:14)

わたしたちは、霊的な知識を得る唯一の方法はイエス・キリストの御名により聖なる御霊を通して天の御父に近づくことであるということを知っています。この方法を実践し、しかも霊的に備えができていれば、以前に見えなかったものや、聞こえなかったもの、すなわちパウロの言葉を借りれば、「神〔が〕備えられた」ものを見たり聞いたりすることができるのです(1コリント 2:9)。これらのものを御霊によって受けます。

わたしたちは、天の御父との交わりと主からの指示を今日も得られると信じており、世の人々にそれを証するものです。救い主の時代や旧約聖書の時代と同じように、今も神はわたしたちに語りかけられるのです。わたしたちはそのことを証します。⁵

4

わたしたちは絶望的なときだけでなく、常に祈ることができる

現代は祈りの気持ちで献身することや神聖なものを尊ぶ心を不合理、あるいは好ましくないとする傾向があるように思われます。しかし、懐疑的な「現代」人にも祈りは必要です。危機に遭遇したとき、重責を担うとき、深い悩みや悲嘆に暮れるとき、それまでの充足感や決まりきった日課を根底から揺るがすそれらの出来事によって、わたしたちの生まれ持った感情が表面に出てきます。そして、わたしたちが押しとどめようとしなければ、それらの出来事はわたしたちを謙虚にし、心を和らげ、真心からの祈りに向かわせます。

危機に直面したときにだけ急に思い出したようにささげる祈りは、まったく自己本位であり、わたしたちは、神を非常時にだけ助けてくれる修理工やサービス機関のように考えるようになってしまいます。わたしたちは至高者を最後の頼みの綱としてではなく、夜昼を問わず絶えず覚えているようにしなければなりません。人間の心にとってこの上なく価値があり、類いまれな成功をもたらす要素として書き記されているものがこの人生にあるとすれば、それは祈りの気持ちで敬虔に真心から天の御父と交流することです。

詩篇の作者はこう歌っています。「主よ、わたしの言葉に耳を傾け、わたしの嘆きに、み心をとめてください。

わが王、わが神よ、わたしの叫びの声をお聞きください。わたしはあなたに祈っています。

主よ、朝ごとにあなたはわたしの声を聞かれます。わたしは朝ごとにあなたに祈りをささげて仰ぎ見ます。」(詩篇 5 : 1 - 3, 欽定訳から和訳)

この世界にことのほか必要なものは、詩篇の作者が言うように「仰ぎ見[る]」こと、つまり喜ぶときも悩むときも、富めるときも乏しいときも仰ぎ見ることです。わたしたちは常に神を仰ぎ見て、あらゆる善いものを与えてくださる御方であり救いの源である神を認めなければなりません。……

わたしたちの社会の方々で、祈りと敬虔と礼拝の精神が失われています。多くの分野において、賢明な、魅力的な、あるいは才気のある男女がいますが、完全な人生を送るために欠かせない一つの要素を彼らは欠いています。彼らは仰ぎ見することをせず、義をもって誓言をささげることを見ません〔教義と聖約 59 : 11参照〕。彼らの会話は光彩を放ちますが、敬虔ではありません。話は軽妙ですが、思慮に富んだものではありません。職場であろうがロッカー室であろうが実験室であろうが、威厳からはほど遠く、自分の限りある力をまざまざと見せつけて、結局は天からの無限の力を冒瀆せざるを得ない状態です。



「祈りは父なる神に語りかける魂の言葉です。」

残念なことに、教会の中でさえこうした敬虔さの欠如を見ることがあります。わたしたちはあまりに大きな声で話をし、祈りと心を清める礼拝の時間であるべき集會に礼を失した態度で出入りをすることがあります。敬虔は天の雰囲気を示すものであり、祈りは父なる神に語りかける魂の言葉です。わたしたちは御父を仰ぎ見て、いつも御父を忘れず、御父の世界と御業にしっかりと心向けることにより、もっと御父に似た者になることができます。⁶

5

わたしたちはめいそ瞑想し、深く考え、祈る時間を取るとき、
靈的な知識を得る能力が伸びる

靈性を伸ばし、神の至高の力に自分の波長を合わせることは容易ではありません。それには時間がかかり、しばしば苦闘することがあります。それは決して偶然にできるものではありません。意識的な努力と神への祈りと神の戒めを守ることによるのみ成し遂げられるのです。……

預言者ジョセフ・スミスは、……靈性を高めることの必要性とともに、その過程には時間と忍耐が求められることを認識する必要があることを、おそらく誰

よりも明確に述べています。ジョセフこう語っています。「わたしたちは次のように考えています。すなわち、神は人を、教えを受けることのできる心を持ち、天からの光に向ける注意と熱意の度合いに応じて増大する知力を持つ者として創造されたのです。人は完成に近づくほどに視野が開け、喜びが大きくなっていきます。そしてついには人生のさまざまな悪に打ち勝ち、罪に対する望みを一切持たなくなります。そしてその信仰は、古代の聖徒たちのように、造り主の力と栄光に包まれて、主とともに住むために引き上げられるほどの状態に到達します。しかしこれは、だれ一人として瞬時に到達したことの無い状態であるとわたしたちは考えています。」〔『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』210-211〕⁷

わたしたちは霊的な事柄に対して心を備えるために、時間をかけなければなりません。権能を与えられたから霊的な能力が伸びるというわけではありません。望みと努力と個人的な備えがなければなりません。もちろん、これには、断食と祈り、聖文を調べること、経験、冥想、それに義にかなった生活することに飢え渴くことが必要です。

全能の神からの次の勧告を再確認することが有益であろうと思います。

「あなたは求めれば、啓示の上に啓示を、知識の上に知識を受けて、数々の奥義と平和をもたらす事柄、すなわち喜びをもたらす永遠の命をもたらすものを知ることができるようになるであろう。」(教義と聖約 42 : 61)

「与えられると信じて、信仰をもって、わたしの名によって父に求めなさい。そうすれば、あなたがたは人の子らに必要なすべてのことを示す聖霊を受けるであろう。」(教義と聖約 18 : 18)

「永遠の厳粛さを心にとどめなさい。」(教義と聖約 43 : 34)

「絶えず命の言葉をあなたがたの心の中に大切に蓄えるようにしなさい。そうすれば、それぞれの者に必要な部分が、必要なそのときに授けられるであろう。」(教義と聖約 84 : 85)

「熱心に探し、常に祈り、そして信じていなさい。あなたがたがまっすぐに歩み、互いに交わした聖約を思い起こすならば、万事があなたがたの益となるようにともに働くであろう。」(教義と聖約 90 : 24)

「神はその聖なる御霊^{みたま}によって、すなわち聖霊の言い尽くせない賜物^{たまもの}によって、……知識を、あなたがたに与えてくださるであろう。」(教義と聖約 121 : 26)

これらの約束は、わたしたちが自分自身を備えるならば主が必ず果たしてくださる約束です。

時間を取って、霊的な事柄について冥想し、深く考え、祈るようにしてください。⁸

6

神はわたしが一度に一歩ずつ霊的に進歩するよう助けてくださる

わたしたちが霊性を身につけようと努めるときに突き当たる困難の一つは、なすべきことは多くあるのに、とうてい力が及ばないと感じることです。わたしたちは皆、容易に完全な状態にはなれません。しかし、自分の長所を十分に生かし、今立っている所から始めて、神に関する事柄を追い求めることによって得られる幸福を求めることはできます。主の次の勧告を心に留めていなければなりません。

「それゆえ、善を行うことに疲れ果ててはならない。あなたがたは一つの大きな業の基を据えつつあるからである。そして、小さなことから大きなことが生じるのである。

見よ、主は心と進んで行く精神とを求める。そして、進んで行く従順な者は、この終わりの時にシオンの地の良いものを食べるであろう。」(教義と聖約 64: 33 - 34)

「進んで行く従順な者は、この終わりの時にシオンの地の良いものを食べるであろう」という主の言葉は、わたしにとっていつも励みとなりました。わたしたちは皆、進んで行く従順な人になることができます。もしも主が、完全な者はこの終わりの時にシオンの地の良いものを食べると言われていたとしたら、わたしたちの中にはがっかりして諦めてしまう人がいるかもしれません。……

始める場所はここであり、始める時は今です。わたしたちに必要なのは、一歩ずつ進むことです。わたしたちに幸福を得させる計画を立ててくださった神は、幼子のようなわたしたちを導いてくださり、その過程を経て、わたしたちは完全に近づくのです。

わたしたちの中には、誰一人として、完成の域に到達した人や、この死すべき世で達成できる霊的成長の頂点を極めた人はいません。全ての人が霊的な成長を遂げることができ、また成長を遂げなければなりません。イエス・キリストの福音は、永遠に霊的な成長を続けるための神の計画です。それは倫理規定以上のものです。また、理想的な社会秩序以上のものです。自己改善と決断を促す前向きな考え方以上のものです。福音は、神権と霊的な養いと聖なる御霊を伴う、主イエス・キリストの救いを得させる力です。主イエス・キリストを信じる信仰と福音に対する従順さをもって、強さを求め、自分の態度を改め、望みを増しながら一歩ずつ前進するならば、やがてわたしたちは良い羊飼いの群れの中に自分を見いだすことでしょう。それには自制と訓練、努力と強さが必要です。しかし、使徒パウロが言うように、わたしたちは「わたしを強くして下さるかたによって、何事でもすることができる」のです(ピリピ 4:13)。

現代の啓示はこう約束しています。「善を行うように導く、すなわち、公正に行動し、へりくだって歩み、義にかなって裁くように導く御霊を信頼しなさい。これはわたしの御霊である。

まことに、まことに、あなたに言う。わたしはあなたにわたしの御霊を授けよう。わたしの御霊はあなたの思いを照らし、あなたの霊に喜びを満たすであろう。

そのとき、あなたは知るであろう。すなわち、これによってあなたは、わたしから与えられると信じながら信仰をもってわたしに願うことで、義にかかわることは何であろうとすべて知るであろう。」(教義と聖約 11:12 - 14)⁹

研究とレッスンのための提案

質問

- 第1項を読んだ後、天からの助けが必要であったときのことについてよく考えてみてください。必要な折々に神の助けが与えられるという約束は、あなたの人生にどのような祝福をもたらしましたか。
- 第2項で、ジョセフ・スミスの模範から、混乱に直面するときにわたしたちの助けになるどのようなことを学べるでしょうか。どうすればジョセフのように霊的な感性を伸ばすことができるでしょうか。
- 霊的な知識を得る方法について述べたハンター大管長の教えをよく考えてみてください(第3項参照)。霊的な知識を得たいという望みとその能力を、どうすれば増すことができるでしょうか。霊的な知識はどのような点であなたの助けになってきましたか。
- 「神を非常時にだけ助けてくれる修理工やサービス機関のように考える」ことにはどのような危険性がありますか(第4項参照)。祈りはあなたにどのような祝福をもたらしてきましたか。
- 第5項で、ハンター大管長は、霊性を伸ばす方法をわたしたちに教えています。霊的な力を増すために努力が必要なのは、なぜでしょうか。この項でハンター大管長が引用している聖句から、何を学べるでしょうか。
- 霊的な成長に関する第6項のハンター大管長の教えを復習してください。霊的な成長は一步步進む過程であることを、あなたはどのような形で経験してきましたか。この項のハンター大管長の教えは、あなたが霊的な成長を遂げるのは難しいと感じたときに、どのように助けとなるでしょうか。

関連聖句

詩篇 25:5; 箴言 3:6; 2 ニーファイ 32:8 - 9; アルマ 5:46; 34:17 - 27; 37:36 - 37; 教義と聖約 8:2 - 3; 88:63; 112:10; ジョセフ・スミス - 歴史 1:13 - 17

教える際のヒント

クラスの生徒に、この章の中から、自分にとって重要な文章か段落を探すように勧めます。その文章か段落を紹介してもらい、どうしてそれが重要であるのか、その理由を説明してもらいます。

注

1. ケリー・リックス, "Friend to Friend: From an Interview with Howard W. Hunter, President of the Quorum of the Twelve Apostles," *Friend*, 1990年4月号, 6で引用
2. *The Teachings of Howard W. Hunter*, クラウド・J・ウィリアムズ編 (1997年) 39 - 40
3. 「天の祝福」『聖徒の道』1989年2月号, 61, 63 参照
4. 「天の祝福」61 - 62 参照
5. 「総大会によせて」『聖徒の道』1982年4月号, 20 - 21 参照
6. 「御名があがめられますように」『聖徒の道』1978年2月号, 81 - 83 参照
7. 「靈性を培う」『聖徒の道』1979年10月号, 34 - 35 参照
8. *The Teachings of Howard W. Hunter*, 36 - 37
9. 「靈性を培う」35 - 36 参照



ジョセフ・スミス、回復の預言者

「預言者^{しもべ}ジョセフ・スミスがこの末日における主の^{あかし}油注がれた僕であることを、わたしは厳粛に証します。」

ハワード・W・ハンターの生涯から

ノワード・W・ハンター大管長の父方の高祖母であるナンシー・ノウエルは、1830年代半ばにミシガン州ラピアに転居した。1842年、末日聖徒イエス・キリスト教会の一人の宣教師がイリノイ州ノーブーからラピアにやって来た。ナンシーは宣教師のメッセージを聞き、それについて祈り、彼が真理を教えているという証^{あかし}を得た。彼女は教会についてもっと学ぶためにノーブーへ行った。日記にそのときの経験を次のように記録している。

「モルモンの説教者〔ジョセフ・スミス〕のところへ行き、欺かれないようによく注意して話を聞いた。テーマはキリストの再臨だった。わたしは、ジョセフ・スミスが真実を語っており、まことの預言者であって、偉大な業を行うために神から召され、聖任された人であるという証を得た。彼はイエス・キリストが教えられたままの真理を教えていた。そこでわたしはバプテスマを施してくれるよう申し出た。」¹

高祖母ナンシー・ノウエルと同じように、ハワード・W・ハンターも、ジョセフ・スミスの預言者としての使命について確固とした証を持っていた。教会の大管長になってから3週間後、彼はジョセフ・スミスとハイラム・スミスの殉教150年追悼式典のためにノーブーへ向かった。ノーブー神殿の用地で開かれた集会で、ハンター大管長は次のように述べている。

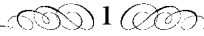
「わたしは預言者ジョセフの着手^{みわざ}した御業に対する責任を感じ、自分に与えられた生涯の中で力の限りを尽くそうという決心に満たされています。確かにジョセフは与えられた生涯を信仰深く忠実に^{しもべ}生きたのです。……預言者ジョセフ・スミスがこの末日における主の油注がれた僕であることを、わたしは厳粛に証します。イエス・キリストの神性と実在に関する彼の証に、わたしの証を付け加えます。」²

その後、同じ日にカーセージの監獄の傍らで開かれた集会で、ハンター大管長は次のように証している。「この場所で自らの命をさげしたジョセフ・スミスは、主に使われる者として、主の完全な福音と神権の権能を回復しました。」³



「ジョセフ・スミスは偉大な人物であっただけでなく、
主の靈感を受けた僕、神の預言者でもありました。」

ハワード・W・ハンターの教え



回復の業を始めるために、父なる神とイエス・キリストが ジョセフ・スミスに御姿を現された

これまで何度も福音が預言者たちを通して世に与えられ、そのたびに不従順のために失われてきました。1820年、沈黙が破られ、主が再び一人の預言者に御姿を現されました。この預言者ジョセフ・スミスは、神が生きておられ、イエスがキリスト、神の御子、復活された御方で、御父とは別個の異なる御方であるという確かな知識について証することができました。彼は自分が信じていたことや、自分や他の人々が考えていたことや推測していたことについてではなく、自分が知っていたことについて証を述べました。父なる神と御子が直接彼に御姿を現し、語りかけられたことで、この知識が彼に与えられたのです。⁴

神は人格を持った御方として〔ジョセフ・スミスに〕御姿を現されました。さらに、御父と御子は、それぞれ別個の異なる御方であるという否定できない真理を示されました。事実、御父と御子の関係は少年預言者に最初に告げられた御言葉の中で改めて明言されています。「これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい。」「〔ジョセフ・スミス-歴史1:17〕⁵

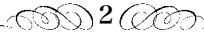
神が御姿を自分に現されたと断言する若いジョセフ・スミスの証を聞いた人々は、彼を嘲り、彼に背を向けました。それは使徒の時代に、アテネの知識人や有力者たちが彼らの中で教えを説く風変わりな男に背を向けたのとよく似ています。しかし実際のところ、当時、その偉大な学問の都市にはその人、すなわちパウロ以外に、人は死んでも再び生きるということを知っている人はいなかったのです。アテネにおいて、形式ばった偶像礼拝と唯一まことの生ける神への心からの礼拝の違いを明確に説明できるのは、パウロしかいませんでした〔使徒17:19-20, 22-23参照〕。⁶

救い主が地上に来て自ら神の御子であると宣言されたときに、救い主を拒んだ人々は、「この人は大工の子ではないか」と言いました(マタイ13:55)。ジョセフが示現を見て、御父と御子にまみえたと宣言したとき、隣人や聖職者、町の住民たちは「この人は農夫の子ではないか」という疑念を抱き、口にしました。キリストは迫害され、処刑されましたが、その御方がキリストであられたことは時が証明してきました。大工の子であった御方と同じことが、この農夫の子についても言えるのです。⁷

ジョセフ・スミスは偉大な人物であっただけでなく、主の靈感を受けた僕、神の預言者でもありました。ジョセフの偉大さは次の一点にあります。すなわち、自分は御父と御子にまみえ、その神聖な啓示を受けたという現実に応じて行動した、という彼の宣言が真実であることです。……

わたしは証します。……わたしたちの時代に大いに転がり進んでいるこの末日の業を始めるために、御父と御子が預言者ジョセフ・スミスに御姿を現されました。

わたしは証します。この少年預言者は、……多くの点でこの教会の出来事に伴う奇跡の中心に今も立ち続けています。彼こそ、神の御手みての中で、世の救い主の指示の下に、弱く純朴な者たちが出て来て力ある強い者たちを打ち破るといふ生きた証です。⁸



イエス・キリストは預言者ジョセフ・スミスを通して 御自分の教会を再び設立された

1830年4月6日、男女の一群が神に命じられたとおりにピーター・ホイットマー〔・シニア〕氏の家に集まり、末日聖徒イエス・キリスト教会を組織しました。……特に学識を備えた人や優れた指導力を持っている人は誰もいませんでした。彼らは尊敬に値する立派な住民でしたが、近隣の人々以外にはほとんど知られていない人ばかりでした。……

このつつましい、ごく普通の人々が集まったのは、その中の一人、ジョセフ・スミス・ジュニアという若者から非常に驚くべき事柄を聞いたからです。ジョセフはそこに集まった人々や耳を傾けるすべての人々に、父なる神とその愛子イエス・キリストに示現でまみえたことをはじめ、深遠な天との交わりを度々受けたことを宣言していたのです。このように何度も啓示を受ける経験をした結果、ジョセフ・スミスは、古代アメリカの住民に対するキリストの計らいを記録したモルモン書をすでに出版していました。さらに、主は当時弱冠24歳のこの若者に、新約聖書の時代と同じ教会を再び設けるように命じておられました。また、純粋なままに回復されたその教会には、その隅のかしら石であり永遠の頭である主イエス・キリスト御自身の名を付けるようにと命じておられました。

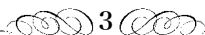
こうして、つつましく、しかし重大な意味を持つ出来事を通して、このすばらしい教会の歴史の幕が切って落とされたのです。それは当時の人々だけでなく、最終的には……全人類家族に影響を及ぼすことになる出来事でした。確かにその始まりはつつましいものでした。しかし、神が語りかけ、キリストの教会が再び組織され、神の啓示によって教義が再び明らかにされたというその主張は、救い主御自身がユダヤの道とガリラヤの丘を歩かれたあの時代以来、世界に向けて告げられた最もすばらしい宣言でした。⁹

〔ジョセフ・スミスが受けた〕神の啓示の一つが、まことの生ける教会を再び設立するようにとの指示でした。こうして教会が、救い主御自身が死すべき世で教導の業に携わっておられた時代に存在していたように、現代に回復された

のです。預言者ジョセフ・スミスは、このイエス・キリスト教会は「この終わりの時に主がわたしたちに与えられた命令と啓示に従って、また新約聖書に記録されている教会の秩序に従って組織された」と言っています〔『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』138〕。……

1830年4月6日にバプテスマを受けて教会に加入した人々は、人格を有する神の存在を信じ、この教会が神と御子イエス・キリストの实在を永遠の基盤として組織されたことを信じていました。¹⁰

〔ジョセフ・スミス〕により、またその後のさまざまな出来事により、神権と完全な福音が再び地上に回復されました。そして、それらは二度と取り去られることはありません〔教義と聖約 65:2参照〕。地上における神の王国であるキリストの教会は再び設立され、聖文によれば、転がり進んで全地を満たすことになることと定められていました〔ダニエル 2:35参照〕。¹¹



ジョセフ・スミスは預言者、聖見者、啓示者であった

預言者ジョセフがこの世に来たのは、エジプトに売られたヨセフが何世紀も前に述べた預言の成就でした。

「主なるわたしの神は、一人の聖見者を立てられる。それは、わたしの腰から出た者のためのえり抜きの聖見者である。……その聖見者の名はわたしにちなんで付けられ、またその名は彼の父の名を取って付けられる。」(2 ニーフアイ 3:6, 15)

ジョセフ・スミス・ジュニアは、エジプトに捕らわれていった昔のヨセフと、また父ジョセフ・スミス・シニアにちなんで名付けられ、こうしてこの預言は成就しました。彼は預言者ジョセフ・スミスとして知られており、「聖見者ジョセフ」と呼ばれています。ジョセフはしばしば「預言者、聖見者、啓示者」と呼ばれません。

「預言者」「聖見者」「啓示者」という言葉はしばしば同じ意味で使われ、多くの人はそれが同じ意味であると考えています。しかし、同じではありません。この3つの用語には別個の異なる意味があります。

ジョン・A・ウイツォー〔長老〕は、預言者を教師すなわち真理を説き明かす人と定義づけています。預言者は、主が人に啓示されたままの真理を教え、それを人々が理解できるように靈感の下で説明します。「預言者」という言葉はしばしば、主から啓示と指示を受ける人を指すものとして使われます。多くの人は、預言者とは基本的に将来の出来事について予告する人であると考えてきました。しかし、これは預言者の数多くの働きのうちの一つにすぎません。預言者は主の代弁者です。

聖見者は見る人です。これは肉体の目で見るという意味ではなく、霊の目で見るのです。聖見者の賜物^{たまもの}は霊的な天与の能力です。ジョセフは古代の聖見者、モーセのようでした。モーセは顔と顔を合わせて神にまみえましたが、どのようにして神にまみえたかを次のような言葉で説明しています。

「だが今、わたしは自分の目で神を見た。しかし、わたしの肉体の目ではなく、霊の目で見た。肉体の目では見られなかったであろう。神の御前^{みまへ}では枯れて死んでしまっていたはずだ。しかし、神の栄光^{みかお}がわたしのうえにあり、わたしは神の御前で変貌したので、神の御顔を見た。」(モーセ 1:11)

霊的に見ることを文字どおりに見ることではないと考えてはなりません。このような示現は、幻想や空想ではありません。実際にそれを見るのです。ただし、肉体の目で見るとはではありません。わたしたちはそれぞれ、肉体の目と対を成す霊の目を持っています。わたしたちは最初、霊的に創造され、その後、わたしたちの霊を覆うものとして体が創造されました。わたしたちは第一の位では目で見て歩いていたと言われていました。まだ体は与えられておらず、肉体の目はなかったので、霊の目で見ていたということです。全ての人が霊の視覚を持っていますが、主の御霊^{みたま}によって身を変えられない限り、いつもこのような視覚を用いる特権が与えられるわけではありません。……

聖霊の力によって、その目的のために地上に送られたある人々は、神に関する事柄を目にすることができます。聖見者とは、過去のことも将来のことも見て知る人です。そして、彼らによって全てのことが示されるのです(モーサヤ 8:15 - 17参照)。要するに、聖見者とは見る人であり、聖霊の力によって霊の目を開かれ、変えられて、主の光の中を歩む人です。モーセ、サムエル、イザヤ、エゼキエル、その他多くの聖見者がいました。彼らは他の人々よりも神の栄光と力を身近に目にする特権を与えられたからです。

啓示は、知られていないことや、以前には知られていたが人の記憶から取り去られていたことを明らかにします。啓示は常に真理に関するものであり、常に神の承認を受けて与えられます。啓示はさまざまな方法で与えられますが、それには常に前提があります。その前提とは、啓示者が神聖な啓示の霊、真理の御霊に調和し、それによって神聖なメッセージを受けられることができるような生活を、行動しているということです。

要約すれば、預言者とは神聖な真理の教師であり、あらゆる意味で文字どおり聖見者であると言えます。〔ジョセフ・スミスの〕霊的な視覚は驚くほどに変えられ、聖霊によって霊的なものにされました。彼が森に入って祈ったときに御父と御子にまみえたのはこの賜物によりました。その点から彼の生涯と働きを追ってみると、彼が自分の力で進もうとしていなかったことが分かります。彼は



預言者ジョセフ・スミスの生涯は「啓示によって導かれました。」

主に頼っており、主の助けを受け、主から指示を与えられました。彼の生涯は啓示によって導かれました。¹²

4

たたえよ、主と語りし預言者を

わたしたちは「たたえよ、主の召したまいし」（『賛美歌』16番）というジョセフ・スミスについての歌を歌うとき、彼について非常に多くの称賛に値する事柄を思い出します。

わたしたちは、エホバだけでなく天から遣わされた他の方々とも親しく語った彼の能力をたたえます。多くの天の御使^{みつか}いが訪れ、鍵^{かぎ}を渡し、末日に立てられた、この「えり抜きの聖見者」に教えを与えました（2ニーファイ3:6-7）。

父スミスは1834年に息子ジョセフに祝福を授けたとき、古代のエジプトのヨセフはこの末日の聖見者を見たと言いました。預言者ジョセフの働きによって自分の大勢の子孫に祝福がもたらされる様子を知り、古代のヨセフは涙を流したのです。

わたしたちは、何百ページにも上る聖文を授かり、翻訳したジョセフ・スミスの勤勉さと能力もたたえます。彼は啓示のパイプ役となりました。これまでの人類史上、他の誰よりも多くの、驚異的な量の啓示がジョセフを通して与えられたと考えられています。

わたしたちは、ジョセフの単に堪え忍ぶだけでなく「よく堪え忍ぶ」能力をたたえます（教義と聖約121:8）。彼は幼いときに、痛々しい脚の手術を経験しました。その手術を受けていなかったなら、後年のオハイオからミズーリへの耐え難いシオンの陣営の行軍ができなかったことでしょう。その行軍中、ジョセフ・スミスは「行程の大半を徒歩に頼らざるを得なかったため、足には水ぶくれ、出血、靴ずれが絶えませんでした。」〔『歴代大管長の教え-ジョセフ・スミス』287〕同様に、わたしたちは、6人の幼い実子や養子とのつらい死別に耐えたジョセフとエマをたたえます。子供を一人でも失ったことのある親は、共感の念でいっぱいになります。

わたしたちは、リバティーの監獄に長期にわたって投獄されてすっかり自由を奪われたことも含め、迫害を堪え忍んだジョセフの能力をたたえます。多くの者にとって、当時すべてが絶望的に思われる状況でした。しかし、天の主は、「地の果ての人々があなたの名を尋ね……るであろう」と獄中のジョセフに断言されました（教義と聖約122:1）。そしてわたしたちは今、ジョセフ・スミスと回復された福音を尋ね求める人々が増加している時代に生きています。

昔の人々と「等しくふさわしい者とされる」ようにというジョセフの願いが果たされてからすでに久しく時がたっています〔『歴代大管長の教え-ジョセフ・スミス』230〕。そして今、わたしたちはジョセフについて歌うことができます。「古き予言者と共に、主の王国に入らん」と（『賛美歌』16番）。

無情な裏切りと落胆を繰り返し堪え忍んだジョセフを、わたしたちはたたえます。こうしてジョセフは、「ほふり場に引かれて行く小羊のように」、 「夏の朝のように心穏やかで」、 「すべての人に対して……責められることがない」状態でカーセージへ向かいました（教義と聖約135:4）。惨めな思いを抱きながらカーセージへ向かったのではありませんでした。不平を言いながらカーセージへ向かったのではありませんでした。よく堪え忍ぶその能力は何と驚くべきものでしょう。

ジョセフは自分がどちらの方に向いているかを知っていました。彼は救い主イエス・キリストの方に向いていたのであって、若いときに天の御父から最初に

次のように言われて以来、救い主に耳を傾け続けました。「これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい。」〔ジョセフ・スミス―歴史 1:17〕¹³

5

預言者ジョセフ・スミスの生涯と使命は、わたしたちが 永遠の命に通じる道を歩むように助けを与えてくれる

わたしはこの人物に、彼の教えに、彼の啓示に、彼がわたしたちに残してくれたものに感謝しています。彼を通して福音が地上に回復されたからです。全ての歴史の中で、家の近くの森に入ってひざまずいて祈り、天の御方の訪れを受けたこの若者の簡潔ですばらしい話以上に麗しい話はないと、わたしは思います。

今、わたしたちは彼の生涯と働きを詳しく調べています。多くの人が、書かれた言葉の背後にある秘密を知ろうと探ってきましたが、秘密などないのです。……そこには素朴な信仰、すなわち、神に関することについて訓練を受けることになる若者の信仰がありました。そして時がたち、学問上の実績もなければ教育も受けていないこの若者は、来るべきことのために主によって教育されたのです。

今、わたしたちは知性と思いを与えられています。わたしたちに必要なのは、主がジョセフを教えられたように知性を訓練し、養い、彼のように純粋な信仰を持ち、簡潔な指示に進んで従うことです。わたしたちがそのように行って、〔主から〕望まれている道を歩み、主から望まれている教訓を学ぶとき、自分の人生が神の目的に反するすべてのことから清められることが分かります。ジョセフもそうでした。彼は完全に近い者となりました。自分の精神と思いを清め、主に近く生活し、主と言葉を交わし、主が啓示を通じて与えてくださった事柄を聞くことができたからです。彼は霊の目によって、過去のことと将来のことを見ることができました。わたしたちは彼が見たことが真実であるという証あかしを持っています。……

わたしはこの教会の会員であることに感謝しています。そしてこの教会が神の教会であるというわたしの証は、森の中でひざまずき天の御方の訪問を受けた少年の簡潔な物語に基づいています。ただ一人の神ではなく、二人の別個の御方である御父と御子が、神会を構成する御方として再び地上に御姿みすがたを現されたのです。わたしの信仰と証は、この簡潔な話に基づいています。もしこのことが真実でなければ、モルモニズムは滅びるでしょう。もしこれが真実であれば、もちろんわたしは真実であると証しますが、これはすべての歴史を通じて最も偉大な出来事の一つということになるのです。

わたしは、人々がこの偉大な預言者をたたえ、彼の生涯についてよく考えるように、また彼の聖見者としての務めと彼の啓示により与えられたものについて心

から感謝するようにと願っています。彼は、この末日にわたしたちを導くために主によって立てられたえり抜き^の聖見者^のなのです。それは、わたしたちが昇栄と永遠の命に導くその道に戻って歩み続けることができるようにするためでした。¹⁴

研究とレッスンのための提案

質問

- ジョセフ・スミスの最初の示現に関するハンター大管長の教えについてよく考えてください（第1項参照）。最初の示現についてのあなたの証^{あかし}はあなたにどのような影響を及ぼしていますか。ジョセフ・スミスは神の預言者であったという証を持つことが末日聖徒にとって必須であるのはなぜでしょうか。
- 教会が組織されたことについてのハンター大管長の教えを読むとき、あなたはどのように感じますか（第2項参照）。回復されたイエス・キリストの教会によって、あなたと家族はどのような祝福を受けてきましたか。
- 預言者、聖見者、ならびに啓示者という名称の意味を理解することは、なぜ有益でしょうか（第3項参照）。あなたは預言者、聖見者、啓示者によってどのような祝福を受けてきましたか。
- 第4項で、ハンター大管長はジョセフ・スミスをたたえる理由を幾つか述べています。これらの教えから、預言者ジョセフに対する感謝の気持ちがどのように強くなりましたか。ジョセフ・スミスの模範から何を学べますか。
- ジョセフ・スミスの信仰と霊的な教育と従順に関するハンター大管長の教えを読んでください（第5項参照）。これらの教えはわたしたちにどのように当てはまるでしょうか。預言者ジョセフ・スミスを通して与えられてきた祝福について、わたしたちはどのように感謝を示すことができるでしょうか。

関連聖句

ジョセフ・スミス 訳創世 50：25 - 33；ダニエル 2：44；エペソ 2：19 - 22；4：11 - 14；教義と聖約 1：17 - 32；5：9 - 10；122：1 - 2；135章；
ジョセフ・スミス-歴史

学ぶ際のヒント

「福音を理解することによって喜びを感じると、学んだことを応用したいと思うようになります。理解していることと一致した生活をするよう努力してください

い。そうすることによって、あなたの信仰と知識と証は強められることでしょう。」(『わたしの福音を^の宣べ伝えなさい』19)

注

1. エレノア・ノウルズ, *Howard W. Hunter* (1994年) 7で引用。6ページも参照
2. "The Temple of Nauvoo," *Ensign*, 1994年9月号, 63-64
3. "Come to the God of All Truth," *Ensign*, 1994年9月号, 73
4. Conference Report, 1963年10月, 100-101
5. 「1830年4月6日という日」『聖徒の道』1991年7月号, 65参照
6. 「1830年4月6日という日」64参照
7. *The Teachings of Howard W. Hunter*, クライド・J・ウィリアムズ編 (1997年), 228
8. 「1830年4月6日という日」65参照
9. 「1830年4月6日という日」64参照
10. 「1830年4月6日という日」65参照
11. Conference Report, 1963年10月, 101
12. "Joseph Smith the Seer," *The Annual Joseph Smith Memorial Sermons*, 全2巻 (1966年), 第2巻, 193-194
13. "The Temple of Nauvoo," 63-64
14. "Joseph Smith the Seer," 第2巻, 197-198



空になった救い主の墓は「世の人々に次のように宣言しています。
『そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。』(ルカ 24:6)』



イエス・キリストの贖罪しよくざいと復活

「救い主の贖あがないの犠牲と復活のおかげで、わたしたちは肉体の死からよみがえって永遠の命を得ることになります。」

ハワード・W・ハンターの生涯から

1934年3月20日、ハワードとクレア・ハンターに初めての子供が誕生した。夫婦は息子をハワード・ウィリアム・ハンター・ジュニアと名付け、ビリーと呼んだ。その夏のある日、二人はビリーがぐったりしていることに気づいた。医師からは貧血症と診断された。ハワードは輸血のために2度血液を提供したが、ビリーの容体は良くならなかった。さらに検査した結果、重度の腸疾患が見つかり、それが貧血の原因であることが分かった。手術が行われ、ハワードも息子の傍らに身を横たえて血液を提供したが、結果は思わしくなかった。3日後の1934年10月11日、ベッドのわきの両親に見守られながら、幼いビリーは静かに息を引き取った。「わたしたちは悲しみに打ちひしがれ、茫然ぼうぜんとしながら、夜の闇の中へ紛れるように病院を後にしました」と、ハワードは書いている。¹

ビリーや、他の愛する人たちの死を経験した際、ハンター大管長の支えとなったのは救い主の贖いと復活についての、次のような証あかしであった。「わたしたちは〔贖い〕が現実のものであって、神の救いの計画全体においてイエス・キリストの贖いの犠牲以上に重要なものはないと固く信じるものです。救いは贖いがあるからこそたらされます。贖いがなければ、創造の計画全体が無に帰するでしょう。……この贖いの犠牲がなければ、肉体の死は全ての終わりであって、復活はなく、わたしたちの霊的な生活には何の目的も存在しなくなります。永遠の命に対する希望もありません。」²

復活祭の時期に開催される4月の総大会で、ハンター大管長はしばしばイエス・キリストの復活について話した。1983年4月の総大会では次のように述べている。

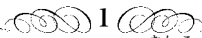

「この復活祭の季節に、わたしは救い主の復活の事実を証するという、自分に託された使命の重要性をひしひしと感じます。兄弟姉妹、天には皆さんやわたしを愛し心にかけてくださる神がおられます。わたしたちには天の御父がお

られて、霊の長子であり肉における独り子であられる御方を、地上にいるわたしたちの模範として送って下さいました。その独り子は世の罪をその身に受け、世の罪のために十字架につけられ、復活されました。……

これは実にすばらしいメッセージです。人は死んだ後も生きるのです。天の御父のもとに戻って再びともに住むことができるのです。それは救い主がささげてくださった犠牲によるのであり、またわたしたち自身の悔い改めと戒めに対する従順さによります。

復活祭の朝の栄光に満ちた夜明けに、世のクリスチャンと呼ばれている人々がほんの少しの間イエスの復活に心を向けているとき、わたしたちは天の御父に対して、偉大な救いの計画をお与えくださったことに感謝しようではありませんか。』³

ハワード・W・ハンターの教え

あがな  1  おんこ

贖いは天の御父とその愛する御子イエス・キリスト による至高の愛の行いであった

イエス・キリストの贖いは、天の御父の子供たちを墮落の後に贖うために、御父によって予任されていた務めでした。御自分の独り子が贖いの犠牲をささげるのをお許しになることは、天の御父による愛の行いでした。そして贖いを遂行することは、御父の愛する御子による至高の愛の行いでした。

わたしはこれまで何度もゲツセマネの園に立ったことがあります。救い主の苦しみについて心の中で深く考えました。天の御父から許されて主が経験された、あの苦しみです。全人類の苦痛と罪を、わたしたちには理解の及ばない方法で、主はその身に受けられたのです。主が人類のために払われた大いなる犠牲について思いをはせると、わたしの心は悲しみでいっぱいになりました。

わたしはゴルゴタ、すなわちされこうべの場というところに立って、十字架の刑という屈辱について深く考えました。この刑は救い主の肉体を死へと導きましたが、一方で救い主と全人類の不死不滅をもたらしたのです。そしてわたしの心は再び穏やかになるのです。

また、園の墓の前に立って、救い主が復活し不死不滅の状態生きて墓から出て来られた、あの栄えある復活の日を思い描きました。静かに考えていると、喜びで胸がいっぱいになりました。

このような経験を通して、わたしは心を注ぎ出して天の御父に感謝をささげたいとの思いを増し加えてきました。天の御父とその御子が、栄光に満ちた贖いの犠牲を通してわたしたちに与えてくださった愛に対する感謝です。チャー

ルズ・ガブリエルは次のように表現しています。「主イエスの愛にただ驚く。恵みの深きにわれ惑う。罪人のため十字架にて流されたる血に身は震う。ああ、わがため主は死にたもう、奇しきみ業。ああ、奇しき主のみ業。」「主イエスの愛に」『賛美歌』109番)……

兄弟姉妹の皆さん、わたしは証^{あかし}します。救いの計画が効力を持つうえでの条件を満たすために、天の御父はその愛する御子イエス・キリストを世に送ってくださいました。贖いはわたしたちに対する神の深い愛の表れなのです。⁴

2

救い主はわたしたちの全ての罪と弱さ、悲しみ、苦痛を御自身に受けられた

イエスと弟子たちは過越^{すぎこし}を祝うために集まり、聖餐^{せいさん}の象徴を取って食べました。聖餐はこの最後の晩餐において主が始められたものです。それからイエスはオリブ山に登られました。

最後の最後まで教師であられたイエスは、犠牲の小羊についての話をお続けになりました。イエスは、御自分が打たれること、また使徒たちが羊飼いのいない羊のように散らされることについて語られ(マタイ 26:31参照)、「しかしわたしは、よみがえってから、あなたがたより先にガリラヤへ行くであろう」と言われました(マタイ 26:32)。

それから、イエスは血の汗を流され、主の律法の管理人であると自称する者たちによって鞭打たれ、強盗たちとともに十字架につけられました。それはモルモン書の中でベニヤミン王が預言しているとおりでした。「この御方は数々の試練に耐え、肉体の苦痛や飢え、渇き、疲労に耐えられるが、それは、人にとっては死ぬ以外に耐えようのないものである。見よ、御自分の民の悪事と忌まわしい行いのためにこの御方が受けられる苦しみは非常に激しく、あらゆる毛穴から血が流れ出るほどだからである。……

この御方は、御自分の民のところに来られ、人の子ら〔に〕救いが与えられるようにされる。ところが、このようなことがあるにもかかわらず、彼らはこの御方をただの人と思い、また悪魔につかれていると言い、この御方を鞭打ち、十字架につける。」(モーサヤ 3:7, 9)

イエスの苦しみの深さについては、預言者アルマが多くの証^{あかし}を残しています。「神の御子は、あらゆる苦痛と苦難と試練を受けられる。これは、神の御子は御自分の民の苦痛と病を身に受けられるという御言葉^{みことば}が成就するためである。

また神の御子は、御自分の民を束縛している死の縄目を解くために、御自身に死を受けられる。また神の御子は、肉において御自分の心が憐れみ^{あわれみ}で満たされるように、また御自分の民を彼らの弱さに応じてどのように救うかを肉にお

いて知ることができるように、彼らの弱さを御自分に受けられる。」(アルマ7:11-12)

考えてみてください。罪のない神の御子は、その遺体を十字架から降ろされ、借りた墓に慌ただしく納められたときに、悔い改めようとする全ての人の罪や試練だけでなく、わたしたちのあらゆる病や悲しみや苦痛を、すでに全てその身に受けておられたのです。わたしたちが苦しむのと同じように、イエスは肉においてこれらの苦難を受けられました。その全てを受けられたのです。それは、完全な憐れみと力をもってこの世の全ての試しからわたしたちを救ってくださるためでした。⁵

わたしたちは実際に、誤った選択や好ましくない選択、人を傷つけるような選択をすることがあります。しかし、そのときこそイエス・キリストの使命と憐れみが完全な効力と栄光を發揮するのです。……主はわたしたちの誤った選択について執り成しをする贖いをもたらししてくださいました。キリストは、御父に対するわたしたちの弁護者であられ、人が自由を行使するときに度々見られる過ちや愚かな行いに対して、前もって代価を払ってくださったのです。この贖いの恩恵を余すところなく受けるために、わたしたちはこの主からの賜物を受け入れ、間違いを悔い改め、主の戒めに従わなければなりません。その賜物は常にあります。道は常に開かれています。真つ暗闇の中をさまよい、悲惨な過ちを犯したときでさえも、わたしたちは常に神の御子に頼って生きることができるのです。⁶

3

イエス・キリストは墓からよみがえり、復活の初穂となられた

聖地におけるあの最後の場面に戻ってみましょう。この世における主の生涯は間もなく終わりを告げようとしています。イエスは病人を癒やし、死人をよみがえらせ、御自身の死と復活に関する預言を含む、聖文の説き明かしをされました。そして、弟子たちに言われました。

「見よ、わたしたちはエルサレムへ上って行くが、人の子は祭司長、律法学者たちの手に渡されるであろう。彼らは彼に死刑を宣告し、

そして彼をあざげり、むち打ち、十字架につけさせるために、異邦人に引きわたすであろう。そして彼は三日目によみがえるであろう。」(マタイ20:18-19) ……

3日目の夜明けに、マグダラのマリヤと「ほかのマリヤ」とが、イエスの遺体が納められている墓にやって来ました〔マタイ28:1。マルコ16:1; ルカ24:10も参照〕。それより前に、祭司長とパリサイ人たちはピラトのもとに行き、ピラトを説得して墓の入り口に番人を置かせました。「弟子たちがきて彼を盗み

出し、『イエスは死人の中から、よみがえった』と、民衆に言いふらす」ことのないようにするためです(マタイ 27:64)。しかし、二人の力のある御使いが石をわきへ転がし、見張りをしていた人たちはそれを見て恐ろしくなり逃げて行ってしまいました。

女たちが墓のところへ来ると、そこは空になっており、御使いがそこにおいて、人類がそれまで一度も耳にしたことのない知らせを告げました。「もうここにはおられない。かねて言われたとおりに、よみがえられたのである。」(マタイ 28:6)⁷

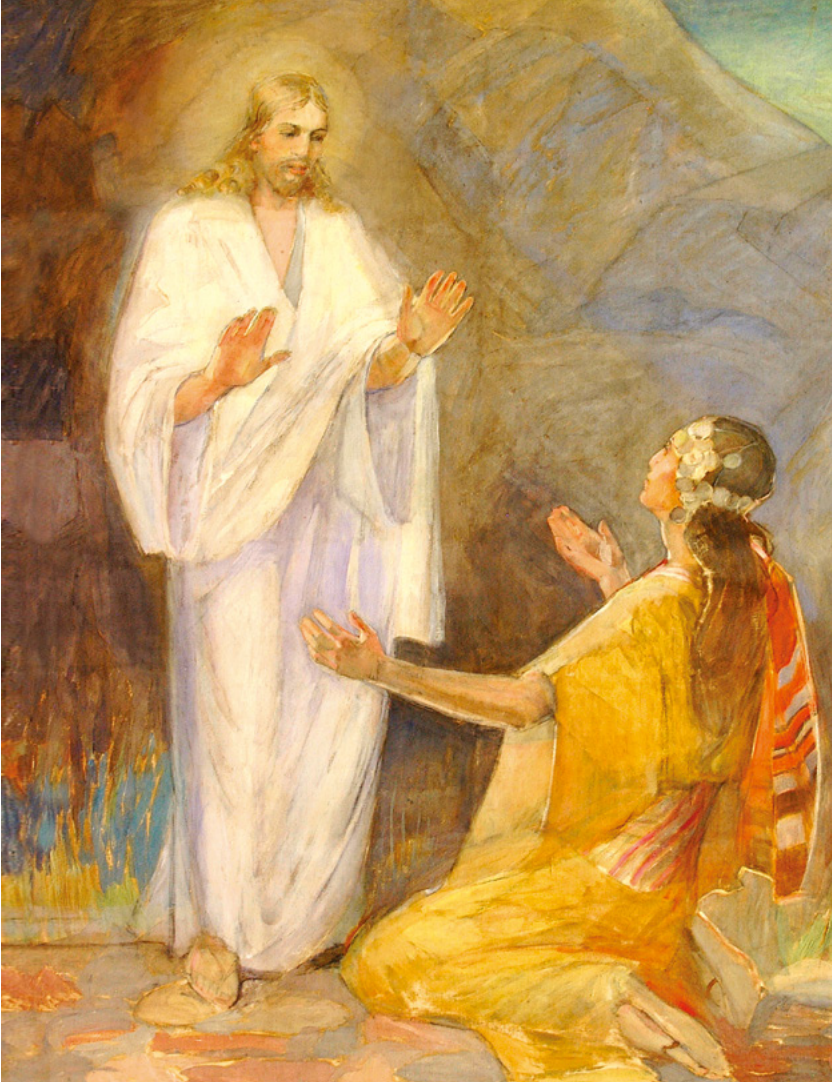
神の御子の復活の教義ほど、全人類にとって重要なクリスチャンの教義は他にありません。これまでにこの世に生まれ、そしてこれから生まれてくるあらゆる男女、子供たちは、キリストを通して復活できるようになりました。

わたしたちの教義において復活はとても重要なものとされていますが、その霊的な意義や永遠に及ぶ壮大さを完全に理解している人は少ないようです。もしも理解しているのであれば、ニーフアの弟ヤコブのように、そのすばらしさに感銘を受けていることでしょうし、この神聖な賜物(たまもの)が与えられていなかった場合のことを思うと、恐怖で身震いすることでしょう。ヤコブは次のように書いています。

「おお、神の知恵、神の憐れみと恵みよ。見よ、もしも肉体がもう二度と起き上がることがないとすれば、わたしたちの霊は、永遠の神の御前から落ちて悪魔となったあの天使に従うようになり、もはや起き上がることはない。」(2 ニーフア 9:8)

確かに、復活はあらゆるクリスチャンの信仰の中心を成すものです。復活は世の救い主によって行われた奇跡の中で最も偉大なものです。復活がなかったならば、わたしたちは本当に絶望的な存在となっていたことでしょう。パウロの言葉を借りましょう。「もし死人の復活がないならば、……わたしたちの宣教はむなしく、……わたしたちは神にそむく偽証人にさえなるわけだ。なぜなら、……わたしたちは神が実際よみがえらせなかったはずのキリストを、よみがえらせたと言って、神に反するあかしを立てたことになるからである。……もしキリストがよみがえらなかったとすれば、あなたがたの信仰は空虚なものとなり、あなたがたは、いまなお罪の中にあることになるだろう。」(1 コリント 15:13 - 15, 17)⁸

復活がなかったならば、イエス・キリストの福音は単なる金言と説明しがたい奇跡の繰り返しにすぎなくなってしまいます。すなわち、究極の勝利に至ることのない、数々の金言と奇跡の話になってしまうのです。しかし、究極の勝利はあの究極の奇跡にあります。人類の歴史上初めて、死んだ者が不死不滅の状態によみがえったのです。イエスは実に神の御子、不死不滅の天の御父の御子であられました。御子が肉体と霊の死に打ち勝たれたことは、キリスト教徒ならば誰もが公言すべき良い知らせです。



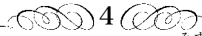
イエス・キリストは復活後すぐにマグダラのマリヤに御姿^{みすがた}を現された(ヨハネ 20:1-18 参照)。

イエス・キリストが墓からよみがえり、復活の初穂となられたことは永遠の真理です(1コリント 15:23参照)。このすばらしい出来事について語る人たちの証^{あかし}を疑うことはできません。

選ばれた証人の中に、主の使徒たちがいます。実際、聖なる使徒の召しは、主イエス・キリストが神の御子であることを世の人々に証することなのです。ジョセフ・スミスは次のように言っています。「わたしたちの宗教の基本原

則は、使徒と預言者たちがイエス・キリストについて立てた証です。すなわち主が亡くなり、葬られ、3日目に再びよみがえって、天に昇られたことです。わたしたちの宗教に関する他の全ての事柄は、それに付随するものにすぎません。] (*History of the Church*, 第3巻, 30) ……

キリストは使徒たちに教えを施されたとき、「人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちに捨てられ、また殺され、そして三日の後によみがえる」ことを明らかにされました(マルコ8:31)。そして、事実そのようになりました。キリストは十字架につけられ、墓に納められました。そして3日目に、確かによみがえられました。主は全人類の救い主であり、復活の初穂であられるのです。この贖いの犠牲により、全ての人は墓から救われ、再び生きます。これこそ常に使徒たちが証してきたことであって、わたしはそれに自分自身の証を付け加えます。⁹



イエスは復活後、多くの人に御姿を現された

復活の後、主は多くの人々に御姿を現されました。そして5つの特別な傷をお見せになりました。主は人々と歩き、語り合い、食を共にされました。それはあたかも、復活体が触れることのできる骨肉の体であることを、疑う余地のないほど確かに実証するためであるかのようにでした。後に、主はニーファイ人に教えと導きを授け、次のように命じられました。「『立ってわたしのもとに来て、あなたがたの手をわたしのわきに差し入れ、またわたしの両手と両足の釘の跡に触れて、わたしがイスラエルの神であり、全地の神であること、そして世の罪のために殺されたことを知りなさい。』」

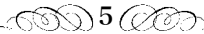
そこで群衆は進み出て、主のわきに手を差し入れ、また主の両手と両足の釘の跡に触れた。彼らは一人ずつ進み出て、全員がこのようにし、自分の目で見、自分の手で触れ、この御方が、将来来られると預言者たちによって書き記された主であられることを、確かに知って証した。」(3 ニーファイ 11:14 - 15)

全ての男女は、「預言者たちと使徒たちが〔証〕してきたイエスを求め」、イエスが神の御子であることについて霊的な証を得る責任があります(エテル12:41)。また、そうすることは喜びでもあります。御父と復活された御子について証する聖なる御霊の声を聞くことは、へりくだって求める全ての人に与えられる権利であり、祝福です。¹⁰

〔イエス〕の死後に生きておられる主を見た人々の証には、全く矛盾が見られません。主は少なくとも10回か11回、御姿を現されました。すなわち、園でマグダラのマリヤと他の女性たちに、エマオへの道で二人の弟子に、エルサレムでペテロに、トマスが不在のとときに後にトマスがいたときに使徒たちに、ガリラヤ

の海で使徒たちに、山で500人以上の兄弟たちに同時に、主の弟ヤコブに、そして昇天のときに使徒たちに御姿を現しておられます。¹¹

わたしはイエス・キリストの御名を世の全ての人に証するために召され、聖任された者として、この復活祭に当たり、イエスが生きておられることを証します。イエスは栄光を受けた不死不滅の骨肉の体を持っておられます。御父の肉における独り子であられます。救い主であり、世の光であり、命であられます。十字架上で亡くなった後、復活した御方として、マリヤに、ペテロに、パウロに、その他多くの人々に御姿を現されました。ニーファイ人にも御自身を現されました。そしてイエスは、この神権時代において、後に預言者となる少年ジョセフ・スミスに御姿を現され、その他多くの人々に御姿を現してられました。¹²



わたしたちは死からよみがえって永遠の命を得る

復活祭は、全ての人に不死不滅という無償の賜物^{たまもの}が与えられたことを祝うものです。それは命を回復し、全ての傷を癒やします。進歩と成長の永遠の計画の一部として、全てのものは死を迎えます。しかし、「夜はよもすがら泣きかなしんでも、朝と共に喜びが来る」という詩篇の作者の言葉に、人は誰しも慰めを見いだすことができます（詩篇30：5）。

「人がもし死ねば、また生きるでしょうか」と、いつの世でも人の心に宿る問いを口にしたのはヨブでした（ヨブ14：14）。「わたしが生きるのに、あなたがたも生きる」というイエスの答えは、まさに今の今に至るまで、時を超えて響き渡ります（ヨハネ14：19）。¹³

死ぬと、霊と肉体は分離します。復活によって霊は再び肉体と一つになり、肉体は霊的な体となって、骨肉の体でありながら血ではなく霊によって生かされるようになります。このように、わたしたちの復活後の体は、霊によって生かされ、不死不滅の状態になり、決して死ぬことはありません。これが、「肉のからだがあ〔り〕、霊のからだもある」、そして「肉と血とは神の国を継ぐことができない」というパウロの言葉の意味なのです〔1コリント15：44, 50参照〕。体はもともと血と肉から成りますが、血の代わりに霊によって生かされると、王国に入ることができるようになります。このようにしてわたしたちは、王国に入ります。……

わたしには、神が生きておられ、イエスがキリストであられるという確信があります。遠い昔の復活祭の季節にパウロがコリントの聖徒たちに書き送った証^{あかし}に、わたしの証を付け加えます。救い主の贖いの犠牲^{あがな}と復活のおかげで、わたしたちは肉体の死からよみがえって永遠^{みうで}の命を得ることにあります。救い主が聞こえようとする全ての人に向かって御腕を伸べておられる姿が思い浮かびます。

「……わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。

また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。」(ヨハネ 11:25 - 26)¹⁴

キリストの復活は、不死不滅という祝福と、永遠の命を授かる可能性がもたらされたことを告げるものです。空になったイエスの墓は、世の人々に次のように宣言しています。「そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。」(ルカ 24:6) この言葉には、困難で、時として悲しみに満ちたわたしたちの人生を支えるのに必要な、希望と保証と信仰が全て含まれています。¹⁵

研究とレッスンのための提案

質問

- 贖い^{あがな}には、わたしたちに対する天の御父とイエス・キリストの愛がどのように表れているでしょうか(第1項参照)。わたしたちはこの愛の賜物^{たまもの}に対する感謝の気持ちを、どのような方法で示すことができるでしょうか(教義と聖約 42:29参照)。
- 第2項を読み、贖いによってもたらされる数多くの祝福を探してください。ハンター大管長の教えと用いられている聖句を読んで、贖いに対するあなたの理解はどのように深まりましたか。あなたはどのような経験を通して、贖いに対する証^{あかし}を強めてきましたか。試練を受けているときに、贖いの力からどのような助けを得ることができるでしょうか。
- 復活についてのハンター大管長の教えを研究して、どのような印象を受けましたか(第3項参照)。わたしたちはどうすれば復活の重要性をさらによく理解できるようになるでしょうか。
- 第4項を読んでください。この項で、ハンター大管長はイエス・キリストが復活されたことの証人を大勢挙げています。これらの証人の証が大切なのはなぜでしょうか。
- ハンター大管長は、「困難で、時として悲しみに満ちたわたしたちの人生を支えるのに必要な、希望と保証と信仰」を復活は与えてくれると教えています。この教えについて考えてください(第5項)。あなたにとって復活は、どのような意味で希望と慰めの源となっているでしょうか。復活に対する証のおかげで、あなたの人生はどのような形で豊かなものとなってきたでしょうか。

関連聖句

ヨハネ 10：17 - 18；2 ニーファイ 2：6 - 9, 22 - 27；9：19 - 25；3 ニーファイ 27：13 - 16；教義と聖約 18：10 - 16；19：15 - 20；モーセ 6：59 - 60

学ぶ際のヒント

「救い主を信じる信仰を築〔く〕ように、学習活動を計画する。」（『わたしの福音を宣べ伝えなさい』22）例えば、学ぶ際に次のように自問するとよいでしょう。「これらの教えを通して、イエス・キリストの贖いについての理解がどのように深まるだろうか。これらの教えは、さらに救い主のような者になるうえでどのような助けとなるだろうか。」

注

1. エレノア・ノウルズ, *Howard W. Hunter* (1994年), 88。86-87も参照
2. *Conference Report*, 1968年10月, 139
3. 「復活の証拠」『聖徒の道』1983年7月号, 28参照
4. “The Atonement of Jesus Christ” (1988年6月24日, 伝道部長セミナーにおける説教), 2-3, 7, 教会歴史図書館, ソルトレーク・シティ。 *The Teachings of Howard W. Hunter*, クライド・J・ウィリアムズ編 (1997年), 8-9も参照
5. 「主はよみがえられた」『聖徒の道』1988年6月号, 16-17参照
6. 「黄金の選択の糸」『聖徒の道』1990年1月号, 18参照
7. 「主はよみがえられた」16-17参照
8. 「主はよみがえられた」16参照
9. 「復活についての使徒の証」『聖徒の道』1986年7月号, 16-17参照
10. 「主はよみがえられた」17参照
11. *Conference Report*, 1963年4月, 106
12. 「主はよみがえられた」17参照
13. 「復活についての使徒の証」16参照
14. *Conference Report*, 1969年4月, 138-139
15. 「復活についての使徒の証」15-16参照



生ける預言者を通して 絶えず与えられる啓示

「わたしたち……は神の生ける預言者によって導かれてい
〔ます〕。主から……啓示を受ける預言者がいるのです。」

ハワード・W・ハンターの生涯から

1994年10月の総大会で大管長として支持された後、ハワード・W・ハンターはその神聖な責任に対する思いを次のように述べている。

「愛する兄弟姉妹の皆さん、支持の挙手をありがとうございます。愛する預言者エズラ・タフト・ベンソン大管長のご逝去を悼みながら、皆さんの前にへりくだる思いで立っています。愛する友の死に際してわたしの心は感じやすくなっており、自分に訪れた新たな責任を思うとなおさらです。

わたしは幾度となく涙を流し、この気高く神聖な召しを果たすにふさわしい者となれるよう熱烈に天父に祈り求めてきました。この神権時代にこれまで13人が担ってきたこの務めを担うにふさわしくなるよう祈ってきたのです。たぶん、幕のかなたから見ている彼らだけが、わたしがこの神聖な召しを受けるに当たって感じている責任の重さと、主への深い信頼とを完全に理解できるのではないのでしょうか。」

ハンター大管長は、教会を導くのは人ではなくイエス・キリスト御自身であって、主は管理の務めに召す者を備え、導いてくださると確信していた。そしてその確信が自分に力と安心を与えてくれていると説明した。

「過去数か月間、わたしに最も力を与えてくれたものは、これが神の業であって人の業ではないという揺るぎない証^{あかし}です。イエス・キリストはこの教会の頭であります。主は言葉と行いによって教会を導いておられます。わたしは、主の御手^{みで}に使われる者としてしばらくの間この教会を管理するように召されたことを、この上ない栄誉だと感じています。しかし、キリストがこの教会の頭であられるという知識がなければ、わたしも他のいかなる人も、わたしに与えられたこの召しの重さに耐えることはできないでしょう。



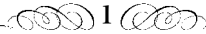
十二使徒定員会会員として、ハワード・W・ハンター大管長は、
大管長に従うよう末日聖徒に勧告した。

この責任を受けるに当たり、わたしは自分の人生に神の奇跡の御手^{みて}を認めます。主は何度もわたしの命を救い、わたしを強くし、永遠の世界への入り口から何度もわたしを連れ戻して、もうしばらくこの世での務めを果たせるようにしてくださいました。時折、なぜ自分は生かされているのだろうかと考えてきました。しかし今は、その質問を脇に置いて、ひたすら教会員の皆さんに信仰の祈りをお願いし、皆さんとともに働き、わたしたちの人生のこの時期に神の目的が果たされるようにしていきたいと思っています。……

十二使徒定員会の会員として支持を受けてから35年になります。それは豊かな備えの期間でした。……今ではわたしの歩みはゆっくりですが、精神はさええたり、霊ははつらつとしています。……

前任の大管長たちと同じように、この召しを受けるに当たって、わたしも神が御自身の預言者を導かれることを確信しています。わたしはこの奉仕の召しをへりくだって受け、詩篇の作者とともにこう宣言します。『主はわが力、わが盾。わたしの心は主に寄り頼む。わたしは助けを得た……。』(詩篇28:7)¹

ハワード・W・ハンターの教え



それぞれの神権時代に、神は御自分の代弁者として預言者を立てられる

旧約聖書のページを繰ると、預言者と呼ばれるいにしへの偉大な人たちの書いた記録が現れます。新約聖書の書には、何よりも、その後の神権時代の預言者とされてきた人たちの記述や教え、歴史があります。わたしたちには西半球の預言者たちの記録もあります。この預言者たちは声を上げて主の言葉^{あかし}を宣言し、不義に抗議し、福音の原則を教えました。これらの人たちは皆、証を残しています。

預言者は、神の子供たちの中で神の目的を進めるために主によって召され、立てられた人です。神権を受けていて、権能を持って語る人です。預言者は教師であり、福音の擁護者です。彼らは主イエス・キリストの神性について証します。預言者は将来起こることを予告してきましたが、それは預言者としての力を示す何らかの証拠となとしても、預言者の最も重要な責任ではありません。

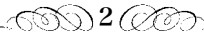
どの神権時代においても、義にかなった指導者が必要とされてきました。そのために神は預言者を、彼らが現世にやって来るはるか以前に選んでおられたのです〔エレミヤ1:5; アブラハム3:23参照〕。²

聖典に記されている主の啓示を調べてみると、いつの時代にも預言者と教会を導いているのは絶えず与えられる啓示であることが分かります。絶えず与えられる啓示がなかったとしたら、ノアは地を覆う大洪水に備えなかったでしょう

し、アブラハムはハランから約束の地へブロンまで導かれることがなかったでしょう。絶えず与えられる啓示に導かれて、イスラエルの子らは束縛を逃れ、約束の地に戻ることができました。預言者を通して与えられた啓示によって、伝道の業が導かれ、ソロモンの神殿の再建が指示され、イスラエルの民の間に入り込んでいた異教の慣習が糾弾されました。

キリストは昇天する前、残った11人の使徒たちにこのように約束されました。「見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである。」(マタイ28:20) 昇天の後、イエスは啓示によって教会を導かれましたが、やがて使徒たちが亡くなり、続いてイエス・キリストの教会の大背教が起きました。³

この教会にはその歴史を通じて、まさに今この時も含めて、いつでも預言者、聖見者、啓示者がいます。教会の頭はイエス・キリストであり、主が御自分の預言者を導かれます。……その顧問〔と〕十二使徒評議会の会員もまた預言者、聖見者、啓示者です。……教会員ははっきりした音を出さないラップに耳を傾ける必要はありません。自分たちの指導者が主によって導かれていることを知り、その声を信じるのです。⁴



神は今日、生ける預言者を通して御自分の子供たちに導きを与えられる

来るべき主の再臨に先駆けて現れる末日の際立ったしるしを、あの黙示録を書いた使徒が示現の中で見えています。その使徒はこのように述べています。

「わたしは、もうひとりの御使が中空を飛ぶのを見た。彼は地に住む者、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音をたずさえてき〔た〕。」(黙示14:6) ……

わたしたちは世の全ての人々に証します。天の使いたちがわたしたちの時代にすでに現れて、天からの権能をもたらし、腐敗した教えや慣習によって失われた真理を回復しました。神は再び語られ、今日、生ける預言者を通して御自分の全ての子供たちに引き続き導きを与えておられます。約束されているように、神は常に御自分の僕たちとともにいて、世界中で御自分の教会の諸事を導いておられることをわたしたちは宣言します。過去にそうであったように、啓示によって伝道の業や神殿の建設、神権役員のの召しに関する指示が与えられ、御父の子供たちの救いを阻止する社会の悪に対し警告が与えられています。

近代の預言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示の中で、主はこのように言われました。

「わたしは人を偏り見ない者であり、その日が速やかに来ることをすべての人が知るようにと望んでいるからである。平和が地から取り去られ、悪魔が自分の領域を支配する力を持つ時はまだ来ていないが、それはもう近い。

そして、主も聖徒たちを支配する力を持ち、彼らの中で治め……る。」(教義と聖約1:35 - 36)

救い主は今日、絶えず与えられる啓示により、聖徒たちのただ中で統治しておられます。わたしは救い主が今日も僕たちとともにおられること、そして世の終わりまでともにおられることを証します。

視野を狭めて、啓示を受けたのは昔の人だけだなどと考えることはありませんように。神は憐れみ深い御方であり、あらゆる時代の神の子供たちを愛し、この時代に御自身を現されました。⁵

主は油注がれた預言者に御自分の思いと望みを明らかにしてこられました。天の源流から地上にいる神の油注がれた僕へと、啓示は尽きることなく絶えず流れています。預言者ジョセフ・スミスが亡くなった後も、主の声は以前と同じように引き続き預言者たちに語りかけています。⁶

3

この靈的な飢饉ききんの時代に、わたしたちは預言者の声に耳を傾けることによって靈的な豊かさを見いだすことができる

飢饉は旧約聖書の時代の人々を度々苦しめ悩ました災いの一つで、人々は穀物の不作や飢えが悲惨なものであることを理解していました。アモスはこの理解に基づいて、靈的な飢饉について鮮明に預言しました。次のように述べています。「……それはパンのききんではない、水にかわくでもない、主の言葉を聞くことのききんである。」[アモス 8:11] ……

今日、宗教に関する疑いや矛盾を解決しようと試みながらも困惑し、失望を味わっている人や宗教団体の話をよく聞きますが、そんなとき、アモスの次の言葉が思い出されます。「彼らは……主の言葉を求めて、こなたかなたへはせまわる、しかしこれを得ないであろう。」[アモス 8:12]

主は啓示の岩の上に建てなければならないと言われたのですが、彼らはそうすることのないままに解決法を見いだそうとしているのです[マタイ 16:17 - 18参照]。……

……世の人々が苦しんでいる当惑や失望は、この教会の忠実な会員たちの間にはあまり見られません。……信仰と信じる意志のある人々には、信頼できる声があるのです。確かにわたしたちは、アモスが述べたような飢饉の日に生きています。……それでも、靈的な飢饉のように思える状況にあって靈的な豊かさを見いだしている人は大勢います。

この末日に福音が完全な状態で回復されていて、今日、聞く意志と従う信仰のある人々に主の思いと御心^{みこころ}を告げる預言者が地上にいることを、わたしはへりくだって証します。⁷

4

生ける預言者の教えに従うならば、わたしたちは間違うことがない

過去の神権時代や各世代の人々にとって最も大切な預言者は、その時代に生きて、教え、主の御心^{みこころ}を明らかにした預言者です。過去のそれぞれの神権時代に、主によって預言者が立てられ、それぞれの時代の人々にその時代の具体的な問題について語る主の代弁者となってきました。

わたしたちの指導者であり、教師であるのは、現在の生ける預言者です。現代の世において、わたしたちはその人から指示を受けるのです。世界の各地で、その人を主の預言者として支持するわたしたちは、神の導きを与えてくれるこの人物に感謝の気持ちを表します。……

時の初めから今日に至るまでの歴代の預言者を思い浮かべるとき、生ける預言者のおかげで大いなる祝福を受けていることに気づきます。進んで主の預言者の警告に耳を傾け、その教えに従わなければ神の裁きを受けるということは、歴史が教えているはずで⁸。

教会全体に対する啓示を受け、聖文や教会の教義について公式な解釈を提示する権限を持つのは大管長だけです。

「〔大管長〕のほかに、だれもこの教会で戒めと啓示を受けるために任命される者はいない。彼はモーセのように戒めと啓示を受けるからである。」(教義と聖約 28:2)⁹

教会の指導者がわたしたちへの教えの中で与える助言や勧告や教えに従うなら、わたしたちは自分自身の救いと昇栄にとって重要な事柄において間違うことはありません。¹⁰

わたしは教会を治める驚くべき制度を確立している啓示に感謝せずにはいません。使徒として聖任され、十二使徒定員会の会員として任命された一人一人の兄弟は、預言者、聖見者、啓示者として支持されています。神権の鍵を持つように召され、聖任されている大管長会と十二使徒定員会は、教会を治め、儀式を執り行い、教義を教え、慣行を確立して維持するための権能と責任を持っています。

大管長が病気のときや、その職に関わる全ての義務を完全に果たすことができない場合は、大管長とともに大管長会定員会を構成する二人の顧問が大管長会の務めを遂行します。重要な問題や方針、プログラム、教義は、大管長会

の顧問と十二使徒定員会による評議会で祈りをもって検討されます。大管長会と十二使徒定員会から発せられる決定の中で、関係者の全会一致によらないものはありません。

この靈感による方式に従い、教会は妨げられることなく前進します。教会の統治と預言者としての^{たまもの}賜物の行使は、使徒としての権能を持ち、全ての神権の鍵を持って行使する人々に常に委ねられます。¹¹

5

総大会で、わたしたちは預言者、聖見者、啓示者から 靈感による勧告を受ける

〔総〕大会でのメッセージについて思い巡らしながら、わたしは次のように自問してきました。「人々に天の御父の慈しみと祝福を味わってもらうにはどうしたらよいだろうか。」預言者、聖見者、啓示者として支持する人々とその他の中央幹部から受けた指示に従う、というのがその答えです。彼らが御^{みたま}霊の導きのもとで語った言葉を学び、何度も参照しましょう。主はこの大会で聖徒に^{みこころ}御心を示されました。¹²

総大会では、預言者、聖見者、啓示者と教会のその他の中央幹部によって、靈感による勧告がたくさん与えられます。現代の預言者たちは、教会機関誌の大会号を定期的に読むことを個人学習の重要な一部とするよう勧めています。このようにして、総大会はある意味で教義と聖約の補足または続編となるのです。¹³

総大会は霊が再び力を得る時です。神が生きておられて忠実な人々を祝福してくださるという知識と証^{あかし}が増し、確かなものとなる時です。また、イエスがキリストであり、生ける神の御子であられるという理解が、主に仕え、主の戒めに従おうと決意する人々の心に焼き付けられる時でもあります。大会は、生活での振る舞いについて指導者から靈感による指示を受ける時です。もっと良い夫や妻、父親や母親、もっと従順な息子や娘、もっと良い友人や隣人になろうと奮起し、決意する時です。……

今日ここ〔総大会〕に集っているわたしたちは、救い主の福音について特別な、また独特の知識を持っています。わたしたちに初めて接する人が最も驚くことは、わたしたちが自分たちは神の生ける預言者によって導かれていると世界に宣言していることです。主と話し、主から靈感と啓示を受ける預言者がいるのです。¹⁴



「総大会は霊が再び力を得る時です。……知識と証が増し、確かなものとなる時です。」

研究とレッスンのための提案

質問

- 第1項にあるハンター大管長の教えを読んでください。神がそれぞれの神権時代に預言者を与えてこられたのはなぜでしょうか。預言者の役割にはどのようなものがあるでしょうか。子供たちが預言者について証^{あかし}を得られるよう、わたしたちはどのように助けることができるでしょうか。
- 生ける預言者がいることで、わたしたちは今日どのような祝福を受けているでしょうか（第2項参照）。神から生ける預言者へと「啓示〔が〕尽きることなく絶えず流れてい〔る〕」ことは、なぜ重要なのでしょうか。
- わたしたちが「霊的な飢饉^{ききん}」の時代に生きていることを示す証拠として、どのようなものがあるでしょうか（第3項参照）。あなたは生ける預言者の声に耳を傾けることによって、これまでどのような祝福を受けてきましたか。

- ハンター大管長は「教会全体に対する啓示を受け〔る〕権限があるのは大管長だけです」と教えています（第4項）。このことを知っておくとよいのはなぜでしょうか。預言者に従うならば「間違ふこと〔がない〕」ことをわきまえておくとよいのはなぜでしょうか。
- 自分の生活の中で総大会がどのくらい重要なものか、よく考えてください（第5項参照）。あなたはこれまで、総大会で学んだどんな教えから祝福を受けてきましたか。自分の生活や家庭の中で総大会の影響力をさらに豊かに受けるにはどうすればよいでしょうか。

関連聖句

アモス 3：7；マタイ 10：41；ルカ 1：68－70；ジョセフ・スミス訳 2 ペテロ 1：20－21；モーサヤ 8：15－18；教義と聖約 1：14－16, 37－38；21：1, 4－6；43：2－6；107：91－92

教える際のヒント

本章のテーマについて他の宗教の人々が抱くと考えられる疑問にはどんなものがあるか、クラス全体で考え、それを幾つか挙げてもらってホワイトボードに書きます。クラスの人たちに、本章を読んでここに書いた疑問に対する答えを探してもらい、見つけたことを発表してもらいます。

注

1. 「尊く、大いなる約束」『聖徒の道』1995年1月号, 8－9 参照
2. Conference Report, 1963年10月, 99
3. 「だれも書き加えたり、取り除いたりしてはいけない」『聖徒の道』1981年9月号, 106－107 参照
4. “Spiritual Famine,” *Ensign*, 1973年1月号, 65
5. 「だれも書き加えたり、取り除いたりしてはいけない」, 107 参照
6. *The Teachings of Howard W. Hunter*, クライド・J・ウィリアムズ編 (1997年), 196
7. “Spiritual Famine,” 64-65
8. Conference Report, 1963年10月, 101
9. *The Teachings of Howard W. Hunter*, 225
10. *The Teachings of Howard W. Hunter*, 223
11. 「尊く、大いなる約束」, 8 参照ハンター大管長は大管長であったときにこれらの重要な原則について語った。
12. 「神の御子に従う」『聖徒の道』1995年1月号, 97 参照
13. *The Teachings of Howard W. Hunter*, 212
14. 「総大会に寄せて」『聖徒の道』1982年4月号, 19－20 参照



「イエス・キリストの福音……は全世界の人々のための教えであり、全てを含むメッセージです。」



福音を全世界に携えて行く

「わたしたちは人の魂を救い、キリストのもとに来る
ように人々を招〔く〕業に携わっています。」

ハワード・W・ハンターの生涯から

1979年、当時十二使徒定員会会員だったハワード・W・ハンター長老は次のように述べた。「近い将来、全ての国民に福音を広めることに関して、過去から現代に至るどの神権時代にも見られなかったこの上ない偉大な発展が見られると、わたしは確信しています。……わたしたちは将来、今を振り返って、ルカが記したと同様に、『こうして神の言は、ますますひろま〔った〕』と記すことができるようになるでしょう。わたしはそう確信しています（使徒6:7）。」¹

ハンター長老がこの言葉を語った頃、東ヨーロッパ諸国の大半やソビエト連邦では政治的な規制のために宣教師が福音を教えることは禁じられていた。それから10年以内に、そうした規制の多くが撤廃されていった。1989年から1990年にかけて、30年近くにわたって東西ドイツを分断してきたベルリンの壁が取り壊された。当時、十二使徒定員会会長を務めていたハンター大管長は、この歴史的な出来事や、世界で起こっていたその他の変化について次のように話している。

「最近、ベルリンの壁に大きな関心が向けられています。言うまでもなく、わたしたちは皆、あの壁の崩壊を見られたことに喜びを覚えています。それは新たに自由が見いだされたことを表しています。……世界中に急速に広まっている和解の精神を理解し、その意味を福音の観点から考えるとき、わたしたちは次のように自問しなければなりません。『これは全て神の計画と神の時刻表に従って行われており、主の御手によって、福音を教えるために政治的な障壁が取り除かれ、これまで難攻不落であった壁が破られているのではないだろうか。』」²

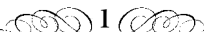
ハンター大管長は、これらの変化によって教会員に重要な責任がかかってくることになると感じた。伝道活動に門戸を開く国が増えるにつれて、福音を全

世界に携えて行く務めを果たすためにさらに多くの宣教師が必要になると、大管長は述べている。³

国籍や信条にかかわらず神の全ての子供たちに手を差し伸べたいというハンター大管長の熱意は、自身の中東における働きにもはっきりと表れていた。大管長会はハンター長老に、オーソン・ハイド記念公園とブリガム・ヤング大学近東研究エルサレムセンターの建設の監督など、エルサレムにおける数々の重要な任務を与えた。この地域では伝道活動は認められていなかったが、ハンター大管長はユダヤ人ともアラビア人とも、一緒に働いた人々との間にいつまでも続く友情を築いた。「イエス・キリストの福音の目的は、最も高い次元の愛と一致と兄弟愛をもたらすことです」と、ハンター大管長は述べている。⁴

世界中の神の子供たちとともに働くときのハンター大管長のメッセージは、いつも同じであった。「わたしたちは皆さんの兄弟です。国民や国籍に優劣があるとは考えていません。わたしたちのメッセージをよく調べ、わたしたちの友情を受け入れてくださるよう、全ての皆さんにお願いします。」⁵

ハワード・W・ハンターの教え



回復された福音は全ての人のためのものであり、全ての人は同じ神の子供であるという信念に裏打ちされている

わたしたちはイエス・キリストの福音を教え、その儀式を執行していますが、この福音は全世界の人々のための教えであり、全てを含むメッセージです。限られたものでも、一部の人に向けられたものでも、歴史や流行に左右されるものでもありません。その真髄は普遍的で永遠に真実です。そのメッセージは全世界に向けられたものであり、地上のあらゆる国民、部族、国語の民、民族の本質的な必要を満たすためにこの末日に回復されました。兄弟愛を築き、真理を保ち、救いをもたらすために、初めにあったのと同じ状態で再び確立されたのです。……

福音のメッセージによれば、全人類は唯一の神から生まれた一つの家族です。人は皆、肉体の系譜をたどれば地上の最初の先祖であるアダムとエバに行きつきます。さらにまた、霊の受け継ぎにおいては永遠の父なる神に至るのです。ですから、地上にいる人は皆、文字どおり神の家族の兄弟姉妹なのです。

神が全人類の御父であられることを理解し、認めるなら、人は皆、神が自分を心に掛けてくださっており、人類は皆兄弟であることがよく分かるようになるでしょう。これは、人種や言語、経済的または政治的な立場、教育の程度、文化的背景に基づくあらゆる重苦しい因習とは正反対の、命と愛のメッセージで

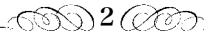
す。なぜなら、わたしたちの霊は皆、同じ家系に属しているからです。わたしたちは神の血統の者です。一人一人が神の霊の子供なのです。

この福音に基づく物の見方には、偏狭な考え方が入り込む余地はありません。預言者ジョセフ・スミスは次のように述べています。「愛は神の主要な特質の一つであり、神の息子となることを望む人々が示さなければならないものです。神の愛で満たされている人は、自分の家族に祝福を与えるだけでは満足せず、全人類に祝福を与えたいと望み、全世界を歩き回ります。」〔『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』426〕……

回復された福音は地上の全ての人に対する神の愛のメッセージであり、全ての人は同じ神の子供であるという信念に裏打ちされています。この主要な信仰のメッセージは、1978年2月15日付けの大管長会の声明の中で見事に言い表されています。

「古代と現代の啓示に基づいて、末日聖徒イエス・キリスト教会は次のキリスト教の教義を喜びをもって教え、宣言します。すなわち、全ての男女は兄弟姉妹です。この世で同じ先祖を持つ血族だというだけでなく、文字どおり永遠の御父の霊の子供なのです。」〔Statement of the First Presidency Regarding God's Love for All Mankind, 1978年2月15日付〕

末日聖徒は自分たちと同じ信仰を持たない人に対しても好意的に受け入れて接します。わたしたちは彼らが文字どおりわたしたちの兄弟姉妹であって、同じ天の御父の息子、娘であると信じています。わたしたちは神にまでさかのぼる共通の家系に属しているのです。⁶



教会には全ての国民に福音を教えるという使命がある

地上における神の王国である教会には、全ての国民に対する使命があります。「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、

あなたがたに命じておいたいっさいの事を守るように教えよ。」(マタイ 28: 19 - 20) 主の口から発せられたこの言葉に国境はなく、いずれかの人種や文化に限定されたものでもありません。一つの国民が別の国民以上に偏愛されることはありません。勧告は明確です。「すべての国民を弟子とし〔なさい〕。』……

わたしたちは主の教会の会員として、個人的な偏見を超越した物の見方をする必要があります。御父は確かに人を偏り見ない御方であるという、至高の真理を見いだす必要があります。ときどき、わたしたちはある国の人々だけに限定

し別の国の人々を除外することで、他の国の兄弟姉妹を不当に傷つけてしまうことがあります。……

多くの息子を持つ父親を想像してみてください。その息子たちにはそれぞれ異なる気質、能力、霊的な特質があります。父親はある息子を別の息子ほど愛さないということがあるでしょうか。おそらく最も霊的な資質に欠ける息子について、父親は他の息子以上に注意を寄せ、祈り、嘆願することでしょう。だからといって、他の息子たちをそれほど愛していないということになるでしょうか。天の御父が御自分の子供たちの中で、ある国の人々だけを他の国の人々以上に愛しておられると思いますか。わたしたちは教会員としてニーファイの興味深い質問を思い起こす必要があります。「あなたがたは、国民は数多くあることを知らないのか。」(2 ニーファイ 29:7) ……

あらゆる国の兄弟姉妹に向けて、わたしたちは厳肅に証^{あかし}します。わたしたちの時代において、神は語られ、天の使者たちが遣わされ、神は預言者ジョセフ・スミスに御自分の思いと望みを明らかにされました。……

御父は御自分の全ての子供たちを愛しておられるのですから、わたしたちは全ての人を愛さなければなりません。あらゆる人種や文化や国籍の人々を愛し、彼らに福音の原則を教えて、彼らが福音を受け入れ、救い主が神であられることを知ることができるようにしなければなりません。⁷

兄弟愛を築き、啓示された真理を教えるための謙虚な努力をしていく中で、ジョージ・アルバート・スミス大管長が愛の心をもって述べた次のことを世の人々に申し上げます。

「わたしたちは皆さんが手にしている真理と徳を取り上げに来たのではありません。皆さんの欠点を探したり、批判したりするために来たのでもありません。……皆さんが持つておられる良いものは全て持ち続けてください。そのうえで、皆さんが一層幸福になるため、そして天の御父のみもとに行く備えができるよう、さらに良いものを提供させていただきたいのです。」⁸

わたしたちは人の魂を救い、キリストのもとに来るように人々を招き、バプテスマの水へと導く業に携わっています。それによって、彼らが永遠の命に至る道を進み続けられるようにするのです。この世はイエス・キリストの福音を必要としています。福音は世に平安をもたらす唯一の方法を提供しています。⁹

イエス・キリストの教会の会員として、わたしたちは全ての真理を一つに集めようと努めています。愛と理解の輪を全世界の人々の中に広げようと努めています。わたしたちはこのように平和と幸福を、キリスト教の世界だけでなく全人類の間に確立しようと努力しています。……

ジョセフ〔・スミス〕を通して設立された末日聖徒イエス・キリスト教会は、今や世界の宗教です。それは単に現在世界中に会員がいるからというだけで



「わたしたちは人の魂を救〔う〕業に携わっています。」

はありません。この教会には、全人類の必要を満たすために回復された、全ての真理を受け入れることを基本にした幅広い包括的なメッセージがあるというのが、そのおもな理由です。

……わたしたちはこの愛と希望のメッセージを全世界の人々に送ります。全ての真理の源である神のもとに来てください。神はその子供たちに、預言者を通して引き続き語っておられます。神のメッセージに耳を傾けてください。神はあらゆる国民、部族、国語の民、民族に永遠の福音を宣べ伝えるために引き続き御自分の僕たちを遣わしておられます。来て、末日聖徒イエス・キリスト教会が皆さんの前に用意した食卓に着いてください。わたしたちとともに、それを与えてくださった良い羊飼いに従うように努めましょう。¹⁰

3

イエス・キリストの贖罪の祝福を経験した人には、 主について証する義務がある

贖罪と伝道活動にはどのような関係があるのでしょうか。わたしたちは生活の中で贖罪の祝福を経験するたびに、〔他〕の人々の幸せに思いをはずすにはいられなくなります。

モルモン書にはこの原則を示す例がたくさん出てきます。リーハイは、贖罪の祝福にあずかることの象徴として木の実を食べたとき、「わたしは、家族にも食べてほしいと思い始めた」と言っています（1ニーファイ8：12）。エノスはイエス・キリストを信じる信仰のゆえに改心を経験して罪の赦しを受けたとき、「同胞であるニーファイ人の幸いを願う気持ちがわいてきた」と言っています（エノス1：9）。その後、エノスはニーファイ人にとって情け容赦のない敵であったレーマン人のために祈りました。それからモーサヤの4人の息子たちであるアンモン、アロン、オムナー、ヒムナイの例があります。彼らは贖罪によって罪の赦しを受けた後、レーマン人をキリストのもとに導くために長年にわたって彼らの中で働きました。記録には、彼らは誰であろうと人が滅びることを考えると耐えられなかったとあります（モーサヤ28：3）。

聖約を交わした人が他の人々に福音を分かち合いたいと望むこの気高い模範を最もよく示しているのが、息子アルマの例です。その証を読みしたいと思います。……

「……そのときからまさに現在まで、わたしは絶えず働き続け、人々を悔い改めに導き、わたしが味わった非常な喜びを味わわせ、彼らも神から生まれ、聖霊に満たされるようにしてきた。」〔アルマ36：24。アルマ36：12 - 23も参照〕

個人が改心したかどうかを量る偉大な指標は、福音を人々に分かち合いたいという望みです。主が全ての教会員に宣教師になるという義務を授けられたのはそのためです。

人がバプテスマを受けて教会に入るときに引き受ける聖約を聞いてください。

「あなたがたは神の羊の群れに入って、神の民と呼ばれたいと願っており、重荷が軽くなるように、互いに重荷を負い合うことを望み、

また、悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰めることを望み、また神にあがな贖われ、第一の復活にあずかる人々とともに数えられて永遠の命を得られるように、いつでも、どのようなことについても、どのような所にいても、死に至るまでも神の証人になることを望んでいる。」（モーサヤ18：8 - 9）

わたしたちはいつでも、どのような所にいても、死に至るまでも神の証人になるのです。その聖約を、わたしたちはせいさん聖餐の間、キリストの御名を受けると聖約するときに更新します。

伝道活動は、わたしたちが主の御名を受けの一つの大切な方法です。救い主は、もし十分に固い決意をもって主の御名を受けたいと願うならば、わたしたちは全世界に出て行って全ての造られたものに主の福音を宣べ伝えるために召されると言っておられます（教義と聖約18：28参照）。……

贖罪の祝福にあずかっているわたしたちには、救い主である主について忠実に証する義務があります。……福音を他の人々に分かち合うようにという呼びかけは、天の御父の子供たちと救い主に対するわたしたちの深い愛と、救い主がわたしたちのために行ってくださったことを大切に思う気持ちの表れです。¹¹

4

主の助けがあれば、わたしたちは福音を分かち合う際の あらゆる障害を乗り越えることができる

東ヨーロッパ……や世界のその他の多くの地域で壁が崩壊するのに伴い、全地に福音を携えて行くという神から与えられた務めを果たすためにますます多くの宣教師が必要になることは確かです。わたしたちはそのような状況に応じる準備ができていますか。

終わりの時のこの偉大な伝道の業における新たな要求に応じるために、おそらくわたしたちの中には（特に子育てを終えている年長の世代には）、自分自身の思いの中に築かれている「壁」を崩す必要がないかどうか、よく吟味して判断する必要のある人がいるのではないのでしょうか。

例えば、多くの夫婦や独身の会員が伝道に出るのを阻んでいるように思われる「居心地良さの壁」はどうでしょうか。一部の会員の伝道に出る能力を低くしている負債という「経済的な壁」や、「孫の壁」、「健康の壁」、「自信のなさの壁」、「独りよがりの壁」、「背きの壁」、あるいは恐れや疑いや現状への満足といった壁はどうでしょうか。主の助けがあればそうした壁を崩せることを、一瞬でも本当に疑う人がいるのでしょうか。

過去の神権時代と異なり、この終わりの時に生まれたわたしたちには、福音を全世界に携えて行く特権があります。この人生において、それ以上に大いなる召しはありません。自分で築いた壁の後ろに隠れて満足しているなら、受けるはずの祝福を自ら捨てることになります。現代の啓示の中で、主はその大きな必要性を説明しておられます。

「見よ、畑はすでに白くなり刈り入れを待っているからである。見よ、勢力を尽くして鎌を入れる者は、滅びることなく自分に救いをもたらすように蓄えるのである。」（教義と聖約4：4）

主は続けて、その同じ啓示の中で、良い宣教師となるのに必要な条件を説明しておられます。自分で築いた壁の巨大な門の前に立つわたしたちの弱さや不安を、主は十分に御存じです。わたしたちが自分の役割を果たしさえすれば、あらゆる障害を乗り越えるための神の助けが確かに与えられることを、主は次の簡潔な約束によって確認してくださっています。「求めなさい。そうすれば、

与えられるであろう。たたきなさい。そうすれば、開かれるであろう。」(教義と聖約4:7)

どうか主がわたしたちを祝福してくださって、わたしたちの思いの中に壁があるために得られるはずの祝福を逃してしまうことがありませんように。¹²

主はこの地上での務めの間、招きとして、またチャレンジとして、ある呼びかけを繰り返されました。ペテロとアンデレに向かい、キリストは次のように言われました。「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう。」(マタイ4:19) ……

これまでの預言者たちは、有能でふさわしい全ての若い男性は専任宣教師として奉仕するべきであると教えてきました。わたしも今日、その必要性を強調します。また、有能な成熟した夫婦が伝道地で奉仕することも大いに必要とされています。イエスは弟子たちに言われました。「収穫は多いが、働き人が少ない。だから、収穫の主願って、その収穫のために働き人を送り出すようにしてもらいなさい。」(ルカ10:2)¹³

研究とレッスンのための提案

質問

- わたしたちは皆、神の子供であるという真理に基づき、福音は全ての人のためのものであると、ハンター大管長は教えています(第1項参照)。この教えについて深く考えてください。福音を分かち合うとき、一人一人が文字どおり自分の兄弟姉妹であることを心に留めておくと、どのような助けとなるでしょうか。
- 第2項にあるハンター大管長の教えから、天の御父が御自分の子供たちに対して抱いておられるお気持ちについて、どのようなことが分かるでしょうか。今以上に全ての人を愛し、福音を分かち合うために、あなたにはどのようなことができるでしょうか。
- 「しよくごい贖罪と伝道活動にはどのような関係があるでしょうか」というハンター大管長の質問に、あなたならどのように答えますか(第3項参照)。どうすれば福音を他の人と分かち合いたいという望みが強くなるでしょうか。誰かに福音を分かち合ったことで、または誰かが福音を分かち合ってくれたことで、あなたはこれまでどのような祝福を受けてきましたか。
- 第4項を研究した後、あなたが伝道活動の祝福を受けるのを阻んでいる「壁」について考えてください。その障害を乗り越える方法について話し合ってください。

関連聖句

アモス 9:9; 2 ニーファイ 2:6-8; モーサヤ 28:1-3; アルマ 26:37;
教義と聖約 18:10-16; 58:64; 68:8; 88:81; 90:11; 123:12; ジョセフ・スミス-マタイ 1:31

教える際のヒント

聖霊は一人あるいは複数の生徒に導きを与え、他の生徒が聞く必要のある意見を述べるよう促されることがある。あなたは御霊^{みたま}の導きのままに生徒の意見を求める必要がある。自分から意見を言おうとしていない生徒に尋ねてみるよう導かれることもある。」(『教師, その大いなる召し』 63)

注

1. "All Are Alike unto God," *Ensign*, 1979年6月号, 74
2. "Walls of the Mind," *Ensign*, 1990年9月号, 9-10
3. "Walls of the Mind," 10参照
4. "All Are Alike unto God," 74
5. "All Are Alike unto God," 74
6. 「福音-全世界の人々への教え」『聖徒の道』1992年1月号, 20, 21参照
7. "All Are Alike unto God," 72-74
8. 「福音-全世界の人々への教え」21参照。ジョージ・アルバート・スミスの言葉。『歴代大管長の教え—ジョージ・アルバート・スミス』151-152も参照
9. 「神の御子に従う」『聖徒の道』1995年1月号, 98参照
10. "Come to the God of All Truth," *Ensign*, 1994年9月号, 73
11. "The Atonement of Jesus Christ" (1988年6月24日, 伝道部会長セミナーにおける説教), 4-7, 教会歴史図書館, ソルトレーク・シティー。The *Teachings of Howard W. Hunter*, クライド・J・ウィリアムズ編 (1997年), 248-249も参照
12. "Walls of the Mind," 10
13. 「神の御子に従う」98参照



「^{じゅうぶん}十分の一を納めると信仰が強められ、^{あかし}靈性と靈的な能力が増し、証が揺るがぬものになります。」



じゅうぶん

什分の一の律法

「什分の一の律法の証^{あかし}は、
この律法に従うことによって得られます。」

ハワード・W・ハンターの生涯から

ノハワード・W・ハンターとクレア・ジェフスが結婚する少し前、ハワードは神殿推薦状を書いてもらうためにビショップのところに行った。この面接でビショップから、今の収入で妻子を養えるのかと聞かれ、ハワードは驚いた。ハワードはそのときのことをこう語っている。「自分にどのくらいの収入があるか話すとビショップは、わたしの納めていた什分の一の金額を基に推測して、妻を食わせていけるのかどうか疑問に思ったのだと言いました。」

そのときまでハワードは、什分の一を完全に納めることの大切さを理解しておらず、完全には納めていなかったのである。こう説明している。「わたしが親元にいた頃、父は教会員ではありませんでした。什分の一が家庭で話題になることなどありませんでしたから、わたしは、それがどれほど大切なものか考えたことがなかったのです。」

ビショップとの会話は続き、ビショップは「思いやりのある話し方で…… 什分の一の律法の大切さをわたしに教えてくれました。以後什分の一を完全に納めると言う、ビショップは面接を続け、推薦状を書いて署名してくれたので、わたしはほっと胸をなで下ろしました。」

この面接についてクレアに話したところ、クレアはそれまでずっと什分の一を完全に納めてきたと言った。「わたしたちは結婚しただけでこの律法を守ると心に決め、何よりも先に什分の一を納めることにしたのです」とハワードは語っている。¹

ハワード・W・ハンターの教え

1

じゅうぶん

十分の一の律法という主の定義は単純である

〔十分の一の〕律法とは、単純に「全利益の十分の一を納める」ことであると述べられています（教義と聖約 119：4）。利益とは、利潤や報酬、収入のことです。雇用されている人の給料や事業の利潤、収穫物や生産物の収入、その他のものから生じる収益です。主は、これは昔と同じく、「とこしえに」教会員にとっての永続的な律法であると言われました。²

主の戒めと律法が全てそうであるように、〔十分の一の律法は〕わたしたちにほんの少しの信仰があれば、守るのは簡単です。要するに「小数点を左に1桁動かさない」と主は言っておられるのです。それが十分の一の律法です。ごく単純な律法なのです。³

2

じゅうぶん

十分の一の律法は時の初めからあり、今も続いている

「十分の一」という言葉が聖書で最初にはっきりと出てくるのは、旧約聖書の最初の書です。アブラムは……サレムの王であり、いと高き神の祭司であるメルキゼデクに会いました。メルキゼデクはアブラムを祝福し、アブラムは「彼にすべての物の十分の一を贈〔り〕」ました（創世 14：20）。

同じ創世記の少し先の章ではヤコブが、「あなたがくださるすべての物の十分の一を、わたしは必ずあなたにささげます」と言って、ベテルで誓いを立てています〔創世 28：20 - 22〕。

3度目には、レビの律法に関連して出てきます。主はモーセを通してこう言われました。

「地の十分の一は地の産物であれ、木の実であれ、すべて主のものであって、主に聖なる物である。」（レビ 27：30）

十分の一はレビの律法の下で、生活費としてレビ族に与えられ、レビ族は同様に、受け取ったものについて十分の一を納めるよう命じられていました。主がモーセに教えられた以下の言葉から、そのことが分かります。

「レビびとに言いなさい、『わたしがイスラエルの人々から取って、嗣業として与える十分の一を受ける時、あなたがたはその十分の一の十分の一を、主にささげなければならない。』（民数 18：26）

ここには、什分の一の律法はレビの律法の一部であり、全ての民が納めるべきものであることが、はっきりと述べられています。レビの民ですら、受け取った什分の一についても什分の一を納めるよう命じられていたのです。

什分の一の律法はレビ族のみの制度だという立場を取る人もいますが、歴史を見ると、これが昔も今も普遍的な律法であることは、明らかです。什分の一は、モーセの律法の基本でした。時の初めから存在しており、古代エジプトの律法にも、バビロニアにもあり、聖書の歴史的記述の各所に出てきます。預言者アモスも〔アモス4:4 参照〕、エルサレムの城壁を建て直す命を受けたネヘミヤもそれに言及しています〔ネヘミヤ10:37-38;12:44;13:5, 12 参照〕。その後間もなく、マラキが国民の信仰と士気を立て直すという、さらに大きな業に取りかかります。マラキは名ばかりの信仰を標榜する人々の貪りと闘って類いまれな努力をする中で、什分の一を納めないのは神に対する罪であると、激しく彼らを非難しました。

「人は神の物を盗むことをするだろうか。しかしあなたがたは、わたしの物を盗んでいる。あなたがたはまた『どうしてわれわれは、あなたの物を盗んでいるのか』と言う。十分の一と、ささげ物をもってである。

あなたがたは、のろいをもって、のろわれる。あなたがたすべての国民は、わたしの物を盗んでいるからである。

わたしの宮に食物のあるように、十分の一全部をわたしの倉に携えてきなさい。これをもってわたしを試み、わたしが天の窓を開いて、あふるる恵みを、あなたがたに注ぐか否かを見なさいと、万軍の主は言われる。」(マラキ3:8-10) ……

什分の一の律法の大切さを再度強調する、このマラキの言葉で旧約聖書は終わっています。このことから、時の初めから存在した什分の一の律法が廃止されていなかったことが分かります。したがって、新約聖書の神権時代の幕開けにも、マラキのこの勧告は有効だったのです。……

今の神権時代に福音が回復されて間もなく、主は末日の預言者を通して御自身の民にこの律法を定義する啓示を与えられました。……

「その後、このように什分の一を納めた者は、毎年彼らの得る全利益の十分の一を納めるのである。そして、これはわたしの聖なる神権のために、とこしえに彼らにとっての永続的な律法となる、と主は言う。」(教義と聖約119:4)⁴

3

じゅうぶん

什分の一を納めることで、わたしたちは贈り物をし、 債務の支払いもしている

什分の一は、神がその子供たちにお与えになった律法ですが、これを納めるかどうかは、完全に各人の意思に委ねられています。この点については、安息日の律法や、その他の主の律法と何ら変わるところがありません。わたしたちはこの什分の一の律法の一部に従うことも、全てに従うことも、またはこの律法を拒むこともできるのです。従うかどうかはわたしたちの意思に委ねられています。納めないからといって、この律法がなくなるわけでも無効になるわけでもありません。

什分の一を納めるかどうかは本人の意思に委ねられているのだとしたら、それは贈り物なのでしょうか、それとも、債務の支払いなのでしょうか。この二つには根本的な違いがあります。贈り物は本人の意思で、見返りを求めずにお金や物を渡すことであり、無償の行為です。贈り物をする義務は、誰にもありません。什分の一が贈り物であるとしたら、わたしたちは好きなときに好きなものを贈ることができますし、贈らないという選択をすることもできます。これでは、わたしたちが通りがかりにお金を投げ与える道端の物乞いと、天の御父とを同じレベルに置くことになってしまいます。

主は什分の一の律法を定めておられます。そして律法であるがために、主を愛するなら、そして戒めを守って祝福を得たいと望むならば、これを守るとは、わたしたちの義務になります。この意味で、什分の一は債務なのです。借金があるという理由で什分の一を納めない人は、自分は主に対しても借金があるのではないかと自分に問うてみるべきです。主は言われました。「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。」(マタイ6:33)

わたしたちは同時に西と東に歩くことはできません。神と富とに兼ね仕えることはできないのです。什分の一を納めることを拒む人は、本気で什分の一の律法を守ろうとしたことのない人です。もちろんこれを守るには何らかの代価を払う必要があります。福音のどんな律法もどんな原則も、守るためには行動し、考え、努力しなければなりません。……

什分の一を納めることで、わたしたちは贈り物をし、債務の支払いもしていると言えるでしょう。債務とは主に対する債務です。贈り物とは、神の王国を築き上げるために贈る同胞へのプレゼントです。宣教師による伝道や教会の教授プログラム、優れた教育システム、礼拝の家を建てる建築プログラムをよく考えながら見るならば、什分の一を納めるのは重荷ではなく、すばらしい特権で



じゅうぶん
「什分の一を納めるのは重荷ではなく、素晴らしい特権で〔す〕。」

あることが分かるでしょう。わたしたちの納める什分の一を通して、福音の祝福を多くの人と分かち合うことができるのです。⁵

4

主にささげ物をするためには価値あるものを犠牲にしなければならない

サムエル記下第24章18節から25節を読むと、ダビデは何の代価も払わずに主にささげ物をしようとはしなかったことがわかります。それは、贈り主が何らかの価値ある代価を払うのでなければ主へのささげ物としてふさわしくないことをダビデが理解していたからに他ならないのです。

受けるよりは与える方が幸いである、とキリストは言っておられますが〔使徒20：35参照〕、何の代価も払わなくてよい場合にのみ与えようとする人もいます。このような態度は、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て……なさい」とおっしゃった主の教えに反しています（マタイ16：24）。

代価を払わなければならないからという理由で什分の一の律法を守らない人もいます。これは、何らかの代価を払うのでなければ主にささげ物はしないと考えたダビデと正反対です。什分の一を納めない人は、什分の一の律法を

貫く偉大な道徳の原則を見落としています。この律法も、この律法に従う理由も理解していないのです。⁶

5

じゅうぶん
什分の一を納めると偉大な祝福が注がれる

主はこの〔什分の一〕律法をお与えになりました。この律法に従えばわたしたちは榮えますが、この律法を守らない生き方を選ぶならば、物事はうまくいかなくなります。わたしは各地の教会を訪れて、什分の一を納めるとどうなるかを見てきました。その結果、什分の一は重荷ではなく偉大な祝福なのだという結論に達しました。⁷

什分の一を正直に納めましょう。主から啓示され、古代の預言者から現代の預言者に至るまで忠実な者たちが実践してきたこの永遠の律法は、生活の中で主を第一に置くことをわたしたちに教えています。わたしたちは初期の聖徒たちの場合のように家や命を犠牲にするよう求められることはないかもしれません。今日のわたしたちのチャレンジは、利己主義を克服することです。什分の一を納めるのは主を愛しているからであって、納めるだけの財力があるからではありません。主が本当に「天の窓を開いて」(マラキ3:10)、忠実な者に祝福を注いでくださると、信じることができます。⁸

わたしたちは、主が与えてくださった良い物の一部をお返しするという原則に従っており、この一部のことを「什分の一」と呼んでいるのです。什分の一を納めるかどうかは、……完全に本人の意思に委ねられています。納めることもできれば、納めないでおくこともできるのです。什分の一を納める人は、納めない人には分からない祝福を受けます。⁹

預言者の兄であり祝福師であった夫ハイラム・スミスを亡くした妻のメアリー・フィールディング・スミスは、筋金入りの開拓者の母親〔でした〕。……ある年の春、じゃがいもの貯蔵室を家族で開けると、メアリーは最良のじゃがいもを一抱え取り出すよう息子たちに言いました。什分の一管理事務局に持っていくためです。

事務所の階段の所で、メアリーは事務員に迎えられました。その事務員は、息子たちが荷を下ろし始めるのを見ると、〔それを遮って〕こう言いました。「スミス夫人、あなたが什分の一を納めなければならないなんて、あんまりです。」きっと、メアリーの試練と犠牲を思い出していたのでしょう。……彼は什分の一を納めようとしているメアリーをたしなめ、それは賢明でないし分別のあることでもないと言いました。……

すると、夫に先立たれたこの小柄な婦人は、思い切り背伸びしてこう言ったのです。「ウィリアムさん、あんまりなのはあなたの方です。あなたはわたしから

祝福を取り上げようとなさるのですか。什分の一を納めなければ、主はわたしに祝福を下さらないでしょう。わたしが什分の一を納めるのは、それが神の律法だからというだけではありません。そうすることによって祝福が得られるからです。什分の一やその他の律法を守れば、豊かな恵みを受け、家族を養っていけると、わたしは信じているのです。」(ジョセフ・フィールディング・スミス, *Life of Joseph F. Smith* [ソルトレーク・シティー, 1938年] 158 - 159)¹⁰

什分の一の律法は、正確に計算して機械的に払えばよいというものではありません。主は、薬味の10分の1を機械的に納めるだけで霊的な事柄を見逃していたパリサイ人たちを叱責されました〔マタイ 23:23 参照〕。主を愛するがゆえに完全に自分の意思と信仰で什分の一を納めるならば、わたしたちは主に近づき、主と個人的な関係を築くことができるようになります。律法主義のかせから解かれて御霊に心を動かされ、神との一体感を得るのです。

什分の一を納めると信仰が強められ、霊性と霊的な能力が増し、証が揺るがぬものになります。主の御心みこころを行っているという充足感が得られます。什分の一が運用されることによって、祝福を他の人と共有することができます。什分の一の祝福を受ける機会を自ら捨てるなど、もったいないことはできません。わたしたちは、什分の一を納めないわけにはいかないのです。什分の一を納めるかどうかによって、現在だけでなく、未来も変わってきます。わたしたちが何をどうささげるか、そして主に対する義務をどう果たすかは、永遠の未来に影響を及ぼします。

什分の一の律法の証は、この律法に従うことによって得られるのです。¹¹

研究とレッスンのための提案

質問

- 第1項の什分の一じゅうぶんの定義を復習してください。什分の一とは何でしょうか。什分の一の律法は単純だと教えたハンター大管長から、わたしたちはどんなことを学ぶことができるでしょうか。
- 什分の一の歴史に関するハンター大管長の教えから、あなたはどんなことを学びましたか(第2項参照)。なぜハンター大管長は、什分の一の律法が「昔も今も普遍的な律法である」ことをわたしたちに理解してほしいと望んだのだと思いますか。
- 什分の一を納めることによってわたしたちが「贈り物をし、債務の支払いも」していることになるのは、なぜでしょうか(第3項参照)。什分の一を納めることが主に対する愛を示すことになるのはなぜでしょうか。どうすれば什

分の一を納めることが重荷ではなく特権だと感じられるようになるでしょうか。

- 主にさげ物をするためには価値あるものを代価として払わなければなりません。なぜでしょうか。(第4項参照) 什分の一を納めるのが非常に難しい場合や納めたくない気持ちがある場合、どうすればそれを克服することができるでしょうか。
- 什分の一を納めることによって多くの祝福が得られるとハンター大管長は言っています(第5項参照)。この祝福を復習してみましょう。あなたは自分の人生でこのような祝福が注がれるのを経験したことがありますか。それはどのようなときだったでしょうか。

関連聖句

アルマ13:15; 教義と聖約64:23; 104:14-18; 119章; 120章;
『聖句ガイド』「什分の一」の項

学ぶ際のヒント

章を初めて読むときには、ざっと目を通すか、または見出しだけを見て、内容の概略をつかむとよいでしょう。次に、時間を取って、この章を繰り返し読みます。ゆっくりと、深く考えながら読んでください。また、研究とレッスンのための質問を念頭に置いて、各項を読んでもいいかもしれません。このようにすると、深い意味が分かり、学んだことを応用できるようになるでしょう。

注

1. エレノア・ノウルス, *Howard W. Hunter* (1994年) 80-81で引用
2. *The Teachings of Howard W. Hunter*, クライド・J・ウィリアムズ編, (1997年) 105。Conference Report, 1964年4月, 35も参照
3. *The Teachings of Howard W. Hunter*, 105
4. Conference Report, 1964年4月, 33-35
5. Conference Report, 1964年4月, 35-36
6. *The Teachings of Howard W. Hunter*, 106。Conference Report, 1964年4月, 33も参照
7. *The Teachings of Howard W. Hunter*, 105
8. *The Teachings of Howard W. Hunter*, 105
9. “Dedication of Goteborg Chapel” (1967年9月10日, スウェーデン, イェーテボリで行われた説教) 1, 教会歴史図書館, ソルトレーク・シティー
10. ハワード・W・ハンター, *That We Might Have Joy* (1994年), 136-137
11. Conference Report, 1964年4月, 36



聖文——学習の中で最も有益なもの

「わたしたちが皆、…… 神聖な聖文をたゆまず研究することによって、天の御父とその愛子にさらに近づくことができますように。」

ハワード・W・ハンターの生涯から

ハワード・W・ハンター大管長は聖文をこよなく愛し、熱心に研究していた。ハンター大管長の教えには標準聖典から引用した話や文章が数多く使われ、聖文への愛と研究の深さがよく分かる。特に総大会で福音の原則を教える際にはよく、聖文から少なくとも一つ、物語を選んで詳しく話し、どのように応用できるかを説明した。

例えば、断固として神に従う決意をすることについて教えるときには、ヨシエヤ、シャデラク、メシャク、アベデネゴをはじめ、旧約聖書の登場人物の中から、そのような断固とした態度を示した人々の話を引用したのである（第 19 章参照）。奉仕について教えるときにはモルモン書から例を挙げ、ほとんど称賛されることのない人の中にも、目立つ奉仕をしている人に「劣らず……よく働い [て]」いる人がいると説明した（第 23 章参照）。不穏な時代にあって心身の平安を保つことについて教えるときにも、ペテロが水の上を歩いた話など、聖句を広範囲に引用している（第 2 章参照）。^{せいざん}聖餐について教えるときには、イスラエルの子らの話と^{すきごし}過越の祭について話し、その背景が分かるようにした（第 15 章参照）。

ハンター大管長は、人がイエス・キリストの^{あかし}証を得られるようにするうえで聖文が重要な役割を果たすことを知っていたのである。そのため、救い主の教導の業や十字架上の死、復活についての聖文の記述をよく引用して教えた。次のように宣言している。

「わたしは、聖典という書庫に感謝しています。これを熱心に学べばイエス・キリストについて一層のすばらしい知識が得られるからです。主が旧約聖書、新約聖書の他に、末日聖徒イエス・キリスト教会の預言者を通してキリストの新たな証人としてモルモン書、教義と聖約、高価な真珠の聖典を与えてくださったことに、わたしは感謝しています。そのいずれも、確かに神の言葉です。これらの書は、イエスが生ける神の子、キリストであられることを証しているのです。」^{あかし}」¹



「わたしたちは皆さんが毎日、個人でも家族でも、聖文を読んで研究することを望んでいます。」

ハワード・W・ハンターの教え



聖文の学習は、わたしたちが取り組むことのできる学習の中で 最も有益なものである

全ての真理の中心にあるのは、ナザレのイエスがキリストであり、偉大なエホバであり、世の救い主であり、生ける神の独り子であられるという証^{あかし}です。これこそが、聖文の伝えているメッセージなのです。神聖な聖典の各書には永遠の父なる神と御子イエス・キリストを信じなさいという教えがあり、聖典は最初から最後の1行まで、神の御心を行い、神の戒めを守りなさいと呼びかけています。²

教会の指導者の勧告に従って聖文を読み研究すると、いろいろな恩恵や祝福があります。聖文の学習は、わたしたちが取り組むことのできる学習の中で最も有益なものです。……

聖文は神が自ら啓示された言葉の記録であり、神は聖文を通して人々に語られます。そうだとすれば、神を知り、神と人との関係を理解できるよう教えている聖文を、聖典という書庫から取り出して読む以上に有益な時間の使い方が、他にあるでしょうか。多忙な人々にとって時間は貴重です。軽薄なもの、価値のないものを見たり読んだりして何時間も浪費するのでは、時間を有効に活用していることにはなりません。³

わたしたちは皆さんが毎日、個人でも家族でも、聖文を学んで研究することを望んでいます。「聖文を調べなさい〔訳注－この文は日本語に訳されていない〕」という主の命令を軽んじてはなりません。主は「あなたがたは、聖〔文〕の中に永遠の命があると思って……いるが、この聖〔文〕は、わたしについてあかしをするものである」と言っておられるからです（ヨハネ5：39）。神から啓示された言葉を読むならば、皆さんの家庭にも皆さんの生活にも、御霊^{みたま}が注がれるでしょう。⁴

わたしたちの教会は、聖文をくまなく理解していて相互参照し、聖句に印を付け、このすばらしい標準聖典に収められている『聖句ガイド』とその他の有益な資料を使ってレッスンや話の準備を行う男女であふれていなければなりません。わたしたちがすぐには消化できないほど多くの資料があることは明らかです。確かに聖文の畑は「すでに白くなり刈り入れを待っている」のです〔教義と聖約4：4参照〕。……

聖文は神の言葉であり、時を経ても変わることなく人を啓発してくれます。この神権時代においても、他のどの神権時代においても、この聖文が、それを探求するあらゆる男女子供にとって今ほど利用しやすい形に整理されていたこと

はありませんでした。現代は、一般の会員たちが、書き記された神の言葉を世界の歴史上最も手軽に読むことのできる時代です。聖文を読まなければ、わたしたちは責任を問われることになるのは確かです。⁵

2 みこころ

聖文を研究すると神の御心が分かり、神に従うことができるようになる

福音の律法に従い、イエス・キリストの教えに従うためには、まず、その律法を理解して神の御心を確認しなければなりません。そのために一番良いのは、聖典と預言者の言葉を調べ、研究することです。そうすれば、神が人にどんなことを啓示しておられるかがよく分かるようになります。

『信仰箇条』の中には、次のように宣言している条項があります。「わたしたちは、神がこれまでに啓示されたすべてのこと、神が今啓示されるすべてのことを信じる。またわたしたちは、神がこの後も、神の王国に関する多くの偉大で重要なことを啓示されると信じる。」(信仰箇条 1:9)

神の御心は、聖文の中で明らかにされてきました。聖文を読んで真理を見いだすようわたしたちが命じられているのは、そのためです。主はオリバー・カウドリに、この真理を究明する方法を説明されました。「見よ、わたしはあなたに一つの戒めを与える。あなたは記されているものに頼りなさい。その中には、わたしの教会とわたしの福音とわたしの岩の基について、すべてのことが記されているからである。」(教義と聖約 18:3-4)

パウロは良き友であるテモテに聖文を読むよう勧め、手紙の中で次のように言っています。「[あなたは] 幼い時から、聖書に親しみ、それが、キリスト・イエスに対する信仰によって救^{すくい}に至る知恵を、あなたに与える書物であることを知っている。」そして、こう付け加えています。「聖書は、すべて神の靈感を受けて書かれたものであって、人を教え、戒め、正しくし、義に導くのに有益である。」(2 テモテ 3:15-16) ……

この教会の指導者たちは、聖典および古今の預言者の言葉を読むことを非常に強調してきました。父親と母親の皆さんには、聖文を読むようお願いしてきました。子供をきちんと教えることができるようになるためです。子供たちは、親の模範に従って聖文を読んでいます。わたしたちは家庭の夕べに聖文を学んでいます。早朝に集まって一緒に聖文を読む家族もあります。……これが、主の御心を知り、それに従えるようになるための方法なのです。⁶

神の言葉を熱心に心に留めるようにという勧告で始まり、そうすれば神のもとに行くことができるという約束で終わる聖句について、考えてみましょう。

「わたしは、今あなたがたに一つの戒めを与える。……永遠の命の言葉を熱心に心に留めるようにしなさい。

あなたがたは、神の口から出る一つ一つの言葉に従って生きなければならないからである。

主の言葉は真理であり、また真理であるものはすべて光であり、光であるものはすべて御霊^{みたま}、すなわちイエス・キリストの御霊だからである。……

そして、御霊の声を聴くすべての人は、神、すなわち父のもとに来る。」(教義と聖約 84:43 - 45, 47)

これは、神の言葉に始まり、ついには昇栄に至るすばらしい旅を表しています。「キリストの言葉はあなたがたがなすべきことをすべて告げる」のです(2ニーファイ 32:3)。⁷

神の啓示を標準とするように勧めます。それに従って生活し、何を決めるにも何をするにもそれを基準にしなければなりません。そして、不安なことや問題があったら、聖典と預言者の言葉に頼ってそれに立ち向かうのです。⁸

3

聖文を理解するには、密度の濃い学習を祈りをもって たゆまず行わなければならない

聖文について祈り、深く考える時間を現在どのくらい取っているか、よく考えるよう皆さん一人一人に勧めます。

主の僕^{しもべ}の一人として以下のことを行うよう、皆さんにチャレンジします。

1. 一人の教会員として、個人で毎日聖文を読み、深く考え、それについて祈る。
2. 家族の聖文学習を普段からきちんと行う。わたしたちは既にこれを行っている人たちを称賛し、まだ行っていない人には、即刻始めるよう勧めます。……

わたしたちが皆、さらに深く祈り、さらに御霊^{みたま}に従った生活をするよう努め、神聖な聖文をたゆまず研究することによって天の御父とその愛子^{あいし}に近づくと固く決心して前進することができますように。⁹

読み方は人によって大きく異なります。速読の人もいればのんびり読む人もいますし、時間を細切れにして読む人もいれば、一旦読みだしたが最後、読み終わるまでやめられない人もいます。しかし、聖文を深く掘り下げて研究していくと、理解するためには通り一ぺんの読み方や拾い読みでは不十分で、密度の濃い学習をしなければならないことが分かってきます。毎日聖文を勉強する人の方が、長時間勉強したかと思うとぼったり休むという人よりも、はるかに多くの収穫を得ていることは確かです。毎日勉強するだけでなく、じゃまされずに集中できる時間をきちんと取るべきです。

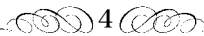
聖文の理解の窓を開くのに、祈りほど役立つものはありません。祈ることによって、わたしたちは疑問の答えを見いだすことに心を集中することができるのです。主は「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう」と言っておられます(ルカ11:9)。キリストはこの言葉によって、わたしたちが求め、捜し、たたき、そして受ける用意ができており、熱心に望むならば、聖霊がわたしたちの理解の目を開いてくださると約束しておられます。

思考を妨げる多くの煩い事を一晩休んで忘れた後、朝起きて勉強するのが一番よいと思う人はたくさんいます。しかしまた、一日の仕事や心配事が一段落した静かな夜のひとときを勉強に費やし、聖文を味わいながら平安な気持ちでその日を終える方がよいという人もいます。

おそらく大切なのは、一日のいつにするかという時間帯の問題よりも、決まった時間を勉強のために取るということです。毎日1時間聖文の勉強ができれば理想的ですが、それほど時間が取れなくても1日30分間の聖文学習を習慣的に行えば、相当な結果を得ることができます。また15分といえぼんの僅かな時間ですが、それだけでも、意義ある事柄について驚くほど知識と啓発を得ることができます。大切なのは、勉強がどんなものにも中断されることのないようにすることです。

一人で勉強することを好む人もいますが、仲間がいるとまた、有益な勉強ができます。賢い父親、母親が子供たちを集めて一緒に聖文を読み、そのすばらしい物語について考えたことを、皆の理解力に合わせて自由に話し合うとき、家族は大きな祝福を受けます。しばしば青少年や小さな子供たちが、宗教の基本的な教えに関してはっとするような理解や洞察を示すことがあります。

聖文は無計画に読むのではなく、計画をきちんと立てて読むようにするべきです。1日あるいは1週間に何ページとか、何章とかいうように予定を立てて読む人もいます。楽しむために読むのであれば、この方法にも一理あり、それはそれでよいかもしれませんが、実りある学習とは言えません。聖文は、読む量を決めるより、毎日どのくらいの時間を取って学ぶかを決める方がよいと思います。時には、わずか1節に全部の時間を使ってしまうこともあるからです。¹⁰



聖書にあるヤイロの短い話についてよく考えると、 非常に深い意味が分かるようになる

イエスの生涯や行い、教えはすらすらと読み進んでいくことができます。たいの物語は簡明で、語り口も平易です。救い主は、言葉少なに教えられました。しかし、一つ一つの言葉に意味が凝縮されており、組み合わせさせて読者に



聖文の学習は、「わたしたちが取り組むことのできる学習の中で最も有益なものです。」

鮮明なイメージを与えます。それでも、ときどきその平易な言葉に込められた深遠な思想について考えるうちに何時間も費やしてしまうことがあります。

救い主の生涯の中には、マタイもマルコもルカも記述している、ある出来事があります。その出来事の主要な箇所を、マルコはわずか2節と数語で語っています。……

「そこへ、^{かいどうづかき}会堂司のひとりであるヤイロという者がきて、イエスを見かけるとその足もとにひれ伏し、

しきりに願って言った、『わたしの幼い娘が死にかかっています。どうぞ、その子がなおって助かりますように、おいでになって、手をおいてやってください。』

そこで、イエスは彼と一緒に出かけられた。」(マルコ5:22-24)

この部分を読むには、30秒と掛かりません。短くて簡単です。情景もはっきりと描かれていて、子供でも難なく復唱できるような話です。ところが、時間を掛けてよく考えてみると、非常に深い意味が分かってくるのです。……

……イエスとイエスに従った者たちはガリラヤ湖を渡り、カペナウムに近い岸辺でイエスの一行を待っていた群衆に会いました。「そこへ、会堂司のひとり……がき〔た〕」のです。当時、ユダヤ教の大きな会堂は、会堂頭または会堂

司の指揮の下で、長老のグループが管理していました。この会堂司は、ユダヤ人から非常に敬われていた、地位も名誉もある人物でした。

マタイはこの会堂司の名前を記していませんが、マルコは肩書の後に「ヤイロという者」と、名前を書き加えています。この人物もその名前も、聖典に出てくるのはこの1か所だけなのですが、イエスとわずかな接点があったために、その名が歴史に残ったのです。救い主の手に触れて思いや行動が大きく変わり、よりすばらしい人生を新たに送るようにならなかったならば忘却のかなたに忘れ去られていたであろう人々が、このように記録に残っている例が非常にたくさんあります。

「イエスを見かけるとその足もとにひれ伏し〔た。〕」

会堂司という地位も名誉もある人物が、癒やし^いの賜物^{たまもの}を持つ流浪の教師と見られていたイエスの足元にひれ伏すというのは、きわめて異例なことでした。識者や著名人の多くはイエスに対して見て見ぬふりをし、心を閉ざしていたからです。現在もそれと大して変わりません。イエスを受け入れることを妨げる障害は、多くの人々の前に立ちはだかっています。

「〔そしてヤイロは〕しきりに願って言った、『わたしの幼い娘が死にかかっています。』」自分のことよりも愛する人のためには是非お願いしたいということで、人がキリストのもとにやって来ることはよくあることです。「わたしの幼い娘が」と言うヤイロの声は震えていたことでしょう。会堂司という高い地位にありながら救い主の足元にひれ伏している姿を思うと、同情の念を禁じ得ません。

次に、ヤイロの偉大な信仰を表す言葉が続きます。「どうぞ、その子がなおって助かりますように、おいでになって、手をおいてやってください。」これは嘆き悲しむ父親の信仰の言葉であるばかりでなく、イエスが手を置かれた者は皆生き返ることを、改めてわたしたちに思い起こさせる言葉でもあります。もしイエスはその手を結婚生活の上に置かれるならば、結婚生活は命を得、もし家族の上に手を置かれるならば、その家族はよみがえるのです。

そして次に、「そこで、イエスは彼と一緒に出かけられた」とあります。この出来事とその日の日程に組まれていたとは思えません。救い主は、教えを聴くために岸辺で待っている民衆のところへ、湖を越えて戻って来られたのです。……「そこへ、」思いも寄らず一人の父親が横から願い出たのでした。ここでイエスは、民衆が待っているからと頼みを見無視することもおできになったはずですが、ヤイロに、明日あなたの娘を見に行くという返事もおできになったでしょう。しかし「イエスは彼と一緒に出かけられた」のです。この救い主の足跡^{ほらから}に従うとしたら、わたしたちは同胞が何かを必要としているときに、忙しいからといって、それを無視するでしょうか。

この話の残りは、読むまでもないと思います。一行が会堂司の家に着くと、イエスは少女の手を取り、生き返らせられました。イエスは同じように、救い主に手を引いて導いていただくとする全ての人々を引き上げ、彼らが新たな、より良い人生を歩むことができるように高めてくださいます。¹¹

5

モルモン書と教義と聖約は、わたしたちをキリストに近づける

モルモン書

この神聖な業を成し遂げることができるようにするために主が与えてくださった最も有力な手段の一つが、「イエス・キリストについてのもう一つの証^{あかし}」という副題の付いたモルモン書です。〔エズラ・タフト・ベンソン大管長は、〕この神聖な聖典を読んでその教えに従うことをおろそかにしないように、と率直にわたしたちに勧告しました。「その大いなる使命は人々をキリストのみもとに連れて行くことです。その他のことはすべて二次的なことです」とベンソン大管長は教えています（『聖徒の道』1986年7月号、102）。兄弟姉妹の皆さんが、モルモン書をはじめとする聖典を定期的に読み、教え導く業を行う際にそれを活用することを、わたしたちは望んでいます。¹²

モルモン書は神の言葉です。このすばらしい記録を読むよう、皆さんに勧めます。これは、現在存在する書物の中で、最もすばらしいものです。この書物を祈りをもって丹念に読んでください。そうするならば、モロナイが約束したように、神はこの書物に書かれていることが真実だという証^{あかし}を与えてくださいます（モロナイ 10：4参照）。¹³

モルモン書を読んで研究し、その内容について確認を求めて祈ってください。そうすることによって、ジョセフ・スミスが神の預言者であり、イエス・キリストの教会が地上に回復されたという証を得ることができます。¹⁴

〔モルモン書を〕を読むことで、あなたの生活に多大な影響がもたらされることでしょう。モルモン書を読むと、神が人に何をしてくださるかが一層よく分かるようになり、福音の教えに従って生活したいという気持ちが強くなるでしょう。またモルモン書は、イエスに対する力強い証^{あかし}を与えてくれます。¹⁵

教義と聖約

教義と聖約のような本は他にありません。この聖典はこの地上で唯一、創造主が書かれた序文が載っている書物なのです。しかもこの聖典には、主が直接語られた言葉が、この世に存在する他のどの聖典よりも多く記載されています。

教義と聖約は古代の文書の翻訳ではなく、現代に書かれたものです。これは、現代のわたしたちのための啓示の書なのです。現代の預言者や他の人々の疑問や心配事、問題への答えとして、神の預言者を通して与えられた啓示を集めたもので、他に類のない靈感された書物です。生身の人間が関わる現実の問題について神が与えられた答えが収められているのです。……

皆さんは、教義と聖約を読むことによって、聖文を通して主の声を聞くことができます。そのことが理解できたでしょうか〔教義と聖約 18：33 – 36参照〕。……その啓発の声は普通、皆さんの思いの中に「考え」として、また心の中に「気持ち」として入ってきます（教義と聖約 8：1 – 3参照）。その証を受けるといふ約束は、……そのような証を祈り求める全てのふさわしい男女、子供に与えられています。わたしたちは皆、この神聖な啓示を読み、研究し、それについて深く考えて祈るべきではないでしょうか。¹⁶

研究とレッスンのための提案

質問

- 聖文の学習は「学習の中で最も有益なもの」だということを、あなたはどんな経験から学びましたか（第1項参照）。どのようにすれば、「聖文をくまなく理解して〔いる〕男女」になるという決意を強固なものにできるでしょうか。
- 聖文を研究するとさらに従順になることができるのはなぜでしょうか（第2項参照）。「キリストの言葉はあなたがたがなすべきことをすべて告げる」といふ御言葉を目の当たりにしたことがありますか（2ニーファイ 32：3）。それはどのような経験でしたか。
- 聖文研究の方法に関するハンター大管長の勧めの中で、どんな点が役に立ちましたか（第3項参照）。祈りながらたゆまず聖文を研究することによって、あなたはこれまで、どのような祝福を受けてきましたか。
- ハンター大管長が語る、救い主がヤイロの娘を癒やされた話から、わたしたちはどのようなことを学び取ることができるでしょうか（第4項参照）。このようにほんの2、3節の聖句について深く考えることによって、聖文学習が豊かになるのはなぜでしょうか。
- モルモン書や教義と聖約は、救い主に近づくためにどのように役立ってきましたか（第5項参照）。この神聖な書物を読むことによって、あなたは他にどのような影響を受けてきましたか。これらの聖典に対する証を家族や他の人々に伝えてもよいでしょう。

関連聖句

ヨシュア 1:8; 箴言 30:5; 1ニーフアイ 15:23 - 24; 2ニーフアイ 3:12;
アルマ 31:5; 37:44; ヒラマン 3:29 - 30; 教義と聖約 98:11

学ぶ際のヒント

「読むことと、研究することと、深く考えることは同じではありません。読めば何かに気づき、研究すれば聖文中のパターンと関連性を見いだすでしょう。しかし、深く考えるときに、御霊^{みたま}の啓示を招くのです。わたしの場合深く考えるとは、聖文を入念に読み、研究した後に考え、祈ることを意味しています。」(ヘンリー・B・アイリング「御霊とともに奉仕する」『リアホナ』2010年11月号、60)

注

1. 「聖典を読む」『聖徒の道』1980年3月号、89参照
2. *The Teachings of Howard W. Hunter*, クライド・J・ウィリアムズ編 (1997年)、50
3. 「聖典を読む」87参照
4. *The Teachings of Howard W. Hunter*, 53-54
5. *The Teachings of Howard W. Hunter*, 51
6. “Obedience” (ハワイ地域大会で行われた説教、1978年7月18日) 3-5, 教会歴史図書館, ソルトレーク・シティー; 最終段落は*The Teachings of Howard W. Hunter*, 52にも掲載
7. “Eternal Investments” (教会教育システム宗教教育者を対象にした説教、1989年2月10日) 3; si.lds.org
8. “Fear Not, Little Flock” (ブリガム・ヤング大学で行われた説教、1989年3月14日) 2; speeches.byu.edu
9. *The Teachings of Howard W. Hunter*, 51-52
10. 「聖典を読む」87-88参照
11. 「聖典を読む」87参照
12. “The Mission of the Church” (地区代表セミナーで行われた説教、1990年3月30日) 2
13. *The Teachings of Howard W. Hunter*, 54
14. “The Pillars of Our Faith,” *Ensign*, 1994年9月号, 54
15. 「復活の証拠」『聖徒の道』1983年7月号、27参照
16. *The Teachings of Howard W. Hunter*, 55-6



ハワード・ハンター, クレア・ハンター夫妻



真の偉大さ

「日々の生活で小さな事柄についてたゆまず努力を積み重ねていくことから、真の偉大さが生まれるのです。」

ハワード・W・ハンターの生涯から

ハワード・W・ハンター大管長は、真の偉大さとはこの世の成功から生まれるのではなく、「奉仕と犠牲の小さな行い……を何千回も積み重ねること、つまり、人のため、主のために命を差出し、命を失うことから生まれる」と言っている。¹ ハンター大管長はその教えのとおりに生きた。ハンター大管長は、スポットライトを浴びたり称賛されたりすることを求めるのではなく、人に気づかれることのあまりない、奉仕と犠牲の行いを日々実践した。

ハンター大管長の比較的知られていない奉仕の一つに、健康が優れず苦しんでいる妻の介護を10年以上にわたって行ったことが挙げられる。1970年代に入ると、クレア・ハンターは頭痛を訴え、物忘れするようになってきた。その後小さな脳卒中を何度か繰り返すうちに、話すことと手を使うことが困難になった。常時介護が必要な状態になると、ハンター大管長は使徒の責任も果たしながら、できる限り自分で妻を介護した。日中は誰か付き添ってくれる人を頼んだものの、夜は自分で介護したのである。

クレアは1981年に脳出血を起こしてから、歩くことも話すこともできなくなった。それでもハンター大管長は、ときどきクレアを車椅子から降ろしてしっかりと抱き抱えると、昔のように二人で踊ったのである。

クレアが2回目の脳出血を起こしてからは、医療施設に入れるよう医師が強く勧めたため、クレアは施設に入り、亡くなるまでの18か月をそこで過ごした。その間ハンター大管長は、教会の割り当てで留守にするとき以外、毎日クレアを見舞った。出先から帰ると、空港からクレアのもとに直行したのである。たいていクレアはぐっすり眠っており、起きていたとしても夫を認識することはなかったが、それでもハンター大管長はいつも愛を伝え、彼女が快適に過ごせるよう気を配っていた。

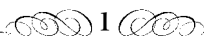
十二使徒定員会のジェームズ・E・ファウスト長老は後にこう語っている。ハンター大管長が「クレア夫人の具合が悪くなってから10年以上にわたる優しい愛情のこもった介護は、わたしたちの多くが人生で見ると、男性から女性に対する献身的な行いの中で、最も高貴なものでした。」²

ハンター大管長の没後に『エンサイン』(Ensign)に掲載された経歴には、真の偉大さについての彼の教えが引用されており、その教えに従って彼がどのように生きたかが、かいつまんで紹介されている。

「ハンター大管長は心底謙虚な人でしたから自分を偉大だなどと考えたことはなかったでしょうが、自ら教えた偉大さの定義に見合う人でした。その名が世に知られるようになるずっと前のことですが、ハンター大管長には、熱心に働いたり、失敗してもやり直したり、^{ほらから}同胞を助けたりするよう努めて、生きる方向を大きく変えた時期がありました。彼の偉大さは、そのころから育まれていたのです。こうして育まれてきた偉大さを発揮してハンター大管長は音楽や法律、事業、国際関係、大工仕事という多岐にわたる分野で成功を取ることができ、何よりも、主に対する『良い忠実な僕』^{しもべ}になることができたのです〔マタイ25:21〕。……

この第14代大管長にとって、主の目的を果たすということは、無私の精神で自然に行う務めでした。それまで学生として、若い父親として、献身的なビジョッパとして、疲れを知らぬ使徒として働いてきたのと同じです。主のぶどう園は、ハワード・W・ハンターの目には、たゆまず世話をしなければならないものと映っており、園の主人が自分に求めることは『良い忠実な僕』であることに尽きるとハワードは考えていました。救い主の模範に常に目を向けながら、ハンター大管長はこの務めを真の偉大さをもって果たし、最後まで救い主に仕えたのです。³

ハワード・W・ハンターの教え



人はこの世的な偉大さの定義に惑わされ、
それに照らして自分を卑下してしまうことがよくある

多くの末日聖徒は幸福であり、人生に訪れる様々なすばらしい機会を享受しています。しかしわたしは、末日聖徒の中に幸福ではない人がいることを憂慮しています。達し得る最高の自分になっていないと感じる人がいるのです。特に心配なのは、義にかなった生活をしているにもかかわらず、世の中や教会で他の人が成し遂げていることを達成していないという理由で、自分を落伍者^{らくこ}だと考える人たちのことです。人は誰でも、この世である程度偉大なことを成し遂げたいと望んでいます。それは当然のことではないでしょうか。誰かが言った

ように、天の王国に帰りたいという強い望みは誰にでもあるのです（ヘブル 11：13 - 16；教義と聖約 45：11 - 14参照）。

自分が何者であってどんな存在になれるのかを理解すると、神の助けがあれば不可能なことはないという確信が生まれます。福音の基本原則がだんだんと分かるようになっていく過程で光になるようイエスが自分に望んでおられることを知ったときから、わたしたちは完全を目指して努力するよう教えられています。ですから、何かを達成することの大切さについての話は、わたしたちにとって耳慣れないものではありません。世間の過剰な期待が偉大さの定義を変えてしまい、そのために悩みが生まれるのです。

真の偉大さとは何でしょうか。何が人を偉大にするのでしょうか。

わたしたちがいる世界は、この世的な成功をあがめ、この世的な意味でのヒーローを作り出すかのようです。18歳から24歳までの若人を対象に最近行ったある調査から、今日の若者は「強くて奔放で、何があってもへこたれない」人を好ましい人物と考えており、華やかで「果てしなく豊かな」生き方を追い求めていることが明らかになっています。1950年代には、ヒーローといえば、ウインストン・チャーチルやアルベール・シュバイツァー、ハリー・トルーマン大統領、エリザベス女王、盲目で聾啞の作家であり講演者でもあったヘレン・ケラーなどでした。歴史を作った人たちや、感動的な生き方で知られた人たちです。今日、ヒーローのトップテンは映画スターなどの芸能人ですから、わたしたちの物の見方が変わったということでしょう（*U.S. News & World Report*, 1985年4月22日付, 44 - 48参照）。

世のヒーローが一般の人々の記憶に長く残らないのは事実ですが、それにしても、チャンピオンや偉大な業績を上げる人は次々に現れます。記録を更新したスポーツ選手、すばらしい機器や機械を発明したり、新しい手法を開発したりした科学者、新しい治療法で人の命を救った医師などのニュースは、毎日のように聞こえてきます。非凡な才能に恵まれた音楽家や芸能人、並外れた才能を持つ画家、建築家や起業家の姿は、常に目に入ります。雑誌や看板、テレビのコマーシャルには、歯並びが良くて完璧な容貌の人がハイセンスな服を着て、いかにも「成功者」らしい立ち居振る舞いをしている姿が、これでもかというほど登場します。

このような世の定義による偉大さを常に見せつけられているのですから、わたしたちが自分を他人やその虚像と比べたり、自分にあるものと人にあるものを比べたりしてしまうのは、無理ありません。確かに比較することには利点があり、さらに良いことを成し遂げて生活を改善しようという意欲をかき立てる力もあります。しかし、不当な比較や不適切な比較をして、自分は十分に力を発揮していないとか、自分には力がないとか、落伍者だとか思い込ん



「真の偉大さとは、ささやかな奉仕と犠牲の行いを何千回も積み重ねること、つまり、人のため、主のために命を差し出し、命を失うこと〔から生まれるの〕です。」

でしまい、幸せを感じられなくなることが、よくあるのです。このような気持ちになると間違った考えに陥り、自分の失敗にいつまでもこだわったり、真の偉大さを示す要素が自分の生き方の中にあるかもしれないにもかかわらず、それを無視してしまったりすることがあります。⁴

2

日々の生活で小さな事柄についてたゆまず努力を 積み重ねていくことから、真の偉大さが生まれる

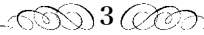
1905年、ジョセフ・F・スミス大管長は真の偉大さについて、実に意味深い言葉を述べました。

「わたしたちが、驚くべきとか、類まれなとか、傑出したなどと形容するものが歴史を作るのかもしれませんが、それが実生活を作るわけではありません。

結局、神が全人類共通の務めとして定められた事柄を立派に果たすことが、真に偉大なことなのです。立派な父親や母親になることは、立派な将軍や政治家になることよりも偉大なことです。」(*Juvenile Instructor*, 1905年12月15日付, 752)

この言葉を読んで、ある疑問が湧きます。神が「全人類共通の務め」として定められた事柄とは、何なのでしょう。これに確かに含まれているのは、良い父親や良い母親、良い息子や良い娘、良い学生や良いルームメイト、良い隣人になるために行わなければならない事柄です。

……日々の生活で小さな事柄についてたゆまず努力を積み重ねていくことから、真の偉大さが生まれます。具体的には、真の偉大さとは、ささやかな奉仕と犠牲の行いを何千回も積み重ねること、つまり、人のため、主のために命を差し出し、命を失うことなのです。また、そこには、天の御父について知り、福音の知識を得ることが含まれますし、他の人に信仰を伝え、神の王国に導くことも含まれます。普通このようなことを行っても、人から注目されることもなければ、称賛されることもありません。⁵



預言者ジョセフは奉仕をし、 人の世話をすることに日々心を配っていた

ジョセフ・スミスが將軍であり、市長であり、設計士であり、編集者であり、大統領候補であったことは、一般的にはよく知られていません。ジョセフ・スミスというと、回復の預言者、断固として神を愛し神の業を推し進めた人ということが頭に浮かびます。預言者ジョセフは、日々クリスチャンとしての道を歩み続けた人でした。奉仕をし、人の世話をするという小さなことに日々心を配っていました。ミズーリ州へ向かうシオンの陣営の中に、ライマン・O・リトルフィールドという13歳の少年がいました。この少年は後に預言者の奉仕の行いについて語っています。それは預言者の生涯においては小さな行いでしたが、少年にとっては大きな意味がありました。

「その旅は誰にとっても非常につらいものでした。肉体的な苦しみもさることながら、自分たちが救出に向かっている兄弟たちが迫害に遭っていることを思うと、わたしはある日、気がめいってしまいました。陣営が出発の用意をしているというのに、わたしは疲れ切って、道端に座り込み、塞ぎ込んでいたのです。預言者は陣営で一番忙しい人でしたが、わたしを見ると、作業に追われていた手を休めて、わたしのような子供に慰めの言葉を掛けてくれました。わたしの頭に手を置くと、『他に休める場所はないのかい。それなら、一緒に探してあげよう』と言ったのです。この出来事は、わたしの心に強く焼き付けられました。それから長い年月が過ぎて様々な苦勞もありましたが、今でも忘れることができません。」(ジョージ・Q・キャンノン、*Life of Joseph Smith the Prophet*, ソルトレーク・シティー: Deseret Book Co., 1986年, 344で引用)



「ジョセフ・スミスは、日々クリスチャンとしての道を歩み続けた人でした。
奉仕をし、人の世話をするという小さなことに日々心を配っていました。」

また、別のときのことですが、アダムス郡の保安官トーマス・キングとその他何人かがイリノイ州のカーリン知事から派遣され、預言者を逮捕してミズーリ州のボグス知事の特使に引き渡すという任務を帯びてやって来ました。ところが、キング保安官は病気になり、瀕死ひんしの状態に陥ってしまいました。ジョセフ・スミスはノーブーでこの保安官を自宅に運び、4日間にわたって、まるで兄弟であるかのように看病したのです（同上、372）。ささやかで親切な、しかし大切な意味のある奉仕を行うのは、預言者にとって、珍しいことではありませんでした。

ジョージ・Q・キャノン長老は、〔預言者ジョセフ・スミス〕がノーブーに構えた店の開店当日のことを、次のように記録しています。

「預言者自身、商売や産業に従事することをためらうようなことはありませんでした。預言者が説いていた福音は霊的な救いだけでなく、物質的な救いをももたらすはずのものでした。彼は自分の責任を果たすために喜んで働きましたが、それは決して自分自身の利益のためではありませんでした。」(同上、385)

ある手紙に預言者は次のように書いています。

「〔ノーブーの赤れんがの店〕は人であふれるばかりに混雑しており、わたしは一日中カウンターの後ろに立ち、あなたが見てきたどんな店員にも負けないくらい忙しく商品売ってきました。少しの砂糖や糖蜜、レーズンなどがいないために、いつものクリスマスや新年の食事を諦めざるを得なかった人々の願いをかなえるためであり、また自分自身も喜びを得るためです。主がふさわしいと思われるときに高く上げてくださることを願いつつ、聖徒たちに仕え、全ての人の僕となるのが、わたしはとても好きだからです。」(同上、386)

この場面について、ジョージ・Q・キャノン⁵は次の言葉を残しています。

「何という光景でしょうか。主の教会の礎^{いしづえ}を築き、その教会の預言者となり大管長となるよう主から選ばれた人が、僕のように兄弟姉妹に仕えることに喜びと誇りを見いだしていたのです。……ジョセフは『これらの最も小さい者』にさえ親切にし、関心を示しました。そうすることにより、神に仕えてイエス・キリストの目に良き者と映っていると実感することのない日は、1日たりともなかったのです。」(同上、386)⁶

4

真の偉大さとは、人生の苦難を堪え忍び、 人目につかない奉仕をすることから生まれる

長老定員会の書記や扶助協会の教師として立派な働きをすることや、隣人を愛すること、友人の言葉によく耳を傾けることも、偉大なことです。人生に付き物の苦難に直面し、たとえ挫折したとしても、最善を尽くすこと、また、現在進行中の人生の難しい試練を引き続き堪え忍び、辛抱すること、これが真に偉大なことです。そのような苦労や務めが他の人の成長と幸福、自分自身の永遠の救いのためになるのですから。

わたしたちは皆、この世である程度偉大なことを達成したいと望んでいます。既に偉大なことを成し遂げた人はたくさんいますし、今成し遂げようと努めている人もいます。偉大なことを成し遂げ、同時に自分が何者であるかを思い起こすよう、わたしは皆さんにチャレンジします。世の人の目から見た偉大さに惑わされてはいけません。それは、幻のように移ろいやすいものです。それに惑わされて大切なものを見失っている人がたくさんいます。どんな代価を払ってでも、自分の良い評判を守り抜いてください。真の偉大さとは、いつまでも忠実

であること、すなわち、「〔両親が大切にした信仰に忠実に〕、殉教者の持つ真理を信じ」ることなのです。（『賛美歌』163番）

人目を引くこともなく、忘れられた偉大なヒーローが、わたしたちの中にはたくさんいるとわたしは確信しています。それは、なすべきことを常に黙々と行っている人であり、いつでも必要とされる場所で喜んで働く人です。また、夫が仕事や勉強で不在のときに、病気の子供を夜昼なく何時間も付ききりで看病する母親の非凡な勇気も、偉大さのしるしです。自発的に献血する人や、年配の人たちのために奉仕をする人も、そうです。神権者としての責任や教会の召しを忠実に果たしている人や、小まめに親に手紙を書いて、彼らの愛と援助に対する感謝の気持ちを伝えている学生も、ヒーローです。

他の人の心に信仰を植え付け、福音に従って生きたいという望みを芽生えさせる人もそうです。このような人は、人の生活に身体的、社会的、そして霊的に感化しようと熱心に取り組んでいます。正直さと優しさをもって日々の義務を一生懸命に果たしながら、同時に主の僕しもべであり、主の羊の群れの牧者として働く人々もその中に加えることができます。

だからといって、世界の数々の偉大な業績を軽視するわけではありません。そうした業績のおかげで多くのすばらしい機会が与えられ、生活に文化や秩序や喜びがあるのですから。わたしはただ、人生で最も価値あるものにもっと目を向けるよう勧めているだけなのです。次の御言葉みことばを言われたのが救い主だということを、皆さんは覚えていることでしょう。「あなたがたのうちでいちばん偉い者は、仕える人でなければならない。」（マタイ 23：11）⁷

5

真に偉大な者となるためには、小さく、時には平凡な行いを 長い期間にわたって続けなければならない

わたしたちは皆、ある日突然、ほぼ一夜にして金持ちになったり、瞬間に成功したりする人を見たことがあることでしょう。こうした成功は長期にわたる苦労を経ることなく手に入ることもあります。偉大さは、そういうわけにはいきません。真の偉大さを身につけるには、時間が掛かるのです。時には挫折することもあるでしょう。結果がはっきりと見えないこともあるかもしれません。しかし、日常的に、たゆまず、小さな、時には平凡で無味乾燥なことを、長い期間にわたってこつこつと積み重ねることが不可欠なようです。「小さなことから大いなることが生じる」と言われたのが主であることを、忘れないでください（教義と聖約 64：33）。

真の偉大さは決して偶然に得られるものでもなければ、一度の努力や成果で得られるものでもありません。人格を築き上げてこそ、得られるものなのです。

ボイド・K・パッカー長老はこう言っています。「このような小さな一つ一つの選択を何年も掛けて積み重ねると、自分が何を大切にしている人物かがはっきりと表れてくるのです。」(『聖徒の道』1981年4月号, 37参照) また、こうした選択には、わたしたちの人格がはっきりと表れるものです。⁸

6

平凡な務めが他人に最も良い影響を与えることが多い

自分の生活を評価する場合、何を達成したかだけでなく、どのような状況で努力したかにも目を向けることが大切です。人は皆それぞれ違います。人生のレースの出発点も違えば、才能や身につけている技術も違いますし、対処すべき問題や状況も、人によって異なるのです。したがって、自分自身や自分の達成してきたことを評価する際には、達成したことの重要さや数だけで判断するべきではありません。どのような状況で達成したのか、他の人にどのような影響を及ぼしたのかも考慮に入れるべきです。

自分を評価する際に、他の人に及ぼす影響を考えるという、この後者の作業をするならば、生活の中のごくありふれた平凡なことをどうしてこれほど大切にしなければならないか、その理由が理解できるようになるでしょう。世の人たちが偉大だとする行いと比較してみても、わたしたちが行っている平凡な務めこそ、他の人の生活に最も良い影響を与えることが多いのです。⁹

7

神が大切だと定められた事柄を行うことから真の偉大さが生まれる

福音の網の中にいる人は皆、天の御父が望んでおられる偉大さを身につけていくことができるのではないのでしょうか。小さな簡単なことを行う機会は無数にあります。そうした小さな簡単なことが、最終的にはわたしたちを偉大な者にしてくれるのです。ですから、自分の家族や他の人のため、主のために仕え、犠牲を払った人々への最高の勧告は、これまでしてきたことをさらに続けて行ってくださいということになります。

たとえ目立たなくてもすばらしい方法で主の業を前進させている人、また地の塩となり、世の人々の力となり、国の支えとなっている人、そのような人たちを、わたしたちは心から称賛したいと思います。最後まで堪え忍び、イエスの証あかしに雄々しくあるなら、真の偉大さを身につけて、いつの日か天の御父のもとに戻ることができるでしょう。

ジョセフ・F・スミス大管長が言ったように、「真の人生を、上辺だけの人生と交換してしまうことのないようにしようではありませんか。」(*Juvenile Instructor*, 1905年12月15日付, 753) たとえ世の人がつまらないものと見

なそうとも、神が定められたことは大切であり、必要であり、不可欠なものであることを忘れないでください。これを忘れなければ、やがてわたしたちは真の偉大さを身につけることができます。

使徒パウロの次の言葉を忘れないでください。特に、自分は幸せではないと感じるときや、何らかの形で偉大な者になっていないと感じるときはそうです。パウロは次のように書いています。

「なぜなら、このしばらくの軽い^{かんなん}患難は働いて、永遠の重い栄光を、あふれるばかりにわたしたちに得させるからである。

わたしたちは、見えるものではなく、見えないものに目を注ぐ。見えるものは一時的であり、見えないものは永遠につづくのである。」(2 コリント 4:17-18)

小さなことが大切です。わたしたちの心に強く残っているのは、パリサイ人がささげた大金ではなく、やもめが入れたレプタです。ペリシテ人の軍隊の力と強さではなく、ダビデの勇気と信仰なのです。

「人の共通の務め」として神が定められた日々の務めを、決して落胆することなく果たすことができますように。¹⁰

研究とレッスンのための提案

質問

- わたしたちが真の偉大さの意味を取り違えてしまうことがあるのはなぜでしょうか(第1項参照)。この世的な定義で偉大さを考えると、自分は十分に力を発揮していないとか、不幸だとか考えてしまう人が出てきます。これはなぜでしょうか。
- ハンター大管長による真の偉大さの定義とこの世的な定義は、どのような点が異なるでしょうか(第2項参照)。真の偉大さのこの定義を知ることによって、あなたは自分の生活をどう変えることができるでしょうか。あなたがもっと時間を掛けて注意を払うとよいと思う「小さなこと」について、具体的に考えてください。
- 第3項に書かれているジョセフ・スミスの小さな奉仕の行いを読んで、どう感じましたか。あなたは小さな奉仕の行いから祝福を受けたことがありますか。それはどのような行いでしたか。
- 第4項にある真の偉大さを示す例を復習してください。人がこのような方法で真の偉大さを示すのを見たことがありますか。それはどのようなことでしたか。

- 真の偉大さを身につける方法について書かれている第5項の教えから、わたしたちはどのようなことを学ぶことができるでしょうか。
- 「他の人の生活に最も良い影響を与える」「平凡な務め」としてあなたがこれまで見たことのあるものには、どのようなものがありますか（第6項参照）。
- 第7項にあるハンター大管長の教えについて、よく考えてください。奉仕と犠牲から真の偉大さが生まれるのはなぜでしょうか。「イエスの証に雄々しくある」ことによって真の偉大さが生まれるのはなぜでしょうか。

関連聖句

サムエル上 16：7；1テモテ 4：12；モーサヤ 2：17；アルマ 17：24 - 25；
37：6；モロナイ 10：32；教義と聖約 12：8；59：23；76：5 - 6；88：125

教える際のヒント

「祈りを込めて教える準備をするとき、……特定の原則を強調するよう導かれるかもしれないし、特定の概念を提示するための最善の方法が思い浮かぶかもしれない。また日々のごくありふれた生活の中に、事例や実物を用いたレッスン、靈感に満ちた話などを発見することもある。さらに、誰かを招いてレッスンの援助をしてもらおうと思いついたり、皆に話せる自分自身の体験を思い出すかもしれない。」（『教師—その大いなる召し』48）

注

- | | |
|--|-------------------|
| 1. 「真の偉大さ」『聖徒の道』1988年2月号, 21 | 5. 「真の偉大さ」21参照 |
| 2. ジェームズ・E・ファウスト, “Howard W. Hunter: Man of God,” <i>Ensign</i> , 1995年4月号, 28 | 6. 「真の偉大さ」21-24参照 |
| 3. “President Howard W. Hunter: The Lord’s ‘Good and Faithful Servant,’” <i>Ensign</i> , 1995年4月号, 9, 16 | 7. 「真の偉大さ」24参照 |
| 4. 「真の偉大さ」21参照 | 8. 「真の偉大さ」21参照 |
| | 9. 「真の偉大さ」24参照 |
| | 10. 「真の偉大さ」24参照 |



「わたしたち一人一人が行方の知れない羊のとえを何度も繰り返し読むべきです。……
このたとえのメッセージが、わたしたち一人一人の心に深く刻まれるよう願っています。」



戻って来て、主が備えられた 食卓に着く

「教会に活発に集っていない人々に手を差し伸べて
ください。そして皆さんと皆さんが助ける人々に
もたらされる喜びに気づいてください。」

ハワード・W・ハンターの生涯から

ハワード・W・ハンターは、教会の大管長となった翌日、教会の活動に活発に参加していない教会員に対し、この愛にあふれる呼びかけを行った。

「罪を犯した人々、心に傷を負った人々にはこう伝えたいと思います。戻って来てください。傷つき、もがき、恐れを抱いている人々にお伝えします。わたしたちに皆さんの傍らに立って、皆さんの涙をぬぐわせてください。あらゆる面の過ちで混乱し、苦しむ人々にお伝えします。すべての真理を御存じである神のもとへ、また、絶えることなく啓示を受ける教会へ来ててください。戻って来てください。一緒に礼拝しましょう。いつも最善を尽くしましょう。信じる者になりましょう。すべては良し、すべては良くなるのです。末日聖徒イエス・キリスト教会で皆さんの前に備えられた食卓に着き、それを備えてくださった「良い羊飼い」に従おうと努力してください。希望を持ち、信仰を働かし、慈愛、すなわちキリストの純粋な愛を受けるだけでなく与えてください。」¹

数か月後、教会の大管長として迎えた最初の総大会説教で、ハンター大管長はこのことを続けて強調したいと語った。「戻って来てください」とハンター大管長は繰り返した。「わたしに従ってきなさい」という〔救い主〕の招きを文字どおりに受け入れてください。……主は唯一の確かな道であり、世の光なのです。」²

生涯を通じて、ハンター大管長は多くの教会員が教会に活発に集うよう働きかけた。成人となって間もない頃のそのような経験に触れ、こう語っている。

「ワードのビショップから、ある兄弟のワードティーチャー（訳注-現在のホームティーチャーに該当する召し）となるよう割り当てを受けました。自分は教

会で最も年配の執事ということを誇りに思っている兄弟でした。ホームティーチングは、当時、ワードティーチングと呼ばれていました。日曜日にゴルフをするのが大好きというのが、この兄弟の問題でした。彼とその妻を、来る月も来る月も、訪問しましたが、目に見える進歩はまったくなく、がっかりしました。しかしやっとのことで、適切な言葉を語ることができ、その言葉がこの兄弟の心の琴線に触れたのです。それは聖約という言葉でした。こう尋ねたのです。「バプテスマの聖約はあなたにとってどのような意味がありますか。」彼の表情が変わり、初めて彼のまじめな面が見えました。やがて、彼はわたしたちのクラスに出席するようになり、ゴルフをやめ、妻とともに神殿に参入したのです。』³

ハワード・W・ハンターの教え

1 行方^{ゆくえ}の知れない羊のたとえは、いなくなった人々を 捜し求めるようわたしたちに教えている

大管長会は教会員に次のような意義深い呼びかけを〔しています〕。……

「教会に活発でなくなり、他の人々に対して批判的になっている人々には、『戻って来てください。戻って来て、主が備えられた食卓に着き、聖徒の交わりという甘く、心を満たしてくれる木の実を再び味わってください』と呼びかけます。

わたしたちは、戻りたいと望みながらも、決まり悪さを感じてそうできない人々が多くいると確信しています。どうぞ安心してください。わたしたちは両手を広げて皆さんを歓迎し、喜んでお助けしたいと願っているのです。』（「天の家、永遠の家族」『聖徒の道』1992年5月号、5－6参照）

預言者アルマはモルモン書の中で主の与えておられる招きについて語っていますが、その招きにも似たこの寛大な呼びかけに、わたしたちの誰もが感銘を受けることでしょう。アルマは次のように言っています。

「見よ、主はすべての人を招き、^{あわ}憐れみ^{みうで}の御腕を伸べて、『悔い改めよ。そうすれば、わたしはあなたがたを受け入れよう』と言われる。

まことに、主は言われる。『わたしのもとに来なさい。あなたがたは命の木の実を食べるであろう。あなたがたは働なしに命のパンを食べ、命の水を飲むであろう。』

まことに、わたしのもとに来て、義の業を行いなさい。』（アルマ5：33－35）

わたしたち一人一人が、ルカによる福音書第15章に記され、その4節から始まる^{ゆくえ}行方の知れない羊のたとえを何度も繰り返し読むべきです。

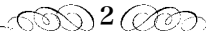
「あなたがたのうちに、百匹の羊を持っている者がいたとする。その一匹がいなくなったら、九十九匹を野原に残しておいて、いなくなった一匹を見つけるまでは捜し歩かないであろうか。

そして見つけたら、喜んでそれを自分の肩に乗せ、

家に帰ってきて友人や隣り人を呼び集め、『わたしと一緒に喜んでください。いなくなった羊を見つけましたから』と言うであろう。』〔ルカ 15：4－6〕……

預言者ジョセフ・スミスは、ジョセフ・スミス訳の中で、意義深いことですが、この4節に変更を加えています。次のように書かれています。「あなたがたのうちに、百匹の羊を持っている者がいたとする。その一匹がいなくなったら、九十九匹を残しておいて、野原に行き、いなくなった一匹を見つけるまでは捜し歩かないであろうか。」(ジョセフ・スミス訳、ルカ 15：4、強調付加)

この翻訳は、羊飼いが安全な囲いにいる群れを残し、荒れ野に出かけて行った、すなわち、いなくなった人を見つけるために世の中に出かけて行ったということの意味をしています。何からいなくなったのでしょうか。守りと安全という囲いにいる群れからいなくなったのです。このたとえのメッセージが、わたしたち一人一人の心に深く刻まれるよう願っています。⁴



主はわたしたちに御自分のもとで働く羊飼いとなり、苦しんでいる人々、あるいはいなくなった人々を救助するよう期待しておられる

どうすれば荒れ野で道をそれた人々を助けることができるでしょうか。

主は、99匹を残し、いなくなった1匹を捜すために荒れ野に出かけて行くことについて語っておられます。また大管長会は、教会に来なくなったり、批判的になったりしている人々に「戻って来[る]」よう呼びかけています。ですから、わたしたちは皆さんが積極的に人の霊を救う業に携わるよう勧めます。教会に活発に集っていない人々に手を差し伸べてください。そして皆さんと皆さんが助ける人々の双方が、人々に戻って来るよう、また主の食卓で食事をするよう招く業に携わる時に得られる喜びに気づいてください。

「良い羊飼い」である主はわたしたちに御自分のもとで働く羊飼いとなり、苦しんでいる人々、あるいはいなくなった人々を救助するよう期待しておられます。その方法を皆さんに教えることはできませんが、積極的にこの業に携わり、靈感を求めてください。そうすれば成功は皆さんの地域、……ステーキならびにワードにおける皆さんの働きに応じて与えられることでしょう。ステーキの中には、前回の呼びかけに応え、特筆すべき成功を取めた所もあります。

なじみ深い一つの賛美歌の歌詞には、救い主からわたしたちへの呼びかけが記されています。

呼ぶ声を聞けや

今も聞こゆる

「迷えるを なれは

探さぬのか」と。

また、よく歌われるこの賛美歌は、わたしたちが主の呼びかけにどのように応じるべきかを明らかにしています。

「羊飼いとして

深き愛持ち

迷える羊を

探させたまえ」

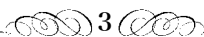
(『賛美歌』136番)

これを実践するならば、永遠の祝福がわたしたちにもたらされることでしょう。⁵

いなくなった人々、迷える人々、道をそれた人々を捜し求めるのは主の業です。……祈りの気持ちのこもったアルマの嘆願は、わたしたちの携わる業がどれほど神聖かを思い起こさせてくれます。

「おお、主よ、どうかわたしたちが〔人々〕をキリストにあって再びあなたのみもとに連れ戻すのに、成功を収められるようにしてください。

まことに、おお、主よ、彼らは貴い人々で〔す〕。」(アルマ 31:34 - 35)⁶



わたしたちの大きな目的は、神のもとへ帰ることが できるよう人々を助けることである

教会は長年にわたって、教会に活発に集っていない人々を助けるための途方もなく偉大な幾つもの取り組みを行ってきました。……すべての取り組みは何を目的としていたでしょう。それは、わたしたちの兄弟、姉妹の霊を救い、彼らが昇栄の儀式を受けられるようにすることです。

ロサンゼルス地域でステーキ会長として奉仕していたとき、わたしは顧問の二人とともに、全ステーキのビショップに、教会員としてもっと成長したいと望んでいる夫婦を、4組か5組、選ぶようお願いしました。教会に活発に集っていない夫婦や改宗して間もない夫婦もいましたが、どの夫婦も霊的に成長したいと



「おお、主よ、どうかわたしたちが〔人々〕をキリストにあって
再びあなたのみもとに連れ戻すのに、成功を収められるようにしてください。
まことに、おお、主よ、彼らは貴い人々で〔す〕。」(アルマ 31:34 - 35)

いう意欲はありました。わたしたちは彼らをステーキのクラスに集め、福音を教えました。神殿を強調するというよりはむしろ、天の御父および御子イエス・キリストとのより良い関係に焦点を絞りました。慎重な選考手順に従うことで成功を確実なものとすることができ、実際、これらの夫婦のほとんどが活発になり、神殿に参入したのです。

〔もう一つの〕経験を紹介させてください。……あるワードに、どの集会にも出席していない兄弟がいました。その兄弟の奥さんは会員ではありませんでした。彼女は教会に対して少し敵意を抱いていたので、この家族にホームティーチャーを派遣することはできませんでした。ビショップは、この兄弟に働きかけ、救い主との関係をさらに深める必要があると告げました。この兄弟はビショップに、教会員ではない奥さんとの問題について打ち明けました。そこでビショップは彼女に話して、同じ方法を強調しました。すなわち主との関係を深める必要があると告げたのです。彼女は、教会に対してまだ好意的ではありませんでしたが、末日聖徒がキリストを信じていることを知って喜びました。そして結果的には、少しだけ警戒心を緩めてくれました。

一朝一夕で成功は得られませんでした。この家族を訪問する人たちは、主との関係を強調し続けました。やがて彼女は教会に対して好意的になり、最終的には、夫とともに高等評議会の一員が教えるステーキのクラスに参加することに同意してくれました。わたしたちはバプテスマのときに交わす聖約やその

他の聖約に焦点を絞りました。最終的に、奥さんは教会員となり、夫は有能な神権指導者となったのです。……

わたしはモルモン書のタイトルページに書かれている言葉に胸を打たれます。そこにはこの神聖な書物の目的の一つが記されています。「主の聖約を、彼ら〔末日におけるイスラエルの家〕に分かるように示すものである。」(強調付加)これこそ、わたしたちがステーク会長会として、教会に活発に集っていない人たちに強調したいと強く感じたことでした。わたしたちは、こうした人々に、主と交わした聖約の大切さに基づく呼びかけを行おうと努力しました。次に、バプテスマの聖約と、彼らが交わすことができ、彼らを永遠の家族として結びつけるその他の聖約の大切さについて教えました。⁷

地元レベルでスムーズに機能する教会の本来の目的は、神のもとに戻るふさわしさを各個人に得させることに尽きます。それは、各個人が神殿で儀式を受け、聖約を交わすことによるのみ、達成することができます。⁸

わたしたちの取り組みは、全人類が救いの聖約と福音の儀式にあずかることができるようにするということに焦点を当てています。すなわち、教会員でない人々が伝道活動を通して、教会に活発に集っていない人々がフェローシップングと活発化の働きかけを通して、活発に集っている会員が教会の活動への参加と奉仕を通して、また幕の向こうに行ってしまった人々が死者のための^{あがな}贖いの業を通して、救いの聖約と福音の儀式にあずかることができるようにするということなのです。⁹

わたしたちは、各教会員に対する一つの目的を達成しようと努力しています。それは全ての人々が、福音の儀式を受け、天の御父と聖約を交わし、御父のもとへ帰るという目的です。これがわたしたちの大きな目的です。儀式と聖約は、わたしたちが、神のもとへ戻れるような神の特質を身に付けるための手段です。……

すべての人々にキリストのもとへ来るよう招くという目的をいつも心に留めておいてください。……

兄弟、姉妹の皆さん、わたしは主が神であられ、打ち碎かれた心と悔いる^{あかし}霊をもって御自分のもとへ来る人々を救う力を持っておられることを証します。儀式と聖なる^{みたま}御霊を通じて、一人一人が清くなれるのです。¹⁰

研究とレッスンのための提案

質問

- ハンター大管長はすべての教会員に、^{ゆくえ}行方の知れない羊のたとえを何度も繰り返し読むよう勧めています（第1項、ルカ15:4-7参照）。第1項に出てくるこのたとえやその他の教えから、あなたはどのようなメッセージを受け取るでしょうか。教会で奉仕するとき、あなたはそうした教えからどのような導きを受けるでしょうか。
- 主の羊飼いとして、わたしたちはどのような責任を担っているでしょうか。（第2項参照）。どうすれば人々が教会に戻れるよう助けられるでしょうか。あなた（あるいはあなたの知っている誰か）は、「もがき苦しみ、教会から遠ざかって」いたとき、自分に手を差し伸べてくれた人からどのような祝福を受けましたか。
- ハンター大管長が第3項で述べた経験から、わたしたちは何を学ぶことができるでしょうか。聖約を強調することは、教会員が教会に戻るうえでどのように役立つでしょうか。

関連聖句

エゼキエル 34:1-16; ルカ 15:11-32; ヨハネ 10:1-16, 26-28; 13:35; 1ヨハネ 1:7; モーサヤ 18:8-10; ヒラマン 6:3; 3ニーファイ 18:32; モロナイ 6:4-6; 教義と聖約 38:24

学ぶ際のヒント

原則とは、人の行動の指針となる真理です。「読むときに、自問してください。『この聖句で教えられているのはどのような福音の原則だろうか。自分の人生でこれをどのように応用することができるだろうか。』（『教師、その大なる召し』17）

注

1. ジェイ・M・トッド, "President Howard W. Hunter: Fourteenth President of the Church," *Ensign*, 1994年7月号, 5
2. ハワード・W・ハンター「尊く、大なる約束」『聖徒の道』1995年1月号, 8
3. "Make Us Thy True Undershepherds," *Ensign*, 1986年9月号, 9
4. "Make Us Thy True Undershepherds," 7-8
5. "Make Us Thy True Undershepherds," 9
6. "The Mission of the Church" (地区代表セミナーで行われた説教, 1990年3月30日) 4
7. "Make Us Thy True Undershepherds," 8-9
8. *The Teachings of Howard W. Hunter*, クライド・J・ウィリアムズ編 (1997年), 218
9. *The Teachings of Howard W. Hunter*, 245-246
10. *The Teachings of Howard W. Hunter*, 218



アリゾナ州メサ神殿。ここでハワード・W・ハンター大管長は、
1953年に両親と結び固められた。



神殿——会員であることを示す 偉大な象徴

「わたしの心からの願いは、全ての教会員が
神殿に参入するふさわしさを身に付けることです。」

ハワード・W・ハンターの生涯から

ノワード・W・ハンターの母親は、生涯を通じて忠実な教会員だったが、父親はハワードが19歳になるまで、バプテスマを受けることはなかった。何年もたつて、ハワードがカリフォルニア州でステーキ会長を務めていたとき、ステーキの会員は神殿の業に携わるためにアリゾナ州メサ神殿まで旅をした。セッションが始まる前に、ハワードは神殿会長から礼拝堂に集まった人々に話をするよう依頼された。その日はハンター大管長の誕生日だった。彼は後に、そのときの経験についてこう書いている。

「わたしが集会で話をしていると、……父と母が白い服を着て礼拝堂に入ってきました。父が神殿の祝福を受ける準備ができていたとは考えてもみませんでした。しかし、母は長い間それを熱心に願ってきたのです。わたしは感激で胸がいっぱいになり、話を続けることができませんでした。ピアス会長〔神殿会長〕はわたしの横に来て、話がとぎれるまでのいきさつを説明してくれました。父と母は、その朝、神殿にやって来たとき、自分たちが来ていることを息子には伝えないようにと会長にお願いしていました。わたしを驚かせる、誕生日の贈り物にしたいと思ったのです。それは生涯忘れることのできない誕生日となりました。なぜなら、両親がエンダウメントを受け、わたしは二人の結び固めの儀式的証人となる特権にあずかり、さらにその後で両親に結び固められたからです。」¹

その後40年余りがたち、教会の大管長として初めて公式の声明を発表したとき、ハンター大管長のおもなメッセージの一つは、会員がより一層献身的に働き、神殿の祝福を受けるというものだった。² ハンター大管長は、その任期中、このメッセージを絶えず強調した。1994年6月にノーブー神殿の敷地で話したときも、次のように語っている。

「今月、わたしは自分の務めを始めるに当たり、さらにもっと多くの教会員が神殿に参入するふさわしさを身に付けるよう心から望んでいるとお伝えしました。〔ジョセフ・スミス〕時代と同様、ふさわしい会員、エンダウメントを受けた会員がいることこそ、全世界に神の王国を築くための鍵です。神殿に参入するふさわしさを身に付ければ、わたしたちは主の御心と調和した生活を送ることができます。主の導きを十分に受けて生活できるのです。」³

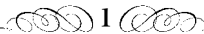
数か月後の1995年1月、ユタ州バウンティフル神殿の奉獻が、ハンター大管長の最後の公的活動となった。奉獻の祈りでハンター大管長は、神殿の祝福により、この神殿に参入する全ての人々の生活が豊かになるようお願い求めた。

「わたしたちは、あなたがこの建物を受け入れ、あなたの祝福をここに注いでくださるようへりくだり祈ります。あなたの御霊がここで儀式を執行する全ての人の伴侶となり、指針となり、あらゆる部屋が聖さで満たされますように。この建物に入る全ての人々が清い手と純真な心を持つことができますように。彼らが信仰を強められ、平安を胸に、またあなたの聖い御名を賛美しつつ、この建物を出て行くことができますように。……

この宮により、そのすばらしさを目の当たりにする人々に、とりわけ、自らの神聖な儀式を受けるために参入する人々、幕のかなたにいる自分たちの愛する人々に代わって儀式を行う人々に平安がもたらされますように。彼らがあなたの愛と憐れみを感じられますように。彼らが、古の詩篇の作者と同様、次のように語る特権にあずかることができますように。『われらはたがいに楽しく語り、つれだって神の宮に上りました。』

この聖なる建物を奉獻すると同時に、わたしたちは自らの生涯をあなたとあなたの業にもう一度奉獻いたします。」⁴

ハワード・W・ハンターの教え



わたしたちは神殿を、教会員であることの崇高な 象徴として確立するよう勧められている

わたしはこの神聖な職〔教会の大管長〕への召しを受けたとき、全ての教会員に、主の宮を、教会員であることの崇高な象徴とし、最も聖なる聖約を交わす至高の場所として確立するよう勧めました。

わたしは神殿のことを思うとき、次の言葉について考えます。

「神殿は神の王国についての深遠な真理が明らかにされる教えの場である。また、神殿は、心を霊に関わる事柄に向け、ひととき世の煩いから離れられる、安らぎの場である。わたしたちは神殿で神の律法に従うという聖約を交わし、

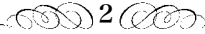
いかなるときも従順であることを条件として、永遠にわたる約束を授けられるのである。」(*The Priesthood and You*, Melchizedek Priesthood Lessons—1966, Salt Lake City: 末日聖徒イエス・キリスト教会, 1966年, 293)

わたしたちへの啓示の中で、神殿は教会員の偉大な象徴であると説かれたのは主御自身です。神殿建設の準備をしていたカートランドの聖徒たちに、主は、預言者ジョセフ・スミスを通して勧告を与えられました。その中に挙げられている姿勢や義にかなった行動について考えてみましょう。この勧告は今のわたしたちにも当てはまります。

「あなたがた自らを組織しなさい。すべての必要なものを用意しなさい。そして、一つの家、すなわち祈りの家、断食の家、信仰の家、学びの家、栄光の家、秩序の家、神の家を建てなさい。」(教義と聖約 88 : 119) これらの姿勢や行動は、わたしたちが「こうなりたい」と望み求めているものと一致しているでしょうか。……

……神殿を本当にわたしたちの象徴とするためには、そうしたいという望みを持たなければなりません。また神殿参入にふさわしい生活をし、主の戒めを守らなければなりません。自分の生活を主に倣ったものとし、主の教えと模範を至高の模範とするなら、神殿に参入するふさわしさを身に付け、日々の歩みを首尾一貫した忠実なものにすることを、そう困難に思わなくなるでしょう。なぜなら、行いにおいても信仰においても、神聖な唯一の標準に専心するようになるからです。家庭にいてもあるいは街の中にも、また学校にいても、学校を終えてから長くたっていても、まったく一人で行動していても、多くの人々と一緒に行動していても、状況に関わらず、わたしたちの進むべき道、わたしの従うべき標準が明らかになるでしょう。

大切なのは、原則に従い、信仰によって高潔で忠実な生き方をする力です。個人の生活、家庭生活、また人と出会い影響を与えるあらゆる場において、真の原則に献身すること、このような献身こそ、神が究極的に何よりわたしたちに求めておられるものなのです。それには、神から与えられた戒めが示す真実の原則に対し、心から固く決意する必要があります。そして、その決意を常に心に留めておかなければなりません。主の原則に忠実に従うなら、わたしたちはいつでも神殿にふさわしい者となり、主と聖なる神殿は、わたしたちが主の弟子であることの大きい象徴となるでしょう。⁵



わたしたちの誰もが神殿推薦状を受けるに ふさわしくなるよう努力すべきである

わたしの心からの願いは、全ての教会員が神殿に参入するふさわしさを身に付けることです。すべての成人会員が有効な神殿推薦状を受けるにふさわしくあり、しかもそれを所持するなら、主は喜ばれることでしょう。神殿推薦状を得るのにふさわしくあるためにすべきこととすべきでないことは、わたしたちが個人として、また家族として、幸福になるのを約束する事柄でもあるのです。⁶

天の御父は、神殿に参入する人は清くなければならず、世の罪があってはならないと、このようにはっきり述べておられます。「また、わたしの民が主の名によってわたしに一つの家を建て、それが汚されないように、何であろうと清くないものがそこに入るのを許さなければ、わたしの栄光はそのうえにとどまるであろう。……しかし、もしもそれが汚されるならば、わたしがそこに来ることはなく、わたしの栄光はそこにはない。わたしは清くない神殿には来ないからである。」(教義と聖約 97:15, 17)

教会の大管長がかつては神殿推薦状の1枚1枚に署名をしていたという事実は、あなたにとって興味深いことかもしれません。神殿に参入するふさわしさについて、初期の大管長はそれほど強い思いを抱いていたのです。1891年から、神殿推薦状を受けるふさわしさについて質問する責任がビショップとステーク会長に課せられるようになりました。あなたは、神殿推薦状を受けるふさわしさを得るために、何が期待されているか知っておくべきです。

永遠の父なる神と、その御子イエス・キリストと、聖霊とを信じなければなりません。この業が御三方の神聖な業であることを信じなければなりません。日々、天の御父と主イエス・キリストに対する証を^{あかし}育む努力を^{みたま}払うようお勧めします。あなたが感じる御霊は、御三方の^{みたま}実在を証してくださる聖霊です。やがて、神殿で、啓示に基づく教えと儀式を通じて、神会に関するあなたの知識は深まることでしょう。

あなたは教会の中央幹部と地元の管理役員を支持しなければなりません。指導者の名前が定義されると、腕を直角に挙げ、彼らをその責任に対して、また彼らがあなたに与える勧告に対して、支持すると表明します。

これは主が管理者として召された人々に対し敬意を表す行為ではありません。むしろ、神が預言者、聖見者、啓示者、その他の人々を中央幹部として召されたという事実に対する承認なのです。あなたが教会の管理役員から与えられる指示に従うという決意なのです。同様に、あなたはビショップやステーク会長、その他の教会指導者に対して忠誠心を感じるべきです。権威ある人々を支持しない態度は、神殿における奉仕とは相いれないものです。



「ビショップとステーク会長はあなたに……
神殿推薦状を受けるふさわしさについて質問します。」

聖なる神殿に参入するには道徳的に清くなければなりません。純潔の律法は、自分の夫または妻以外の誰とも性的な関係を持つべきでないとしています。わたしたちは、特に、あなたの道徳的清さを汚すサタン^①の誘惑に警戒するよう勧めます。

あなたは、家族との関係に、教会の教えと調和しないものが決していないようにしなければなりません。わたしたちは、特に、〔青少年〕に勧めます。義にかなった方法で〔自分たちの〕両親に従ってください。両親は、自分たちと家族との関係が、福音の教えと調和するように、また虐待や養育放棄といった行為と決して関わらないように気をつけなければなりません。

神殿に参入するためには、人々とのあらゆる取引において正直でなければなりません。末日聖徒として、わたしたちは決してごまかしたり不正を働いたりしないという神聖な義務があります。この聖約を破るとき、わたしたちの基盤となる一貫性は危機にさらされます。

神殿推薦状を受ける資格を得るには、義務を果たし、^{せいさん}聖餐会、神権会、その他の集会に出席するよう努力するべきです。また、福音の規則や律法、戒めを守るよう努力するべきです。自分に与えられる召しやその他の責任を受け入れ……られるようになってください。自分のワードや支部で行われる活動に活発に参加し、指導者に頼られる人となってください。

神殿に参入するには、^{じゅうぶん} 什分の一を完全に納め、知恵の言葉に従った生活を送らなければなりません。これら二つの戒めは、簡潔な教えではありますが、わたしたちの霊的成長にとって極めて大切であり、個人的なふさわしさを証明するうえで不可欠なものです。何年にもわたって観察した結果、忠実に什分の一を納め、知恵の言葉を守っている人は、通常、聖なる神殿に参入することに関わる他のすべての事柄においても忠実であるということが明らかとなりました。

これら二つの戒めは軽々しく扱うべきものではないということです。神殿に参入するにふさわしいということが分かったら、わたしたちはこの地上で執行される儀式の中でも最も神聖な儀式を行います。これらの儀式は永遠の事柄に関するものです。⁷

3

神殿の業を行うことで個人と家族にすばらしい祝福がもたらされる

自分自身の祝福のために神殿に参入する特権を受けるのは、実にすばらしいことです。そして、自分自身の祝福のために神殿に参入してから後に、すでに世を去った人々のために働きをなす特権も実にすばらしいものです。神殿活動のこの部分は、無私の働きによってなされます。しかし、他の人のためにこの神殿活動を行うと、わたしたち自身のもとに必ず祝福が返ってきます。ですから、主がわたしたちに神殿に心を向ける民となるよう望んでおられるのは当然のことです。……

……わたしたちは、亡き親族のためだけでなく、神殿での礼拝に伴う祝福を自分自身が受け、奉獻され聖別された建物の中で授けられる清めと安らぎを味わうためにも参入する必要があります。わたしたちは神殿に参入するにつれて、人生の目的と主イエス・キリストの^{あがな}贖いの犠牲の意義を、より深く、より完全に理解するようになります。神殿における礼拝、神殿で交わす聖約、神殿結婚など、神殿を地上における最終目標、またこの世における至高の経験の場としましょう。⁸

神殿に参入することで成し遂げられることが幾つかあります。主の教えに従って、自分自身の儀式の業を成し遂げ、儀式を結び固めることで家族を祝福し、自分の力でできないことを身代わりとして行うことで、祝福を他の人々と共有することができます。さらには、自分の思いを高め、主に近くなり、神権を尊び、霊的な生活を送ることができます。⁹

神殿に参入することで、個人的な祝福を受けることができます。神殿参入がわたしたちの生活にもたらす祝福について、十二使徒定員会のジョン・A・ウィットナー長老は次のように話しています。

「神殿の儀式は……霊的な知識と力を生きたものとするすばらしい機会を与えてくれます。……聖なる神殿では力強い永遠のビジョンが明らかにされます。わたしたちは無窮の時の始めから終わりまでを目の前にすることができます。永遠の命というドラマが繰り上げられるのです。さらにまた、宇宙の諸物の中における自分の位置、神の目的の中での自分の位置をより明確に理解していきます。そして、自分のいるべきところにさらにしっかりと踏みとどまり、物事の価値を見極める力を増し加え、人生における数々の日常的責任を適切に整理することができるようになります。それによって、ささいなことで落胆したり、神から与えられたもっと偉大な事柄についてのビジョンを見失ったりすることがなくなります。」(Conference Report, 1922年4月, 97 - 98)¹⁰

カートランド神殿奉獻のすばらしい祈りの中で語られた荘厳な教えについて深く考えてください。預言者ジョセフ・スミスは、この祈りを啓示を通して与えられたと述べています。そしてこの祈りは今もなお、個人、家族、一個の民として、わたしたちのうえに成就し続けています。神殿において行使する神権を、主より授けられているからです。

預言者ジョセフ・スミスは次のように嘆願しました。「さて、聖なる御父よ、何とぞ、……あなたの民であるわたしたちをあなたの恵みをもって助け、……わたしたちに下された啓示の中であなたの民であるわたしたちに与えてくださった約束を果たすのがふさわしいと、あなたの目にかな〔う〕ようにしてください。

これによって、あなたの栄光があなたの民のうえにとどまり……ますように。
……

聖なる御父よ、何とぞ、あなたの^{しもべ}僕たちがこの宮からあなたの力を帯びて出て行けますように。あなたの^{みな}御名が彼らのうえにあり、あなたの栄光が彼らの周りにあり、あなたの天使たちが彼らに対する務めを果たしますように。」「教義と聖約 109 : 10 - 12, 22)¹¹

神殿に参入することで霊性が培われます。これは霊性を育むために教会が行っている最もすばらしいプログラムの一つです。このプログラムは子の心を親に、親の心を子に向けさせます(マラキ 4 : 6 参照)。家族の結束と一致を促します。¹²

4

速やかに神殿に行く

神殿で味わう霊的な思いを子供たちに伝えてください。より熱心に、またもっとくつろいだ雰囲気の中で、主の宮が建てられる目的について、話しても差し障りのない事柄を子供たちに教えるようにしましょう。子供たちの目に触れるように、家の中に神殿の写真を飾ってください。そして彼らに、主の宮が建てられる目的について教えてください。神殿の祝福を受けるふさわしさを身に付

け、神殿に参入する計画を、幼いうちから立てさせてください。またすべての宣教師が、ふさわしい状態で神殿に参入し、神殿参入を、伝道の召しを受けることよりもはるかに大なる輝かしい体験とできるよう、彼らに備えをさせましょう。子供たちが主の宮で結婚するように、計画を立て、教え、論じましょう。どこで結婚するのか、また何の権威によって夫婦とされるのかということの重要性を、もう一度、これまで以上に強く教えましょう。¹³

若人がふさわしい状態で神殿へ行き、生前バプテスマを受ける機会にあずからなかった人々のために身代わりの儀式を受けることを、主はお喜びになります。主はわたしたちが神殿へ行き、自ら主と聖約を交わし、夫婦や親子としての結び固めを受けることを喜んでくださいます。主はわたしたちがふさわしさを備えて神殿に参入し、今は亡き人々のためにこれらの救いの儀式を受けることをお喜びになります。すでに世を去った人々の多くは自分たちのためにこれらの儀式が行われるのを首を長くして待っているのです。¹⁴

神殿の祝福にあずかっていない人々、あるいは現在有効な神殿推薦状を所持していない人々に対しては、へりくだり愛をもって、お勧めします。主の宮に参入することのできる日を目指して努力してください。主は聖約を守る人々にこう約束しておられます。「わたしの民が、わたしの声と、わたしの民を導くためにわたしが任命した僕たちの声しもべに聞き従うならば、見よ、まことに、わたしは言うが、彼らはその場所から移されることはない。」(教義と聖約 124:45) ……神殿に定期的に参入するならば、あなたの個人的な霊性、あなたの夫または妻との関係、そして家族関係が祝福を受け、強められるとお約束します。¹⁵

神殿に参入し、神殿を愛する民となりましょう。時間と金銭と個人的な状況が許すかぎり、頻繁に、速やかに神殿に行きましょう。それも亡き親族のためだけでなく、神殿での礼拝に伴う祝福を自分自身が受けるために、また奉献され聖別された建物の中で授けられる清めと安らぎを味わうために参入しましょう。神殿は美しい場所であり、啓示を授かる場所であり、平安の宿る場所です。そこは主の宮であり、聖きを主にささげる場所です。同時に、わたしたち自身にとっても聖なる場所であればなりません。¹⁶

研究とレッスンのための提案

質問

- 第1項にあるハンター大管長の教えについて考えてみましょう。どうすれば「神殿を、教会員であることの崇高な象徴として確立する」ことができるでしょうか。

- 第2項に概説されている神殿推薦状を受けるための条件を見直してください。これらの条件に従って生活することで、あなたとあなたの家族はこれまでどのような祝福を受けてきたでしょうか。神殿に参入するときに、わたしたちは「清くなければならず、世の罪が〔ないように〕」努力する必要があります。それはなぜでしょうか。
- 神殿の業を行うことで得られる祝福に関するハンター大管長の教えを見直してください(第3項参照)。神殿の儀式を受けることで、あなたとあなたの家族はこれまでどのような祝福を受けてきたでしょうか。もっと完全に神殿の祝福の恩恵にあずかるにはどうすればよいでしょうか。神殿で霊的な励ましあるいは導きを感じたときのことについて話してください。まだ神殿に行ったことがないとしたら、その祝福を受けるための備えとして何をすればよいか、考えてみましょう。
- 子供や青少年が神殿について学び、神殿に対する愛を育むための方法としてどのようなものがあるでしょうか(第4項参照)。どうすれば子供や青少年が主の宮で結婚したいという望みを抱けるよう助けられるでしょうか。「時間と金銭と個人的な状況が許すかぎり、頻繁に……神殿に行〔く〕」ことが大切なのはなぜでしょうか。

関連聖句

詩篇 55 : 14 ; イザヤ 2 : 2 - 3 ; 教義と聖約 97 : 12 - 27 ; 110 : 6 - 10 ; 124 : 39 - 41 ; 138 : 53 - 54 ; 『聖句ガイド』「神殿」の項

教える際のヒント

「決められた時間内に教えられる以上の内容が一つの課に盛り込まれている場合がしばしばある。そのような場合、あなたは生徒にとって最も役立つ資料を選択すべきである。」(『教師、その大いなる召し』98)

注

1. エレノア・ノウルズ, *Howard W. Hunter* (1994年), 135
2. ジェイ・M・トッド, "President Howard W. Hunter: Fourteenth President of the Church," *Ensign*, 1994年7月号, 4-5参照
3. "The Temple of Nauvoo," *Ensign*, 1994年9月号, 62-63
4. ユタ州パウンティフル 神殿で行われた奉獻の祈りの原本, "'Magnificent Edifice' Consecrated to [the] Lord," *Church News*, 1995年1月14日付け, 4で引用
5. 「教会員の大いなる象徴」『聖徒の道』1994年11月号, 6参照
6. 「尊く、大いなる約束」『聖徒の道』1995年1月号, 9-10
7. "Your Temple Recommend," *New Era*, 1995年4月号, 6-9
8. 「神殿に心を向ける民」『聖徒の道』1995年5月号, 6
9. *The Teachings of Howard W. Hunter*, クライド・J・ウィリアムズ編 (1997年), 240
10. "We Have a Work to Do," *Ensign*, 1995年3月号, 65
11. 「教会員の大いなる象徴」5
12. *The Teachings of Howard W. Hunter*, 239-240
13. 「神殿に心を向ける民」6参照
14. 「教会員の大いなる象徴」6
15. *The Teachings of Howard W. Hunter*, 240-241
16. 「教会員の大いなる象徴」6



ハワード・W・ハンターの両親、ジョン・ウィリアム（ウィル）・ハンターと
ネリー・マリー・ラスムッセン・ハンター



家族歴史と神殿の業を速める

わたしたちが家族歴史の探究と神殿の業をするように
という戒めを実行すべく最善を尽くすとき、
主は確かに支えてくださいます。

ハワード・W・ハンターの生涯から

家族歴史はハワード・W・ハンター大管長の心にも身近なものとして存在した。少年の頃から、先祖に関する話には興味津々で耳を傾けた。成長するにつれて、家族歴史の探求にかなりの時間をつぎ込むようになった。¹ 1972年、教会の割り当てでヨーロッパに滞在していたときには、妻のクレアとともに自分の先祖が住んでいたデンマークのあちこちを訪れた。そのような村の一つで、二人はある教会を見つけた。そこはハンター大管長の曾祖父ラムムセンが洗礼を受け、その家族が礼拝行事に参加した教会だった。この経験を通して、ハンター大管長は母方の先祖に対する感謝の念が深まった。同様に、別の先祖が住んでいたノルウェーやスコットランドの地域も訪れた。²

ハンター大管長の息子リチャードは、家族歴史を大切に思っていた父親のことを次のように振り返っている。

「父は生涯を通じて熱心に家族歴史を探求しました。よく弁護士業務の傍ら時間を割いてはロサンゼルス公共図書館へ行き、その広大な系図部門で調べものをしていました。自分の行った探求、『家族の記録』『系図表』、個人的に記録の元帳に書き込んだ口述による歴史記録を保管しました。

さまざまな大会の割り当てで、父と一緒に旅をすることがありました。父は車のトランクに数冊の元帳を入れ、ステーキ大会が終わるとこう言いました。『[この]いとこの家にちょっと行ってみよう。確認したい日付が幾つかあるんだよ。』わたしたちは[その]いとこの家に行きました。父はトランクの中から元帳を取り出し、やがてダイニングのテーブルは『家族の記録』でいっぱいになりました。

家族の誰であれ、自分たちの探求に関して情報が正しいかどうかを確かめなければ、父に電話をかけたり、手紙を書いたりして、事実を確認しました。父の

持っている情報が正しいということを知っていたからです。父は膨大な量の系図を調べていました。」³

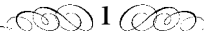
あるとき、ハンター大管長が十二使徒定員会で奉仕していたとき、彼のホームティーチャーが訪問してこう言った。「わたしたちが作成した『家族の記録』をお見せしたいと思います。……今晚、ハンター長老のものを見る時間はありませんが、次に訪問したときに、見せていただきたいと思います。」

ハンター大管長はこう語った。「非常に興味をそそられたので、1か月頑張っ
て、ホームティーチャーの次の訪問に備えました。」⁴

1964年から1972年まで、ハワード・W・ハンターはユタ州系図協会の会長を務めた(19ページ参照)。1994年、ハンター大管長をたたえ、系図協会100周年を記念する集会で、彼はこう語った。

「87歳の誕生日の前夜、神殿と家族歴史の業を推進するために主が織り成してくださったタペストリーのようなこの業を振り返って見ると、驚きを禁じ得ません。わたしがユタ系図協会の会長を務めていたとき、協会がいかに力強く前進するののかというビジョンがありました。現在、わたしたちは全世界で輝かしい出来事が起こるのを目の^ま当たりにしています。福音は前進し、すべての国民、部族、国語の民、民族の間に広まっています。神殿は地球上の至る所に存在し、エリヤの霊は多くの会員の心に触れ、それらの会員は、前例のない勢いで家族歴史と神殿儀式の業を行っています。」⁵

ハワード・W・ハンターの教え



神殿は、神の子供たちの救いと昇栄に 不可欠な儀式を執行するために建てられる

神殿は聖なる神権の至高の儀式を受ける人々と主が、最も親しく交わる神聖な場所です。神殿は地に関わる事柄と天に関わる事柄が一つになる所です。……神の偉大な家族は、福音の救いの儀式を通してやがて一つとなるのです。神殿は、死者のための身代わりの儀式と生者のための儀式を執行するためにあります。⁶

末日聖徒は世の人々に福音を宣言しています。それは全人類の^{あがな}贖いのため、この神権時代に地上に回復されたままのイエス・キリストの福音です。主御自身が人の救いと昇栄にとって不可欠な事柄を明らかにされたのです。その一つは、他のいかなる場所でも執行されない儀式を行うために神殿が建てられるということです。

世界中から訪れ、神殿に目を注ぐ人々にこのことを説明するたびに、一番よく聞かれるのが、「神殿で執行されるその儀式とはどのようなものですか」という質問です。

死者のためのバプテスマ

それに答えて、わたしたちはよく、死者のためのバプテスマとして知られる儀式から説明を始めます。多くのクリスチャンは、人は死んだときに、永遠に続く来世で主の前にどのような状態になるかが決定されると信じています。確かにキリストはニコデモにこう言われました。「よくよくあなたに言うておく。だれでも、水と霊とから^{うま}生れなければ、神の国にはいることはできない。」(ヨハネ 3:5) しかし、バプテスマの儀式を受けずにこの世を去って行った人々は数多くいます。そして、キリストがニコデモに話された言葉によると、そのような人々は神の王国に入ることを許されないのです。このことは、神はそれで公平な御方だと言えるだろうか、という疑問を人々の心に抱かせます。

もちろん神は公正な御方です。救い主がニコデモに話された言葉が、バプテスマを受けることなくこの世を去った人々のためにバプテスマが行われることを前提にしているのは明らかです。末日の預言者たちは、バプテスマは地上で行う儀式であり、それを執行できるのは生者だけであると教えています。では、生者だけがその儀式を執行できるとすれば、どうして死者がバプテスマを受けられるのでしょうか。それは、使徒パウロがコリント人に書き送った手紙の主題でした。

「そうでないとすれば、死者のためにバプテスマを受ける人々は、なぜそれをするのだろうか。もし死者が全くよみがえらないとすれば、なぜ人々が死者のためにバプテスマを受けるのか。」(1コリント 15:29)⁷

この地上で生活しながら、バプテスマを受ける機会もなく亡くなった人々が永遠に追放されるとしたら、それは理にかなったことでしょうか。生きている者が死者に代わってバプテスマを行うことに、何か不合理な点があるでしょうか。死者のために身代わりの業を行った最大の模範は、おそらく主御自身だったのではないのでしょうか。一度亡くなった者たちがすべて再び生き、永遠の命にあずかれるように、主は身代わりの贖いのために御自分の命をささげられたのです。主は、わたしたちが自分ではできないことを、代わってしてくださいました。同じように、わたしたちもこの地上に生を受けている間に機会のなかった人々のために儀式を執り行うことができるのです。』⁸

エンダウメント

神殿ではまた、エンダウメントの儀式も行われています。この儀式は二つの部分に分かれています。一つは一連の教えを受ける部分であり、もう一つは、エンダウメントを受ける人が交わす約束すなわち聖約の部分です。つまり義に

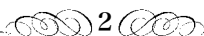
かなった生活をし、イエス・キリストの福音の教えに従って行動することを約束するのです。エンダウメントは生死を問わず聖徒たちに大いなる祝福を受けるための儀式です。つまり、エンダウメントもまた死者に代わって生者が行う儀式であり、すでに身代わりのバプテスマが済んでいる死者を対象に執行されません。

日の栄えの結婚

神殿で行われるもう一つの儀式に、妻を夫に、夫を妻に永遠に結び固める日の栄えの結婚の儀式があります。言うまでもなく、民事結婚は死をもって終わります。しかし、神殿で行われる永遠の結婚は、永続するのです。永遠の結婚をした夫婦の間に生まれた子供は、自動的に両親と永遠に結び固められます。夫婦の結び固めが行われる前に生まれた子供については、親子を永遠に結ぶ力を持つ神殿の結び固めの儀式が行われます。同様に、子供は身代わりの儀式によって、すでに世を去った両親との結び固めを受けることができます。

……

神権によって執り行われるこれらの神殿の儀式はすべて、天の御父の子供たちの救いと昇栄に欠くことのできないものです。⁹



家族歴史の業の目的は、神殿の祝福を生者か死者かを問わず すべての人々が得られるようにすることである

確かに、わたしたち現世にいる者には、成し遂げるべき大いなる業があります。……神殿の建物はわたしたち自身にとって、また全人類にとって深い意味を持つことが分かります。また、わたしたちの責任も明らかになってきます。わたしたちは自分自身の救いに必要な、神権による神殿の儀式を行わなければなりません。そして次に、現世において福音を受け入れる機会にあずからなかった人々のために、必要な業を行わなければならないのです。人のために行うこの業は、次の二つのステップを踏んで達成されます。最初に、家族の歴史を調べ、自分の先祖の名前を明らかにします。そして次に、生者と同じ機会を彼らに提供するために、神殿の儀式を行います。

しかし、神殿に思うように行けない教会員が数多くいます。彼らはそれぞれに最善を尽くしています。自分で家族の歴史を調べ、それを基に他の人に神殿の儀式を執行してもらっているのです。その反対に、神殿活動に携わりながら、自分の家族の歴史を探求し終わっていない教会員もいます。彼らは他の人を助けるといふ神聖な奉仕の業をしているのですが、末日の預言者たちを通して神から命じられている自分自身の先祖のための探求をせずに、祝福を失っているのです。



「確かに、神殿で執り行われている業に匹敵するような業は、どこにも存在しません。」

このような状況によく似た例として、数年前のある経験が思い出されます。ある断食証会あかしでのことでした。最後にビショップが次のような話をしました。「今日、わたしたちはお互いの証に耳を傾けるという霊的な体験をしました。わたしたちが主の律法に従って断食証会に集うのは、このような祝福にあずかれるからです。しかし、この主の律法には二つの面があることを忘れないでください。一つは食べ物や飲み物を取らずに断食することであり、もう一つは、それによって節約した分を、恵まれない人々のために、ビショップの倉にささげるといことです。」それから彼はこう付け加えました。「今日、半分の祝福だけ受けて帰る人がだれもないように願っています。」

これまでの経験から分かったことですが、家族歴史を探求し、自分が調べた先祖のために神殿の儀式を執行する人は、二つの面で祝福を受け、さらに大きな喜びを味わうようになります。

すでにこの世を去った人々は、末日聖徒が自分たちの名前を調べ、自分たちの代わりに神殿へ行って儀式を受けるようにと切望しています。それによって、彼らは霊界の獄から開放されるのです。わたしたちは皆、このすばらしい愛の業を行う喜びを味わうべきです。¹⁰

家族歴史の業の目的は、神殿の祝福を生者か死者かを問わずすべての人々が得られるようにすることです。わたしたちが神殿に参入して死者のための儀式を執り行うとき、神と密接な連携作業を成し遂げるとともに、人類家族の救

いのための主の計画への理解を深めているのです。こうしてわたしたちは、隣人を自分自身のように愛するようになります。確かに、神殿で執り行われていることに匹敵するような業はどこにも存在しません。¹¹

3

家族歴史と神殿の業を雄々しく速めようではないか

幕のかなたへ旅立った人々のために神殿の業を行うとき、わたしたちはジョセフ・F・スミス大管長の靈感あふれる勧告を思い出します。大管長は次のように宣言しています。「死者のために払うわたしたちの努力によって、彼らを縛っている鎖は断ち切れ、取り巻く闇が一掃され、そして彼らのうえに光が輝くことでしょう。霊界にいる彼らは、子孫によって自分たちの儀式が執行されたことを聞き、喜びの声を挙げることでしょ。」〔Conference Report, 1916年10月, 6で引用〕¹²

大管長会と十二使徒定員会は、この神聖な業〔家族歴史と神殿の業〕に最大の関心を抱いています。幕のかなたにいる人々のために救いの儀式を実施し、価値ある貢献をしてくれた人々に、中央幹部全員を代表して、感謝したいと思います。……わたしたちは、大勢の人々が、世界中でこの力強い業を自発的に推進してくれることに感謝しています。皆さんの実に立派な働きに感謝しています。

預言者ジョセフ・スミスはこう述べています。「わたしたちがこの世で神から受けている最も大きな責任は、死者を捜し求めることです。」〔『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』475〕また次のように述べています。……「亡くなった親族のためにこの業を行わない聖徒は、自分自身の救いを危険にさらすこととなります。」〔『歴代大管長の教え—ジョセフ・スミス』472〕

この重要な啓示と同じビジョンを持ったブリガム・ヤング大管長はこう言っています。「わたしたちには、この地上における救い主の業と同じくらい重要な業があります。わたしたちの先祖は、わたしたちなくして、完全になれません。先祖たちはそれぞれの働きを終え、今は眠っています。わたしたちは今、自分の働きをなすように求められています。それはこれまで人が果たしてきた業の中で最もすばらしいものです。」(Discourses of Brigham Young, ジョン・A・ウイツォー選, Salt Lake City: Deseret Book Co., 1941年, 406ページ)

ジョセフ・スミスの時代から今日に至るまで、この教会を導いたどの預言者も、同じ崇高な真理を繰り返してきました。同じ真理に導かれ、この教会は、この神権時代の初めから、神の全ての息子、娘のために、彼らがどの時代に生を受けたかにかかわらず、救いと昇栄の業に取り組んできました。

この時代に生を受けたわたしたちは、生まれる前から、この神権時代に地上で神の代表者となるよう、神に任じられています。わたしたちはイスラエルの家に属しているのです。末日にあつてシオン山の救い手となる神聖な力がわたしたちの手の内にあるのです〔オバデヤ 1:21 参照〕。

神殿・家族歴史活動に関して、最も大切なメッセージがあります。それは、この業は急を要しているということです。執行待ちの儀式は驚くほど多く、想像を絶するほどです。昨年〔1993年〕、わたしたち会員は550万人のために身代わりの神殿エンダウメントを執り行いました。しかし、同じ年に5,000万人の人が亡くなったのです。このことは、わたしたちの前に置かれた業の果てしなさを示しているかもしれません。しかし、その果てしなさについて考え、たじろいでいる場合ではないのです。わたしたちが家族歴史の探究と神殿の業をするようにという戒めを実行すべく最善を尽くすとき、主は確かに支えてくださいます。神殿の偉大な業とそれを支えるすべての業を、わたしたちは推し進めなければなりません。これは、最重要事項なのです。……

愛する兄弟姉妹の皆さん、家族歴史と神殿の業を雄々しく速めようではありませんか。主はこのように言われます。「わたしの神殿の仕事と、わたしがあなたがたに定めたすべての仕事を継続して行い、中止しないようにしなさい。あなたがたの熱心さ、あなたがたの根気強さと忍耐、またあなたがたの働きを倍加しなさい。そうすれば、あなたがたは決してその報いを失うことはない、と万軍の主は言う。」(教義と聖約 127:4)

預言者ジョセフ・スミスの次の言葉を引用し、皆さんがさらに努力するようお勧めします。「兄弟たちよ、わたしたちはこのような偉大な大義において前進しようではありませんか。退かずに前に進んでください。兄弟たちよ、勇気を出してください。勝利に向かって進み、前進してください。心を喜び楽しませ、大いに喜んでください。地は声を放って歌いなさい。死者は、王なるインマヌエルに向かって永遠の賛美の歌を語り出しなさい。王なるインマヌエルは、わたしたちが死者を獄から贖^{あがな}えるようにする方法を、世界が存在する前に定められました。獄にいる者たちは解放されるのです。」(教義と聖約 128:22)

この業を愛しています。わたしたちが忠実に自らの務めを果たすとき、そのために必要なものはすべて、主が与えてくださることを知っています。わたしたちが、今日のわたしたちに課せられた責務であるこの偉大な業に貢献するとき、主がわたしたち一人一人を祝福してくださいますように。¹³

研究とレッスンのための提案

質問

- 第1項の冒頭についてよく考えてみてください。神殿で儀式を執行することは、神に近づこうとすることでどのような助けとなってきましたか。この項のどのような情報が神殿の目的を理解できない人にその目的を説明するうえで助けとなるのでしょうか。
- どのように家族歴史の探求と神殿の業の「二つの面で祝福を受け」てきましたか（第2項参照）。どうすれば子供や家族の他の一員がこの重要な業に参加するよう促すことができるのでしょうか。
- 第3項のハンター大管長の教えを復習するとき復習し、主が家族歴史と神殿の業をどれほど重要視しておられるか考えてください。家族歴史と神殿の業は、今日、どのように速められているのでしょうか。どうすればこの業にもっと積極的に参加することができるのでしょうか。

関連聖句

イザヤ42:6-7; マラキ4:5-6; 1ペテロ3:18-20; 4:6; 教義と聖約第2章:110:12-15; 124:28-30; 128:15-18; 138:57-59

学ぶ際のヒント

預言者の言葉を自分に当てはめるために、預言者の言葉がどのように自分と関連があるか考えましょう（『教師、その大いなる召し』170参照）。学んでいるときに、日々の生活で不安や疑問に思っていること、また、困難なことについて、これらの教えがどのように助けになるだろうかと、問うてみるとよいでしょう。

注

1. エレノア・ノウルズ, *Howard W. Hunter* (1994年) 186参照
2. フランシス・M・ギボンズ, *Howard W. Hunter: Man of Thought and Independence, Prophet of God* (2011年) 16-18参照
3. 非公開文書/リチャード・A・ハンター
4. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 192
5. "We Have a Work to Do," *Ensign*, 1995年3月号, 64
6. 「教会員の偉いなる象徴」『リアホナ』1994年11月号, 4参照
7. 「神殿に心を向ける民」『リアホナ』2004年3月号, 40, 42
8. 「エライジャの霊」『聖徒の道』1995年1月号, 92-93
9. 「神殿に心を向ける民」42参照
10. 「神殿に心を向ける民」43
11. "We Have a Work to Do," 65
12. ユタ州バウンティフル神殿・奉獻の祈りの原文, "Magnificent Edifice' Consecrated to [the] Lord," *Church News*, 1995年1月14日付, 4で引用
13. "We Have a Work to Do," 64-65


 ばんさん せいさん
主の晩餐の聖餐

「イエスは、パンを取ってそれを割き、また杯^{さかづき}を取ってそれを祝福されたとき、霊の糧と永遠の救いをもたらす神の小羊として、御自身をささげられたのです。」

ハワード・W・ハンターの生涯から

ハワード・W・ハンターは、活発な末日聖徒の母親と当時どの教会にも属していなかった善良な父親の下で育った。父親は家族が教会へ行くことに反対しなかった。時折一緒に^{せいさん}聖餐会に出席することもあったが、子供たちが8歳でバプテスマを受けることを望まなかった。子供がもっと大きくなってから自分の意思で決めるべきだと思っていたからである。ハワードはバプテスマを受けていなかったで、12歳になってもアロン神権を受けることができず、執事の職に聖任されなかった。他の活動には若い男性と一緒に参加することができたものの、彼らと一緒に聖餐を配れないことにハワードはひどくがっかりしていた。

「聖餐会の間、他の子供たちと一緒に座っていました」とハワードは振り返る。「彼らが聖餐を配る時が来ると、わたしは席で小さくなったものです。仲間外れになったような気持ちでした。聖餐を配りたかったのですが、バプテスマを受けていなかったのでできませんでした。」¹

12歳の誕生日から5か月近くたったとき、ハワードはバプテスマを受けさせてくれるよう父親を説得した。それから間もなく、執事に聖任された。「初めて聖餐を配ったときのことを覚えています」とハワードは語っている。「怖かったのですが、その特権を頂いたことにわくわくしていました。聖餐会の後にビショップが、わたしの配る様子が立派だったと褒めてくれました。」²

十二使徒として召されたとき、ハワード・W・ハンターはソルトレーク神殿において定期的に、他の中央幹部とともに聖餐の儀式に参加した。十二使徒定員会でハンター長老とともに奉仕したデビッド・B・ヘイト長老は、聖餐を祝福するハンター長老の声を聞いたときの経験について、次のように語った。

「わたしは神殿でハワード・W・ハンター長老が聖餐の祝福をするのを聞いたことがあります。教会の全てのアロン神権の兄弟たちにもその祈りを聞く機



「わたしを記念するため、このように行いなさい。」(ルカ 22:19)

会があったらよいのにと心から思います。彼はキリストの特別な証人です。わたしはハンター長老が天の御父に聖餐を祝福してくださるように祈るのを聞いて、ハンター長老の深い靈性を感じました。聖餐の祝福の言葉一つ一つがはっきりと意味を持って聞こえました。決して急いでいる様子はありません。十二使徒全員を代表して天の御父に語り掛けていました。』³

これらのことから、ハンター大管長が、キリストの贖いの犠牲を表す神聖な象徴に対して、生涯変わることのない畏敬の念を抱いていたことが分かる。

この章の教えから分かるように、ハンター大管長は、教会員が聖餐の重要性を理解するのに役立つ一つの方法として、古代の過越すぎこしの祭と関連づけて説明した。そして救い主が、弟子たちと囲んだ過越の祭の食事のときに、この儀式をお定めになったということに触れている。

ハワード・W・ハンターの教え

1 過越すぎこしの祭は、死がわたしたちに永遠に 力を及ぼすことはないと明確に教えている

〔過越の祭〕はユダヤ人の最も古い祭で、伝統的なモーセの律法が授けられる前の出来事を祝うものです。それは、あらゆる時代の人々に、イスラエルの子らが約束の地へ戻ったことと、それに先立ってエジプトで大きな苦しみを受けたことを思い起こさせます。また、民が服従と束縛の身から解放されて自由を得たことを記念しています。過越の祭は、自然界が生命と成長と結実に目覚める春に祝われる旧約聖書時代の祭です。

過越の祭はキリスト教の行事である復活祭と関連があります。……過越の祭〔と復活祭〕は、神が与えてくださった大なる賜物たまものと、それにまつわる犠牲について証あかしをしています。この二つの大きな宗教行事は、死がわたしたちを「過ぎ越して」永遠に力を及ぼすことがなく、墓が勝利を得ることはないと明確に教えています。

エジプトからイスラエルの子らを導き出すに当たり、エホバはシナイ山で燃えるしばの中からモーセに語られました。

「わたしは、エジプトにいるわたしの民の悩みを、つぶさに見、また追い使う者のゆえに彼らの叫ぶのを聞いた。わたしは彼らの苦しみを知っている。
……

さあ、わたしは、あなたをパロにつかわして、わたしの民、イスラエルの人々をエジプトから導き出させよう。」(出エジプト3:7, 10)

パロが頑として譲らなかったために、多くの災いがエジプトに下りました。しかしそれでも、「パロは心をかたくなにし、主がモーセによって語られたように、イスラエルの人々を去らせなかった。」(出エジプト9:35)

主はパロの拒絶に対して、こう言われました。「エジプトの国のうちのういごは、位に座するパロのういごをはじめ、ひきうすの後にいる、はしためのういごに至るまで、みな死に、また家畜のういごもみな死ぬであろう。」(出エジプト11:5)

エジプト人に最後に下されるこの最も悲惨な罰からイスラエルの民を守るために、主はモーセを通して、家族ごとに傷のない子羊を1頭取ってほふるように指示されました。

「その血を取り、小羊を食する家の入口の二つの柱と、かもいにそれを塗らなければならない。

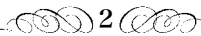
そしてその夜、その肉を火に焼いて食べ、種入れぬパンと苦菜を添えて食べなければならない。……

あなたがたは、こうして、それを食べなければならない。すなわち腰を引きからげ、足にくつをはき、手につえを取って、急いでそれを食べなければならない。これは主の過越である。……

もし、あなたがたの子供たちが『この儀式はどんな意味ですか』と問うならば、

あなたがたは言いなさい、『これは主の過越の犠牲である。エジプトびとを撃たれたとき、エジプトにいたイスラエルの人々の家を過ぎ越して、われわれの家を救われたのである。』(出エジプト12:7-8, 11, 26-27)

イスラエルの民はパロの手を逃れ、エジプト人の初子は死に見舞われました。その後、イスラエルの民は長い旅を経てヨルダン川を渡ることができました。聖文にはこう記されています。「イスラエルの人々はギルガルに宿営していたが、その月の十四日の夕暮、エリコの平野で過越の祭を行った。」(ヨシユア5:10) それ以来、ユダヤ人の家族は毎年この祭を祝うようになりました。ヨセフとマリヤ、少年イエスの家族も例外ではありませんでした。⁴



救い主は^{すぎこし}過越を祝う^{せいさん}食事の間に聖餐の儀式を定められた

ヨハネの福音書から明らかなように、過越の祭は、キリストが死すべき世で務めを果たされる間、節目節目の出来事の背景となっています。その業を始められたイエスは、最初の過越の祭で、両替人や動物を売る者を神殿の庭から追い払って神殿を清め、御自分の使命を人々に教えられました。2度目の過越の

祭では、パンと魚の奇跡によって御自分の力を示されました。キリストはその祭のとき、2階の広間で、後にさらに大きな意味を持つことになる象徴を定められました。主は言われました。「わたしが命のパンである。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決してかわくことがない。」(ヨハネ 6:35)

もちろん、この古代の祭に完全な意味をもたらしたのは、最後の過越の祭でしょう。イエスは、この世における最後の週を迎えられたとき、その過越の祭の持つ意味をはっきりと理解しておられました。周囲の人々も何かが起こることを既に感じ取っていました。マタイは次のように記しています。

「イエスはこれらの言葉をすべて語り終えてから、弟子たちに言われた。

『あなたがたが知っているとおおり、ふつかの後には過越の祭になるが、人の子は十字架につけられるために引き渡される。』(マタイ 26:1-2)

御自分の身に起こることを全て知っておられたイエスは、ペテロとヨハネに、過越の食事の準備を整えるように言われました。そして、ある家の主人に会ってこう尋ねるように指示されました。「弟子たちと一緒に過越の食事をする座敷はどこか、と先生が言っておられます。」(ルカ 22:11)

イエスの降誕が孤独なものであったように、その死もまた、ある意味で孤独なものでした。きつねには穴があり、鳥には巣がありますが、人の子には、生まれたときにも、この世の最後を迎えるときにも、枕する所がありませんでした[マタイ 8:20 参照]。

こうして、1,500年近く受け継がれてきた伝統に従って、過越の食事が用意されました。イエスは弟子たちと座り、この古来の祭に倣^{なら}って犠牲の子羊の肉とパンを食べ、ぶどう酒を飲まれました。それから、その昔神から与えられた祝福について、より新しく神聖な意味をお教えになりました。

イエスは丸く伸ばした種入れぬパンを取り、それを祝福して小さく割くと、次のように言って使徒たちに配られました。「これは、あなたがたのために与えるわたしのからだである。わたしを記念するため、このように行いなさい。」(ルカ 22:19)

杯^{さかずき}が満たされると、イエスはそれを取って感謝し、弟子たちに飲むように勧めて言われました。「この杯は、あなたがたのために流すわたしの血で立てられる新しい契約である。」(ルカ 22:20) パウロは次のように述べています。「あなたがたは、このパンを食し、この杯を飲むごとに、それによって、主がこられる時に至るまで、主の死を告げ知らせるのである。」(1コリント 11:26)



「イエスは、パンを取ってそれを割き、また杯さかづきを取ってそれを祝福されたとき、
霊的な養いと永遠の救いをもたらす神の小羊として、御自身をささげられたのです。」

動物と苦菜に代わってパンとぶどう酒が、偉大な小羊の体と血の象徴、すなわち主を永遠に記念するものとして、敬虔な態度けいけんで食べたり飲んだりするよう定められました。

救い主はこのように簡潔で強い印象を与える方法により、今日主の晩餐ばんさんの聖餐として知られる儀式を定められたのです。ゲツセマネでの苦しみ、カルバリの丘での犠牲、そして園の墓からの復活により、イエスは古代の律法を成就し、犠牲の律法に関するより高度で神聖な理解を基盤とする新たな神権時代の扉を開かれました。もはや羊の群れから初子をささげる必要はなくなりました。神の初子が来て、御自身を「無限にして永遠の犠牲」としてささげられたからです。

贖罪しよくざいと復活がこの上なく崇高な理由はそこにあります。それは単なる死からの過越たまたものでなく、無限の犠牲によりもたらされる永遠の命の賜物たまものなのです。⁵

〔過越の食事という〕古代に与えられた保護を記念する行事の最中に、主が、守りという新たな聖約の象徴であり、御自身の体と血の象徴である聖餐を定められたのは何と時宜しんぎにかなったことでしょうか。イエスは、パンを取ってそれを割き、また杯を取ってそれを祝福されたとき、霊的な養いと永遠の救いをもたらす神の小羊として御自身をささげられたのです。⁶

3

聖餐せいさんを受けることは、自らの生活を振り返り、聖約を新たに作る機会となる

最近、……自分のワードの聖餐せいさん会かいに出席する機会がありました。……祭司たちが聖餐の準備をしている間、わたしたちは賛美歌を歌いました。

父なる神よ

祈り聞きたまえ

主の愛の上に

われらは休む

〔『賛美歌』96番〕

割かれたパンを前に祭司がひざまずき、「御子の体の記念にこれを頂けるように、また、進んで御子の御名を受け、いつも御子を覚え、御子が与えてくださった戒めを守ることを、永遠の父なる神よ、あなたに証明して……」と祈りました（教義と聖約 20：77）。執事が割かれたパンを配るために礼拝堂に散っていきました。一人がわたしたちの列に来て、銀色のトレイを差し出し、わたしはパンを頂きました。それからわたしはトレイを受け取ってハンター姉妹がパンを頂き、次に彼女がトレイを持って隣の人に差し出しました。そのようにしてトレイが列の全員に次々と受け渡されました。

わたしは、2,000年ほど前にイエスが裏切られた夜の出来事に思いをはせました。……主の晩餐ばんさんの聖餐は、〔動物の〕犠牲に取って代わり、主が本当に人々のために犠牲となられたことを聖餐を受ける人に思い出させるため、そして主に従い、主の戒めを守り、最後まで忠実であるという聖約をも思い起こさせるために定められたのです。

そのことを考えていると、コリントの教会に宛てたパウロの訓戒の言葉が思い浮かびました。パウロはこう言いました。「だから、ふさわしくないままでパンを食し主の杯さかずきを飲む者は、主のからだと血とを犯すのである。

だれでもまず自分を吟味し、それからパンを食べ杯を飲むべきである。

主のからだをわきまえないで飲み食いする者は、その飲み食いによって自分にさばきを招くからである。」(1コリント11:27-29)

わたしは不安になりました。こう自問してみました。「自分は何よりも神を優先し、戒めを全て守っているだろうか。」それから反省し、決心をしました。いつも主の戒めを守りますと主に聖約することは重大な責任であり、聖餐にあずかってその聖約を新たにすることも同じように重大なことです。聖餐が配られている間に黙想する厳粛な時間を持つことには大きな意義があります。それは、自省、内省、自己洞察の時間であり、反省し決心する時間なのです。

やがて、もう一人の祭司が聖餐のテーブルの前にひざまずき、この水を頂く全ての人々が「この人々のために流された御子の血の記念にこれを頂けるように、また、いつも御子を覚えていることを……証明して、御子の御霊を受けられるように」と祈りました(教義と聖約20:79)。

静かな瞑想の時間がありました。静寂を破ったのは赤ちゃんの声だけで、それもすぐに母親がしっかりと抱き締めたので静かになりました。この神聖な儀式の間、静けさを乱すものは何であってても場違いに思えますが、幼い子供の声が主の不興を買うことは決してないでしょう。主も、ベツレヘムで始まりカルバリの十字架上で終わった死すべき世の生涯の幼年時代を、愛情深い母親の腕に抱かれて過ごされたのです。

若い男性たちは聖餐を配り終えました。続いて励ましと教えに富んだ話があり、閉会の賛美歌と祈りによって、世の煩いを離れた聖なる時間が終わりました(「ひそかな祈り」『賛美歌』79番参照)。帰宅の途中に、……ある思いが心に浮かびました。もし全ての人がバプテスマの目的を理解して、それを喜んで受け入れ、その儀式において交わす聖約、すなわち主に仕えて主の戒めに従うという聖約を守りたいと望み、そしてさらに、安息日には聖餐を受け、主に仕えて最後まで忠実であるという聖約を新たにしたいと思うなら、どんなにすばらしいことでしょうか。……

聖餐会に出席して聖餐にあずかることにより、その日はさらに意義深い日となりました。わたしは、主が次のように言われた理由をさらによく理解できたように感じました。「また、あなたは、世の汚れに染まらずに自らをさらに十分に清く保つために、わたしの聖日に祈りの家に行って、聖式をささげなければならぬ。

まことに、この日は、あなたがたの労苦を解かれて休み、いと高き方に礼拝をささげるように定められた日だからである。」(教義と聖約59:9-10)⁷

研究とレッスンのための提案

質問

- 古代イスラエルにおける過越すぎこしの祭に関するハンター大管長の教えを研究してください(第1項参照)。過越の祭から、わたしたちは何を学べるでしょうか。過越の祭と復活祭にはどのような関連があるでしょうか。
- 救い主が聖餐を定められたことを説明するハンター大管長の言葉を研究してください(第2項参照)。この出来事はあなたにとってなぜ重要なのでしょうか。聖餐はどのように、わたしたちにとって「守りの聖約」となるのでしょうか。
- 第3項にあるハンター大管長が聖餐せいさんにあずかったときの経験を読んで、どのような印象を持ちましたか。大管長のこの経験から、聖餐をさらに意義深いものとするためにどのようなことを学べるでしょうか。聖餐はあなたにとってどのように祝福となっていますか。

関連聖句

1コリント5:7-8; 11:23-29; 3ニーファイ18:3-14; 20:8-9; モロナイ6:5-6; 教義と聖約20:75-79; 27:1-2

教える際のヒント

「福音を教えるときには、御霊みたまが真の教師であることを謙虚に認めるべきである。わたしたちの特権は、わたしたちを通して聖霊が教えあかし、慰め、靈感をお与えになる器として働くことである。」(『教師、その大いなる召し』41)

注

1. ジェリー・アバント, "Elder Hunter—Packed Away Musician's Career for Marriage," *Church News*, 1985年5月19日付, 4で引用
2. J・M・ヘスロップ, "He Found Pleasure in Work," *Church News*, 1974年11月16日付, 4で引用
3. デビッド・B・ヘイト「聖餐」『聖徒の道』1983年7月号, 22参照
4. 「キリスト, 過越の小羊」『聖徒の道』1985年7月号, 19参照
5. 「キリスト, 過越の小羊」19-20参照
6. 「最後の時」『聖徒の道』1974年12月号, 560参照
7. 「聖餐に思うこと」『聖徒の道』1977年10月号, 452-453参照



「神殿において、わたしたちは男女に用意されている最も高い儀式を受けます。
夫婦を永遠につなぐ結び固めの儀式です。」



結婚 ― 永遠の協力関係

「人生における最も偉大な協力関係は結婚の中にあります。それは、いつまでも続く、永遠に大切な関係です。」

ハワード・W・ハンターの生涯から

ハワード・W・ハンターは20歳のとき、カリフォルニア州ロサンゼルス教会で行われたダンスパーティーに行き、そこで友人のデートの相手として来ていたクレア・ジェフスと出会った。ダンスが終わってから、数人で海岸に散歩に行くことにした。ハワードがネクタイをなくしたことに気がついたとき、クレアは海辺を歩いて探すのを進んで手伝ってくれた。ハワードは後にこう語っている。「次のデートのとき、わたしの相手はクレアで、〔友人〕の相手は他の女性でしたよ。」¹

翌年になると二人は真剣に交際するようになった。そして出会ってから3年近くたったある春の夕暮れに、ハワードはクレアを連れて海が見渡せる高台に行った。彼はこう書いている。「満月の光の中、わたしたちは太平洋の波が寄せては岩に砕けるのを〔見詰めていました〕。」その夜ハワードはプロポーズし、クレアが承諾したのである。彼はこう言っている。「その夜、わたしたちは将来のことを語り合い、多くのことを決めました。二人の人生に関するかなり重大な決意もありました。」²

1931年6月10日、ハワードとクレアはソルトレーク神殿で結婚した。それから52年間、息子たちを育て、教会で奉仕し、信仰をもって困難に向き合う中で、二人の愛はさらに深まっていった。

家族には二人の結婚生活が幸せだったことは明らかだった。最年長の孫ロバート・ハンターは次のように語っている。「ハンターおじいさんのことを考えると、真っ先に頭に浮かぶのは、妻を愛するという模範を示してくれたことです。……あの二人から愛のきずなを手取るように感じることができます。」³

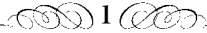
ハンター大管長の妻への愛は、クレアが深刻な健康問題を抱えていた生前最後の10年間に特に明らかであった。1983年10月9日にクレアが亡くなったとき、ハンター大管長は「精神的に大きな打撃」を受けた。⁴ クレアが亡くなっ

た日に家に帰ったときのことをこう記している。「家がひんやりしているようでした。歩き回って何を見ても、彼女のことを思い出しました。」⁵

およそ7年を独りで過ごした後、ハンター大管長は1990年4月にイニッシ・スタントンと結婚した。ソルトレーク神殿で儀式を執行したのはゴードン・B・ヒンクレー管長であった。イニッシはハンター大管長にとって大いに慰めと力になり、十二使徒定員会会長および大管長としての務めを支えた。世界中の聖徒たちと会うために旅した大管長に何回も同行している。

十二使徒定員会のジェームズ・E・ファウスト長老は、ハンター大管長にとって祝福であったイニッシについて次のように語っている。「[クレアの] 死後、イニッシと結婚するまでの数年間は寂しい時期でした。大管長とイニッシと一緒に多くの幸せな思い出を作り、たくさんの経験をともしてきました。」それからハンター姉妹に向かってこう言った。「イニッシ、わたしたちはあなたが大管長とともに歩み、良き友となって、愛を込めて献身的に世話をしてくれたことに言葉で言い表せないほど感謝しています。あなたは大管長の人生と務めの最後を飾る時期に、幸せと喜びをもたらしてくれました。」⁶

ハワード・W・ハンターの教え



男女間の結婚は神により定められたもので、 永遠に続く関係として計画された

主はわたしたちのために結婚を定義し、次のように言われました。「それゆえに、人は父母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりの者は一体となるべきである。」(マタイ 19:5)⁷

人生における最も偉大な協力関係は結婚の中にあります。それは、いつまでも続く永遠に大切な関係です。⁸

神権を持つ男性は、救いの計画に関する知識を基に、結婚は神聖な特権であり義務であると考えます。男性であろうと女性であろうと、人が一人でいるのはよいことではありません。男性は女性なしに完全にはなれませんし、男女のいずれが欠けても、人はその創造の目的を果たすことはできません(1コリント 11:11; モーセ 3:18参照)。男女間の結婚は、神が定められたものです(教義と聖約 49:15 - 17参照)。結婚の新しくかつ永遠の聖約によってのみ、人は永遠の祝福を享受することができるのです(教義と聖約 131:1 - 4; 132:15 - 19参照)。⁹

結婚は、よく、神との協力関係であると言われます。これは単なる言葉のあやではありません。この協力関係が強く生き生きとしたものであれば、夫婦は

神を愛するように互いを愛し、家庭は優しさと愛情に満ちて、永遠の成功をもたらすようになります。¹⁰

人類最初の結婚は主によって執り行われました。それは永遠の結婚でした。なぜなら、その儀式が行われたときには、時というものが存在しなかったからです。当時死を受けることのなかった二人に儀式が行われました。そのため、その状況下で婚姻関係は決して終わることのないものだったのです。墮落の後、わたしたちの最初の祖先は園を追われました。そのとき死を受けようになりましたが、彼らには復活が約束されていました。二人の永遠の結婚が終わるとは、一度も告げられていません。¹¹

神殿において、わたしたちは男女に用意されている最も高い儀式を受けます。夫婦を永遠につなぐ結び固めの儀式です。若い人々が妥協して神殿以外では結婚しないように願っています。¹²

バプテスマが主の戒めであるように、神殿結婚も戒めです。バプテスマが教会員となるために不可欠なように、神殿結婚は神の前で昇栄を得るために不可欠なのです。神殿結婚はわたしたちの行く末の一部であり、それなしでは、わたしたちの究極の目的を達成することができません。それ以下で満足してはなりません。

あなたは俗世の形式によるバプテスマを受け入れることはないでしょう。神はバプテスマの方式を定めておられます。それは権能を持つ者により水に沈められることです。では、俗世の形式による結婚をあなたは受け入れるでしょうか。神は結婚の形式も定めておられます。それが神殿結婚です。¹³

主の祝福によって、わたしたちが自らの存在理由を悟ることができますように。また、昇栄と永遠の命にたどり着くために何をしなければならぬかを理解できますように。わたしたちが神聖と考える結婚は、永遠の計画の一部なのです。進んでそれに従うなら、儀式は永遠に続くものとなります。この知識が示され、またこうした真理が明らかにされているということは何と栄えあることでしょう。¹⁴

2

結婚相手を決めるときは、忍耐と信仰を持って、 神の助けを得るにふさわしい状態でいなければならない

皆さんがする最大の決断、……すなわち皆さんの人生を永遠に形作る決断は、結婚であると思います。その決断は、人生で下すどのような決断よりもずっと重要であるということに、皆さんも賛同すると確信しています。なぜなら、仕事や職業、あるいは皆さんが行うどんなことも、永遠に価値があるものには遠く

及ばないからです。……〔結婚に関する決断は〕皆さんに永遠に影響を及ぼしますし、地上にいる間にも影響を及ぼします。¹⁵

……前もってよく考えず、靈感も受けなくて性急に結婚してはなりません。よく祈って、主の導きを求めましょう。神の助けが得られるように、ふさわしい状態でいてください。¹⁶

皆さんの多くは、……交際、結婚、そして子供を持つことについて心配します。ニーファイの示現や黙示録の中に将来の伴侶の名前を見つけることは、おそらくないでしょう。天使やビショップから告げられることもたぶんないと思います。物事には自分で答えを出さなければならないこともあるのです。信仰を持ち、従順であれば、祝福が来ます。辛抱強くあるように努力してください。持っていないものに集中するあまり、持っているものを見失わないようにしてください。結婚について心配しすぎると、結婚の可能性そのものを遠ざけてしまいかねません。二人で送る結婚生活について必要以上に思い悩む前に、一人の人間として忠実で充実した生活を送るようにしましょう。¹⁷

約束された祝福を待つ間、無為に過ごしてはなりません。前進しないということは、いくらか後退していると言えるからです。自己啓発も含めて、熱心に善いことに携わってください。¹⁸

3

結婚していないふさわしい個人が祝福を拒まれることはない

わたしたちの教会はイエス・キリストの教会であり、既婚者、独身者、その他いかなるグループまたは個人の教会でもありません。わたしたちが説く福音はイエス・キリストの福音であり、キリストと天の御父が授けられた戒めを守り、キリストを喜んで受け入れる全ての人が救いと昇栄を受けるために必要な救いのためのあらゆる儀式と聖約を網羅しているのです。¹⁹

ふさわしい個人は、永遠の結婚や永遠の家族をはじめとするどのような祝福も拒まれることはありません。この祝福を受けるまでに多少長く、事によるとこの死すべき世を超えるまでかかる人がいるかもしれませんが、祝福が拒まれることはないのです。……

では、愛と助言の言葉を少し述べさせてください。

独身男性の皆さんへ。職業面でまだ完全に満足していないとか、経済的に望ましい状況でないという理由で結婚を先送りにしないでください。……神権者である皆さんには、永遠の伴侶を求めるに当たって率先する義務があることを忘れないでください。



「約束された祝福を待つ間、……自己啓発も含めて、熱心に善いことに携わってください。」

独身女性の皆さんへ。主は皆さんを心にかけておられると、神の預言者が常に約束してきました。忠実であれば、あらゆる祝福が皆さんのものになります。この世で結婚の機会がなく、自分の家族を持たないということは一時的な状態にすぎません。永遠という時間は長いのです。ベンソン大管長はこう言っています。「時を数えるのは人間だけです。神は皆さん一人一人を永遠の見地に立って心にかけておられるのです。」(『聖徒の道』1989年2月号, 102) 皆さんの人生を価値のある有意義な活動で満たしてください。

離婚を経験した人へ。失望や挫折感から、結婚や人生に対して全てを悪い方へ考えることのないようにしてください。結婚不信に陥ったり、苦しみのために自分を失い、あなた自身やあなたの愛する人、また過去に愛した人の人生を台なしにしたりしないでください。²⁰

4

幸せな結婚生活を送るためには、福音の原則に従って 生きるよう最善の努力をしなければならない

〔結婚〕……というのは学習行動です。素質ではなく、意識的な努力が成否を決めるのです。その原動力は、思いやり、真の愛情、そして互いの幸福と福利に対する心遣いから生じます。

結婚する前、わたしたちは各自の視点から人生を見ていました。しかし、結婚してからは人生を別の視点から考え始めます。相手を安心させ愛を示すには、犠牲を払い、調整することが必要です。

結婚生活が幸せでうまくいくためには、たいていの場合、ふさわしい相手と結婚するよりも、自分がふさわしくあることの方が大切だとよく言われます。統計データは高い離婚率を示しています。それはパートナー選びが賢明でなかったことを表しているかもしれません。もし別な人と結婚していたらある問題は発生しなかったかもしれませんが、その代わりに別の問題が出てきたに違いないのです。結婚生活がうまくいくには、伴侶を賢明に選ぶことが非常に大切です。しかし、うまくいく最大の要因は、自分の役割を十分に果たすよう意識的に努力することにあります。²¹

ふさわしい夫婦が日の栄えの王国で昇栄を得るのは真実ですが、そのためには永遠の夫婦として結び固められた夫と妻が、それぞれ個人としてその祝福にふさわしくなければならないのです。

永遠の結婚はふさわしい男性と女性によって成り立ちます。二人ともそれぞれ水と霊によるバプテスマを受け、それぞれ神殿に参入して自身のエンダウメントを受け、それぞれ結婚の聖約において神と伴侶に忠誠を誓い、神から期待されているあらゆることを行ってそれぞれが聖約を守らなければなりません。²²

福音の原則に従って生活することで、幸福な結婚生活を送ることができるのです。……二人が福音の原則を守って生活できれば、結婚は麗しく、幸せなものとなるでしょう。²³

5

夫婦は結婚のきずなを強めるために力を合わせて努力するべきである

欠点に対する慈愛と忍耐

ほとんどの相手には欠点があります。……リチャード・L・エバンズはかつて次のように言いました。「恐らく誰でも、完全な人とは仲良くできるでしょう。しかし、わたしたちの課題は、欠点のある人と仲良くすることなのです。」〔Richard Evans' Quote Book (1971年), 165〕わたしたちは結婚相手が完全でないことを理解しています。完全を求め、完全になれるという希望の道歩んでいますが、思いやりを持ち、最善を尽くして、人生を麗しいものにならなければなりません。……

……聖書には「愛は寛容であり、愛は情深い」と記されています(1コリント13:4参照)。そのような愛は、軽んじられることのない愛であり、意のままに終止符を打たれ使い捨てプラスチック製品のように捨てられるものではありません。

せん。手に手を取り、心を合わせて、人生におけるあらゆるささいな困難に立ち向かう愛です。それは人間の幸福の究極の表れです。²⁴

心を一にする

最も幸せな結婚とは、苦痛、痛み、成功、心配事を共有する結婚であることは確かです。「自分にどんな得になるのか」という質問がはびこる世にあって、心と魂と肉体において一つとなることはこれまで以上に困難になっているように思われます。あまりに多くの伴侶が、相手の心の一部ではなく、単なる自慢の袖飾りになってしまっています。²⁵

思い、言葉、行いにおける貞節

神権を持つ男性は妻に対し、完全な貞節を守ります。自分の貞節について妻に一点の疑いも与えてはなりません。夫は心を尽くして妻を愛し、妻と結び合うべきであり、その他のものと結び合ってはなりません（教義と聖約 42：22 - 26参照）。スペンサー・W・キンボール大管長はこう説いています。

『『その他のもの』という言葉は、他のあるゆる人、あらゆる物を排除することを意味します。配偶者は生活で最も優先するものであって、社交、職業、政治、その他の利害、人、物が伴侶に優先するようなことがあってはなりません。』
(*The Miracle of Forgiveness*, ソルトレーク・シティ：Bookcraft, 1969年, 250)

主はどのような形であれ配偶者以外との親密な関係を禁じられ、主の教会はそれを罪であると定めています。男性の側の不貞は、妻の胸を張り裂けさせ、妻や子供からの信用を落とします（モルモン書ヤコブ 2：35参照）。

思い、言葉、行いにおいて、結婚の聖約に忠実であってください。ポルノグラフィ、妻以外の女性との戯れ、不健全な妄想などは、本人の人格をむしばみ、幸福な結婚生活を根本から揺るがします。結婚生活における一致と信頼もそのために崩れ去ります。思いを抑制せず、心の中で姦淫かんいんをする人は、悔い改めなければ御霊みたまがなくなり、信仰を否定し、恐れを抱くようになります（教義と聖約 42：23；63：16参照）。²⁶

親密な関係における愛情と尊敬

夫婦間の愛情のこもった親密な関係を損なう、支配的あるいは尊敬に値しない行動を避けてください。結婚は神が定められたので、夫婦間の親密な関係は神の目にかなった尊いものです。神は夫婦が一体となり、増え、地に満ちるよう命じられました（モーセ 2：28；3：24参照）。皆さんはキリストが教会を愛して御自身をささげられたように、妻を愛さなければなりません（エペソ 5：25 - 31参照）。



夫婦が「神を愛するように互いを愛〔するとき〕、
家庭は優しさと愛情に満ちて、永遠の成功をもたらすようになります。」

利己心ではなく、愛情と敬意が夫婦間の親密な関係を育む原則とならなければなりません。夫婦は互いの必要と望みに対し、敏感で思いやり深くなければなりません。親密であるべき夫婦関係に支配的な態度や破廉恥な、あるいは節度のない行いがあるなら、主の責めを受けることでしょう。

妻を肉体的、精神的に虐待し、虐げる男性は重大な罪を犯しているのであり、真心からの真剣な悔い改めが必要です。互いの意見の相違は愛と思いやり、和解の精神で、解決すべきです。男性は常に愛に満ちた思いやりのある心で妻に言葉をかけ、最高の敬意を払うべきです。……結婚とはか弱い花のようです。愛と優しい思いを示しながら、たゆまず養い育てていかなければなりません。²⁷

注意深く耳を傾ける

耳を傾けなければならぬ時があることを理解できれば、多くの問題はすぐに解決し、困難な状況も回避できるはずでです。学校で、注意深く耳を傾けたときはよく学び、集中しなかったときは学ぶことができませんでした。結婚生活でも、進んで耳を傾けなければ、まったく分かり合えなくなってしまう。……もちろん話すことも必要です。しかし、十分に理解を深め、賢明な判断をするためには、相手の考えに耳を傾けなければなりません。聴く耳を持つということがしばしば大きな違いを生むのです。²⁸

無私の心

利己心という砂の上に建つ友情は長続きしません。外見的な美しさに引きつけられただけの、より深い愛と忠誠心を基盤としない結婚は長くは続きません。²⁹

わたしたちは、結婚している皆さんが、二人を主の宮の聖壇へと導いた愛情を忘れないように望んでいます。心が冷めてしまった多くの人、あるいは利己心や背きによって、神殿で交わした結婚の聖約を忘れてたり軽んじたりしている多くの人のことを聞くと、わたしたちは本当に悲しくなります。結婚している皆さんに心からお願いします。互いに愛し、尊敬し合ってください。全ての家族に互いに愛と敬意を示し合う父母がいて、結婚のきずなを強めるためにともに努力していること、本当にそれがわたしたちの最も切なる願いです。³⁰

研究とレッスンのための提案

質問

- ハンター大管長は第1項で、結婚は神によって永遠に続くように定められたと強調しています。それを知ると、あなたと伴侶はんりよの関係にどのような影響があるでしょうか。結婚は「神との協力関係である」とはどのような意味だと思えますか。子供や青少年を神殿結婚に備えさせるために、どのように助けることができるでしょうか。
- 結婚相手の決め方に関するハンター大管長の勧告を読んで、どのような考えや印象を抱きましたか(第2項参照)。
- 第3項にあるハンター大管長の約束と勧告は、どのように独身者の助けになるでしょうか。「わたしたちの教会はイエス・キリストの教会であり、既婚者、独身者……の教会で〔は〕ありません」というハンター大管長のメッセージをどのように自分に当てはめることができるでしょうか。
- 結婚は「学習行動」であるとハンター大管長は言っています。それはどういう意味だと思えますか(第4項参照)。福音の原則に従って生活することで結婚生活が幸せになった例を見たことがありますか。それはどんなときでしたか。あなたが既婚者であるなら、伴侶にさらに愛を示すためにどんなことができるか考えてください。
- 第5項にあるハンター大管長の勧告について深く考えてください。夫婦が互いの欠点に対してさらに忍耐強くなるにはどうしたらよいでしょうか。どうしたらより「心をつにする」ことができるでしょうか。思いと言葉と行いを通して結婚生活における貞節を示すにはどうしたらよいでしょうか。

関連聖句

創世2:18, 21-24; モルモン書ヤコブ2:27, 31-33; 4 ニーファイ1:11; 教義と聖約42:22; モーセ3:19-24。「家族 ― 世界への宣言」『リアホナ』2010年11月号, 129も参照

学ぶ際のヒント

「福音の学習が最大の効果を上げるのは、聖霊によって教えを受けるときです。学ぶことができるように必ず聖霊の助けを祈り求めてから福音の勉強を始めます。」(『わたしの福音を宣べ伝えなさい』18)

注

1. エレノア・ノウルズ, *Howard W. Hunter* (1994年), 72
2. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 79-80
3. ドン・L・サール「十二使徒定員会会長代理ハワード・W・ハンター」『聖徒の道』1987年4月号, 23参照
4. ゴードン・B・ヒンクレー, "A Prophet Polished and Refined," *Ensign*, 1995年4月号, 34
5. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 270, 264, 267, 269も参照
6. ジェームズ・E・ファウスト, "Howard W. Hunter: Man of God," *Ensign*, 1995年4月号, 28
7. *The Teachings of Howard W. Hunter*, クライド・J・ウィリアムズ編(1997年), 137
8. *The Teachings of Howard W. Hunter*, 130
9. 「義にかなう夫, 父親」『聖徒の道』1995年1月号, 57参照
10. *The Teachings of Howard W. Hunter*, 130
11. *The Teachings of Howard W. Hunter*, 132
12. *The Teachings of Howard W. Hunter*, 130
13. *The Teachings of Howard W. Hunter*, 131-132
14. "Divine Creation of Women" (1979年11月30日, オーストラリア, アデレードで開催されたオーストラリア地域大会での説教) 7, 教会歴史図書館, ソルトレーク・シティ
15. *The Teachings of Howard W. Hunter*, 141-142
16. 「あらゆる人のための教会」『聖徒の道』1990年8月号, 44参照
17. "Fear Not, Little Flock" (1989年3月14日, プリガム・ヤング大学における説教) 4: speeches.byu.edu
18. 「あらゆる人のための教会」44参照
19. 「あらゆる人のための教会」42参照
20. 「あらゆる人のための教会」43参照
21. *The Teachings of Howard W. Hunter*, 129-130
22. 「あらゆる人のための教会」44参照
23. *The Teachings of Howard W. Hunter*, 137
24. *The Teachings of Howard W. Hunter*, 135-136
25. *The Teachings of Howard W. Hunter*, 137
26. 「義にかなう夫, 父親」57-58参照
27. 「義にかなう夫, 父親」58参照
28. *The Teachings of Howard W. Hunter*, 129
29. Conference Report, 1967年10月, 12
30. *The Teachings of Howard W. Hunter*, 130-131



家族を守り、擁護する

「家庭には毎日こなすべき日課があり、ありふれた場所に
思えることがあります。家庭での成功はわたしたちの
人生で最大の目標であるべきです。」

ハワード・W・ハンターの生涯から

ハワード・W・ハンターは愛にあふれる、勤勉な家族の中で育ち、幸福な家庭を築くにはしばしば犠牲が求められることを両親から教わった。結婚する直前、ハワードは将来の家族の幸福に必要と感じて、ある犠牲を払った。

ハワードは幼い頃から音楽を愛するようになった。初めにピアノとバイオリンを弾くことを学び、その後他のさまざまな楽器の演奏を独学で身につけた。10代するとき、ハンターズ・クルーネーダーズという音楽バンドを結成し、アイダホ州ボイス近郊のダンスパーティーなどの催しで演奏した。19歳のとき、ハワードと彼のバンドは雇われて、2か月間アジアを航海する巡航船で演奏した。¹

演奏旅行から帰宅した翌年、ハワードはカリフォルニア州南部に拠点を移し、さまざまなバンドとともに演奏した。またカリフォルニアにいる間に、クレア・ジェフスと出会い、1931年の春にプロポーズをした。結婚する4日前、ハワードはバンドとともに演奏した後、楽器を全てケースに収めた。それ以来、プロの音楽家として活動することは二度となかった。ダンスパーティーやその他のパーティーで音楽を提供することは「ある面では華やかで、報酬も良かった」とハワードは語った。しかし、そのような生活には、自分の家族のために思い描いている生活と矛盾する部分があると感じたのである。それから何年も後、「心の楽しみがなくなった寂しさはありましたが、あの決意を後悔したことはありません」とハワードは述べている。²

ハワードとクレアには、ハワード・ウィリアム（ビリー）、ジョン、リチャードという3人の息子が生まれた。悲しいことに、ビリーは乳児のときに亡くなった。ジョンとリチャードが大きくなるにつれ、ハンター夫妻は親密な家族関係を築いた。ハワードは弁護士の仕事や教会の召しで多忙な毎日を過ごしたが、彼とクレアは家族を第一にした。教会が月曜日に家庭の夕べを開くように勧めるずっと以前から、ハンター家は月曜の夕べに福音を教え、物語を話し、ゲームをし、



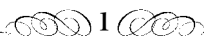
家族は「人生の他のどのようなものにも勝って価値あるものです。」

よく一緒に出かけた。息子たちはレッスンの割り当てを受けることがよくあった。

ハワードと息子たちは、鉄道模型など、共通の趣味を持った。キットから列車を組み立てて、複雑な線路を合板に貼り付けて作った。ハワードはこう回想している。「わたしたち家族が大好きなことは、サザン・パシフィック鉄道のアルハンブラ駅近く……の操作場へ行って、模型の操作場や機材を作るためのアイデアを手に入れることでした。」³

その後、ハンター大管長夫妻の家族には、18人の孫も加わった。子供や孫を訪ねてゆっくり過ごすときもあったが、ハンター大管長は教会の割り当てでカリフォルニアを経由した際の乗り換え時間、「通りすがり」訪問をすることもしばしばあった。こういった乗り換えの待ち時間に、ジョンがしばしば子供たちを連れて父親に会いに行ったので、子供たちは祖父ハワードのことを「空港に住むおじいちゃん」と呼ぶことがあった。⁴

ハワード・W・ハンターの教え



家族は社会と教会と永遠の世において最も大切な単位である

家族はこの世と永遠の世において最も大切な単位であり、人生の他のどのようなものにも勝って価値あるものです。⁵

教会には家族を社会の基として守り、擁護する責任と権能があります。世の初めから定められた家族生活の規範によれば、子供たちは法律上正しく結婚した夫婦を父母として生まれ、養われます。親としての務めは神聖な責任であると同時に特権であり、子供はまさに「神から賜^{たま}った嗣業^{しきぎょう}」です（詩篇 127:3）。

現代の人々は今、家族の崩壊によって、預言者たちが告げた災いが世にもたらされるのではないかと恐れています。世の人々がどれほど協議を重ね熟考したところで、主が啓示されたとおりに家族を位置づけない限り、成功を収めることはできません。「主が家を建てられるのでなければ、建てる者の勤労はむなし」のです（詩篇 127:1）。⁶

個人や家族の幸福を求めるうえで、教会の基本単位が家族であることを覚えておくことは大切です。しかし、家族に焦点を当てるときには、わたしたちの住む世に存在する家族は父親と母親と子供のいる伝統的な家族に限定されないことを念頭に置くべきです。今日の教会の家族には、子供のいない〔夫婦〕、子供のいるひとり親、そして一人で生活する独身の個人も含まれます。……それぞれの家族は神権者の見守りを受けなければなりません。多くの場合、最も注



1994年10月2日のハンター大管長。教会の大管長として支持された日に息子や孫の家族とともに。

意深く見守る必要のある家族は、伝統的な構成ではない家族です。各家庭には関心を寄せてくれる、思いやりのある、献身的なホームティーチャーが必要です。どの家族もおざりにしてはなりません。⁷

2

両親はともに家庭を導く指導者であり、子供たちを守り愛するという厳しい責任を負っている

親の責任は最も重要なものです。親として努力したことは、親自身と子供たちに永遠の結果として現れます。誰であろうと親になる人には、自分の子供を守り、愛し、助けて、天の御父のもとへ帰すという厳しい責任が課せられます。主は、この責任を怠る人々を罪なしとはされません。親である人はこのことをはっきりと理解しておく必要があります。⁸

父親と母親は自分たちに託された子供に対して大きな責任を背負っています。……箴言には両親に対する次の勧告があります。

「子をその行くべき道に従って教えよ、そうすれば年老いても、それを離れることがない。」(箴言 22:6)

子供に与えられる最高の教えは、その両親の模範を通して与えられる教えです。親は若い人々が倣うことのできる手本を示す必要があります。正しい原則を教え、互いへの愛と敬意があり、祈りが家族生活に影響を及ぼし、神に関わる事柄を敬う家庭には、偉大な力がもたらされます。⁹

効果的に家族を導くには、質的にも量的にも十分な時間が必要です。家族を教え管理する責任を、……社会、学校、たとえ教会であっても、それらだけに委ねてはなりません。¹⁰

神権を持つ男性は、家族は神によって定められたと考えます。家族を教え導く務めは、皆さんの最も重要で神聖な務めです。……

神権を持つ男性は家族を連れて教会に出席します。家族が福音を理解し、聖約と儀式を通じて保護を得られるようにするためです。主の祝福を受けたいと願うなら、自分自身の家庭を整えなければなりません。家庭内の霊的な雰囲気は、夫である皆さんと伴侶次第なのです。まず最初に皆さんがしなければならぬ務めは、定期的に聖典を学び、日々祈ることを通して自分自身の霊性を整えることです。自分に与えられた神権と神殿で交わした聖約を守り、尊んで、家族にも同様にするように励ましてください。¹¹

神権を持つ男性は母親の務めを尊重します。母親は「人々の霊をもうける」という神聖な特権を与えられています。「これによって、〔御〕父の業は続けられて、〔御〕父は栄光をお受けになる」のです（教義と聖約 132：63）。

……妻という助け手がいなければ、神権者はその神聖な務めを果たせず、神の目的も成就されません。母親は神権者にはできない務めを果たします。生命を世に送り出すというこの賜物たまもののために、神権者は、子供たちの母親である妻に、無条件の愛をささげる必要があります。

〔兄弟の皆さん、〕イスラエルの母親という皆さんの伴侶が持つ特別な天与の役割、つまり子供をもうけ、育てるといふすばらしい能力を、尊重してください。わたしたちには子孫をもうけ、増え、地に満ち、彼らを光明と真理のうちに養い育てるといふ、神の戒めが授けられています（モーセ 2：28；教義と聖約 93：40参照）。皆さんは愛ある伴侶として、一緒に子供たちの世話をします。妻が家を整え、家事を務めるのを手伝ってください。二人で力を合わせて、子供を教え、しつけ、訓練してください。

また、妻に対する尊敬の気持ちを本人にだけでなく子供たちにも定期的に伝えてください。確かに、父親が子供たちのためにできる最もすばらしいことの一つは、子供の母親を愛することです。¹²

神権を持つ男性は妻をパートナーと考えて、家庭を治め家族を導くうえで必要な事柄をすべて知らせ、相互に納得して決定します。教会と家庭には、必然的に管理役員が必要になります（教義と聖約 107：21参照）。神の定めにより、家庭を管理する責任は神権者のうえに置かれています（モーセ 4：22参照）。主は、妻が夫の助け手（訳注——英語は“helpmeet”で、meetは「対等」を意味する）、つまり対等で不可欠の、完全な協力者となるよう望んでいらっしゃいます。義にかなった管理をするには、夫婦間の責任分担が必要とな

ります。家庭のもろもろの事柄に知恵を出し合い、協力して取り組むのです。これに反して、妻の気持ちや助言を無視するか、尊重せずに家庭を管理する男性は、不義な支配をしているのです。¹³

兄弟の皆さんにお勧めします。神権は義になかった状態のときにだけ力を発揮する権威であることを忘れないでください。子供たちとの間に愛のこもった関係を築いて、彼らの尊敬と信頼を勝ち得てください。義にかなう父親は子供たちの社交活動、教育、霊的な活動や責任のために時間を取り、一緒にいて彼らを守ります。子供に心からの愛と関心を示すのは、母親ばかりでなく父親の責任でもあります。どうか子供たちに皆さんの愛を伝えてください。¹⁴

3

家庭には愛と祈りと福音の教えがあるべきである

わたしたちは家庭に愛と誠実さと強力な原則を根づかせなければなりません。わたしたちは、結婚や子供、そして道徳に忠実でなければなりません。次の世代に大きな影響を与える部分で、わたしたちは失敗してはならないのです。

確かに、家族一人一人が互いの気持ちを思いやり、助け合い、家庭以外の場所で実践しているさまざまな原則を家庭の中に取り入れる努力をしている家庭は、堅固で美しいものです。わたしたちは家族という輪の中でもっと熱心に福音を実践しなければなりません。家庭こそ、最も力を入れて献身するべき場所です。子供たちは家庭が安全な場所であり、危害や外の悪から守ってくれる場所であると感じる権利があります。この必要を満たすには、家族の和と誠実さが大切です。子供は夫婦仲のむつまじい両親を必要としています。また、理想的な家族生活に向かって努力する親、自分を捨てて心から我が子を愛し、家族の成功のために献身する親を必要としているのです。¹⁵

家庭の夕べが教会の公式なプログラムとして初めて導入されたとき、大管長会は次のように述べました。「聖徒たちが〔家庭の夕べを開くという〕勧めに従うなら、豊かに祝福されることをわたしたちは約束します。家庭の愛が深まり、子供たちは親の言うことをもっと素直に聞くようになります。イスラエルの若者たちは、心の中に信仰を育み、自分たちを取り巻く邪悪な影響力や誘惑と戦う力を得ることでしょう。」家庭の夕べを忠実に開く人々に祝福が約束されていることを、わたしたちも断言します。

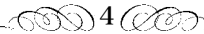
月曜日の夜は家庭の夕べのために取っておくべきです。地元の指導者は、教会の建物や施設が閉館されるようにしてください。また、月曜日の夜にワードやステーキの活動を計画することのないようにし、他の事柄が家庭の夕べの妨げとならないようにするべきです。

家庭の夕べの第一の強調点は、家族が一緒に福音を学ぶべきであるという点です。主は両親に、福音、祈り、安息日を守ることを子供たちに教えるよう、勧告しておられることを皆さんに再確認します。聖文は福音を教えるうえで最も大切なよりどころです。¹⁶

朝と晩、家族で祈ってください。両親が子供の福利を願って主に懇願するとき、その声を聞く子供たちの生活に、どれほど大きな祝福がもたらされるでしょうか。そのような義になかった両親の影響を受けた子供はきっと、サタンの影響から一層よく守られることでしょう。¹⁷

親子が互いをよりよく理解できるように、教会は「家族評議会」として知られる方式を取り入れています。この評議会は両親が招集して進行するもので、家族全員が参加します。家族会議は家族のきずなを深め、子供たちに「帰属感」を育み、親が自分の問題に関心を寄せていることを実感させます。家族会議は互いに敬意を示し合うことを教え、利己心を打ち消し、家庭の中で黄金律〔マタイ7:12参照〕を実践し清い生活を送ることを強調する場となります。親切や正直について教え、家族で礼拝し祈ることを教える場でもあります。たいいていの場合、家族の問題はとても身近で起きるため、その問題の実際の範囲や重大さに気づくことは容易ではありません。しかし、家族が堅固に一致して神に仕え、神の戒めを守るとき、現代の問題の多くは解決します。¹⁸

〔兄弟の皆さん、〕定期的な家庭の夕べ、家族の祈り、聖文の学習時間、その他の教える機会を通じて家族に福音を教える責任と真剣に取り組んでください。伝道と神殿結婚のための準備については、特に強調してください。家長として、家族のために適切な儀式を行い、妻子に祝福を授けて、神権を行使してください。兄弟の皆さん、皆さんの救いを除いて、妻と子供たちの救いほど大切なものは他にありません。¹⁹



立派な親とは、子供を愛し、犠牲を払い、世話をし、 教え、子供の必要を満たす人である

中央幹部は、正しい生活を送り、福音に従って家族を育てている世界中の教会員と知り合いになる特権に恵まれています。これらの聖徒の皆さんは、両親として、祖父母として、曾祖父母として、長い間、子育てに奮闘した実りある日々を振り返って、深い慰めと祝福を感じています。だれもがそのようになりたいと思うことでしょう。

しかし、教会や世の中には、息子や娘が群れから迷い出てしまったために、自分を卑下し罪悪感に苦しみながら生活している人がたくさんいます。……

……誠実な両親は最善を尽くしていますが、それでもほとんどの親は間違いを犯します。親になってみると、行く手にたくさん間違いが待っていることが分かります。わたしたちの天の御父は、間違っただ判断が下されることを承知のうで、霊の子供を経験のない若い夫婦に託されるのです。……

……すべての人は異なっています。子供は一人一人違うのです。人生のレースでスタート地点がそれぞれ異なるように、また長所や欠点や才能がそれぞれ異なるように、子供はそれぞれ独自の性格を授かっています。主が、ある人の成果を他の人の成果とまったく同じ秤はかりで測られると考えてはなりません。親であるわたしたちはしばしば、子供があらゆる面で優れていないと失敗したと思ひ込んでしましますが、判断を下す際は慎重に行わなければなりません。……

立派な親とは、子供を愛し、犠牲を払い、世話をし、教え、子供の必要を満たす人のことです。もしこれらのことをすべて行っても、子供が不従順で世のものを追ひ求め、手に負えないようであっても、皆さんは立派な親であると言えます。どのような環境の下でどのような両親のもとに生まれてこようとも、反抗するために生まれてきたような子供がいるのではないのでしょうか。同様に、両親がどうあろうと、両親の生活に祝福と喜びをもたらす子供もいると思います。

わたしが今日心配していることは、自分自身に対して過酷な評価を下してしまう親がいることです。そして、その人々は、最善を尽くして信仰をもって歩み続けるべきところを、後ろめたい気持ちによって生活が壊されるのに任せてしまうのです。²⁰

[道をそれてしまった子供を持つ] 両親は他にもいます。わたしたちの最初の両親は、子供たちが永遠の命の教えを拒むのを見て、悩み苦しみました(モーセ5:27参照)。それから何世紀か後にヤコブは、年上の息子たちが愛するヨセフに嫉妬し、敵意を抱いていることを知りました(創世37:1-8参照)。偉大な預言者アルマは、息子アルマの反抗的な態度について主に長い間祈りました。息子が教会員の間巻き起こした不和や罪悪について思ひ悩み、すっかり打ちのめされていたことでしょう(モーサヤ27:14参照)。わたしたちの天の御父も、この世に霊の子供たちをたくさん取られてしまいました。ですから御父は皆さんの気持ちをよく御存じなのです。……

……迷い出た子供について希望を失ってはなりません。完全に失われたと思われた多くの人々が、帰って来ました。わたしたちはよく祈る必要があります。そして、できるのであれば、子供たちに愛と関心を伝えるのです。……

……たとえわたしたちの努力が実を結ばなくても、天の御父はわたしたちの愛、犠牲、心配、思ひやりなどを理解しておられます。両親の心はしばしば張り裂けんばかりに苦しみますが、正しい原則を教えた後であれば、最終的な責任は子供自身にあることを忘れてはなりません。



「わたしたちはよく祈る必要があります。そして、……子供たちに愛と関心を伝えるのです。」

……どのような悲しみであれ、心配であれ、苦痛や苦悩であれ、それを人のために役立つ方法を探すことです。例えば、同じ問題を避けるために他の人を助ける、同じような問題で苦しんでいる人の気持ちをさらに深く理解してあげるなどです。祈りを通して、天の御父がわたしたちを理解し、前進するように求めておられることを知れば、御父の愛を一層深く感じることができるでしょう。
……

サタンに欺かれて、すべては失われたと思い込んではいけません。わたしたちが行った正しいことや良いことに誇りを持ちましょう。悪いことは生活の中から捨て去りましょう。そして、主に赦しと力と慰めを求めて、前進しましょう。²¹

5

家庭は、福音の原則を實踐でき、主の御霊が宿る 聖なる場所となるべきである

家族を義にかなって育てる努力において、皆さんが落胆で打ちひしがれないように願っています。主が次のように命じられたことを思い出してください。「しかし、わたしの弟子たちは聖なる場所に立ち、動かされない。」(教義と聖約 45:32)

これは神殿を指していると解釈する人がいます。確かにそうですが、これはわたしたちの家庭も表しています。毎日の家族の祈り、聖文研究、家庭の夕べを行うように励まして参加し、福音の教えを実践する中で愛し支えながら、家族を義になかった方法で導くために熱心に働くなら、義になう子孫を育てることに於いて主が約束された祝福を受けるでしょう。

ますます邪悪になる世の中にあって、わたしたち一人一人が「聖なる場所に立ち」、イエス・キリストの教えを守り忠実に従う決意をすることは何と不可欠なことでしょうか。²²

実りある家族を築くには、両親は互いに愛と尊敬がなければなりません。神権者である夫は、子供の前で妻に最高の敬意を示すべきであり、妻は夫を愛し支えるべきです。そうすれば、子供たちは両親や互いを愛するようになります。そして、家庭は福音の原則を最もよく実践でき、主の御霊が宿る聖なる場所となります。父親あるいは母親として成功することは、仕事や政治、この世の事柄において出世したり、高い地位を得たりすることよりもはるかに偉大なことです。家庭には毎日こなすべき日課があり、ありふれた場所に思えることがありますが、家庭での成功はわたしたちの人生の最大の目標であるべきです。²³

研究とレッスンのための提案

質問

- 第1項で述べられているハンター大管長の教えを振り返り、家族の大切さについて考えてください。教会は家族に対してどのような責任を負っているでしょうか。どうすれば家族を守り、強められるでしょうか。
- 両親はともに家庭を導く指導者であるというハンター大管長の教えについて考えてみてください(第2項参照)。これらの教えは、父親と母親の両方にとってどのように助けとなるでしょうか。両親が一致して子育てができるようになるにはどうすればよいでしょうか。あなたの家庭の「霊的な雰囲気」を改善するには、どうすればよいでしょうか。
- 第3項で、ハンター大管長は堅固な家族を築く方法について勧告を与えています。「家族の和と誠実さ」を増すにはどうすればよいでしょうか。家庭の夕べはあなたの家族にどのような祝福をもたらしてきたでしょうか。家族の聖文研究と祈りは、あなたの家族にどのような祝福をもたらしてきたでしょうか。
- 第4項で述べられているハンター大管長の教えは、道をそれた子供を持つ親にとってどのような助けとなるでしょうか。悲しみや苦悩を味わっている

両親は、それをどのような方法で人のために役立てられるでしょうか。道をそれてしまった子供を助けるために、両親や祖父母、青少年の指導者、他の人々はどんなことができるでしょうか。

- 第5項を読んだ後、家庭を「聖なる場所」とすることに関するハンター大管長の教えについてよく考えてください。これを実践するとき、どんなチャレンジに直面するでしょうか。わたしたちは家庭を聖なる場所とするためにどんなことができるでしょうか。

関連聖句

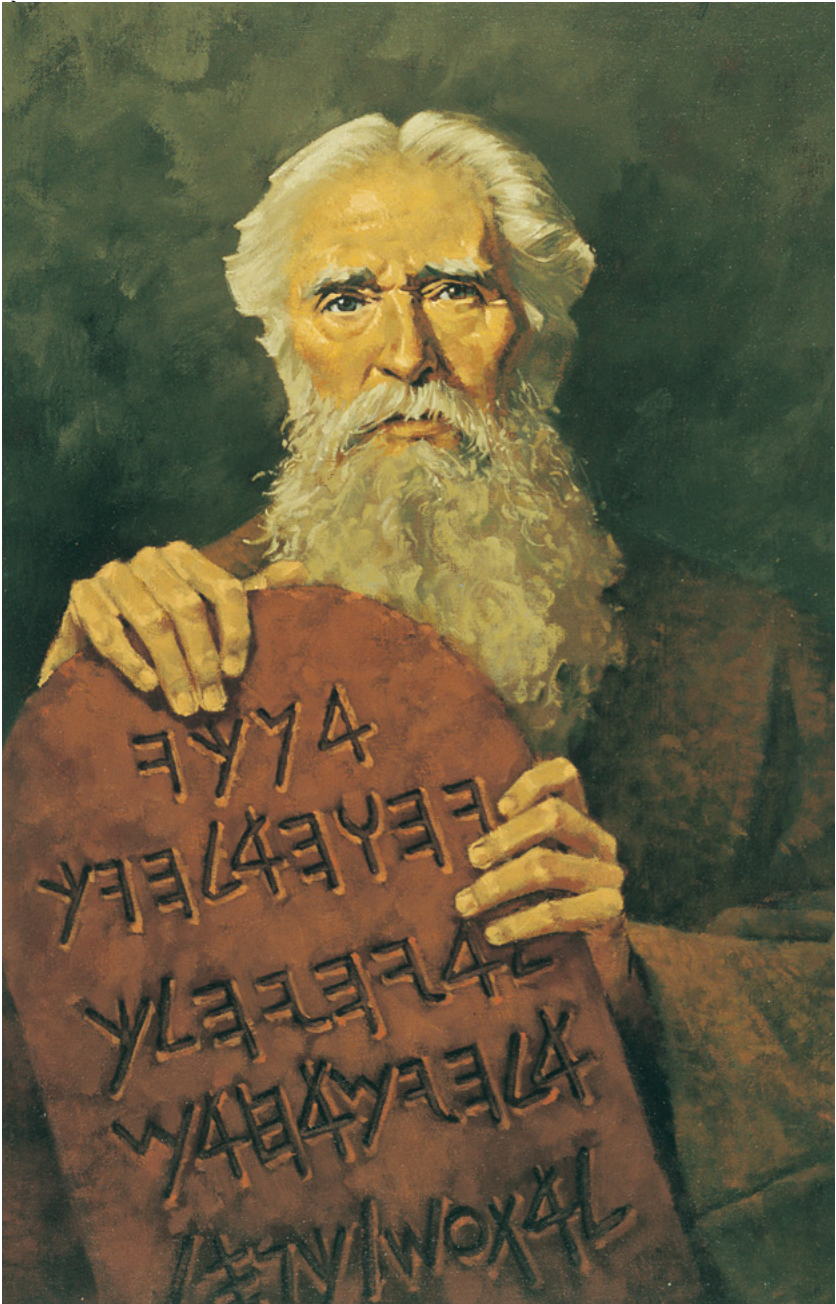
出エジプト20:12; 申命6:4-7; 詩篇127:3-5; エペソ6:1-4; エノス1:1-3; モーサヤ4:14-15; アルマ56:45-48; 3 ニーフアイ18:21; 教義と聖約68:25-28; 93:40; 121:41-46

教える際のヒント

クラスの生徒にペアになってもらい、家庭の夕べでこの章の一部を教える計画を立てるように勧める。どうすればその教えを子供や青少年に関連づけることができるだろうか。幾つかのペアにそれぞれの計画を発表してもらおう。

注

1. エレノア・ノウルズ, *Howard W. Hunter* (1994年) 46-48参照
2. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 81で引用
3. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 109で引用
4. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 252で引用。251も参照
5. 「義にかなう夫、父親」『聖徒の道』1995年1月号, 58参照
6. 「尊く、大いなる約束」『聖徒の道』1995年1月号, 10参照
7. *The Teachings of Howard W. Hunter*, クライド・J・ウィリアムズ編 (1997年), 144
8. 「子供を思いやる両親」『聖徒の道』1984年1月号, 114参照
9. Conference Report, 1960年4月, 125
10. 「義にかなう夫、父親」58参照
11. 「義にかなう夫、父親」58参照
12. 「義にかなう夫、父親」58
13. 「義にかなう夫、父親」58参照
14. 「義にかなう夫、父親」59参照
15. 「神の証人になる」『聖徒の道』1990年7月号, 65-66参照
16. 大管長会の手紙, 1994年8月30日付け (ハワード・W・ハンター, ゴードン・B・ヒンクレイ, トーマス・S・モンソン)
17. マイク・キャノン, “Be More Fully Converted,” Prophet Says” *Church News*, 1994年9月24日付, 4で引用。 *The Teachings of Howard W. Hunter*, 37も参照
18. Conference Report, 1960年4月, 125-126
19. 「義にかなう夫、父親」59
20. 「子供を思いやる両親」112, 114参照
21. 「子供を思いやる両親」113-114参照
22. *The Teachings of Howard W. Hunter*, 155
23. *The Teachings of Howard W. Hunter*, 156



十戒には次の勧告が含まれています。「あなたは隣人について、偽証してはならない。」
(出エジプト 20:16)



わたしたちは正直で あるべきことを信じる

「もし主と聖霊の御霊^{みたま}を伴侶としたいのなら、
わたしたちは自分に正直であり、神に正直であり、
同胞^{はらから}に対して正直でなければなりません。」

ハワード・W・ハンターの生涯から

カリフォルニアにあるハースト・キャッスル（訳注 — 1920 年代に建設された大邸宅）の見学の時間を待っている間、ハンター大管長とハンター姉妹は、もう一組の夫婦とともに車で小さな店へ行った。店の中を見回すと、「ハンター長老はカウンターに行き、リコリッシュ菓子を数えて店員に 10 セント支払いました。」2 組の夫婦は車に戻り、キャッスル見学に引き返すため車を走らせ始めた。途中、「ハンター長老はお菓子を皆に配り、2 度目に配ったときでした。突然、長老は自分がお菓子を数え間違えたことに気づきました。支払った金額は 10 個分でしたが、手元には 11 個あったのです。

その間違いを無視することは簡単なことでした。たった 1 セントのことです。それに、見学時間に間に合うよう、わたしたちは少し急いでいました。1 セントの間違いに気づく人はいないでしょうし、気にもしないでしょう。しかし長老に迷いはありませんでした。車を Uターンさせ、店に戻ったのです。…… さっきとは別な店員に事情を話し、間違ったことを謝り、驚いている店員にもう 1 セント払いました。¹

ハワード・W・ハンターにとって、小さなことにも大きなことにも正直であることは大切なことだった。

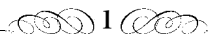
彼は息子たちに、自らの模範によって誠実さについて教えた。「人から聞いた父についての話を通して、わたしは正直さや誠実さについて多くを知りました」とリチャード・ハンターは述べた。リチャードが父とともに、複雑な企画を討議中のビジネス会議に行ったときのことである。休憩時間に部屋の外で、リチャードは一人の男性と会議について話していた。膨大な量の法的書類が必要なこの企画が始動するまで、長い間待たなければならないだろうとリチャー

が言うと、その男性はリチャードにそうではないと正し、ハワード・W・ハンターは、一旦やると言ったことは必ず実行する人であることは皆が承知しているので、書類上の手続きが完了する前に企画は進行できるはずだと言った。²

1962年、ハンター大管長は教会の青少年に向けた説教で、正直であることの大切さについて自身の確信を語った。

「正直でありさえすれば、わたしたち一人一人に幸福な人生がもたらされます。デートについて、学校の勉強について、遊び仲間について、また、教会に出席することについて、お父さんとお母さんに対して正直であってください。ビショップに正直であってください。ビショップの助言を受け、自分のことを正直に話し、正直に^{じゅうぶん}什分の一を納め、清く、汚れない生活を送ってください。学校でも正直であってください。教室や学校内で何をやるにしても、不正な行為をしてはいけません。ゲームや映画、またパーティーで自分の責任を果たすために支払うべき金額を正直に支払ってください。付き合っている相手に対して正直であってください。決して相手を利用したり、だましたり、相手を誘惑に陥れたりしてはいけません。主御自身に正直であってください。」³

ハワード・W・ハンターの教え



主は、正直であるよう戒めておられる

聖文には、正直であるようにという勧告が数多くあり、正直でありなさいという意味の戒めも数え切れません。あなたは盗んではならない、あなたは隣人について偽証してはならない、あなたは隣人の家をむさぼってはならないなど、「……してはならない」と強調された戒めが思い浮かびます〔出エジプト20：15 - 17 参照〕。……

不正直についてよく取り上げられる例には、次のようなものがあります。

1. 盗み。盗みに関する記事のない新聞を読むことなど、めったにありません。家宅侵入による強盗、窃盗、ひったくり、万引き、自動車盗難など、他にいくつもあります。礼拝堂の中でさえ、小さな盗みが報告されています。

2. 不正行為。新聞には証券取り引きや商取り引きでの詐欺、投資詐欺、その他似たような詐欺行為の記事が掲載され、人々に周知しようとしています。不正行為によって学校を卒業する人や、試験で不正行為をする人もいます。

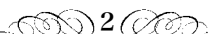
3. 知恵の言葉の標準を守らない。これは教会の標準です。知恵の言葉の標準を守らなくても、世の標準に反するわけではありません。しかし、このことに関しては主の言葉が与えられています。

4. 交通違反。人を守るために社会や政府が定めた規則に違反していながら、正直であるということは基本的にあり得ません。⁴

「あなたは隣人について、偽証してはならない。」〔出エジプト20：16〕この戒めは、おもに訴訟における偽証を指していますが、事実とは異なる発言全般に及びます。人の持ち物やその人自身について、また人格を傷つける目的でうそをつくことは、この律法の精神にも意味にも反しています。真実を隠すことで、結果的に同じように人を傷つけることも、この戒めを犯す行為です。

「あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、しもべ、はしため、牛、ろば、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。」〔出エジプト20：17〕むさぼるとは、人が持っているものを欲しがら、強く望む、切望するという意味です。良い物を手に入れたいと望むことは、戒めに反するものではありませんが、それを不法に誰かから取りたいと思うのは誤りです。この点に関しては、善や悪は人が行動を起こしたときに始まるのではなく、物を欲したときに始まっていることを理解することは良いことです。⁵

主が憎まれるのは次のものです。高ぶる目、偽りを言う舌^あ、悪しきはかりごとを巡らす心、偽りを述べる証人、〔そして〕争いを起こす人〔箴言6：16－19参照〕。末日聖徒として、主が憎まれることを何か一つでもしてよいものでしょうか。これまで一体何度、主は、不正直であってはならないと言われたでしょうか。⁶



正直さは、日常生活でのささいな、目立たないことの中で育まれる

わたしたちが救い主との関係に敏感であるなら、大きなことと同様、小さなことにも正直であるべきです。⁷

何かを達成し、成功しようと努力しているときは、複雑なことを考え、研究するために多くの時間を費やします。そのため、簡単なことに時間を割くことはほとんどありません。しかし、現実には簡単な小さなことを土台にわたしたちはものを築くのです。小さな簡単なことがなければ、強い基盤は存在し得ません。天にそびえる建物を見るとき、わたしたちはその大きさや高さに畏敬の念を覚えます。しかし、基礎部分が岩盤、あるいは、鋼鉄とコンクリートでしっかり固定されていなければ、その建物は立っていることはできません。

人格にもそのような基礎がなくてはなりません。正直の原則について話しましょう。多くの人は正直であることの、高潔で気高い原則を信じています。にもかかわらず、進んで完全に正直であろうとする人が少ないのはなぜでしょうか。

何年も前に、教会堂のロビーや入り口に、「自分に正直に」と書かれたポスターが掲示されていました。そのほとんどが日常生活のささいな、目立たない事柄に関するものでした。正直の原則はこのようなところで育まれるのです。

大きな事柄に関して不正直であるのは道徳的に間違っていると認める人たちでも、それほど重要なことでなければ許されると考えています。……

わたしがステーキ会長を務めていた頃、同じステーキにいた一人の若い男性のことが思い出されます。彼は正しくないことをするのはかっこいい、と思っているグループと付き合っていて、軽い罪で捕まったことが2、3度ありました。ある日警察署から、彼が交通違反で拘束されたことを伝える電話がありました。彼は、その前にも何度かスピード違反で捕まったことがあったのです。こんなことをしていたら伝道に出られなくなるかもしれないと悟った彼は生活を改め、19歳のときに召しを受けました。

帰還した後の彼の話を、わたしは決して忘れないでしょう。彼は伝道中、小さな違反は重要ではないという誤った考えで引き起こした問題について、何度も考えたと言いました。そして、彼の人生に大きな変化が起こりました。神の律法であろうと、社会がわたしたちに課している法律であろうと、規則を破ることは幸福も喜びもないことを理解したのです。⁸

3

個人の生活でも仕事の取り引きでも、正直、 公正であることによって、神に仕えることができる

日々の仕事、取り引き、売買、建築、交通、製造、商売、職業など、わたしたちが行う全てのことで、宗教はその一部となり得ます。仕事上の取り引きにおいて正直、公正に対処することで、わたしたちは神に仕えることができます。それは、日曜日の礼拝で神に仕えるのと同じです。キリスト教の真の原則は、仕事や日々の出来事から分けることも切り離すこともできません。⁹

もし、宗教がわたしたちにとって大切なものであるなら、その宗教は、わたしたちの人生を鼓舞するものであるはずです。宗教は、日曜日に1時間聖職者の説教を聞くだけの、人生に何の意味もないようなものではありません。もし宗教が個人の生活、つまり、家族生活や経済活動など、わたしたちのいかなる営みにも影響を与えないとするならば、宗教はほとんど意味のないものであり、高い所に祭って時折礼拝する単なる偶像になってしまいます。¹⁰

正直ということに関して、わたしたち全てが他の人たちを信頼できるなら、この世は大きく変わるでしょう。個人的にも仕事でも、人は互いに完全に信頼し合うでしょう。労使間の不信感はなくなるでしょう。公共機関も政府の業務も

誠意あるものとなり、国々は平和に存在し、現在わたしたちの知っている騒乱の世界ではなくなるでしょう。……

仕事上の取り引きでは、不正直なことでも利益をもたらす機会が目の前にあれば、それを逃すまいとする人たちがいます。ビジネスでは、提示される好機は全て利用することを期待されていると理屈をつけ、自分の立場を正当化するのはです。こうした取り引きが高額な利益をもたらすことはあり得ます。しかし、原則から言えば、レジ係から1セント多く受け取ったことに気づいても、その1セントを返すことをしなかったのと違いはありません。それは一種の不正行為です。¹¹

「名誉ある仕事」とは何かを定義したいと思います。名誉ある仕事とは、正直な仕事です。正当な価値が与えられ、詐欺行為や不正行為やごまかしはありません。その製品やサービスの質は高く、雇用主、取り引き先や顧客、患者は自分が期待した以上のものを受けます。名誉ある仕事は高潔です。公共の利益や道德規範を損なう行為は存在しません。例えば、飲酒運転、不法薬物、賭け事などないのです。名誉ある仕事は有益です。世界を住みやすい場所にする商品やサービスを提供するからです。¹²

4

誠実さは、わたしたちを悪から守り、 成功の助けとなり、わたしたちを救う

わたしたちは悪の誘惑に取り囲まれています。誠実という守りがなければ、あらゆる種類の罪と悪事のされるがままとなってしまいます。

ヨブはこの問題に関して、困難なことは何もありませんでした。彼は自分自身の誠実さによって守られていたのです。彼はこのように感じていました。

「わたしの息がわたしのうちにあり、神の息がわたしの鼻にある間、
わたしのくちびるは不義を言わない、わたしの舌は偽りを語らない。……

わたしは堅くわが義を保って捨てない。わたしは今まで一日も心に責められた事がない。」(ヨブ 27:3-4, 6)

なんと力強い言葉でしょうか。この力があつたために、ヨブは、ほとんどの人が負けてしまう小さな誘惑をまったく意に介しませんでした。ヨブは力と充足感に満ちた人生を築きあげ、サタンもそれを壊すことはできませんでした。また、神がヨブのことをどれほど喜んでおられたかを知るのには興味深いことです。「わたしのしもべヨブのように全く、かつ正しく、神を恐れ、悪に遠ざかる者〔は〕世にない……彼はなお堅く保って、おのれを全うした。」(ヨブ 2:3)



ヨブは断言しました。「わたしは……潔白を主張してやめない。」(ヨブ27:5)

わたしたちにも、この誠実というすばらしい属性をまったく同じように身につけることができます。これをうまく使えば、政府、宗教、産業、そしてわたしたち個人の生活における問題は全て解決され、犯罪、離婚、貧困、悲惨という苦悩が一掃されます。この世でわたしたちを成功に導き、来世でわたしたちを救います。

人生においてわたしたちが達成できる最大のものの一つとは、それぞれの心の内に正直で真の誠実さを高めることです。つまり、霊的に健全な者となり、頭で分かっていることをそのとおり実行し、道徳的な正直さを身につけ、常に個人として神に責任を負うことです。誠実さとは、ほとんど全ての成功への扉を開ける金の鍵なのです。¹³

5

**真の喜びとは、自分自身に対し、人に対し、
そして神に対して正直であることの結果である**

わたしたちはよく、「人が存在するのは喜びを得るためである」という聖句について語ります〔2ニーファイ2:25〕。正直であることから人にもたらされる喜びがあります。それがどのようにもたらされるか、お話ししましょう。正直であることで、主と交わることができ、聖霊の御霊^{みたま}を得ることができます。正直という規範を破ると、この二つの大いなる祝福は与えられません。うそをついた

り、だましたりする人が……主と交わったり、聖霊の御霊を得たりすることができると思いますか。

……わたしたちは決して一人ではないことを常に覚えていなければなりません。見られていない行動はなく、発せられた言葉で聞かれないものはなく、頭に抱いた考えで神に知られないものはありません。わたしたちの行為を隠すことのできる暗闇などありません。行動する前に考えなくてはならないのです。

皆さんは、不正直な行為をするときに一人きりになれると思いますか。部屋にいるのがあなた一人だとしても、試験での不正な行為を見られずに済むと思いますか。わたしたちは、自分自身に対して正直でなければなりません。もし主と聖霊の御霊をほらから伴侶としたいのなら、わたしたちは自分に正直であり、神に正直であり、同胞に対して正直でなければなりません。そうするときに真の喜びがあります。¹⁴

主は、わたしたちの心の奥底にある思いを御存じです〔教義と聖約6：16参照〕。主はわたしたちの一つ一つの行動を御存じです。わたしたちはいつか主にお会いし、主と顔を合わせるのです。そのとき、自分の人生の記録に誇りが持てますか。

わたしたちは毎日その記録を作っています。行動の一つ一つ、考えの一つ一つが記録の一部となります。その記録を誇らしく思うでしょうか。わたしたちが最善を尽くしたのなら、つまり、自分に対し、愛する人たちに対し、友達や全ての人々に対して正直であったのなら、誇らしく思うでしょう。……

正直な人たちは幸いです。……

主に従順な人たちは幸いです。

彼らは自由であり、幸福で、頭を高く上げて歩ける人たちです。自尊心のある人たちです。彼らを一番よく知っている人たちから尊敬を受けます。

そして何よりも、天の御父から尊敬と祝福を受けます。イエスは御自分に従うよう、わたしたちを招いておられます。主の道はまっすぐで、清く、公正で正直です。主に従い、幸福にあふれた人生を送りましょう。それが唯一の道です。¹⁵

研究とレッスンのための提案

質問

- 第1項で、ハンター大管長が特定している不正直な行為の例をもう一度読んでください。そのような不正直な行為の結果としてどのようなものがあるでしょうか。なぜ主はそれほどまでに正直を重視されるのかについて、それらの結果はわたしたちに何を教えているのでしょうか。

- 小さなことに正直であるように、また、自分自身に正直であるようにというハンター大管長の教えについて深く考えてください（第2項参照）。なぜ「小さなこと」に正直でなければならないのでしょうか。自分に正直であるとはどのような意味ですか。不正直だがささいな行いに思える事柄について弁解しようとする誘惑に打ち勝つには、どのようにしたらよいのでしょうか。
- ハンター大管長は、宗教を日常生活のあらゆる行動の一部とすることが必要であると強調しています（第3項参照）。どうすれば、この項の教えにもっとよく従った生活を送ることができるのでしょうか。どうすれば、家庭の中で正直について効果的に教えることができるのでしょうか。
- 第4項で、ハンター大管長は、誠実な生き方から得られる幾つかの祝福について話しています。どのように誠実さを育むことができるのでしょうか。主の標準に忠実に従って生活したことで、どのような祝福を受けましたか。
- 正直であることは、どのように喜びをもたらすのでしょうか（第5項参照）。聖霊を伴侶とするためには正直であることが必要です。それはなぜでしょうか。正直であることは、どのようにわたしたちを自由にするのでしょうか。

関連聖句

ヨブ 27:5; 31:5 - 6; 詩篇 15; 箴言^{しんげん} 20:7; アルマ 53:20 - 21; 教義と聖約 10:25 - 28; 42:20 - 21, 27; 51:9; 124:15; 136:20, 25 - 26; 信仰箇条 1:13

学ぶ際のヒント

読みながら、「一つの節の中にある複数の概念を区別できるように、語句に傍線や印を付けておきます。……学んでいる聖句の余白に、その意味を説明している参照聖句の箇所を書いておきます。」（『わたしの福音を宣べ伝えなさい』22, 23）

注

1. ダグ・プリンリー, "President Hunter Taught Value of a Penny's Worth of Integrity", *Church News*, 1994年12月3日付, 11; "Loved by All Who Knew Him: Stories from Members", *Ensign*, 1995年4月号, 19-20も参照
2. ドン・L・サール, "President Howard W. Hunter, Acting President of the Quorum of the Twelve Apostles" *Ensign*, 1986年4月号, 24
3. "We Believe in Being Honest" (1962年4月10日に行われた青少年ファイヤサイドシリーズでの説教原稿), 8-9, ソルトレーク・シティ, 教会歴史図書館; 句読点などの表記を一部変更した
4. "Basic Concepts of Honesty," *New Era*, 1978年2月号, 4-5
5. Conference Report, 1965年4月, 57-58; "And God Spake All These Words," *Improvement Era*, 1965年6月号, 511-512も参照
6. "We Believe in Being Honest," 8
7. "Basic Concepts of Honesty," 5
8. "Basic Concepts of Honesty," 4-5
9. Conference Report, 1961年10月, 108
10. *The Teachings of Howard W. Hunter*, クライド・J・ウィリアムズ編 (1997年), 261-262
11. *The Teachings of Howard W. Hunter*, 90-91
12. "Prepare for Honorable Employment," *Ensign*, 1975年11月号, 122-123
13. *The Teachings of Howard W. Hunter*, 92
14. "Basic Concepts of Honesty," 5
15. *The Teachings of Howard W. Hunter*, 88



神への忠誠を決意する

「良い人生を送る〔ため〕には……忠誠を尽くす決意が求められます。神が与えられた戒めの中にある、わたしたちが真理であると感じている原則に対して全身全霊をかけ、確固として、永遠に忠誠を尽くす決意です。」

ハワード・W・ハンターの生涯から

十二使徒定員会会員に召されたハワード・W・ハンターはこう宣言した。「わたしに課せられたこの召しをためらうことなくお受けします。また、わたしの生活とわたしの持てる全てを、この奉仕に喜んでささげます。」¹

ハンター長老はこの誓いに忠実な生活を送った。使徒に聖任されると、ハンター長老は教会と仕事の責務を全うするためにカリフォルニアに戻り、ソルトレーク・シティーへ引っ越しをする準備を始めた。ハンター長老と姉妹にとって、カリフォルニアに家族や友人を残して行くこと、特にハンター長老にとっては弁護士の仕事を離れるのはつらいことだった。弁護士としての仕事を終えたときのことをこう書いている。

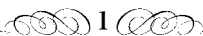
「今日で仕事はほとんど終わった。残っていた案件もほぼ全て完了した。弁護士としての仕事が今終わったのだと実感しながら、今日このオフィスに一人いる。数多くのファイルにメモをつけ、それを机に置いた。……オフィスを出るときは、胸が締め付けられた。弁護士の仕事は楽しかった。今までの長い年月、この仕事がわたしの人生だった。しかしそれでも、教会でわたしに与えられたこの大なる召しに応えることは喜ばしく、幸せに思う。」²

ハンター長老は自らの経験によって「御父の御心みこころに従うのは必ずしも易しいことでは」³ないと知っていた。しかし、神への全面的な服従が大切であることも理解していた。こうした忠誠心について、彼は次のように記している。「この教会の人たちがなぜ召しに応じ、全てをささげて献身するのか、ほとんどの人は理解できない。わたしは弁護士業を心から楽しんできたが、わたしに与えられた今回の召しは、キャリアを積むことや金銭的な報酬を得ることをはるかにしのぐ貴いものだ。」⁴



「忠誠を尽くす固い決意」と「完全な献身」を表すことができる一つの方法が、助けを必要としている人々に仕えることです。

ハワード・W・ハンターの教え



天の御父は貢献だけではなく、絶対的な忠誠を求めておられる

神が与えてくださった祝福や、イエス・キリストの福音が持つ数々のすばらしさについて考えると、その見返りとして一生を通じて、時間的、金銭的またその他の面でもある種の貢献をするよう求められていることが分かります。それらは全て価値があり、必要なものです。しかし、それだけが神にささげる全てではありません。最終的に天の御父がわたしたちにお求めになるのは貢献以上のものです。それは絶対的な忠誠心であり、完全な献身、つまり、現在の自分自身の全て、自分の可能性の全てを神は求めておられるのです。

わたしの話していることが、教会と教会の活動には必ず出席すると決心するだけでないことを分かってください。もちろん、それも絶えず強めるべきものではありません。わたしが話しているのはそうではなく、忠誠を尽くす決意に関するもっと具体的なことです。その決意は、わたしたち一人一人の行動や誠意、また、教会だけでなく家庭、家族、地域社会に対するわたしたちの誠実な態度で示されます。……

ここで聖文にあるすばらしい例の一つ、簡単にお話ししましょう。3人の比較的若い人たちが、命に関わるかもしれない状況にあっても自分の原則を固く守り、誠実に信仰を守り通した例です。

紀元前約586年、バビロンの王ネブカデネザルはエルサレムの町に軍隊を送り、攻略しました。イスラエルの子孫の人柄と学識に感銘を受けた王は、〔バビロンの〕宮殿に何人かを連れて来させました。

ネブカデネザルが一体の金の像を作り、バビロン州に住む人々にそれを拜むよう命じた日、イスラエルの民に苦難が訪れました。3人の若いイスラエル人、シャデラク、メシャク、アベデネゴはこの命令を静かに拒みました。「怒りかつ憤っ〔た〕」王は3人を自分の前に召し出し（ダニエル3：13）、定められたときにその金の像にひれ伏さなければ、「ただちに火の燃える炉の中に投げ込ませると言いました。王は満足げに尋ねました。「いったい、どの神が、わたしの手からあなたがたを救うことができようか」と〔ダニエル3：15〕。

3人の青年は礼儀正しく、しかし躊躇なく答えました。

「もしそんなことになれば〔あなたがわたしたちを殺すと脅しても〕、わたしたちの仕えている神は、その火の燃える炉から、わたしたちを救い出すことができます。また王よ、あなたの手から、わたしたちを救い出されます。

たとえそうでなくても、〔たとえ何らかの理由で、主がわたしたちを火炎の中から救わないと選択なさっても〕、王よ、ご承知ください。わたしたちはあなた

の神々に仕えず、またあなたの立てた金の像を拝みません。』〔ダニエル3：17-18〕

当然、ネブカデネザルの怒りはさらに増し、炉の一つを平常よりも7倍熱くするように命じました。そして、この勇敢な3人の青年を、衣服を着けたまま火の中に投げ込むよう命令したのです。王はそれほどまでに強硬でした。炎は熱く燃え盛り、シャデラク、メシャク、アベデネゴを連行した人々は、囚人を投げ込むとしたとき、炉の熱を浴びて死んでしまいました。

そのとき、信仰を持つ人々に対して、神の御心^{みこころ}に従って授けられる偉大な奇跡が起きました。炉の中にいた3人の青年は静かに歩き、焼かれなかったのです。驚いた王自身が彼らを炉の中から呼び戻すと、3人の衣服は損なわれず、皮膚にやけどはなく、1本の髪の毛も焼けてはいませんでした。この勇敢で忠誠を誓っていた青年たちには、煙のにおいさえ付いていなかったのです。

王はこう言いました。「『シャデラク、メシャク、アベデネゴの神はほむべきかな。神は……自分に寄り頼むしもべらを救った。また彼らは自分の神以外の神に仕え、拝むよりも、……自分の身をも捨てようとしたのだ。』

……こうして、王はシャデラク、メシャクおよびアベデネゴの位を進めて、バビロン州におらせた。』(ダニエル3：28、30)

自分の原則を守ろうとする力、自分の信念に従い誠実に信仰を持って生きる力。これが大切なのです。単なる「貢献」と「忠誠を尽くす」との違いはここにあります。それぞれの生活の中で、家庭や家族の中で、人と出会い、人に影響を与える全ての場所で、まことの原則に献身することこそ、神がわたしたちに最終的に求めておられるものなのです。……

良い人生を送る、善良な生活を送る、クリスチャンとして義にかなった生活を送るには、貢献以上のものが求められます。もちろん貢献にも価値があります。しかし、最終的に求められているものは、忠誠を尽くす決意です。神が与えられた戒めの中にある、わたしたちが真理であると知っている原則に対して、全身全霊をかけ、確固として、永遠に忠誠を尽くそうという決意です。……

わたしたちが原則を忠実に守るなら、また、正直で高潔な生活を送るという決心ができていれば、たとえ王であれ、戦いであれ、燃え盛る炉であれ、わたしたちを傷つけることはできません。地上における神の王国に勝利をもたらすよう、わたしたちが主のために「いつでも、どのようなことについても、どのような所においても、死に至るまでも神の証人になること」ができますように(モーサヤ18：9)。⁵

他の人が何を決心しようと、主に従順であることを決意する

主はヨシュアに、〔イスラエルの民の〕行く手に立ちはだかるエリコの町を滅ぼすようにと命じられました。エリコの市は頑丈な城壁に囲まれていて、それを攻め落とすなどということはとても無理なことでした。少なくとも、無理なことのように思われました。しかし、どのような軍略を用いたらよいかも分からないままに、必ず勝てると信じ、ヨシュアはすでに受けていた主の御使いの指示を^{みつが}実行しました。ヨシュアは完全に従順であろうと決意していたのです。ヨシュアの思いはただ、主の約束が成就されるように、指示されたことをそのとおりに行うことでした。主の指示は奇妙に思えるようなものであったことは確かでしょう。しかし、ヨシュアは結果を信じてそれを実行しました。その結果はもちろん、奇跡の勝利でした。主の戒めと命令に従うことを決意していたモーセやヨシュアを初めとする多くの預言者に長い間率いられてきたイスラエルの民が経験したたくさんの奇跡に、また一つ奇跡が加わったのです。

エリコに近づいたヨシュアとその民は、主の導きに忠実に従いました。聖文には次のように記されています。「石がきはくずれ落ちた。そこで民はみな、すぐに上って町にはいり、町を攻め取った。」(ヨシュア 6 : 20)

記録には、イスラエルが諸々の敵との戦いを終えた後、今や高齢となったヨシュアが全イスラエルを呼び集めた、と書いてあります。告別の説教の中でヨシュアはイスラエルの民に、これまで戦いに勝つことができたのは、神が自分たちに代わって戦ってくださったからであると語り、しかしもし、今ここで神に仕えることをやめ、神の律法に従わないならば滅ぼされるであろうと話しました。……

そして、偉大な軍人であり霊的な指導者であったヨシュアは、民に忠誠を呼びかけるとともに、自分と自分の家族も忠誠を誓いました。「あなたがたの仕える者を、きょう、選びなさい。ただし、わたしとわたしの家とは共に主に仕えます。」(ヨシュア 24 : 15)

これは、神に絶対の忠誠を誓う偉大な言葉です。神の人、主の望みに従順であった預言者、自分の神に忠誠を尽くしたヨシュアの決意が表れています。その従順さゆえに、彼は幾度も神から祝福を受けました。ヨシュアは、イスラエルの民がどのような決定を下そうと、自分は自らが正しいと知っていることを行うと伝えているのです。主に仕えるという彼の決心は、民の決心とは何の関わりもないと言っているのです。つまり、民の行動が自分の行動に影響を与えることはなく、主の御心を行うという自分の決意が、イスラエルの民であろうと誰であろうと、自分以外の人の行動によって変わることはないと言うのです。ヨシュアは自分の行動をしっかり管理でき、その視線は主の戒めから離れませんでした。彼は、従順に徹すると心に決めていたのです。⁶

従順に徹した道を選ぶことを、今、決心する

聖文と預言者の言葉を読んで研究し、福音の律法と主の御心^{みこころ}が理解できたときに、さらに理解が進みます。そして、なぜ従順が天の第一の律法と呼ばれることが多いのか、また、なぜ従順が救いに必要であるのか、その理由を知ることができます。そこで、厳しい試しがやって来ます。わたしたちは神の律法に完全に従順になろうとしているのでしょうか。わたしたちの人生には、はっきりと心を決めなければならない時が来ます。⁷

主は何にも増して、主の勧告に従おうという揺るぎない決意を喜ばれます。旧約聖書の偉大な預言者たちの経験が記録されたのは、間違いなく、わたしたちに従順に徹した道を選ぶことの大切さを理解させるためです。アブラハムが一人息子のイサクを犠牲としてささげるよう命じられて、疑いを持つことも心を揺るがせることもなく主の命に従ったとき、主はどんなに喜ばれたことでしょう。アブラハムに対する主の御言葉^{みことば}が記録されています。

「あなたの子、あなたの愛するひとり子イサクを連れてモリヤの地に行き、わたしが示す山で彼を燔祭^{はんさい}としてささげなさい。」(創世 22 : 2)

次の節には、ただこう記されています。

「アブラハムは朝はやく起きて、……その子イサク……を連れ、……神が示された所に出かけた。」(創世 22 : 3)

それから何年かたち、リベカはアブラハムの僕^{しもべ}から、イサクの妻になるためにともに旅をするよう告げられました。リベカが僕の任務に主の祝福があることを知っていたことは確かでしょう。彼女はただこう言いました。「行きます。」(創世 24 : 58)

それから一世代後のことです。ヤコブはカナンの地へ戻るようにとの命を受けました。しかしそれは、長年働いて得たものを残して行かなければならないということです。ヤコブは羊を放牧している野にラケルとレアを呼び、主が語られたことを話しました。ラケル〔とレア〕の答えは単純率直で、その言葉の裏には並々ならぬ決意が表れていました。「何事でも神があなたにお告げになった事をしてください。」(創世 31 : 16)

聖文の中には、主の戒めをどのように考えて判断すべきかを示す例がたくさんあります。ヨシュア、アブラハム、リベカ、ラケル、〔そしてレア〕と同じように行動することを選んだのなら、ただ行って、主が命じられたことを行うだけです。

今、主に仕えようと決意することには大切な意味があります。〔総大会の〕この日曜日の朝は、日々の生活の複雑な状況や誘惑がいくらか取り除かれて、永



「アブラハムが……疑いを持つことも心を揺るがせることもなく
主の命に従ったとき、主はどんなに喜ばれたことでしょう」

遠の観点で考える時間も、そうしようという気持ちも普段より多くあります。そんなときは、人生における最高の幸福をもたらすものが何であるのか、いつもより明確に判断することができます。夜の暗闇や誘惑の嵐がやって来たときにどう対処すべきか、今、この朝の光の中で決めるべきです。

自分のやるべきことを実行する決心が今できるよう、わたしたちにその力が得られるようにお祈りいたします。また、今、主に仕える決心ができるようお祈りいたします。⁸

4

信じるだけでは不十分であり、天の御父の御心みこころを行うことも必要である

群衆に向かい、主は言われました。「わたしにむかって『主よ、主よ』と言う者が、みな天国にはいるのではなく、ただ、天にいますわが父の御旨みむねを行う者だけが、はいるのである。』（マタイ7:21）

この言葉を聞くと、わたしには主がこう言っておられるように感じます。「わたしの權威を認め、わたしの神としての性質を信じ、あるいは、わたしの教えや

わたしが払った贖^{あがな}いの犠牲を信じていると言う人はいるでしょう。しかしそれだけでは、その人が天の王国に入り、昇栄のより高い位が得られる、という意味ではありません。」つまり、主は「信じるだけでは不十分です」と暗に言うておられるのです。さらに、特にこう付け加えておられます。「……ただ、天にいますわが父の御旨を行う者だけが、はいるのである。」これは、良い実を結ぶように果樹園で働き、刈り込みをする人のことを言うておられます。……

神の領地である自然は全て、この同じ原則を表しているように思われます。「行動」しないハチは、すぐに巣から追い出されます。行列を作って移動していたり、一塊になって忙しく動き回っているアリを見ていると、アリは行動するものであって、ただ信じているだけのものではないという事実に強い印象を受けます。めんどりがいくら鳴いても餌は出てきません。自分で地面を引っかかなければならないのです。藻と、動きのない水面に浮いている汚れで緑に染まったよどんだ水たまりは、沼地での病気の温床です。しかし、激しく岩にぶつかりながら渓谷をうねって流れ落ちる山の清流は、飲みたいという気持ちを起こさせます。

土台のない家に関する主の言葉はわたしに、人は自分一人で生きていけるし、たまたま楽で好みに合った土台の上に人生を築くことが可能だという、浅はかで無謀な考えを持つことはできないと教えています〔マタイ7:26-27参照〕。好天が続く限り、この愚かさが明らかになることはないかもしれません。しかし、ある日洪水が発生し、突然泥水が激しい流れとなって襲ってきます。つまり、予期せぬ誘惑の急流です。その人の人格に堅固な基がなく、ただ口先だけのものだとしたら、彼の全道徳概念は崩壊するでしょう。⁹

ヤコブはこのように述べています。「父なる神のみまえに清く汚れのない信心とは、困っている孤児や、やもめを見舞い、自らは世の汚れに染まずに、身を清く保つことにほかならない。」(ヤコブの手紙1:27)

言い換えれば、宗教は神の存在を認めたり、信仰を告白したりすることにとどまるものではなく、さらには、神学理論を超えるものなのです。宗教は、神の御言葉^{みことば}を実践することであり、その中でもとりわけ、兄弟の守り手になることです。……

安息日に礼拝することで、わたしたちは信仰深くなれます。また、週の他の6日間も自分の責任を果たすことによって信仰深くなることができます。……どんな考えも、口にする言葉も、行為も振る舞いも、近所の人たちとの付き合いも、仕事上の取り引きも、そして、日々の出来事全てが、わたしたちの宗教の信条に一致していることはどれほど大切なことでしょうか。パウロは言いました。「何事をするにも、すべて神の栄光のためにすべきである。」(1コリント10:31)ですから、週日の生活から宗教を取り除いて、安息日だけのものにするこ

となどできるでしょうか。パウロの勧告に従うのであれば、もちろんできません。¹⁰

5

「生ける教会員」は絶対的な忠誠心を持つよう努力をする

主は教義と聖約のはしがきとして与えられた啓示の中で、この教会について「全地の面に唯一まことの生ける教会」と言い、さらに、次のように付け加えられました。「主なるわたしはこれを心から喜んでいる。しかし、それは全体について言うのであって、一人一人を指すのではない。」(教義と聖約1:30) これを聞くとわたしたちの心に、「組織としてこれがまことの生ける教会であることは分かる。しかし、わたし自身は真の生ける教会員だろうか」という永遠に関わる問いが浮かびます。

……「わたしは真の生ける教会員だろうか」と問うとき、それは、自分は主と交わした聖約を全身全霊を尽くして守っているだろうかという意味になります。はたして自分は、福音に従い、御言葉を聞くだけでなく行う者となるよう、全面的に決意しているだろうか。自分の信仰を実践しているだろうか、これからも忠実であるだろうか、サタンの誘惑に負けずにしっかりと立っているだろうか……。

「自分は生ける教会員だろうか」という問いに「はい」と答えることは、忠誠を決意したことを確認しているのです。それは、今もこれから先も、常に神を愛し、隣人を自分のように愛するという意味です。自分が何者であり、何を信じているかが行いに現れていることです。日曜日だけのクリスチャンではなく、キリストが望んでおられるように毎日を送っているということです。

生ける教会員とは、絶対的な忠誠心を持てるように切磋琢磨している人です。
……

生ける教会員は、前に進むことが自分の義務であると理解しています。人生という旅の第一歩として、バプテスマを受けます。それは、神の御心に従う意思があることを、神と天使と天に示すしるしです。……

生ける教会員は、内なる命を生かす御霊に従い、絶えずその導きを求め、力を求めて祈り、さまざまな障害を克服します。その心はこの世のものではなく、天の事柄に注がれています。肉体的な喜びを得るために、霊の再生を犠牲にするようなことはしません。

生ける教会員は、命と成長の源が何かを理解し、キリストを最優先に生活を送ります。人間には自分を宇宙の中心に据え、自分の望み、必要、欲求に他の人を従わせようとする傾向があります。しかし、自然はそのような誤った思い込みを受け入れません。人生の中心的な役割を担っているのは神です。わたした

ちは、神に自分の望みをかなえてくださるよう頼むのではなく、神の御心に自分を従わせようと努力しなければなりません。そうすることで、生ける教会員として進歩し続けることができます。……

生ける教会員はひとたび改心すると、兄弟姉妹を力づけるようにという戒めを果たし〔ルカ 22：32 参照〕、また、自分の喜びを人々に分かち合おうと熱心に努め、その望みを見失うことはありません。……

生ける教会員は、信仰を行動に移さなければならないことを理解しています。そのような聖徒は自分の意思で自ら進んで、善ある高潔な多くの働きをしようと熱心に努めます〔教義と聖約 58：27 参照〕。……

生ける教会員は互いに愛し合います。父親や夫を失って苦しんでいる人を見舞います。世の汚れに染まらないようにしています〔ヤコブの手紙 1：27 参照〕。……

わたしたちは、この教会が真の生ける神が建てられた真の生ける教会であるという声明を固く信じています。まだ答えていない問いがあります。「自分は献身し、忠誠を尽くすことを決心している、真の生ける教会員だろうか。」

皆さんが固く立ち、真の生ける教会員となり、約束の恵みを受けられますように。その約束の恵みとは、教義と聖約の中に、「これらは、シオンの山に、また生ける神の都、天の場所、至聖所しせいじよに来る者である」と書かれている人々の中に数え入れられることです（教義と聖約 76：66）。¹¹

研究とレッスンのための提案

質問

- 「貢献」と「絶対的な忠誠」との違いに関するハンター大管長の教えを復習してください（第1項）。神に対して絶対的な忠誠を決意すると、わたしたちの生活にどのような変化が起きるでしょうか。シャデラク、メシャク、アベデネゴの物語を自分の益となるよう、どのように応用できるでしょうか。
- 第2項の、ハンター大管長が語ったヨシュアの話をも復習してください。この話から、神に対する絶対的な忠誠心について何を学ぶことができるでしょうか。どのようにすれば、他の人たちの言動に関わらず、神への従順を貫く決意を強めることができるでしょうか。子供や青少年がこうした決意をするために、わたしたちはどのように助けることができるでしょうか。
- 第3項にある聖文の物語を読み返してください。どのような考えを持ちますか。聖文には、他にも従順について模範となる例が書かれています。その

中であなたに影響を与えたものはあるでしょうか。なぜ、「主は、主の勧告に従おうという揺るぎない決意を喜ばれ」るのだと思いますか。

- 第4項のハンター大管長の教えを深く考えてください。信じるだけでは「不十分」なのはなぜでしょうか。天の御父の御心^{みこころ}を行うことは、どのように、困難な時に備えるための助けとなるでしょうか。自分の宗教の教えに従って生活することに関するハンター大管長の教えを、どのように実践することができるでしょうか。
- 第5項でハンター大管長が説明している「生ける教会員」についての項目を一つずつ読み返してください。「生ける教会員」が持つこれらの特質をどのように伸ばすことができるでしょうか。どうすれば教会のより良い「真の生ける会員」になることができるかを考えてください。

関連聖句

サムエル上 15:22 - 23; 詩篇 1:1 - 3; ヤコブの手紙 2:14 - 26; 2 ニーファイ 32:9; オムナイ 1:26; モーサヤ 2:41; アルマ 37:35 - 37; 3 ニーファイ 18:15, 18 - 20; 教義と聖約 58:26 - 29; 97:8; アブラハム 3:24 - 26

教える際のヒント

章の中から引用文を幾つか一緒に読みます。一つ読むごとに、その引用文の教えに関する聖文からの例や、レッスンの参加者自身の経験を発表してもらいます。

注

1. Conference Report, 1959年10月, 121
2. エレノア・ノウルズ, *Howard W. Hunter* (1994年), 153
3. 「扉」『聖徒の道』1988年1月号, 60参照
4. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 151
5. 「神の証人になる」『聖徒の道』1990年7月号, 64 - 66参照
6. 「決意の時は今」『聖徒の道』1983年1月号, 102 - 103参照
7. “Obedience” (1978年6月18日, ハワイ地域大会での説教), 5, 教会歴史図書館, ソルトレーク・シティー
8. 「決意の時は今」, 103
9. Conference Report, 1967年10月, 11, 12-13
10. *The Teachings of Howard W. Hunter*, クライド・J・ウィリアムズ編 (1997年), 111-112
11. 「『生ける』教会員」『聖徒の道』1987年7月号, 17-19参照



イエス・キリストは「愛の教えを説き、人々に対する無私の奉仕の模範を繰り返し示されました。全ての人々がイエスの愛に浴しました。」



救い主が示された慈愛の道を歩む

「思いやりの心を持つという試金石は、主の弟子としての特質を測る物差しです。神を愛し、互いに愛し合う度合いを測る物差しなのです。」

ハワード・W・ハンターの生涯から

ハワード・W・ハンター大管長は次のように教えた。救い主は「わたしたちを愛され、わたしたちに仕えられ、その命を与えてくださいました。……救い主が行われたように、わたしたちも人に与える努力をするべきです。」¹ 特にハンター大管長は、毎日の生活の中で救い主の慈愛の模範に従うように教会員を励ました。

ハワード・W・ハンター大管長の慈愛に満ちた行いは、法律の専門家としての職業の中にも色濃く表れていた。同僚の弁護士は次のように語っている。

「彼は〔無料の〕法律サービスに多くの時間を使っていました。……それは、依頼人に請求書を送らないこともあったからです。……彼は依頼人の友人、案内役、相談相手であり、報酬を受け取ることよりも、依頼人が必要としている支援が得られることに強い関心を持っている法律家だと思われていました。」²

慈愛は、教会で奉仕するハンター大管長が持つ特質でもあった。ハンター大管長は自分に最も影響を与えた教師であると述べたある女性は、その理由についてこう説明した。

「〔ハンター大管長が〕人のことを最優先とし、耳を傾けて理解し、自分の経験を分かち合って人を愛していたのをいつも見てきました。それは、ハンター大管長の大きな喜びの一つだったのです。ハンター大管長は、そのような徳の大切さを理解し、実践することに喜びを感じるように、わたしに教えてくれました。」³

ハンター大管長と同じカルフォルニア州のステーキに集っていた女性も、同様の賛辞を送っている。

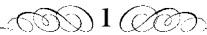
「何年も前、わたしたち家族がパサディナステーキに住んでいたとき、ハワード・W・ハンター大管長はステーキ会長を務めていました。わたしの父が亡くな

り、わたしと姉を育てる母が一人残されました。わたしたちのステーキは非常に広い地域をカバーしていて、わたしたちは目に留まるような家族ではなかったのですが、それでもハンター会長はわたしたちのことを個人的に知っていました。

わたしの心の奥深くに刻まれたハンター会長に関する記憶は、わたしの自尊心を築く一因となっています。ステーキ大会が終わるたびに、わたしたちは並んでハンター会長と握手するのを待ちました。ハンター会長はいつもわたしの母の手を取り、こう言いました。『お元気ですか、セッションズ姉妹。ベティとキャロラインはどうしてますか。』わたしは、ハンター会長がわたしたちを名前で呼ぶのを聞いて感激しました。ハンター会長がわたしたちを覚えていて、幸福を願っていることが分かりました。そのことを思い出すと、今でも心が温かくなります。』⁴

ハンター大管長はかつてこう言った。「わたしたちの使命は、仕え、救い、強め、高めることであると感じています。』⁵ 十二使徒の兄弟たちのコメントは、ハンター大管長がどのようにしてその使命を立派に果たしたかを表している。ある十二使徒はこう言っている。「ハンター大管長は、人を安心させるすべを知っています。支配的ではありません。人の話をよく聞く人です。」別の十二使徒はこう言っている。「ハンター大管長と一緒に旅行すると、全員に目が行き届いていて、不便さを感じていたり困っていたりする者が誰もいないように、いつも見守っているのが分かります。」さらに別の使徒はこう報告している。「ハンター大管長は人のことを気に掛け、よく気がつく人です。ハンター大管長は慈愛の心と人を救^{ゆる}す心を持っています。ハンター大管長は、福音について、人について、また人間性についていつも学んでいます。』⁶

ハワード・W・ハンターの教え



一番大切な二つの戒めは、主の弟子としての 特質を測る主の試金石である

昔は金の純度を調べるのに、試金石と呼ばれる黒い滑らかな珪石^{けいせき}を用いていました。その試金石に金をこすると、表面に筋や印が付きます。金細工師は、この印の色を色見本表の色と照らし合わせます。この印の色は、銅や合金の度合いが増えると赤みが増し、金の比率が高くなると黄色くなります。この方法により、金の純度をかなり正確に知ることができました。

金の純度を試験するために試金石を使う方法は、短い時間で行うことができ、最も実用的な方法でしたが、それでもまだ純度に疑問を持つ金細工師は、火を使ったさらに正確な試験方法を編み出しました。

主はわたしや皆さんのために一つの試金石を備えておられると思います。主の弟子としての内面的な特質を外側から測る方法で、忠実さの度合いに印を付け、来るべき火にも負けない方法です。

イエスが民に教えておられたときのこと、ある律法学者が近づいて来てこう質問しました。「先生、何をしたら永遠の生命が受けられましょうか。」

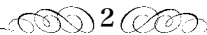
偉大な教師であるイエスは、見るからに律法に精通したその男にこう問い返されました。「律法にはなんと書いてあるか。あなたはどうか読むか。」

その男は、一番大切な二つの戒めについての的確に答えました。「『心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。』また、『自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ』とあります。」

キリストはそれに賛同して答えられました。「そのとおり行いなさい。そうすれば、いのちが得られる。」(ルカ 10:25-28)

永遠の命、神御自身の命、わたしたちが得ようと努力しているこの命は、この二つの戒めに根ざしています。聖文には、「これらの二つのいましめに、律法全体と預言者とが、かかっている。」とあります(マタイ 22:40)。神を愛し隣り人を愛する。この二つはともに働きます。分けられるものではありません。最も崇高な意味において、この二つは同義語と言えるでしょう。そしてそれは、わたしたち一人一人が生活の中で実践できる戒めです。

律法学者に対するイエスの答えは、主の試金石と言えるでしょう。主はまた別の機会に、「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。」と言われました(マタイ 25:40)。主はわたしたちの主に対する献身の度合いを、同胞をいかに愛し、同胞にいかに仕えるかによって測られるでしょう。わたしたちは、どのような印を主の試金石に残しているのでしょうか。わたしたちは本当に良い隣人でしょうか。この試験の結果、わたしたちは24金(訳注—純度99.99パーセント以上の金)でしょうか。それとも黄鉄鉱(訳注—色が金に似ている鉱物)の印が現れるのでしょうか。⁷



救い主は、愛することが難しい人をも含め、 全ての人を愛するように教えられた

律法学者は、そのような簡単な質問を主にしたのを取り繕うかのように、次の質問をして自分が正しいことを立証しようとした。「では、わたしの隣り人とはだれのことですか。」(ルカ 10:29)

わたしたちは皆この質問に永遠に感謝するべきです。というのは、救い主の返答の中に最高の価値があり最も評価されているたとえの一つがあるからです。わたしたちはそのたとえを繰り返し読んだり聞いたりしています。

「ある人がエルサレムからエリコに下って行く途中、強盗どもが彼を襲い、その着物をはぎ取り、傷を負わせ、半殺しにしたまま、逃げ去った。

するとたまたま、ひとりの祭司がその道を下ってきたが、この人を見ると、向こう側を通って行った。

同様に、レビ人もこの場所にさしかかってきたが、彼を見ると向こう側を通って行った。

ところが、あるサマリア人が旅をしてこの人のところを通りかかり、彼を見て気の毒に思い、

近寄ってきてその傷にオリブ油とぶどう酒とを注いでほうたいをしてやり、自分の家畜に乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。

翌日、デナリ二つを取り出して宿屋の主人に手渡し、『この人を見てやってください。費用がよけいにかかったら、帰りがけに、わたしが支払います』と言った。」(ルカ 10:30 - 35)

そこでイエスはその律法学者に尋ねました。「この三人のうち、だれが強盗に襲われた人の隣り人になったと思うか。」(ルカ 10:36) ここで主はキリスト教的な行いに対する試金石を提示しておられます。その試金石でわたしたちの印を測るように求めておられます。

キリストのたとえの中で、祭司とレビ人の両方は、次の律法の求めを忘れてはなりません。「あなたの兄弟のろばまたは牛が道に倒れているのを見て、見捨てておいてはならない。必ずそれを助け起さなければならぬ。」(申命 22:4) 牛でさえそうであるなら、困っている兄弟は、なおさら進んで助けるべきだったのです。しかし、ジェームズ・E・タルメージ長老が書いているように、「[「そうしない」]口実は見つけやすいものです。口実は路傍の雑草のようにいつでも容易に、またいくらかでも出てくる」ものです (『キリスト・イエス』[1995年度版], 424)。

このサマリア人は、キリストの純粋な愛の模範を示しています。彼は思いやりの心を持っていました。強盗に襲われて傷ついた男のところに行き、傷の手当てをして、宿屋に連れて行き、介抱をし、費用を支払い、手当てのためにもっと必要なら自分が支払うと申し出たのです。これは隣り人に対する隣り人の愛の物語です。

「自分のことだけに関心を持っている人間の器は小さい」という古い格言があります。愛は小さな器を大きくする確かな手段です。最も大切なのは、愛することが難しい隣り人をも含め、全ての隣り人を愛することです。わたしたちは

人を選んで友を作りますが、神はわたしたちの隣り人となる人を選び、至る所に置いておられることを忘れてはなりません。愛に境界線があってはなりません。人を分け隔てなく愛するべきなのです。キリストは次のように言われました。「あなたがたが自分を愛する者を愛したからとて、なんの報いがあるのか。そのようなことは取税人でもするではないか。」(マタイ5:46)⁸

3

わたしたちは困難な状態にある人に愛を示し仕えるべきである

ジョセフ・スミスが聖徒たちに宛てた1通の手紙が、『メッセンジャー・アンド・アドボケート』(Messenger and Advocate) (訳注 — 1834年10月から1837年9月まで教会がカートランドで発行していた月刊新聞)に掲載されました。その手紙には、神の前に義とされるために互いに愛し合うことについて述べられています。ジョセフ・スミスはこう書いています。

「愛する兄弟の皆さん、全ての聖徒には、自分の兄弟たちに惜しみなく与え、常に彼らを愛し、いつも助ける義務があります。神の前に義とされるために、わたしたちは互いに愛し合い、悪に打ち勝ち、困っている孤児や寡婦を訪れ、自らは世の汚れに染まらずに身を清く保たなければなりません。これらの徳は、純粋な宗教の大きな泉から湧き出るものなのです。祝福に満ちたイエスの子供たちに美しさを添えるあらゆる善なる特質を身につけることによりわたしたちの信仰を強めるなら、わたしたちは祈りが必要なときに祈り、自分を愛するように隣り人を愛し、そして^{かんなん}艱難の中で忠実な者であることができます。それは、わたしたちの受ける報いは、天の王国において最も大きいことを知っているからです。何という慰め、何という喜びでしょう。義にかなった生活が送れますように。そしてそのような報いが与えられますように。」(History of the Church, 第2巻, 229)

わたしたちが良き隣り人となって生活に平安を見出すためには、この愛と奉仕の二つの徳が必要です。ウィラード・リチャーズ長老の心の中には、確かにこの二つの徳がありました。ジョセフとハイラムがカーセージの監獄で殉教する日の午後、看守は独房の方がもっと安全だと言いました。ジョセフはリチャーズ長老の方を向いて、「もしわたしたちが独房に行くとしたら、あなたも一緒に来ますか」と尋ねました。

リチャーズ長老の返事は愛に満ちていました。「ジョセフ兄弟、わたしはあなたに頼まれて一緒に川を渡ったのではありません。あなたに頼まれてカーセージに来たのでもありませんし、あなたに頼まれて一緒に獄に入ったのでもありません。そのわたしが今、あなたを見捨てるとお考えですか。わたしがこれからすることを言いましょう。もしあなたが『反逆罪』で絞首刑の判決を受けるとしたら、わたしがあなたの代わりに絞首刑を受けましょう。そうして、あなたは自由の身になるのです。」



主は「わたしたちの献身の度合いを、^{はらから}同胞をいかに愛し、
同胞にいかに仕えるかによって測られるでしょう。」

「いいえ、そんなことをさせるわけにはいきません」と答えたジョセフは、きっと深い感動に心を揺さぶられたことでしょう。

それに対しリチャーズ長老は固い決意でこう答えました。「わたしはそうします。」(B・H・ロバーツ, *A Comprehensive History of the Church*, 第 2 巻, 283 参照)

リチャーズ長老が経験したこの試しは、恐らくほとんどの人が直面する試しよりも大きく、試金石による試験というよりもむしろ火による試験であったと思います。しかし、もしわたしたちが求められたとしたら、家族のために、友のために、あるいは隣り人のために、自分の命を捨てることができるでしょうか。

思いやりの心を持つという試金石は、主の弟子としての特質を測る物差しです。神を愛し、互いに愛し合う度合いを測る物差しなのです。わたしたちは純金の印を残すでしょうか。それともあの祭司やレビ人のように、道の向こう側を通り過ぎるのでしょうか。⁹

4

わたしたちはイエスが示された慈愛の道を、
さらに固い決意を持って歩む必要がある

早すぎる死をもたらした悲劇的な殉教のちょうど 1 年前、預言者ジョセフ・ミスはノーブーの末日聖徒に与えた重要なメッセージの中でこう述べています。

「もし人々の愛を確実に手に入れ、その愛を大切に育てたいなら、人々を、すなわち友はもちろん、敵でさえも愛さなければなりません。……クリスチャンは互いに口論したり、言い争ったりすることをやめ、人々の間に一致と友情の原則を育まなければなりません。」(*History of the Church*, 第5巻, 498 - 499)

これは〔その当時〕と同じように、現代のわたしたちにとっても非常に大切な勧告です。この世界に住む人々は、わたしたちの近くにいるかどうかに関係なく、イエス・キリストの福音を必要としています。福音は、世の人々が平和を得るための唯一の道を示しています。わたしたちは互いにもっと親切にし、もっと優しくし^{ゆる}赦し合う必要があります。怒るに遅く、人を助けるに早くなければなりません。また人々に友情の手を差し伸べ、報復を控える必要があります。キリストの純粋な愛、すなわち、真の慈愛と思いやりの心を持って互いに愛し合い、必要なら苦しみを分かち合うことが必要なのです。それは、神がそのようにわたしたちを愛してくださっているからです。

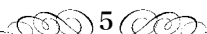
礼拝行事の中で、わたしたちはスーザン・エバンズ・マックロードが作詞した美しい賛美歌をよく歌います。その賛美歌を数節読んでみたいと思います。

われ主を愛して
 その道進まん
 奉仕の業なし
 み力悟らん……
 おのれの罪、^{とが}咎
 なぜに見えぬか
 心を探りて
 弱きを悟らん……
 兄弟守りて
 その傷癒^{いや}さん
 迷いて疲れし
 子羊訪ねん
 やさしく仕えて
 従^ゆい行かん

(『賛美歌』134番)

わたしたちは、より固い決意とより深い慈愛の心を持って、イエスが示された道を歩まなければなりません。「人のために自分の時間を割き、人を高め」なければなりません。そうすれば確かに、「〔自分〕自身の能力を超えた力」を見いだすでしょう。「人を癒やす者となるための方法」をもっと学びたいと望むな

ら、「傷ついた人、疲れた人」の心に触れ、全ての人に「〔さらに〕優しい心」を示す機会が数多く与えられるでしょう。そうです、主よ、わたしたちはあなたに従ってまいります。¹⁰



この慈愛はキリストの純粋な愛であって、とこしえに続く

〔イエス〕は言われました。「わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える、互に愛し合いなさい。……それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう。」(ヨハネ 13: 34 - 35) わたしたちが人類という家族の兄弟姉妹に対して持つべきこの愛、またキリストが全ての人々に対して持つておられるこの愛は、慈愛または「キリストの純粋な愛」と呼ばれています(モロナイ 7: 47)。この愛のゆえに、キリストは贖いのために進んで苦しみを受けられ、自らを犠牲とされたのです。この慈愛こそ人間の魂が到達できる最高地点であり、人間の心の最も奥深いところから来る感情の表れです。

……慈愛は他の神聖な徳を全て含んでいます。この慈愛により、救いの計画が始まり完成するのです。他の全てが絶えても、慈愛、すなわちキリストの愛は絶えることはありません。慈愛は神のあらゆる特質の中で最も偉大なものです。

そのあふれる愛のゆえに、イエスは貧しい人々、虐げられている人々、寡婦、幼い子供、農夫や漁師、やぎや羊の世話をする人、宿り人や異国人、富める人、有力な政治家、そして敵意を秘めたパリサイ人や律法学者にまで言葉を掛けられました。また、貧しい人、飢えている人、恵まれない人、病気の人に仕え、教え、導かれました。足や目、耳の不自由な人、その他の肉体的障がいのある人々を祝福されました。また精神や情緒的な病の原因となっていた悪魔や悪霊を追い出しました。罪の重荷に苦しむ人々を清めました。愛の教えを説き、人々に対する無私の奉仕の模範を繰り返し示されました。全ての人々がイエスの愛に浴しました。全ての人に、「ほかの人と同様の者となる特権が与えられており、それを禁じられる者はだれ一人いな」かったのです(2 ニーフアイ 26: 28)。これらは全てキリストによる無限の愛の表れであり模範なのです。

男性と女性が至る所で、親切、柔和、謙遜などのキリストの純粋な愛を実践するならば、わたしたちが住んでいるこの世界は大きな恩恵を受けることでしょう。愛は妬みや高慢とは無縁です。愛とは見返りを求めない無私のもので、また悪事や悪意を容認せず、不義を喜びません。そして、偏見、憎しみ、暴力を受け入れる余地もありません。愛は、あざけり、下品、虐待、仲間外れを容認することはありません。愛は、宗教的な信条、人種、国籍、経済状態、教育、文化に関わりなく、キリストが教えた愛のうちとともに生きるように、多様な人々に勧めています。

救い主はわたしたちに、主がわたしたちを愛したように、わたしたちも互いに愛し合うよう教えられました。御自身がまどわれた「慈愛のきずな」を身にまとうように命じられました（教義と聖約 88：125）。内なる思いを清めて、心を変え、わたしたちが信じ、心に感じていることと実際の行動や外見を一致させるように求められているのです。わたしたちはキリストの真の弟子となるように求められています。¹¹

6

人を愛する道は「最も優れた道」である

バーン・クロウリー兄弟が、若いときに非常に大切な教訓を学んだことについて話してくれました。それは、預言者ジョセフ・スミスがノーブーで初期の聖徒たちに教えた、「人々を、すなわち友はもちろん、敵でさえも愛さなければなりません」という教えでした。これはわたしたち一人一人にとって良い教訓です。

父親が病気になったため、バーン・クロウリーは家族経営の自動車解体工場を切り盛りすることになりました。そのとき彼はまだ15歳でした。時折、客の中には彼が若いことに付け込む人もいましたし、夜中に店から部品がなくなることもありました。バーンは腹を立て、犯人を捕まえてやり玉に挙げてやると心に誓いました。復讐してやると。

父親が病気から快復し始めて間もないある夜のこと、バーンは工場を閉めてから工場の見回りをしていました。外はほとんど暗くなっていました。工場の向こう側の角で、誰かが大きな部品を持って裏の柵に向かう姿を見つけました。彼は陸上競技の優勝者のように駆け出し、その年若いどろぼうを捕まえました。彼はまず、げんこつに物を言わせて憂さを晴らし、その後その少年を事務所まで引っ張って行き、警察を呼ぼうと考えました。彼の心は怒りと復讐の念でいっぱいでした。そしてどろぼうは自分の手の中にあるので、思い知らせてやろうといきり立っていました。

そのとき、どこからともなくバーンの父親が現れ、弱々しく力のない手を息子の肩に置き、こう言いました。「バーン、少し頭に血が上っているね。ここは父さんに任せてくれないか。」それから父親は盗みを働こうとしたその少年に近づき、彼の肩に手を回して、少しの間彼の目をじっとのぞき込んでから言いました。「君、どうしてこんなことをするんだい。訳を話してくれないか。どうしてあのトランスミッションを盗もうとしたのかな。」それから、クロウリー氏は少年の肩に手を回したまま事務所の方へ歩き始め、歩きながら少年の自動車にどんな問題があったのか尋ねました。そして事務所に着いたところでこの父親は言いました。「そうだね、クラッチが壊れていると思うよ。それが問題の原因だね。」

その間、バーンは怒り心頭に発していました。「どうしてあいつのクラッチの心配をしなくちゃいけないんだ」と思いました。「警察を呼べば、それで済むこと

じゃないか。」しかし父親は話し続けました。「バーン、彼にクラッチを渡してくれ。それからクラッチ用のベアリングもだ。プレッシャープレートも。それでクラッチの修理ができるはずだ。」バーンの父親は盗みを働こうとした若者に、それらの部品を全部渡してこう言ったのです。「これを持って行きなさい。トランスミッションもある。若い君が盗む必要はないんだ。困ったことがあれば言うんだよ。どんな問題でも解決法はあるんだからね。みんな喜んで助けてくれるよ。」

バーン・クロウリー兄弟は、その日、愛に関する永遠の教訓を学んだと話してくれました。その若者はそれから度々店にやって来ました。彼は自分から進んで、トランスミッションの分も含めて、バーンの父親、ビック・クロウリーから受け取った全ての部品の代金を毎月支払ったのです。そうしていた間、その若者はどうしてバーンの父親があのようになる舞えたのか、どうしてあのようになってくれたのかをバーンに尋ねました。バーンは末日聖徒の幾つかの信条と、父親がどれほど主を愛し、人々を愛しているかを話しました。最終的に、その盗みを働こうとした若者はバプテスマを受けました。バーンは後にこう語っています。「今、あのときの自分の気持ちや経験を言葉で説明するのは難しいですね。わたしも若かったですから。わたしはどろぼうを捕まえ、一番ひどい罰を与えてやろうとしていました。しかし父は別の道をわたしに教えてくれたのです。」

これは単なる別の道なのでしょうか。それとももっと良い道でしょうか。優れた道でしょうか。あるいは、最も優れた道なのでしょうか。世の人々は、このすばらしい教訓から大きな恩恵を受けることができるでしょう。モロナイはこう教えています。

「さて、神を信じる者はだれであろうと、もっと良い世界を……確かに望むことができる。……」

神は、御子を送ることによってもっとすばらしい方法を備えられた。」(エテル12：4，11)¹²

研究とレッスンのための提案

質問

- ハンター大管長は一番大切な二つの戒めは「主の試金石」であると教えていますが、それはどのような意味でしょうか(第1項参照)。第1項の最後にハンター大管長が尋ねた質問に対して、どのように答えることができるか考えてください。
- 良きサマリヤ人のたとえに関するハンター大管長の話をもう一度読んでください(第2項参照)。隣り人を愛することに関するこれらの教えから、何を

学ぶことができるでしょうか。「愛することが難しい」と思える人に対して、わたしたちの愛を増し加えるにはどうしたらよいでしょうか。

- 第3項で、ハンター大管長は困難な状態にある人々を愛し仕えるように教えています。あなたが困っているときに愛し仕えてくれた人から、どのような祝福を受けたことがありますか。
- 救い主の慈愛の模範に従うように勧めるハンター大管長の教えについて、深く考えてください(第4項参照)。人に対してもっと大きな愛を育むにはどうしたらよいでしょうか。どうすれば、もっと積極的に愛を示すことができるでしょうか。
- 第5項で、ハンター大管長はキリストがその愛を示された方法について幾つか述べています。あなたは生活の中で救い主の愛を感じたことがありますか。あなたが「キリストの純粋な愛を实践した」ときに、どのような祝福を受けたでしょうか。
- ハンター大管長が引用したバーン・クロウリーの物語から、わたしたちは何を学ぶことができるでしょうか(第6項参照)。どうしたら「怒りと復讐」の感情を慈愛の気持ちに変えることができるでしょうか。どのような経験が、慈愛は「最も優れた道」であることを学ぶ助けになりましたか。

関連聖句

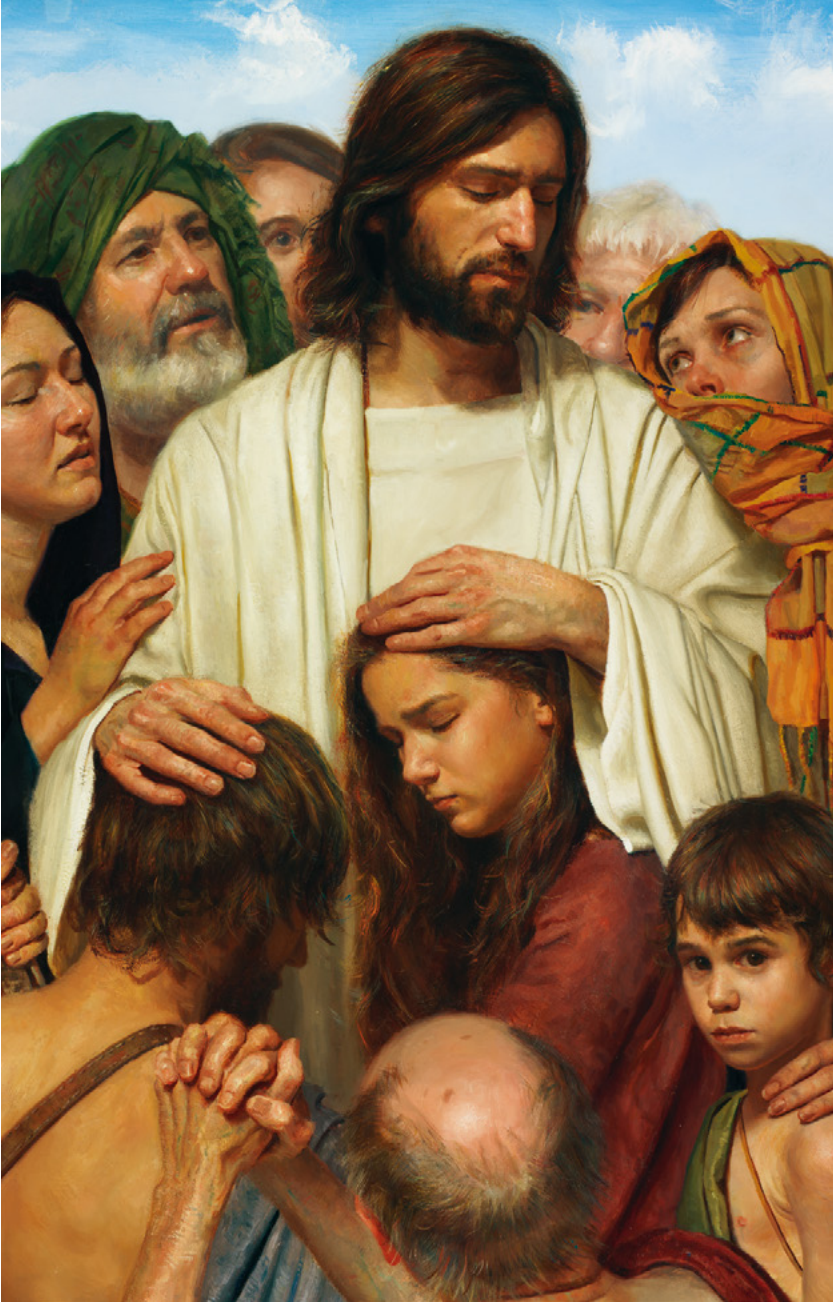
マタイ 25 : 31 - 46 ; 1 コリント 13 章 ; エペソ 4 : 29 - 32 ; 1 ヨハネ 4 : 20 ; モーサヤ 4 : 13 - 27 ; アルマ 34 : 28 - 29 ; エテル 12 : 33 - 34 ; モロナイ 7 : 45 - 48 ; 教義と聖約 121 : 45 - 46

学ぶ際のヒント

「学んだ事柄を実行することによって、理解がさらに深まり、永続するものとなります(ヨハネ 7 : 17参照)。」(『わたしの福音を宣べ伝えなさい』19) 家庭、職場、または教会の責任において、この教えをどのように自分に当てはめることができるか自問してください。

注

1. "The Gifts of Christmas," *Ensign*, 2002年12月号, 18
2. ジョン・S・ウェルチの言葉, エレノア・ノウルズ, *Howard W. Hunter* (1994年), 119
3. ベティ・C・マッケューアン, "My Most Influential Teacher," *Church News*, 1980年7月21日付, 2
4. キャロライン・セッションズ・アレン, "Loved by All Who Knew Him: Stories from Members," *Ensign*, 1995年4月号, 20
5. トーマス・S・モンソン, "President Howard W. Hunter: A Man for All Seasons," 33で引用
6. ノウルズ, *Howard W. Hunter*, 185で引用
7. 「主の試金石」『聖徒の道』1987年1月号, 37-38参照
8. 「主の試金石」38参照
9. 「主の試金石」38参照
10. 「最も優れた道」『聖徒の道』1992年7月号, 64参照
11. 「最も優れた道」64-65参照
12. 「最も優れた道」65-66参照



「最も偉大な探求は神を求めることです。すなわち、独自の特徴を持った神が
実在しておられることを究明し、御子イエス・キリストの福音を確実に知ることです。」



あかし

信仰と証

「人生で成し遂げる最高の偉業は、神を見いだし、
神が生きておられるのを知ることです。」

ハワード・W・ハンターの生涯から

ハワード・W・ハンターは、アイダホ州ボイシで過ごした少年時代に証^{あかし}を育み始めた。当時、父親は教会員ではなく、母親が福音の中で彼を育てた。ハンター大管長は当時を思い出して、こう語っている。「わたしたちが祈ることを学んだのは母親の膝の上でした。わたしは少年の頃、母親の膝の上で証を得ました。」¹

ハワードの証は年月がたつにつれて次第に強まった。20代になり、カリフォルニア州ロサンゼルスに住んでいた頃、福音を真剣に学ぶ重要性を認めるようになった。大管長はこう書いている。「わたしはこれまで生涯の大半、教会のクラスに出席してきましたが、初めて本心から福音に目覚めたのは、アダムスワードの日曜学校のクラスでピーター・A・クレートン兄弟から教わった時のことです。その兄弟には豊かな知識と若人を鼓舞する力がありました。わたしはレッスンを学び、与えられた読書課題をこなし、割り当てられたテーマで話をしました。……人生のこの時期が福音の真理を理解し始めたときだと思えます。福音についての証はいつもありましたが、突然、理解し始めたのです。」²

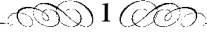
何年もたってから、ハンター大管長はこう述べている。「人類の創造の原則と自分がどのような者かということを理解する時が来ます。突然、これらの事柄が理解の目を開き、心の琴線に触れるのです。これこそまさに、証が心の奥深くまで根を下ろすときです。そして神がわたしたちの御父であり、生きていて実在する御方であられ、わたしたちは文字どおり神の子供であるということを疑いの余地なく知るときです。」³

ハンター大管長の信仰と証について、ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう述べている。

「ハンター大管長には……信仰の大きな力がありました。神聖な事柄と永遠の事柄について確かな知識がありました。……神が実在する生きて御方であり、わたしたちの永遠の御父であられるという不動の確かな証がありました。」

大管長は主イエス・キリストが神であり、人類の贖い主であられるという証を強い確信をもって表明しました。』⁴

ハワード・W・ハンターの教え



**信仰を通して、わたしたちは神を見だし、
神が生きておられるのを知ることができる**

人生で成し遂げる最高の偉業は、神を見だし、神が生きておられるのを知ることです。これは他の価値ある偉業と同様、最初は明白に分からなくても、信じ、信仰を持つ人だけが達成できる偉業です。⁵

人は神と神に関わる事柄に思いを向けるとき、霊的な変容を遂げます。その変容により、人は平凡な人から高潔で神のような特質を持った人へと高められるのです。もし神を信じる信仰を持つなら、人生の偉大な法則の一つを活用することになります。人間の特質の中にある最も強い力は、信仰の霊的な力です。⁶

最も偉大な探求は神を求めることです。すなわち、独自の特質を持った神が実在しておられると断定し、御子イエス・キリストの福音を確実に知ることです。神について完全に理解することは容易ではありません。この探求には不断の努力が求められます。そのために、この知識の追求に腰を上げようとする人々がいます。……

科学の真理に関する知識を求めるときにも、神を見いだそうとするときにも、信仰が必要です。これが出発点になります。これまで信仰はさまざまに定義されてきました。その中で最も典型的なものは、ヘブル人への手紙の筆者が使った定義です。それは次のような意味深長な言葉で述べられています。「さて、信仰とは、望んでいる事がらを確信し、まだ見ていない事実を確認することである。」(ヘブル 11:1) 言い換えれば、信仰により、わたしたちは待ち望んでいるもの、まだ見ていないものを確信するのです。……神を熱心に求める人々は、神を見なくても、信仰によって神の存在が分かります。これは希望以上のものです。信仰は確信、すなわちまだ見ていない事実を確認することです。

ヘブル人への手紙の筆者〔使徒パウロ〕はこう続けています。「信仰によって、わたしたちは、この世界が神の言葉で造られたのであり、したがって、見えるものは現れているものから出てきたのでないことを、悟るのである。」(ヘブル 11:3) ここで述べられている信仰とは、世界が神の言葉によって造られたことを信じる、または確信することです。この事実を証明する証人を立てることはできません。しかし、信仰により、地上の驚嘆すべき事物や自然の中の万物は神によって創造されたということを知ることができます。……

わたしには、神が実在の御方であり、生きておられるという強い確信があります。神はわたしたちの天の御父であられ、わたしたちは神の霊の子供です。神は天地と地上にある万物を創造されました。また神は、宇宙を支配する永遠の法則を定められた御方でもあります。人は神を求め続けるにつれて、これらの法則を少しずつ発見します。しかし、これらの法則はこれまでも常に存在し、今後も永久に変わることなく存続するでしょう。⁷

2

神が実在するという知識を得るためには、忠実に努力し、 神の御心を行い、理解力を祈り求めなければならない

神が実在の御方であることを見いだすには、その探求のために神が示された道を進まなくてはなりません。その道は上り坂です。信仰と努力を要し、生易しい道ではありません。そのため多くの方は、神が実在することを証明する骨の折れる仕事に熱心に取り組もうとしないのです。それどころか、たやすい道を選んで神の存在を否定したり、懷疑主義者の曖昧な道を安直に歩んだりしています。……

……時には信仰とは、確たる知識を得るのに十分な証拠もないのに、物事を真実であると信じることです。わたしたちは探求を続け、次の勧告に従わなければなりません。「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。すべて求める者は得、捜す者は見だし、門をたたく者はあけてもらえるからである。」(マタイ7:7-8) ……

進んで代価を払わなければ、価値あるものを得られないというのが、通則です。学者は研究を進め、成功を目指して努力してこそ、学識を得ることができます。そのような努力をしようとせずに、学識などというものは存在しないと言えるでしょうか。……神を求めたくないという理由だけで神は存在しないと言うのは、愚かなことではないでしょうか。

……神が実在することについて揺るぎない知識を得るためには、救い主御自身が教導の業に携わっていたときに述べられた戒めと教えに従って生活する必要があります。……進んで探求し、身を入れて励み、神の御心を行う人々は、神が実在するという知識を得ることができるでしょう。

人は神を見だし、神の方法を理解するとき、宇宙にあるものは全て偶然の所産ではなく、万物は神が前もって定められた計画によるものであることが分かります。これを知った人の人生は、何と豊かなものになることでしょう。この世的な知識を超えた理解力を得られるのです。世界の美はさらに美しくなり、宇宙の秩序はさらに意義深いものとなります。また、それぞれの秩序に従って

神の日々が過ぎ、四季が移り変わるのを見るときに、神が創造された万物を一層よく理解できるようになるでしょう。⁸

キリストは教導の業に携わっていたとき、人が神についての真理を知ることができる方法を次のように説かれました。「神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教おしえが神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう。」(ヨハネ7:17) また主は、御父の御心と大いなる戒めを次のように説明しておられます。「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。」(マタイ22:37) 神の御心あかしを行い、神の戒めを守ろうと努める人々は、御父について証を述べるときに、主の業が神の業であることについて個人の啓示を受けるでしょう。

理解力を得たいと望む人々には、それを得る方法についてヤコブが次のように説明しています。「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせずに惜みなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。」(ヤコブの手紙1:5) ヤコブのこの言葉は、科学という意味の実証的な知識を指しているのではないと思われます。そうではなく、祈るように勧めるこの訓戒に従う人の問いに答える天から下される啓示を指しているように思われます。……

このように、神を探求するための定則があり、その探求を成し遂げるための手段があります。それは信仰、愛、祈りです。科学は人間のために驚くべき成果を上げています。しかし、人間が独力で行わなければならない事柄、すなわち神の現実を見いだすという最も大切な事柄を成し遂げることはできません。そうすることは容易ではなく、その苦勞は少なくはありません。けれども主が述べておられるように、「[人]の受ける報いは大きく、彼らの栄光は永遠」なのです(教義と聖約76:6)。⁹

3

わたしたちは見るために信じなければならない

トマスは信じる前に見たいと望んだ

イエスは復活された日の夕方、戸が閉まっている部屋に御姿みすがたを現し、弟子たちの中に立たれました。釘くきを打ち込まれた両手とやりで突かれた脇腹を弟子たちにお見せになりました。このことがあったときに十二弟子の一人トマスはその場にいませんでしたが、他の弟子たちが主を見たことと、主から話し掛けられたことを聞きました。……トマスは疑い、弟子たちに言いました。

「わたしは、その手に釘あとを見、わたしの指をその釘あとにさし入れ、また、わたしの手をそのわきにさし入れてみなければ、決して信じない。」(ヨハネ20:25)

……ある意味で、トマスの態度は現代人の気風を表しています。トマスは主とともに過ごし、信仰と疑いに関する主の教えを知っていたにもかかわらず、自分の目に見えないものに納得することはありませんでした。……信じるために感じたり見たりしなければならぬなら、信仰が疑いに勝つことはありません。

トマスは進んで信仰に頼ろうとはしませんでした。事実による明白な証拠を欲したのです。トマスが欲したのは信仰ではなく、知識でした。知識は過去に関連しています。なぜなら、わたしたちは過去の経験から知識を得るからです。しかし、信仰は将来、すなわちまだ経験していない未知の事柄に関連しています。

わたしたちが考えているトマスは、主とともに歩き、主と語った人であり、主から選ばれた人です。わたしたちは内心では、トマスがまだ目には見えない事柄に対する確信をもって将来に心を向けたらよかったのと思います。ところが実際には、トマスは「見ることが信じることである」と言ったのも同然なのです。……

信仰は目に見えない事柄に対する確信を与える

1週間後、弟子たちはエルサレムで再び同じ家に集まりました。今度はトマスも一緒でした。戸は閉まっていたましたが、イエスが入って来られ、弟子たちの中に立って、「安かれ」と言われました。

それからトマスに言われました。「あなたの指をここに付けて、わたしの手を見なさい。手をのばしてわたしのわきにさし入れてみなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい。」(ヨハネ 20:26-27) ……

イエスは彼に言われました。「あなたはわたしを見たので信じたのか。見ないで信ずる者は、さいわいである。」(ヨハネ 20:29)

この出来事は常に偉大な教訓の一つとなっています。トマスは「見ることが信じることである」と言いましたが、キリストは「信じるが見ることである」とお答えになりました。……

信仰の典型的な模範として挙げられるのは、使徒パウロです。ヘブル人への手紙の中で、パウロはこう述べています。「信仰とは、望んでいる事がらを確信し、まだ見ていない事実を確認することである。」(ヘブル 11:1)

この声明は、信仰とは完全な知識を前提とするのではなく、まだ起きていない将来の事柄に対する確信を人に与えるものと述べています。これら将来の事柄は存在している場合もありますが、まさに信仰によって実現するのです。信仰は、目に見えない、あるいは確かな証拠がないものに対する確信を与えてくれます。

トマスは将来への確信を失っていたように思われます。彼の目は過去へ向いていました。そのときには目に見えなかったものに対する、証拠を求めたので

す。信仰を失った人々、または信仰がない人々は過去に生きています。将来への希望がありません。確信を与える不動の信仰を見いだした人の生活には、何と大きな変化が訪れることでしょう。

生まれつきの盲人は疑わなかった。救い主を信じたのである

ヨハネによる福音書第9章には、エルサレムで起きたもう一つの出来事が書かれています。生まれつきの盲人の目が見えるようになった話です。その日は安息日でした。イエスは神殿の近くにおられたようです。盲人の姿に目をお留めになったイエスに、弟子たちが尋ねました。

「先生、この人が生れつき盲人なのは、だれが罪を犯したためですか。本人ですか、それともその両親ですか。」

イエスは答えられました。「本人が罪を犯したのでもなく、また、その両親が犯したのでもない。ただ神のみわざが、彼の上に現れるためである。

〔わたしは、〕わたしをつかわされたかたのわざを、昼の間にしなければならぬ。夜が来る。すると、だれも働けなくなる。

わたしは、この世にいる間は、世の光である。〕(ヨハネ9:2-5)

それからイエスは地面につばきをし、そのつばきを土に混ぜて泥をお作りになりました。その泥を盲人の目に塗り、シロアムの池に行って洗うように言われました。もしこの人がトマスであったら、命じられたとおりに池に行っただでしょうか。それとも、次のような問いを發したでしょうか。「あの汚い池のよどんだ水で洗っても、何の効果があるだろうか。」、あるいは「唾液を泥に混ぜたものに何の医学的特性があるだろうか。」これらは理にかなった問いのように思えますが、もしあの盲人が疑って、問いを發していたら、盲目のままだったことでしょう。盲人は信仰を持っていたので、信じて、言われたとおりにしました。行って、池で洗い、見えるようになって戻って来たのです。信じることは見ることです。……

「見ないで信ずる者は、さいわいである。」

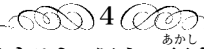
盲人は信じて、見ることを許されました。トマスは自分の目で見るまでは、信じることを拒みました。世の中にはトマスのような人がたくさんいますが、エルサレムの盲人のような人も多くいます。教会の宣教師は世の人々に伝道のメッセージ、すなわちイエス・キリストの回復された福音のメッセージを伝えるときに、毎日この両方の人たちに出会います。……信じて、信仰をもって、バプテスマを受ける人もいます。目に見えない、または感じないからということで、受け入れない人もいます。

神が生きておられるということを肯定する明白で形のある証拠はありません。しかし、何百万人もの人々が、目に見えない事柄が存在すると確信する信仰を通して、神が存在するということを知っています。多くの人が宣教師にこう言います。「ジョセフ・スミスが天の御父と御子の訪れを受けたと信じるのができたら、わたしはバプテスマを受けるのですが。」ジョセフが神と御子にまみえたという事実を肯定する明白で形のある証拠はありません。しかし、御霊みたまに心が動かされる人々は、目に見える事柄の証拠がなくても信仰を持つでしょう。十字架につけられた主の言葉を思い出してください。主はトマスの前に立ってこう言われました。

「見ないで信ずる者は、さいわいである。」(ヨハネ 20 : 29)

信仰によって信じる人々は見えるようになる

何千人もの宣教師あかしの証に、わたしの証を加えます。神は生きておられ、イエスは世の救い主であられ、信仰によって信じる人々は見えるようになります。¹⁰



信仰に基づいて行動すると、個人の証を得ることができる

わたしたちは子供の頃、親や先生に言われたことを事実として受け入れました。彼らを信頼していたからです。少年は、父親から受け止めると言われれば、怖がらずに高い所から飛び降ります。父親が自分を落とすようなことはないという信仰があるからです。子供は成長するにつれて、自分自身で考えるようになり、明白な証拠のない事柄に対して疑問や疑いを抱くようになります。心に素朴な疑念が湧き、疑念を解消するために奮闘する若い男性や女性に同情します。真理を知りたいという偽りのない願いを持ち、道徳的、霊的、精神的な努力をするなら、こうした疑念を解消することができます。そのような苦闘のゆえに、葛藤から抜け出して、一層強固で、強く、深い信仰心を持てるようになります。疑念と葛藤かつとうを通して、神を信頼する素朴な信仰から、証へと熟成する堅固で揺るぎない信仰を育んでいくのです。¹¹

学生は真理を見いだすために実験室で長い時間を費やします。もし彼らが信仰、祈り、赦し、謙遜ゆる、愛について同じことをするなら、これらの原則をお与えになったイエス・キリストについて証を得ることでしょう。¹²

イエス・キリストの福音は単に信念の福音ではありません。それは行動の計画です。……主は主の福音を「観察する」ようにではなく、「実践する」ように言われました。「福音の美しい構成やイメージに注目しなさい」と言われたのではなく、「行って、行い、見て、感じ、与え、信じなさい」と言われたのです。……



「盲人は信じて、見ることを許されました。」

行動は個人の証を築くための主要な基礎の一つです。最も確実な証は個人の経験から直接に得られるものです。イエスが神殿で述べた教えに対してユダヤ人たちが異議を唱えたとき、イエスはこうお答えになりました。「わたしの教おしえはわたし自身の教かぎではなく、わたしをつかわされたかたの教である。」次いで、個人の証を得る鍵を付け加えられました。「神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう。」(ヨハネ 7：16 - 17)

救い主が述べられたこの宣言の中から重要な規範を聞き取れるでしょうか。「行おうと思う者であれば、だれでも、……わかるであろう。」ヨハネはこの規範の重要性を捉え、自分の〔手紙〕の中でその意味を次のように強調しています。「『彼における』と言う者は、彼が歩かれたように、その人自身も歩くべきである。」(1ヨハネ 2：6)

単に言い、受け入れ、信じるだけでは十分ではありません。信条とする事柄が日々の生活の力強い行動になって表れなければ不完全です。そうやって初めて、個人の証を築くための最も優れた原動力となるのです。自分が経験してきたからこそ分かるのです。「それは真実だとジョーンズ兄弟が言っています。わたしは彼を信じます」と言う必要はありません。こう言えばよいのです。「自分自身の生活でこの原則を実践してきました。ですから、個人的な経験からそれが確かであると分かります。その影響力を感じ、実用性を試してきたので、それが良いものであることを知っています。それが真実の原則であるという自分の知識について証することができます。」

多くの人は自分自身の生活の中でそのような証を持っていますが、その価値に気づいていません。先日、ある若い女性がこう言いました。「わたしは福音について証を持っていません。証があればよいのにとおもいます。わたしは福音の教えを受け入れています。それが生活で役立っていることを知っています。他の人の生活でも役立っているのを目にします。主がわたしの祈りにこたえ、証を与えてくだされば、最高に幸せな人々の仲間入りができるでしょう。」この若い女性が欲しているのは奇跡的な介在です。ところが、彼女は福音が自分自身の生活を広げ、高めるという奇跡を既に目にしているのです。主は既に彼女の祈りにこたえておられます。彼女は既に証を持っています。しかし、それが証であることに気づいていないのです。¹³

聖任された使徒、キリストの特別な証人として、わたしはイエス・キリストが実際に神の御子であられることを厳粛に証します。……わたしは聖霊の力によって証を述べます。わたしは自分の目で見、耳で聞いたかのようにキリストの実在を知っています。また、信仰の耳をもって聞く全ての人の心に、わたしの証が真実であるということを聖なる御霊みたまが証してくださることを知っています。¹⁴

研究とレッスンのための提案

質問

- ハンター大管長はこう教えています。「人生で成し遂げる最高の偉業は、神を見だし、神が生きておられるのを知ることです。」(第1項) その探求を成し遂げる際に、信仰はどのような役割を果たすでしょうか。神を見だし、神が生きておられるのを知るために、あなたのどのような経験が役立ったでしょうか。
- 神が実在されるという知識を得ることは「容易ではなく、その苦労は少なくはありません」と、ハンター大管長は述べています。その知識を得るために

は熱心な努力が必要なのは、なぜだと思いますか。神を知るには戒めを守ることが大切なのは、なぜでしょうか。

- 第 3 項で、もし信じるなら見えるようになると教えるために、ハンター大管長はトマスと生まれつきの盲人を対比させています。これらの話に対するハンター大管長の洞察を生活に応用するにはどうしたらよいでしょうか。あなたは信仰を働かせることにより、どのようにして見えるようになったでしょうか。
- 信仰に基づいて行動することが証を得る^{かぎ}鍵であるというハンター大管長の教えを復習してください（第 4 項参照）。信仰に基づいて行動できる方法を幾つか挙げてください。どうすれば信仰により疑いを克服できるでしょうか。信仰に基づいて行動することは、証を^{あかし}強めるのにどのように役立ったでしょうか。

関連聖句

ヨハネ 17 : 3 ; ヘブル 11 : 1 - 6 ; アルマ 5 : 45 - 48 ; 30 : 40 - 41 ; 32 : 26 - 43 ; エテル 12 : 4 , 6 - 22 ; モロナイ 10 : 4 - 5 ; 教義と聖約 42 : 61

教える際のヒント

「聖典と末日の預言者の教えから答えを見つけさせるような質問をする。」
（『教師、その大いなる召し』 62）

注

1. J・M・ヘスロップ, "He Found Pleasure in Work" *Church News*, 1974年11月16日付, 4, 12で引用
2. エレノア・ノウルズ, *Howard W. Hunter* (1994年), 70-71で引用
3. *The Teachings of Howard W. Hunter*, クライド・J・ウィリアムズ編 (1997年), 48
4. ゴードン・B・ヒンクレー, "A Prophet Polished and Refined" *Ensign*, 1995年4月号, 35
5. "Faith as the Foundation of Accomplishment," *Instructor*, 1960年2月号, 43
6. *Conference Report*, 1960年4月, 124-125
7. 「神を知る」『聖徒の道』1975年4月号, 188-189参照
8. *Conference Report*, 1970年4月, 7-10
9. 「神を知る」188-189参照
10. *Conference Report*, 1962年10月, 22-24
11. "Secretly a Disciple?" *Improvement Era*, 1960年12月号, 948
12. *The Teachings of Howard W. Hunter*, 48
13. *Conference Report*, 1967年4月, 115-116
14. 「使徒が語るキリストの証」『聖徒の道』1984年8月号, 8, 9参照



福音を教える

「教える目的……〔は〕、個人の心を変えるために
わたしたちが主の御手に使われる
道具となる〔こと〕です。」

ハワード・W・ハンターの生涯から

1972年4月の総大会のとき、当時十二使徒定員会の一員であったハワード・W・ハンター長老は、ある部会の最後の方で話す予定だった。しかし、その部会で準備していた話をする時間は残っていなかった。ハンター長老は次のように語った。「時間が迫っていますので、準備していた原稿を畳んで上着のポケットにしまいます。しかし、少しの時間を頂いて、少年時代の、忘れられない小さな出来事について話させてください。今日、若人を献身的に教えてくれている人々がこの場に大勢集っておられると聞いて、ある出来事を思い出しました。

ある夏の日の早朝のことです。わたしは窓辺に立って、カーテンの陰から、芝生の上にいる二つの小さな生き物を見ていました。一方は親鳥で、もう一方は明らかに巣離れしたばかりのひな鳥でした。わたしが見ていると、親鳥が芝生の方へに跳ねて行き、足で地面を蹴り、頭をかしげました。そして、芝生の中から大きな太いミミズを引き出し、跳ねながら戻って来ました。ひな鳥はくちばしを大きく開けましたが、親鳥はみみずを飲み込んでしまいました。

次に、親鳥が木の上に飛んで行くのが見えました。少しの間、木の皮をつくと、大きな虫を口にくわえて戻って来ました。ひな鳥はくちばしを大きく開けましたが、親鳥はその虫も飲み込んでしまいました。ひな鳥は大きな声で鳴いて、親鳥に訴えました。

そのうち、親鳥は飛んで行ってしまい、戻って来る気配はありませんでした。残されたひな鳥をじっと見ていると、しばらくして、ひな鳥は芝生に跳ねて行き、足で地面をつついていたかと思うと、頭をかしげ、芝生の中から大きなミミズを引っ張り出したのです。

教会の子供たちや青少年たちを教えるすばらしい人々に神の祝福がありますように。」



教会で子供を教えることで、家庭における両親の教えを支援する。

後日、ハンター長老の簡潔な話は「教師」という題で機関誌に掲載された。¹

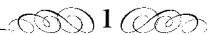
ハンター大管長は、教会の中で効果的に教えることの大切さを何度も強調した。彼は、小鳥の話で示したように、模範によって教えることの大切さなど、教師がより効果的に教え、生徒の生活に祝福をもたらすのに役立つ原則を採り上げた。しばしば子供や青少年を教える教師に向けて語り、次の世代に対する彼らの神聖な責任を理解できるように助けた。まさにそのような折に、ハンター長老は次のように述べた。

「今、わたしの目の前には、地上で選ばれた霊が何人もいます。……わたしは〔教師である〕皆さんがそれぞれの特定の割り当てを果たしている姿を思い浮かべています。皆さんの働きによって、どんな実がなるでしょうか。皆さんが託された土地を耕したり、養ったりするのを怠ったために、一部の実がだめになってしまうのでしょうか。それとも、全ての土地をきちんと耕したことで、最大限の良い実が取れるのでしょうか。

皆さんのそれぞれのワードやステークには……御父の子供たちが多く住んでいます。皆さんと同じように、彼らも御父の目から見て選ばれた霊ですが、皆さんと違って、多くの者は経験が浅く、福音について新しく知ったばかりです。皆さんは彼らに対して、実に大きな責任があります。皆さんが彼らの信頼を得、心をつかむことができれば、彼らの生活は影響を受けやすく、正しやすく、導きやすいものとなります。皆さんは若い人々の『羊飼い』です。彼らを『緑の牧場』に導かなければなりません。……

何と大きなチャレンジでしょう。何と喜びあふれる務めでしょう。何と神聖な責任が今、皆さんの肩に懸かっていることでしょう。……主が命じられるとおりに小羊を養う務めを行うとき、皆さんは何と思慮深く、思いやりに満ちていることでしょう。何と親切で柔和で、心が純粹で、主が持っておられた無私の愛を持っていることでしょう。主が言われているように小羊を養う業を新たに行うとき、皆さんは何と謙遜^{けんそん}で、よく祈る人となることでしょう。」²

ハワード・W・ハンターの教え



他の人が聖文への信頼を育めるように助ける

皆さんが教えるときは、聖文を活用し、生徒が聖文を使いこなせるように助けるために、あらゆる努力を払うよう強調したいと思います。教会の若人には、聖文を信頼してほしいと思っています。また、教師である皆さんには、「聖文を信頼する」という言葉に込められた二つの意味を理解してほしいと思っています。

まず、生徒には聖文の力と真理を信頼し、天の御父が実際に聖文を通して自分に語りかけておられるという確信と、聖文を調べれば自分の問題と祈りに対する答えが見つかるという確信を持ってほしいのです。生徒がそのような確信を皆さんの模範から得られるよう願っています。皆さんが常に聖文に信頼を寄せている姿を生徒が目に見れば、生徒もそうなります。聖文には人生の問題の多く、実際、ほとんどすべての問題に対する答えがあるという自分自身の確信を生徒に示してください。ですから、教えるときには、聖文から教えてください。

「聖文を信頼する」という言葉に込められている〔もう一つの〕意味は、徹底して生徒に標準聖典を教えれば、生徒は信頼して聖文に答えを求め、聖典に収められているとても大切な聖文や教え、言葉を学ぶようになるということです。適切な聖句を探し出せるほどよく聖文を知らないために、必要な助けを得られず、びくびくしながら、または、ばつの悪い思いで、あるいは恥ずかしい気持ちで教室を後にする生徒が一人もいないようにと、わたしたちは願っています。これらの若人が聖書、モルモン書、教義と聖約、高価な真珠から十分な経験が得られるようにしてください。これらの書物には先に述べた信頼の二つの意味が込められています。

教会の若人が、標準聖典に精通し、それを使いこなせなければ、教会外の若人と大して変わらなくなるのではないかと思うことがよくあります。皆さんは預言者がリバティーの監獄に収監されていたときに書いた次の聖句を覚えていることでしょう。「地上のすべての教派や宗派、門派の中には、欺こうと待ち伏せる人々の狡猾な悪巧みによって目をくらまされ、見いだす場所を知らないということだけで真理を得られずにいる多くの人がある。」(教義と聖約 123 : 12, 強調付加)

わたしたちには教会の〔教師〕として大きな責任があります。それは、わたしたちの生徒である若人が、目をくらまされ、見いだす場所を知らず、標準聖典から答えを見いだせるという確信がないために、善良ですばらしい価値ある若人であるにもかかわらず、聖文の真理を得られずにいるという不幸な状況に置かれることのないようにすることです。³

2

御霊みたまによって教える

教えるときに主の御霊があるような方法で準備を行い、生活してください。この世の中には御霊の思いを破壊し、わたしたちが御霊を伴侶とするのを妨げようとするものがあまりにもたくさんあります。周囲を取り巻く世俗の力によって集中攻撃を浴びせられている若人のために、わたしたちはできる限りのことを

する必要があります。主の御霊の優しく力強い存在を感じさせるために、可能な限りあらゆることをしなくてはなりません。……

この時代の最も基本的な啓示の中で主は次のように述べられました。「御霊は信仰の祈りによってあなたがたに与えられるであろう。そして、御霊を受けなければ、あなたがたは教えるはならない。」(教義と聖約 42:14)

わたしはこの節を、御霊が伴わない状態で教えるはならないというだけでなく、御霊がなければ、実際に教えることができないという意味で捉えています。教え導き、確信を与える主の御霊の現れがなければ、霊的なことを学ぶことはできません。ジョセフ・スミスも同様のことを述べています。「すべての人は聖霊の力と影響力によって福音を宣べ伝えなければなりません。だれも聖霊を受けないまま福音を宣べ伝えることはできません。」(『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』332)

……御霊の現れは、すなわち強い感情や涙があふれることだという考えがあるようで、わたしは心配になります。確かに主の御霊によって涙を流し、強い感動を覚えることもあります。そのような感情の表れと御霊の存在そのものを混同してはなりません。

わたしはこれまで長いこと非常に多くの兄弟たちを目にし、類いまれで、口では言い表せない霊的な経験を共有してきました。こうした経験はそれぞれ異なっており、特別なもので、そのような神聖な瞬間に涙が出る時もあり、出ない時もあります。すっぱりと静寂に包み込まれることもよくあります。また喜びに満たされることもあります。そして、必ず心の中に真理がはっきりと明かされ、啓示が降ります。

力強く心に迫る福音の真理を生徒に教えてください。生徒に霊的経験を与えるとはそういうことです。自然に行ってください。そのときに涙を流すこともあるかもしれませんが、流さないこともあるかもしれません。皆さんの話すことが真理であり、しかも純粋なままに、誠実な確信を込めて話すなら、生徒たちは教えられている真理の御霊を感じ、靈感と啓示が自分たちの心に注がれることに気づくでしょう。これが信仰を築き、証を強める方法です。すなわち、純粋なまま、確信をもって神の言葉を教えるときにもたらされる力によって証が強まるのです。

真理に耳を傾け、教義に心向け、御霊が現れるようにしてください。その現れ方は実に多様です。堅固な原則に基づいて、純粋な心で教えてください。そうすれば御霊があなたの思いと心を貫き、生徒一人一人の思いと心を貫きます。⁴

3

父なる神とイエス・キリストを直接求めるよう生徒に勧める

生徒たちが福音よりはむしろ、教師に従ってしまうという潜在的な危険性の大きさを、皆さんが認識していると確信しています。……ですから、生徒たちに聖文に対するあなたの解釈や説明を提示するだけでなく、彼ら自身で聖文を学ぶように勧める必要があります。御霊^{みたま}について個人的な証^{あかし}を伝えるだけでなく、生徒自身が主の御霊を感じるように勧めなければならないのです。以上の理由から、言葉巧みに教義を教える人間のもとに導くのではなく、最終的には、生徒を直接キリストのもとに導かなければならないのです。教師はいつも生徒たちのそばにいるわけではありません。……

わたしたちの偉大な務めは、生徒たちが生涯持ち続けられるものにしっかりと根付かせ、彼らの心を主に向かわせることです。主は彼らを愛し、他の誰も導くことのできない高みへ導くことができになります。生徒たちの心が聖文と主と回復された教会の教義に忠実であるようにしてください。彼らの心を、父なる神とその独り子イエス・キリストと、真の教会の指導者^{たまもの}に向かわせてください。……独りで立たなければならないときに、彼らを支えてくれる賜物^{たまもの}を与えてください。そうすることによって、教会全体が何世代にもわたって祝福を受けるでしょう。⁵

4

個人に手を差し伸べるよう努力する

救い主がわたしたち一人一人に個人的に働きかけてくださっていることに、いつも感動を覚えます。教会内では、グループ単位で多くのことを行います。教会を首尾よく管理するには、ある程度まとまった組織が必要になります。最も重要な事柄の多くは、個人単位で行われます。子供の祝福は、双子や三つ子に祝福を授ける場合でも、一人一人に授けます。子供のバプテスマや確認の儀式も一人一人に施します。聖餐^{せいさん}を取るときでも、神権に聖任するときも、神殿のさまざまな儀式を受けるときも、個人が天の御父との関係を築いていくように、一人一人に対して行います。皆さんの身の回りやクラスでは個人単位で行われないこともあるかもしれませんが、天で重んじられるのは各個人、一人一人です。

キリストがニーファイの民に御姿^{みすがた}を現したとき、次のように述べられました。

「『立ってわたしのもとに来て、あなたがたの手をわたしのわきに差し入れ、またわたしの両手^{くさび}と両足の釘の跡に触れ……なさい。』

そこで群衆は進み出て、主のわきに手を差し入れ、また主の両手と両足の釘の跡に触れた。彼らは一人ずつ進み出て、全員がこのようにし、自分の目で見、自分の手で触れ、この御方が、将来来られると預言者たちによって書き記され



「生徒一人一人のことを心に留め、彼らが教師である皆さんから個人的で特別な関心を寄せてもらっていると感じられるように、できる限りのことをしてください。」

た主であられることを、確かに知って証した。」(3 ニーファイ 11:14 - 15, 強調付加)

一人一人がそのような経験をしたので、時間はかかりました。しかし、各個人が経験し、それぞれの目と手で再確認して、個人の証を得ることは大切なことでした。後にキリストはまったく同じ方法で彼らの子供たちと交わられました。「イエスは幼い子供たちを一人一人抱いて祝福し、彼らのために御父に祈られた。」(3 ニーファイ 17:21, 強調付加)

生徒一人一人に対する皆さんの関心を、その望みや必要に応じて与えることは難しいことですが、生徒一人一人のことを心に留め、彼らが教師である皆さんから個人的で特別な関心を寄せてもらっていると感じられるように、できる限りのことをしてください。どの生徒が、どのような助けを必要としているか分かるように祈ってください。またそのような促しを受けたときに、それにいつも敏感でいてください。……最も良いレッスンは一対一でしかも教室外で行われることを忘れないでください。……

生徒一人一人に個人的に教えることを追求していると、レッスンへの取り組みが積極的でない生徒やまったく取り組もうとしない生徒がはっきりと分かります。そのような生徒に個人的な関心を寄せ、行方の知れない羊の群れへ戻るよ

う勧め、その羊を助けるためにさらに努力を重ねてください。「人の価値が神の目に大いなるものであることを覚えておきなさい。」(教義と聖約 18:10) わたしたち一人一人に対して救い主は計り知れない代価を支払ってこられました。わたしたちの務めは、主の業の中で、主の業を進めるために、全力を尽くすことであり、贖いの賜物が、任された一人一人の若い男女に確実にもたらされるようにすることです。皆さんの立場で言うと、彼らがクラスのすべての活動に参加できるようにするという事です。

心に苦痛を抱えていそうな生徒に特別な注意を向け、必要に応じて行方の知れない羊を見つけるために外に出ててください。はがきを書いたり、電話をしたり、あるいは多くの教師がしているように可能な限り訪問したりしてください。そうすることによってすばらしい結果が得られます。道をそれ始めた若人に個人的な関心を寄せれば、彼らを連れ戻すのに何時間も費やす必要はなくなります。実際、手を施すのが遅れると、道をそれた若人を活動に連れ戻すまでに何年もかかってしまいます。強い若人をさらに強化し、道からそれてしまいそうな若人をとどめておくためにできる限りのことをしてください。⁶

5

模範によって教える

わたしたちが〔教師として〕正しい模範を示し、自らの生活で熱心に働いて注意深く生き、安息日きよを聖く保ち、ワードやステークや教会中央の指導者を尊ぶことは非常に不可欠です。子供に間違っただ言動をする権利や特権を与えてしまう不適切な言葉がわたしたちの口から出ることがあってはなりません。わたしたちが間違っただ言動をするなら、子供たちがそれをまねしても許されることでしょう。

模範には、教えることよりも力強い影響力があります。人に義を行うように勧める人は、自らも義を行うべきです。良いものであるからという理由で良い教えを実践し、他の人の間違っただ行いに左右されない人は、言動の一致しない人よりも一層豊かな報いを受けます。……子供は自分が信頼を寄せている相手の手本をまねるものです。彼らへの信頼が大きければ大きいほど、善くも悪くも影響を受ける可能性が高まります。善良な聖徒は誰でも、善い行いを見かければ敬意を表し、あらゆる良い模範ならに倣おうとします。⁷

偉大な教師になる方法は、主の戒めを守って生活し、それらの戒めを説くだけでなく、祈りを通して、教える御霊みなまを得ることです。その御霊を得て主の戒めを守り、主の前を従順に歩むなら、わたしたちが交わる人々の生活が変えられ、彼らは義にかなった生活を送りたいと望むようになるでしょう。⁸

全ての教師は、神が生きておられることについて、イエス・キリストの神聖な使命について、そして御父と御子が本当にジョセフ・スミスに御姿を現されたことについて個人的な証を得なければなりません。教師はその知識と証を得なければならないだけでなく、自分のもとに学びに来る人々に自分の確信を揺るぎなく伝えたいと望むべきです。⁹

6

生徒が心の変化の奇跡を味わえるよう、主の御手に使われる道具となる

教師が主の計らいのとおりに行動するならば、偉大な奇跡が起きます。今日、教会で起きている奇跡は、頻繁に起きる癒やしでも、足の不自由な人が歩くことでも、目の不自由な人が見えることでも、耳の不自由な人が聞こえることでも、病人が寝床から起き上がることでもありません。わたしたちの時代における教会と神の王国で起きている偉大な奇跡は、人の心の変化です。教会のステークや伝道部を巡回するとき、わたしたちは誰かが真理の原則を教えたことで人の心が変化するのを目にします。

アルマが彼の時代の民に教えているときに宣言したとおりです。「さて見よ、教会の同胞よ、わたしはあなたがたに尋ねる。あなたがたは霊的に神から生まれているか。あなたがたの顔に神の面影を受けているか。あなたがたは心の中に、この大きな変化を経験したか。」(アルマ 5:14) これが教える目的です。わたしたちが懸命に働き、御霊を求め、主の命令に従って良いもので思いを備えるのはこのためです。すなわち、個人の心を変えるのにわたしたちが主の御手に使われる道具となるためです。わたしたちが目指すのは、子供たちの心に善を行う望み、義にかなった者となることへの望み、主の戒めを守ることへの望み、主の前をへりくだって歩みたいという望みを植え付けることです。子供たちの心にこの大きな変化をもたらすために、わたしたちが主の御手に使われる道具となれるならば、教師として偉大な奇跡を成し遂げたことになります。本当にこれは奇跡です。主が人の心をどのように変えられるか、わたしたちは分かりませんが、主は御存じです。……

御霊の再生の力が教会員の生活に及ぶことを証します。皆さんに心からお願いします。……皆さんに割り当てられた課題を達成するために、主の前で義と聖さをもって絶え間なく働いてください。¹⁰



福音を効果的に教えると、「人の心の変化」が起こります。

研究とレッスンのための提案

質問

注 — 以下の質問の一部は、子供を教える親の立場で考えて話し合ってもよいでしょう。

- ハンター大管長は教師に対し、生徒が「聖文を信頼」できるように助けるよう勧めています（第 1 項参照）。あなたの生活の中で、聖文はどのような助けとなってきたでしょうか。あなたはどのようなときに自分の疑問に対する答えを聖典の中で見つけましたか。自分の家族も含めて、人々が聖文を愛し、聖文の力から恩恵を受けるのを助けるにはどうすればよいでしょうか。
- 第 2 項では、御霊^{みたま}によって教えることについてどのようなことを学べますか。あなたは御霊によって教え、学ぶことに関して、どのような経験があるでしょうか。御霊によって教えるために、どんなことができるでしょうか。
- 生徒が教師に対してではなく、聖文や福音に対する忠実さを身につけるのを教師はどのように助けられるでしょうか（第 3 項参照）。生徒の心を天の御父やイエス・キリストのもとに向かわせるために、教師はどんなことができるでしょうか。生徒が「独りで立たなければならないとき」に強くあり続けられるよう、福音にしっかり根付くのを、教師はどのように助けられるでしょうか。

- 個人の大切さに関するハンター大管長の教えについて深く考えてください（第4項参照）。神が自分を御存じで個人的に愛しておられるという証^{あかし}を生徒が育むのを助けるために、どんなことができるでしょうか。あなたが教師として、教える人々一人一人に手を差し伸べるために何ができるか考えてください。
- ハンター大管長は、模範によって教えることの大切さを強調しています（第5項）。わたしたちの言葉よりも模範の方が力強いのはなぜでしょうか。良い模範を示した教師によって、あなたはどのような祝福を受けてきたでしょうか。両親の模範は子供たちをどのように教えるでしょうか。
- あなたは教師または生徒として、ハンター大管長が第6項で述べている「偉大な奇跡」をどのようなときに経験したでしょうか。あなたの人生で良い影響を及ぼした教師数人について思い出してください。そのような教師を通して、どのような良い影響を受けましたか。家庭でも、クラスでも、その他の状況でも、わたしたちがさらに力強く福音を教えるにはどうすればよいでしょうか。

関連聖句

ヨハネ 21:15 - 17; 1 コリント 12:28; 2 テモテ 3:14 - 17; 2 ニーファイ 33:1; アルマ 17:2 - 3; 31:5; 教義と聖約 11:21 - 22; 50:17 - 22; 88:77 - 80

教える際のヒント

別々の紙に、章末の質問または章に関連ある他の質問を書きます。クラスの生徒に、一つの質問を選び、それに答えるために助けとなる教えを章の中から探すように勧めます。学んだことを発表するように依頼します。

注

1. "A Teacher", *Ensign*, 1972年7月号, 85
2. *The Teachings of Howard W. Hunter*, クライド・J・ウィリアムズ編 (1997年), 210-211
3. "Eternal Investments" (CES宗教教育者への説教, 1989年2月10日) 2: si.lds.org
4. "Eternal Investments," 3-4
5. "Eternal Investments," 2-3
6. "Eternal Investments," 4-5
7. "Formula for a Great Teacher" (初等協会大会で行った説教, 1965年4月) 3-4, 教会歴史図書館, ソルトレーク・シティ
8. "Formula for a Great Teacher," 1
9. *The Teachings of Howard W. Hunter*, 188
10. "Formula for a Great Teacher," 4-6



人生を変える奉仕が「脚光を浴びることもなく、
世の注目も集めない」大勢の人々によって行われている。



「劣らずよく働く」

「わたしたちのほとんどは、物静かで、……世間の注目を集めることなく自分の務めを果たす、比較的知られていない人々です。自分は……何の取り柄もない人間だと〔思っている〕皆さんに申し上げます。皆さんは、最も目覚ましい活躍をする皆さんの仲間、『劣らずよく働く』人々です。」

ハワード・W・ハンターの生涯から

ノハワード・W・ハンター大管長は、献身的な指導者や心から愛された預言者としてだけではなく、静かに奉仕する人としても知られていた。ハンター大管長は、人から認められるかどうかではなく、奉仕すること自体が大切であることを理解していた。十二使徒定員会のニール・A・マックスウェル長老はかつてこう述べた。「ハワード・W・ハンター大管長は柔和な人です。……二人でエジプトを訪問する割り当てを受け、くたくたに疲れ、ほこりまみれになって一日をともに過ごしたことがありました。わたしが翌朝目覚めると、この謙遜な方は気づかれないように黙々とわたしの靴を磨いていました。」¹

1956年にカリフォルニア州ロサンゼルス神殿が奉献されたとき、トーマス・S・モンソン大管長は、ハンター会長が謙遜な態度で奉仕する姿を初めて目にした。それは、その二人が使徒として召される数年前のことであった。モンソン大管長はこう回想している。

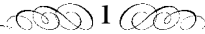
「わたしが……ハンター大管長を知るようになったのは、ハンター大管長がカリフォルニア州パサディナステークの会長として奉仕し、カリフォルニア州ロサンゼルス神殿を奉献するために地元の割り当てを調整する責任を受けていたときのことでした。恵まれて、入場券を印刷するのがわたしの仕事でしたが、ハンター会長は非常に重い責任を果たしていました。わたしは入場券に関するほんの一部分だけを見ましたが、それはきれいに色分けされ、細かくラベルがつけられ、これまで見たことがないほど整然と番号がつけられていました。ハンター会長は、このような記念すべき奉献式の準備を進める中心的人物であっ

たにもかかわらず、人々の働きを惜し気もなく褒め、自分の名前が過度に表面に出ないように配慮していました。』²

十二使徒定員会のジェームズ・E・ファウスト長老はさらにこう述べています。「ハンター大管長は人から褒められたいとは思っていませんでした。ハンター大管長は非常に聡明な人でしたが、中央幹部とともに席に着いたときは、口数のとても少ない人でした。ハンター大管長は心に完全な平安を宿していました。』³

ハンター大管長は、奉仕のあらゆる行いがたとえ人に評価されず、人に知られることがなくても、神の目には重要であることを理解していた。ハンター大管長が亡くなる数週間前、一人の友人がこう尋ねた。「愛する大管長、人にとって最も高い地位や召しとは何だと思えますか。愛し信頼できる友としてのそれでしょうか、それとも神の預言者としてのそれでしょうか。」この質問に耳を傾けた後、「大管長は、数分とも思える間、静かに深く考えてから、その友人の手をゆっくりと握り、顔をその友人の方に向き、瘦せた頬に一筋の涙を流して答えました。『友と預言者の両方とも、信頼が求められる神聖な召しです。』⁴

ハワード・W・ハンターの教え



静かに目立たず奉仕する人々は、世の喝采を受ける 人々に「劣らずよく働く」人々である

若くて勇敢な司令官モロナイについてこう書かれています。「もし過去、現在、未来のすべての人がモロナイのようであれば、見よ、地獄の力でさえもとこしえにくじかれてしまい、また悪魔は決して人の子らの心を支配する力を持たないであろう。」(アルマ 48:17)

名高く力強い男性に対する何と大いなる褒め言葉でしょう。人が人に贈る賛辞で、これ以上すばらしい言葉を思い浮かべることができません。その2節後に、モロナイよりも目立たない役割を果たしたヒラマンとその同僚たちについての記述があります。「さて見よ、ヒラマンと彼の同僚たちも、モロナイに劣らず民のためによく働いた。」(アルマ 48:19)

言い換えるなら、ヒラマンはモロナイほど人目を引いたり、注目を集めたりはしませんでした。よく働く人でした。つまり、モロナイと同じように助けになり、役に立つ働きをした人だったのです。

司令官モロナイの人生について研究することにより、大きな恩恵を受けるのは疑う余地がありません。司令官モロナイは、信仰、奉仕、献身、決意、そして他の多くの神聖な特質の模範です。しかしながら、わたしはこの偉大な男性に焦点を当てるよりも、代わりに、脚光を浴びない人々、世の注目を集めない人々、そ

れていて聖文が言い表しているような「劣らずよく働く」人々に目を向けたいと思います。

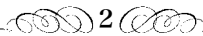
わたしたちが皆、毎日、一日中、同僚の称賛を受けるモロナイのようになるとは限りません。わたしたちのほとんどは、物静かで、現れては消える、世間の注目を集めることなく自分の務めを果たす、比較的知られていない人々です。自分は孤独で、怖がりで、何の取り柄もない人間だと〔思っている〕皆さんに申し上げます。皆さんは、最も目覚ましい活躍をする皆さんの仲間に「劣らずよく働く」人々です。皆さんも神の軍勢の一人です。

例えば、名もない立派な末日聖徒の父親や母親が家庭で静かに行う心からの奉仕について考えてみてください。何百万という人々に仕え祝福をもたらしている、福音の教義クラスの教師、初等協会の指揮者、スカウト隊長、扶助協会の家庭訪問教師について考えてみてください。彼らの名前が公然と褒めたたえられたり、全国のメディアで特集記事が組まれたりすることは決してありません。

何万という無名の人々が日々の奉仕の機会を可能にし幸福をもたらしています。聖文にあるように、彼らは新聞の一面にその生涯が掲載されるような人々に「劣らずよく働く」人々なのです。

歴史のスポットライトや世間の注目は、往々にして多くの人ではなく、一人の人に焦点が当てられます。個人がその仲間から頻繁に注目されて、英雄としてたたえられています。この種の注目は、人々が称賛したり、価値があると思えたりすることを確認するための一つの方法であるとは理解しています。しかし時として、その認識が正当なものでなかったり、間違った価値観をたたえたりすることさえあるかもしれません。

わたしたちはヒーローや模範となる人々を賢く選ぶとともに、あまり有名ではなくても、わたしたちの生活におけるモロナイのような人々に「劣らずよく働く」、たくさんの友人や市民に感謝しなければなりません。⁵



聖文の中では、人の見えないところで奉仕している たくさんの人々が重要な貢献をしている

ここで、聖文から何人かの興味深い人々について考えてみましょう。彼らは脚光を浴びませんでした。歴史を検証してみると、本当の英雄であったことが分かります。

偉大な預言者ニーファイの物語を読む人の多くは、サムという名前のリーハイのもう一人の勇敢な息子をほとんど完全に見落としています。ニーファイはモルモン書全体を通して最も有名な人物の一人です。でも、サムはどうでしょうか。サムの名前は、モルモン書に10回しか出てきません。リーハイが自分の子孫に勧告と祝福を与えたとき、サムにこう言いました。

「あなたとあなたの子孫は幸いである。あなたは弟のニーファイと同様に、地を受け継ぐからである。あなたの子孫は、ニーファイの子孫とともに数えられる。そして、あなたは弟と同じようになり、あなたの子孫は弟の子孫と同じようになる。そしてあなたは生涯、祝福を受けるであろう。」(2 ニーファイ 4:11)

サム役割は基本的に、自分より大いなる称賛を受ける弟を支え助けることでしたが、最終的にニーファイとその子孫に約束されたと同じ祝福を受けました。わたしたちはサムの詳しい働きと貢献についてほとんど知りませんが、ニーファイに約束された事柄で忠実なサムが受けないものはありませんでした。この世におけるサムについてはほとんど知られていませんが、サムは疑いもなく成功を収めた指導者で、永遠の記録において勝利者となった人物です。

多くの人々は人目につかずに貢献しています。イシマエルは個人的に大きな犠牲を払い、「多くの苦難に遭い、飢えと渇きと疲労」に苦しみながら、ニーファイの家族とともに旅をしました(1 ニーファイ 16:35)。そしてこれらのあらゆる苦難の最中に、荒れ野でその生涯を閉じました。あの昔の時代や状況の中でイシマエルが払った犠牲を理解しようとする人はほとんどいません。わたしたちがもっと感受性が強く、より深い理解力があるとしたら、イシマエルの娘たちが荒れ野で嘆き悲しんだように、おそらくわたしたちもイシマエルが行ったことや犠牲にしたことを思い、嘆き悲しむことでしょう。全ては今日のわたしたちがモルモン書を手にするためだったのですから。

そのように「劣らずよく働く」男女の名前や記録は、モルモン書の中に数多くあります。それが母サライアであろうと、レーマン人の王妃の召し使いであったエービスであろうと、どちらも人の目にはつかなくても神の目に留まる貢献をしたのです。

ゼラヘムラの地の王であり、有名なベニヤミン王の父であるモーサヤの生涯に関する記述は、聖文では12節しかありません。そうであっても、民に対するモーサヤ王の働きは不可欠だったのです。モーサヤ王は、「幾度にもわたる説教と預言によって」民を導き、「神の言葉により〔民に〕絶えず訓戒を」与えました(オムナイ 1:13)。リムハイ、アミュレク、パホーランは、他の人が脚光を浴びている影で無私の奉仕をした人々のもう一つの模範です。パホーランは後に非常に不当な非難を受けたとき、そのことをとがめない高潔な心を持っていました。

自分の命を犠牲にした兵士テアクトム、ガデアントンの強盗団の挑戦を受けたときに民に悔い改めを説いた大さばきつかさのラコーニアス、あるいは事実上その活動が記されていない宣教師のオムナーとヒムナイは、皆その同僚たちに「劣らずよく働く」人々でしたが、聖文ではほとんど注目されていません。

わたしたちは、将来指導者となるヒラマンと罪人コリアントンの記述の間に見られるアルマの忠実な息子シブロンについてあまり知りません。しかし、シブロンが「正しい人であって、神の前をまっすぐに歩んでいた」人として記録されて



エービシ(左)がレーマン人の王妃の手に触れると、
王妃は地から起き上がった(アルマ19:15-29 参照)。

いるのは意義深いことです(アルマ63:2)。ヒラマン書に出てくる偉大な預言者ニーファイには、リーハイという名の弟がいました。彼について一見短くしか書かれていませんが、「義にかかわることに関しては少しもニーファイに劣らなかった」人物として記録されています〔ヒラマン11:19。18節も参照〕。⁶

3

**たとえわたしたちがあまり知られていなくても、
王国で大きな働きをすることができる**

もちろん、わたしたちの神権時代にもそのようなよく働く人々の模範があります。オリバー・グレインジャーは、教義と聖約第117章で主が記憶に留められた末日の時代において、静かで、支援を惜しまない人物でした。オリバーの名前は多くの人になじみがないかもしれませんが、この初期の時代に固い信念

を持っていたこの人物について話をしましょう。

オリバー・グレインジャーは、ジョセフ・スミスより11歳年上でした。そして預言者同様ニューヨーク州北部の出身でした。厳しい寒さと低体温症のために、33歳のとき、オリバーは視力のほとんどを失いました。視力に限りがあるにもかかわらず、彼は3回も専任宣教師として奉仕しました。彼はカートランド神殿でも働き、カートランド高等評議会で奉仕しました。

ほとんどの聖徒がオハイオ州カートランドから追われたとき、教会は未返済の負債を幾つか抱えていました。オリバーはジョセフ・スミスと大管長会に代わってカートランドに戻り、教会の業務を処理するよう任命を受けました。この務めについて、教義と聖約にはこう記録されています。「それゆえ、彼はわたしの教会の大管長会の負債償却のために熱心に働きなさい、と主は言う。」(教義と聖約 117:13)

彼がこの責任を果たした結果、関係する債権者に資金が完済されたので、債権者の一人はこう記述しています。「ファーウェストに移住した人々の負債を清算するという取り決めを行うオリバー・グレインジャーの管理能力は、約束を実行することにおいて、そしてそれによって彼らの高潔さを維持することにおいて、本当に称賛に価するものでした。わたしは彼に最高の敬意を表すと同時に深い感謝の念を持っています。」(ホレス・キングズバリーの言葉、ジョセフ・スミスが引用、*History of the Church*, 第3巻, 174)

オリバーがカートランドにいたとき、教会に不満を持つ会員を含む一部の人は、大管長会の信用を落とし、偽りの非難を広めてその誠実さに疑問を呈しようとしていました。オリバー・グレインジャーは、その行いを通して、忠実な働きにより「大管長会の名誉を挽回した」のでした。……主はオリバー・グレインジャーにこのように言われました。「彼の名前は代々^よとこしえにいつまでも、神聖に覚えられるであろう……。」(教義と聖約 117:12)「わたしは、わたしの僕^{しもべ}であるオリバーを引き上げ、この地において、そしてわたしの民の間において、彼の名前を大いなるものとする。それはオリバーの心が高潔だからである。」(*History of the Church*, 第3巻, 350)

オリバーが1841年にこの世を去ったとき、カートランド地区に残っている聖徒はほとんどいませんでした。さらに友人の聖徒はそれ以上に少なかったにもかかわらず、オリバー・グレインジャーの葬儀には、近隣の町々からたくさんの人々が参列しました。

今日、オリバー・グレインジャーは他の教会初期の指導者ほど知られてはいませんが、それでもなお、彼が王国に対して行った働きにおいて、偉大で重要な人物であったことには変わりはありません。彼の名前を覚えているのが主だけであるとしても、そのことは彼にとって十分な祝福となるでしょう。それはわたしたちにとっても同じことなのです。⁷

4

ニーファイは、その力と祝福の源として神を覚えることの模範である

わたしたちが気をつけなければならないことは、いつも脚光を浴びるという類いまれな存在について誤解している人々には、霊的な危険性があるということだと思います。そのような人たちは名声を強く求めるようになり、その結果として、受けた奉仕の大切さを忘れてしまうことがあります。

わたしたちは、人気というつかのまの光に関心を寄せてはなりません。たとえ夕方6時のニュースに取り上げられることがなくても、神に覚えていただけるような、誠実で、多くの場合匿名の奉仕を行うべきであり、それに代わるものとして、人気という魅惑的な輝きを求めてはならないのです。事実、称賛や注目は、わたしたちの間で最も有能な人にさえも霊的な弱点となることがあります。

皆さんが人生のある時期に人気という脚光を浴びることがあれば、聖文の中で名声を得た人々の模範に従うと良いでしょう。ニーファイはその偉大な模範の一人です。家族とともに荒れ野の旅を終えた後、ニーファイの思いは依然として最も大切なことに向けられていました。ニーファイはこう言っています。

「そしてわたしが喜ぼうとすると、心は罪のためにうめき苦しむ。それでもわたしは、これまでに自分がだれに頼ってきたかを知っている。

わたしを支えてこられたのは神である。神はわたしが荒れ野で苦難に遭っていたときに、いつもわたしを導き、また底知れない深みの海の上でも、わたしを守られた。

神は、わたしの肉体が燃え尽きるほどに、わたしを愛で満たされた。

また、わたしの敵を辱め、わたしの前で彼らの身を震えさせられた。」(2 ニーファイ4:19-22)

ニーファイは脚光の中にあっても、自らの強さと祝福の源である神を忘れることは決してありませんでした。⁸

5

わたしたちが奉仕をする理由を理解するなら、
どこで奉仕するかを気にすることはない

注目的になったり目立ったりするとき、「わたしたちはなぜ奉仕するのか」という質問に答えるなら助けとなるでしょう。わたしたちがその理由を理解するなら、どこで奉仕するかを気にすることはありません。

J・ルーベン・クラーク・ジュニア管長は、自分自身の生き方を通じてこの大切な原則を教えました。1951年4月の総大会で、ジョージ・アルバート・スミス大管長が亡くなった後、教会の大管長としてデビッド・O・マッケイ管長が支

持されました。そのときまでクラーク管長は、ヒーバー・J・グラント大管長の第一顧問として、その後ジョージ・アルバート・スミス大管長の第一顧問として奉仕してきました。マッケイ管長は、二人の大管長の第二顧問でした。

教会のビジネスが行われた大会の最後の部会で、スティーブン・L・リチャーズ兄弟が大管長会に召され、第一顧問として支持されました。J・ルーベン・クラーク・ジュニア管長は、その後、第二顧問として支持されました。教会役員の支持の後、マッケイ大管長は自分の顧問をどうしてその順番で選んだのか説明しました。マッケイ大管長は次のように言いました。

「この選択において一つの指針となる原則は、〔十二使徒〕評議会の前任順位に従うことであると感じました。これらの二人の男性は、教会の管理組織で定められた各々の場所の席に着いています。そこでわたしは、大管長会の新しい定員会においてそれと同じ前任順位を踏襲することが賢明であると聖霊により感じたのです。」(Conference Report, 1951年4月9日, 151)

その後、マッケイ大管長に続いてクラーク管長が話をするように依頼されました。このときのクラーク管長の話は短いものでしたが、力強い教訓を教えています。「主に仕えるに当たって大切なのは、どこで奉仕するかではなく、どのように奉仕するかです。末日聖徒イエス・キリスト教会の中では、人は正式に召された役割を引き受けます。その役割を求めることも、断ることもしません。わたしはマッケイ大管長とリチャーズ管長に対して、いかにわたしの力が不十分であっても、責務を果たす機会を与えてくださる限り、力と能力の限りを尽くして、自分に与えられる責務を果たすよう心から誠実に献身的に仕えることを約束します。」(Conference Report, 1951年4月9日, 154)

クラーク管長が教えた教訓は、ミード・マクガイアーの次の詩の中で、別の方法で表現されています。この詩は何度も繰り返し紹介されてきました。

「天の御父よ、今日わたしはどこで働けばよいでしょうか。」

わたしの愛は温かさにあふれ、何の束縛もなかった。

すると、天の御父は小さな場所を差し示して言われた。

「わたしに代わってあそこに行ってください。」

わたしはすぐに答えた。「いいえ、あそこは嫌です。

どんなによく働いても、

あそこでは誰も注目してくれないでしょう。

あの小さな場所はわたしには合いません。」

すると天の御父の言葉が聞こえてきた。厳しい調子ではなく、

優しく答えられた。

「ああ、小さな者よ、よく考えてみてごらん。

あなたが働くのは人のためですか、それともわたしのためですか。

ナザレは小さな場所であった。

そしてガリラヤも。」

〔*Best-Loved Poems of the LDS People*, ジャック・M・リヨン他編(1996年), 152 参照〕

ベニヤミン王はこう宣言しました。「見よ、わたしはあなたがたに言う。わたしは自分の生涯をあなたがたのための務めに費やしてきたと言ったが、それは自慢したくて言ったのではない。わたしは神のために務めてきたにすぎないからである。そして見よ、わたしがこれらのことを語るのは、あなたがたに知恵を得させるためである。すなわち、あなたがたが同胞のために務めるのは、とりもなおさず、あなたがたの神のために務めるのであるということ悟らせるためである。」(モーサヤ2:16-17)⁹

6

わたしたちは、人々の称賛に気を取られないように注意しながら、 忠実にそして静かに奉仕するべきである

人々を支援し、道を見いだせるよう助けることに関心が向いているとき、人は最も幸福であり人生で成功を収めているのです。

止まって、よく見て、耳を傾けるように警告する踏切の信号は、わたしたちの道しるべとなります。慌ただしい生活をしているときに止まってください。わたしたちが行える全ての友好的で、思慮深く、礼儀正しいこと、そしてわたしたちが満たすことのできる全ての小さな人々の必要性に目を向けてください。人々の言葉に耳を傾けてください。人々の成功や幸福に小さな方法で貢献できるように、彼らの望みや問題を理解してください。¹⁰

エズラ・タフト・ベンソン大管長はこう言いました……。「キリストが行われたような奉仕は人を高めます。……主は、奉仕の業の中に自分の命を失う人は自らを見いだすと約束されました。預言者ジョセフ・スミスは、主の目的を果たすには『生涯をなげうって尽く〔す〕』必要があると告げました(教義と聖約123:13)。』(『聖徒の道』1990年1月号, 5)

皆さんの行うことが皆さんを非常に有名にするものではないと強く感じても、落胆しないでください。かつてこの地上に生を受けた最も善良な人々のほとんども、あまり有名ではありませんでした。忠実に静かに奉仕し、成長してください。人々の称賛に注意深くあってください。イエスは山上の垂訓で次のように教えられました。

「自分の義を、見られるために人の前で行わないように、注意しなさい。もし、そうしないと、天にいますあなたがたの父から報いを受けることがないであろう。



「人々を支援し、道を見いだせるよう助けることに関心が向いている」とき、
わたしたちは「最も幸福であり人生で成功を収めている。」

だから、施しをする時には、偽善者たちが人にほめられるため会堂や町の中
でするように、自分の前でラッパを吹きならすな。よく言うておくが、彼らはそ
の報いを受けてしまっている。

あなたは施しをする場合、右の手のしていることを左の手に知らせるな。

それは、あなたのする施しが隠れているためである。すると、隠れた事を見て
おられるあなたの父は、報いてくださるであろう。」(マタイ6:1-4)

天の御父がいつも皆さんにそのような報いを与えてくださいますように。¹¹

研究とレッスンのための提案

質問

- ハンター大管長は、ヒラマンと彼の同僚が司令官モロナイに「劣らずよく働いた」ことを強調することにより、どのようなことをわたしたちが理解するように教えているでしょうか(第1項参照)。そのことを理解するとどのような助けになるでしょうか。

- 第2項の聖文に見られる模範は、わたしたちに何を教えているのでしょうか。わたしたちが奉仕するとき、これらの模範はわたしたち自身の感情にどのような影響を与えるのでしょうか。静かに、人目につかない方法で奉仕する人々からどのような祝福を受けたことがありますか。
- ハンター大管長が語るオリバー・グレインジャーの物語から、何を学ぶことができるのでしょうか(第3項参照)。わたしたちが奉仕するとき、どうして人に認められることを気にしてはならないのでしょうか。
- 「人気という脚光」や名声はどうして危険なのでしょう(第4項参照)。「最も大切なことに向けられて」いるようにする方法について、ニーファイの模範は何を教えているのでしょうか。
- 第5項のJ・ルーベン・クラーク・ジュニア管長の記事を読んでください。クラーク管長の態度と言葉についてどのような印象を受けたのでしょうか。「なぜ奉仕するのか」という質問に対する答えを考えてください。どこで奉仕するかに関わりなく、最善を尽くす態度を培うにはどうしたらよいのでしょうか。
- 第6項で、ハンター大管長は「奉仕の業の中に自分の命を失う人は自らを見いだす」という主の約束を引用しました(マタイ10:39;16:25参照)。これは何を意味するのでしょうか。どのような点でそうだとと言えますか。奉仕はどのようにしてあなたに喜びをもたらしましたか。

関連聖句

マタイ6:2-7, 24:20:25-28; ヤコブの手紙1:27; 教義と聖約76:5-7; 121:34-37

学ぶ際のヒント

「学んだことを分かち合う。これは学んだことを整理し、記憶力を高めるのに役立つ。」(『教師、その大いなる召し』17)

注

1. ニール・A・マックスウェル, "Meek and Lowly" (ブリガム・ヤング大学デイポーショナル, 1986年10月21日), 8; speeches.byu.edu
2. トーマス・S・モンソン, "President Howard W. Hunter: A Man for All Seasons," *Ensign*, 1995年4月号, 31
3. ジェームズ・E・ファウスト, "Howard W. Hunter: Man of God," *Ensign*, 1995年4月号, 27
4. ジョン・M・ハンツマン・シニア, "A Remarkable and Selfless Life," *Ensign*, 1995年4月号, 24
5. "No Less Serviceable," *Ensign*, 1992年4月号, 64-65
6. "No Less Serviceable," 65
7. "No Less Serviceable," 65-66
8. "No Less Serviceable," 66
9. "No Less Serviceable," 66-67
10. *The Teachings of Howard W. Hunter*, クライド・ウィリアムズ編(1997年), 267
11. "No Less Serviceable," 67



「イエス・キリストの模範に従い、その歩みに倣おうと思うなら、
主が定められた規範に従って同じことをするように努力しなければなりません。」



イエス・キリストの模範に従う

「どのような場面であっても、
『イエスならどうなさるだろうか』と自問し、
その答えにもって勇気をもって従う必要があります。」

ハワード・W・ハンターの生涯から

ハンター大管長の第二顧問として奉仕したトーマス・S・モンソン大管長は、ハンター大管長は「自らが仕えた救い主の規範ならに倣い、教えたとおりに生活していました」と語っている。¹

ある親しい友人は次のように述べている。「ハンター大管長の非凡で私心のない生涯を實に見事に特徴づけていたのは、何よりも、わたしたちの主であり救い主であるイエス・キリストが示された特質です。人類は皆、大管長の友人でした。」²

ハンター大管長と 30 年以上身近で働いた別の友人はこう語っている。「[ハンター大管長は] 自らの取るべき道を直観的に分かっていました。その道は、救い主イエス・キリストの徳性に倣うものでした。」³

ハンター大管長はその務めを通して、救い主の模範に従うように愛を込めて教会員を励ました。大管長となって初めて臨んだ記者会見で、次のように語っている。

「主イエス・キリストの生涯と模範、特に主が示された愛と希望と哀れみにこれまで以上の注意を払って生活するよう全ての教会員にお勧めします。

わたしたちが互いにもっと思いやりを示し、もっと礼儀を尽くし、もっと謙遜けんそんで、忍耐強く、赦し合えるように祈っています。わたしたちはお互いに対して高い期待を抱いていますし、全ての人は進歩できます。この世界は神の戒めに沿ったもっと規律ある生活を必要としています。しかし、わたしたちがそうした生活をするよう勧めるときには、主が寒々としたリバティーの監獄で預言者ジョセフ・スミスに語られたように、『説得により、寛容により、温厚と柔和により、また偽りのない愛により、……偽善もなく、偽りもなしに』行うべきです。」(教義と聖約 121:41 - 42)⁴

ハワード・W・ハンターの教え



キリストはわたしたちに完全な模範を示された

光となるとは、模範者になること、すなわち模範を示し、人が従う手本となることです。……わたしたちは偉大な模範者であるキリストに従うという〔聖約を交わしました。〕わたしたちには、主御自身について、また主が地上で務めを果たしておられた間に教え、行われたことについて学ぶ責任があります。それらを学んだわたしたちは、主の模範に従うように命じられています。以下に主が示された模範を挙げましょう。

1. キリストは前世において従順で雄々しい御方であった。そのため死すべき世に来て骨肉の体を受ける特権を得られた。
2. 日の栄えの王国へと至る扉を開くためにバプテスマを受けられた。
3. 神権を持ち、救いと昇栄に必要な福音の儀式を全て受けられた。
4. イエスは約3年間、教導の業に就いて福音を教え、真理について証し、人がこの世で喜びと幸福を見だし、次の世で永遠の栄光を受けるためになすべきことを教えられた。
5. 子供の祝福、バプテスマ、病人への癒やしの祝福、神権への聖任などの儀式を執行された。
6. 奇跡を行われた。主が命じられると、目の不自由な人は見えるようになり、耳の不自由な人は聞こえるようになり、足の不自由な人は飛び上がって歩き、死者はよみがえった。
7. 御父の思いと御心みこころに従って、イエスは罪のない完全な生涯を送り神としてのあらゆる特質を身につけられた。
8. 主は世に打ち勝たれた。すなわち、御霊みたまに導かれるとおりに生きて歩むため、あらゆる欲望を抑え、肉欲に支配される状態を克服された。
9. 贖いあがなをもたらし、その結果アダムの墮落によって生じた〔霊と肉体の〕死から人を救うための代価を支払われた。
10. 復活し栄光を受けられた今、主は天と地のあらゆる力を得、御父の完全を受けて、御父と一つになっておられる。

イエス・キリストの模範に従い、その歩みに倣おうと思うなら、主が定められた規範に従って同じことをするように努力しなければなりません。⁵

次のことを心に留めておくことが大切です。それは、イエスは罪を犯すこともおできになったし、誘惑に負けておられたかもしれないということ、そしてその

ために命と救いの計画が無に帰していたかもしれないということです。しかし、主は最後まで忠実であられたのです。もしイエスがサタンの誘惑に負けることがまったくあり得なかったとしたら、そこには真の試しは存在せず、結果として真の勝利もなかったでしょう。罪を犯す能力が取り去られていたとしたら、選択の自由そのものがイエスから取り去られていたことになります。人の選択の自由を守り、確かなものとされたのはイエス御自身でした。それを望まれたからこそ、主御自身が罪を犯す能力と力も持っておられなければならなかったのです。⁶

この世での生涯がまさに終わろうとするときまで、イエスはその崇高な霊性と偉大な強さを示されました。最後の時に至っても、御自身の悲しみにふけったり、間もなく訪れようとしている苦痛のことを思い巡らしたりするような利己的なことはなさいませんでした。愛する弟子たちの現在と将来における必要について心から案じておられたのです。主は弟子たちが、個人としても教会としても、お互いへの無条件の愛によってのみ安全であることを知っておられました。イエスの全精力は、彼らが必要としていること、すなわち主が訓戒によって教えておられたことを模範によって教えるという一点に注がれていたように思われます。そしてイエスは弟子たちに、慰めと戒め、そして警告の言葉をお与えになりました。⁷

主は、この世にあって聖地で御自身の羊の群れを教え導かれたときも、また復活の後に西半球で散らされた羊を教え導かれたときも、一人一人に愛と関心を示されました。

群衆がひしめき合う中で、主は12年間長血を患っていた女が癒やしを求めて手を伸ばし、衣のふさに触れたのを感じ取られました(ルカ8:43-48参照)。また別の折には、非難する群衆の心に潜む度量のなさや悪感情を見て取り、立ちすくんでいる女性の罪の先にあるものに目を向けられました。おそらく、彼女が進んで悔い改めようとしているのを感じ取られたのでしょう。キリストはそうした個人の価値に目を向けて、もう罪を犯さないようにと言って女性を帰されたのです(ヨハネ8:1-11参照)。またあるときには、「イエスは幼い子供たちを一人一人抱いて祝福し、彼らのために御父に祈られ」ました(3ニューフェイス17:21, 強調付加)。

また、ゲツセマネとカルバリの試練が間近に迫り、心に大きな重荷がのしかかっているときでさえ、救い主はレプタを投じたやもめに心を留められました(マルコ12:41-44参照)。同じように、救い主は小柄なザアカイにも目を向けられました。ザアカイは人だかりに遮られて救い主が見えなかったので、神の御子を目見ようといちじくの木に登っていたのです(ルカ19:1-5参照)。また、十字架に掛けられて苦しんでおられたときにも、御自分の苦しみは

脇に置いて、涙を流す一人の女性を心にかけてられました。それは主に命を与えた母親でした（ヨハネ 19：25 - 27 参照）。

わたしたちにとって何とすばらしい模範でしょうか。深い悲しみと苦痛のさなかにありながらも、模範者である救い主は人々に手を差し伸べて祝福しようとされたのです。……その生涯は自分にないものを追い求める生涯ではなく、手を差し伸べて人に仕える生涯でした。⁸

2

あらゆる方法で、また生活のあらゆる場面で、神の御子に従いましょう

これまでこの世の人々に向けられた問いの中で最も重要なものの一つは、神の御子、世の救い主御自身がお尋ねになったものです。新大陸の弟子たちは主から教えを受けたいとしきりに願い求めました。主が間もなく彼らのもとを去って行かれると聞いて、その願いはますます強くなりました。彼らに向かい、主はこう問われました。「あなたがたはどのような人物であるべきか。」そして、すぐにこう答えられました。「わたしのようであればならない。」（3 ニーファイ 27：27）

世の中には、「わたしの言うとおりにしなさい」と言う人はたくさんいます。どのような問題であろうと、助言する人は間違いなく十分います。しかし、「わたしのするようにしなさい」と言う備えができていない人はほとんどいません。当然のことですが、正当に、またふさわしくそのように宣言できた人は、人類史上にただ御一方しかおられません。歴史上、善良な男女の例は数多くあります。しかし、最も優れた人でさえ何らかの欠点はあるものです。どんなに善意の人であっても、従うべき完全無欠の模範や規範となれる人は一人もいません。

キリストだけが、わたしたちの理想となり、「輝く明けの明星」となることができになるのです（黙示 22：16）。キリストだけがまったく無条件にこう言うことができになるのです。「わたしに従ってきなさい。わたしに学びなさい。わたしがするのを見たその行いを、あなたがたもしなさい。わたしが与える水を飲み、わたしが与えるパンを食べなさい。わたしは道であり、真理であり、命である。わたしは律法であり、光である。わたしに頼りなさい。そうすれば、あなたがたは必ず生きる。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」（マタイ 11：29；16：24；ヨハネ 4：13 - 14；6：35，51；7：37；13：34；14：6；3 ニーファイ 15：9；27：21 参照）

何という明瞭で朗々たる呼び声でしょう。不確実で模範のない時代において、何という確実な模範でしょうか。……

……どのように生活し、どのように進歩するべきか、またより一層神に似た者となるにはどうしたらよいかを全人類が知るために、……神が独り子を世に遣

わし、……正しい生活、^{いつく}慈しみと^{あわ}憐れみ、思いやりの完全な模範を示すようにしてくださったことに、わたしたちは心から感謝しなくてはなりません。

あらゆる方法で、また生活のあらゆる場面で、神の御子に従いましょう。主をわたしたちの模範とし、導き手としましょう。どのような場面にあっても、「イエスならどうなさるだろうか」と自問し、その答えにもっと勇気をもって従う必要があります。最も純粋な意味でキリストに従わなくてはなりません。主が天の御父の業に携わられたように、わたしたちも主の業に携わらなければならないのです。初等協会の子供たちが「エスさまのようになりましょう」と歌うように（『子供の歌集』34）、わたしたちも主に似た者となるように努めなければなりません。この世で唯一の完全で罪のない模範であるキリストのようになるために、力の限りを尽くし、あらゆる努力をしなければなりません。⁹

主はこの世で務めを果たされた間に、招きでもあり課題でもある呼びかけを何度も繰り返しておられます。ペテロとその兄弟のアンデレに、イエスは「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう」と言われました（マタイ4：19）。永遠の命を得るためになすべきことを尋ねた金持ちの青年にはこう答えられました。「帰ってあなたの持ち物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。……そして、わたしに従ってきなさい。」（マタイ19：21）また、わたしたち一人一人に対して、「もしわたしに仕えようとする人があれば、その人はわたしに従って来るがよい」と言っておられます（ヨハネ12：26）。¹⁰

主の全ての教えを学び、その模範にもっと完全に従いましょう。主はわたしたちに「いのちと信心とにかかわるすべてのこと」を与えてくださいました。また主は「栄光と徳とによって、わたしたちを召され……尊く、大いなる約束」を与えてくださいました。それはわたしたちが「神の性質にあずかる者となるため」です（2ペテロ1：3-4）。¹¹

キリストに従う人は、その模範に従おうとします。主がわたしたちの罪や欠点、悲しみ、病のために苦しまれたことを知ると、自分も主と同じように周りの人に慈愛と思いやりの手を差し伸べたいと思うようになるはずです。……

……奉仕の機会を探してください。あまり地位を気にしすぎないでください。「上座」や「上席」を好んだ人々に対して、主がどのような勧告をされたか覚えているでしょうか。「あなたがたのうちでいちばん偉い者は、仕える人でなければならない。」（マタイ23：6、11）感謝されることは大切ですが、わたしたちは、人に認められることではなく義を行うこと、地位を得ることではなく奉仕することに関心を向けなければなりません。毎月毎月黙々と務めを果たす忠実な訪問教師は、一部の人が教会でより高いと考える地位にある人々と、主の業にとって重要であることに何ら変わりはありません。目立つことで価値が決まるわけではないのです。¹²

わたしたちの救いは、救い主に従うという決意に懸かっている

「わたしに従いなさい」という主の招きは、わたしたち一人一人に向けられた個人的な招きであり、わたしたちの心を動かさずにはられません。永遠に二つの意見の間で迷っていることはできません。誰もがいつかは、次のような重大な主の問いに向き合わなければならないのです。「あなたがたはわたしをだれと言うか。」(マタイ 16:15) わたしたち個人の救いは、この質問にどう答え、その答えにどう責任を持つかに懸かっています。ペテロは天からの啓示を受けて答えました。「あなたこそ、生ける神の子キリストです。」(マタイ 16:16) 非常に多くの人々が、同じ力によって、ペテロと同じ証^{あかし}を述べることができます。わたしもへりくだり、感謝の心をもって、その証の輪に加わります。しかしわたしたちは遅かれ早かれ、一人残らずこの問いに答えなければなりません。なぜなら終わりの日に、あらゆる膝がかがみ、あらゆる舌がイエスはキリストであられると告白することになるからです。わたしたちに求められていることは、永遠に手遅れになってしまう前に、この問いに正しく答え、それに応じて生活することです。イエスは真にキリストであられます。それでは、わたしたちのなすべきことは何でしょうか。

キリストの至高の犠牲は、「わたしに従いなさい」という主の招きを受け入れたときにだけ、わたしたちの生活に完全な効力を発揮します〔教義と聖約 100:2参照〕。この呼びかけは、無意味でも、非現実的でも、無理でもありません。誰かに従うとは、その人に注目し、熱心に耳を傾け、その権威を受け入れ、導き手とし、その教えに従うことです。また、その考えを支持し、擁護し、その人を手本とすることです。誰もがこの求めに応えることができます。ペテロはこう言いました。「キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、御足の跡^{みあし}を踏み従うようにと、模範を残されたのである。」(1ペテロ 2:21) キリストの教義と相いれない教えが誤りであるように、キリストの模範と相いれない生活も、やはり間違っています。そのような生き方では、すばらしい可能性を秘めている行く末に到達することはできないでしょう。……

義はまず、わたしたち一人一人の生活から始めなければなりません。さらに、家庭生活にも取り入れる必要があります。親はイエス・キリストの福音の原則に従い、それを子供に教える責任があります〔教義と聖約 68:25 - 28参照〕。宗教が生活の一部になる必要があります。イエス・キリストの福音は、わたしたちが行う全てのことを動機づける力とならなければなりません。もっと主のようになろうと思うなら、救い主が示された偉大な模範に従えるように一層の努力が必要です。これはわたしたちの大きな課題です。¹³



救い主の模範に沿って生活する一つの方法は、主がベテロに命じられた次の言葉に従うことである。「わたしの小羊を養いなさい……わたしの羊を養いなさい。」(ヨハネ 21:15 - 17)

わたしたちが主に倣^{なら}って生活し、その教えと模範を自分の最高の行動規範にできれば、全ての面で一貫した忠誠を示すことは難しくなるでしょう。なぜなら、唯一無二の神聖な行動規範と信念を貫く決意ができていているからです。場所が家庭でも商店街でも、在学中でも卒業してだいぶ時間がたっても、あるいはまったく一人で行動しているときも大勢の人と一緒にいるときも、わたしたちの取るべき道は明らかであり、従うべき標準もはっきりしています。それは、預言者アルマが語ったように、「いつでも、どのようなことについても、どのような所においても、死に至るまでも神の証人になる」という決意を心に抱くことなのです (モーサヤ 18:9)。¹⁴

4

わたしたちはキリストを受け入れる余地を作るべきである

ベツレヘムでのあの夜、宿には主のための余地がありませんでした。死すべき世における 33 年の生涯で、主がおられる余地がなかったことは幾度となくありました。ヘロデはベツレヘムに兵を送り、子供たちを殺させました。ヘロデの治世にはイエスのおられる余地がなかったため、両親はイエスを連れてエジプトに逃れました。主が教え導かれた間、その教えに耳を傾ける余地を作ら

なかった人は数多くいました。主の教えられた福音を聞く余地がなかったのです。主の奇跡や祝福、主の語られた神聖な真理、主の愛や信仰をも、人々は受け入れる余地を作ろうとはしませんでした。主は彼らに言われました。「きつねには穴があり、空の鳥には巣がある。しかし、人の子にはまくらす所がない。」(マタイ8:20)

2,000年という時が過ぎたわたしたちの時代にも、ベツレヘムのあの夜と同じように、「余地はない、余地はない」と言う人が大勢います(ルカ2:7参照)。贈り物を受け取る余地はあっても、贈り物を下さった御方のためには、時として、受け入れる余地を作らないのです。クリスマスの商業主義のため、あるいは安息日に娯楽を求めるための余地があっても、礼拝する余地がないことがあります。わたしたちの頭は他のことでいっぱい、余地がないのです。¹⁵

クリスマス飾りの明かりは美しい眺めですが……、世の光である御方を受け入れることで人生が光り輝くようになる方がより重要です(アルマ38:9; 教義と聖約10:70参照)。わたしたちは主を自分の導き手と模範者として高く掲げる必要があります。

主がお生まれになった夜、天使たちはこう歌いました。「地の上では、み心にかなう人々に平和があるように。」(ルカ2:14)人が主の模範に従うなら、世界には平和と全ての人への愛があるでしょう。¹⁶

今日、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であるわたしたちにはどのような責任があるでしょうか。それは、わたしたち一人一人の生活を、言葉や行いにおいて、わたしたちの主であり救い主であるイエス・キリストが教えられた福音に倣ったものにする事です。わたしたちの言動は全て、地上で唯一罪のない御方である主イエス・キリストの模範に倣ったものでなければなりません。¹⁷

研究とレッスンのための提案

質問

- 第1項にある、救い主が模範を示してくださったさまざまな方法を復習してください。救い主の模範は、あなたにどのような影響を与えましたか。主が死すべき生涯の終わりのときに示された模範から、わたしたちは何を学べるでしょうか。
- ハンター大管長はわたしたちに、「『イエスならどうなさるだろうか』と自問し、その答えにもっと勇気をもって従う」ように勧告しています(第2項)。どうしたらもっと勇気をもって救い主の模範に従うことができるか考えてください。どうすれば家族にこの原則を教えることができるでしょうか。

- 第3項にある教えは、イエス・キリストに従うことについて理解を深めるうえで、どのような助けになるでしょうか。救い主の教えと模範の影響がなかったら、あなたの人生はどうなっていたでしょうか。どうしたら宗教をもっと日常生活に取り入れることができるでしょうか。
- 救い主のための「余地がない」ことについてハンター大管長の述べた言葉について深く考えてください(第4項)。どうしたら生活にもっと救い主を受け入れる余地を作ることができるでしょうか。主を受け入れる余地をもっと作ったことで、どんな祝福を受けたことがありますか。

関連聖句

マタイ 16:24 - 27; ヨハネ 10:27 - 28; 14:12 - 15:1; ペテロ 2:21 - 25; 2 ニーファイ 31:12 - 13; 3 ニーファイ 12:48; 18:16; 27:20 - 22; 教義と聖約 19:23 - 24

教える際のヒント

全員に賛美歌集を用意する。この章で読んだ特定の語句に関連する賛美歌を見つけ、発表するように勧める。

注

1. トーマス・S・モンソン, "President Howard W. Hunter: A Man for All Seasons," *Ensign*, 1995年4月号, 33
2. ジョン・M・ハンツマン・シニア, "A Remarkable and Selfless Life," *Ensign*, 1995年4月号, 24
3. フランシス・M・ギボンズ, *Howard W. Hunter: Man of Thought and Independence, Prophet of God*, (2011年), 152
4. ジェイ・M・トッド, "President Howard W. Hunter: Fourteenth President of the Church," *Ensign*, 1994年7月号, 4-5
5. *The Teachings of Howard W. Hunter*, クライド・J・ウィリアムズ編 (1997年), 40-41
6. 「キリストが受けたもうた誘惑」『聖徒の道』1977年2月号, 51-52参照
7. 「最後の時」『聖徒の道』1974年12月号, 560参照
8. 「あらゆる人々のための教会」『聖徒の道』1990年8月号, 43-44参照
9. 「汝はいかなる人物にてあるべきか」『聖徒の道』1994年7月号, 66-67参照; 「主は従うように招いていらっしゃいます」『聖徒の道』1994年10月号, 3-6; 「神の御子に従う」『聖徒の道』1995年1月号, 97-98も参照
10. 「使徒が語るキリストの証」『聖徒の道』1984年8月号, 7参照
11. 「尊く、大いなる約束」『聖徒の道』1995年1月号, 8参照
12. 「教会の姉妹たちへ」『聖徒の道』1993年1月号, 109参照
13. 「主は従うように招いていらっしゃいます」『聖徒の道』1994年10月号, 4-5参照。「使徒が語るキリストの証」7-11; Conference Report, 1961年10月, 109も参照
14. 「神の証人になる」『聖徒の道』1990年7月号, 64参照
15. *The Teachings of Howard W. Hunter*, 41-42
16. *The Teachings of Howard W. Hunter*, 44-45
17. *The Teachings of Howard W. Hunter*, 45



絵画・写真リスト

- 21 ページーブリガム・ヤング大学エルサレムセンターの写真 © Deseret News
- 32 ページー「迷い出た羊」デル・パーソン画
- 35 ページー「海べで民を教えられるイエス」ジェームズ・ティソ画
- 38 ページー「恐れから信仰へ」ハワード・リヨン画
- 44 ページー「風に向かって」リズ・レモン・スウィンドル画
- 49 ページー「彼女は多く愛したので」ジェフ・ハイン画
- 54 ページー「ベテスタの池で病人を癒されるキリスト」カール・ハインリッヒ・プロッホ画, ブリガム・ヤング大学美術館の厚意により掲載
- 59 ページー「リバティーの監獄にいるジョセフ・スミス」グレッグ・K・オルセン画
- 62 ページー「大切にすべき価値ある贈り物」の一部, ウォルター・レーン画
- 80 ページー「ジョセフ・スミス・ジュニア」アルビン・ギティンズ画
- 85 ページー「教会が組織された日にジョセフ・スミスに与えられた啓示」ジュディス・A・メヘル画
- 96 ページー「わたしに触れてはならない」ミネルバ・K・タイカート画
- 146 ページー「ジョセフ・ナイト・シニアに自分の杖を渡すジョセフ・スミス」ポール・マン画
- 152 ページー「いなくなった羊を救う」の一部, ミネルバ・K・タイカート画
- 180 ページー「わたしの記念に」の一部, ウォルター・レーン画, © IRI
- 184 ページー「いつも主を覚え」ロバート・T・バレット画
- 202 ページー Busath Photography
- 210 ページー「律法を与えるモーセ」テッド・ヘニングガー画
- 216 ページー「ヨブ」ゲリー・L・キャップ画
- 225 ページー「イサクをいけにえとして連れて行くアブラハム」デル・パーソン画, © IRI
- 230 ページー「イエスの衣に触わる女性」ジュディス・A・メア画
- 242 ページー「病人を癒されるイエス」ジェフ・ハイン画
- 250 ページー「目の不自由な人を癒されるイエス」カール・ハインリッヒ・プロッホ画, デンマーク, ヒレレズのフレズレクスボー城内にある国立歴史博物館の厚意により掲載。複写は禁じられています。
- 269 ページー「おお、祝福に満ちたイエス」ウォルター・レーン画
- 276 ページー「書き記すことのできない言葉」ゲリー・L・キャップ画
- 283 ページー「わたしの羊を飼いなさい」カミーユ・コリアー画



索引

あ

愛

- __は最も優れた道, 239 - 240
- 愛することが難しい人に対する__, 233 - 234
- 家族の__, 202 - 208
- 困難な状態にある人に対する__, 235 - 236
- 主の弟子としての特徴を測る試金石, 232 - 233, 235 - 236
- 全ての人に対する__, 46 - 48, 112 - 114, 232 - 240
- 夫婦の__, 191, 193 - 197
- 「慈愛」の項も参照

証

- __を得る方法, 244 - 251
- __を認識する, 251
- 信仰に基づいて行動すると__を得る, 249 - 251

あまり活発でない会員

- 教会活動に戻って来るよう勧める, 26, 153 - 158
- 迷い出た羊を探す, 154 - 158

い

イエス・キリスト

- __の愛, 92 - 93, 231, 238 - 239, 277
- __の贖罪, 36 - 37, 91, 92 - 94, 115 - 117, 184 - 185
- __の神聖な使命, 33
- __の復活, 36 - 37, 91, 92, 94 - 99, 184 - 185
- __の模範と教えに従う, 1, 27 - 28, 36 - 37, 142, 217, 236 - 238, 277 - 284
- __は逆境のときに助けてくださる, 37 - 41, 45 - 52, 59 - 61, 93 - 94

- __を受け入れる余地を作る, 283 - 284
- __を知る必要がある, 34
- __を信じる信仰, 36 - 41, 47 - 58, 60 - 61
- __を生活の中心とする, 1, 39 - 41
- 希望と喜びをもたらす唯一の源である, 35 - 36
- 教会の頭である, 101, 103
- 教師は__を求めるとして生徒に勧める, 258
- 最初の示現で御姿を現された, 70 - 71, 81 - 82
- 十字架にかけられた, 93 - 94
- 聖餐を定められた, 93, 182 - 185
- 聖文研究はわたしたちを__に近づける, 137 - 138
- 平安の源である, 36, 45 - 52
- 唯一の確かな道である, 33, 153
- 預言者ジョセフ・スミスを通して御自分の教会を再び設立された, 82 - 83
- わたしたちの全ての罪と弱さ, 悲しみ, 苦痛を御自身に受けられた, 93 - 94

偉大さ

- __についての世の定義はしばしば誤解を招く, 143 - 144
- __は神が大切だと定められた事柄を行うことから生まれる, 149 - 150
- __は堪え忍ぶことから生まれる, 147 - 148
- __は小さい進歩を長期にわたって続けることから生まれる, 148
- __は小さな事柄についてたゆまず努力を積み重ねていくことから生まれる, 144 - 145
- __は人目につかない奉仕をすることから生まれる, 147 - 148
- 預言者ジョセフ・スミスが示した__, 145 - 147

祈り, 祈る

- __と聖文研究, 133 - 134, 137 - 138
- __を通して知識と導きを受ける, 72, 74 - 75
- 家庭での__, 203, 204 - 205
- 神を知るために__, 245 - 246
- ジョセフ・スミスの__の模範, 69 - 72
- どんなときも__, 73 - 74

え

エルサレムセンター, 「ブリガム・ヤング大学
近東研究エルサレムセンター」の項を参
照

お

教える

- 教会において良い教え方をすることの大
切さ, 253 - 261
- 御霊とともに__, 256 - 257
- 模範によって__, 253, 255, 269

親

- __の協力関係, 202 - 204
- 子供に福音を教える, 202 - 205, 282
- 子供を守り愛する, 202 - 204
- 道から離れた子供の__, 206 - 207

か

家族

- __の祈り, 205
- __の聖文研究, 131 - 132, 132, 133, 134
- __は社会と教会で最も大切な単位である, 201 - 202
- __は人生において他のどのようなものにも勝って価値がある, 201
- __は神殿の業によって祝福を受ける, 166 - 167
- __評議会, 205
- 両親は__をともに導くパートナーである, 202 - 204
- 両親は子供を守り愛する, 202 - 204

家族歴史活動

- __に対するハワード・W・ハンターの愛, 171, 172

__の目的, 174 - 176

- __を雄々しく行う, 176 - 177
- __を速めなければならない, 27, 176 - 177

家庭

- __での成功は人生最大の目標であるべきである, 208
- __における高潔さ, 204 - 205
- __における神権, 203 - 204
- __には愛と祈りと福音の教えがあるべきである, 204 - 205
- __の霊的な雰囲気は両親次第である, 203
- __は聖なる場所となるべきである, 207 - 208
- 両親は__の手本となる, 202
- 両親は__とともに導くパートナーである, 202 - 204

家庭の夕べ, 13, 204 - 205

き

逆境

- __にある間も楽観的である, 59 - 60
- __の中で救い主に頼る, 26, 37 - 41, 47 - 52, 60 - 61
- __はこの世の生涯に不可欠な部分である, 38, 49 - 50
- __は人を謙遜にさせ, 精錬する, 25, 56, 58, 80
- __はわたしたちの永遠の進歩のための, 神の計画の一部である, 56 - 59
- __はわたしたちを進歩させ, 経験を与えるためである, 57 - 59
- __を堪え忍ぶことは真の偉大さをもたらす, 147 - 148
- 贖罪は__に対処するのを助ける, 37 - 41, 45 - 52, 60 - 61, 94
- ジョセフ・スミスが経験した__, 58
- ハワード・W・ハンターが経験した__, 25, 28 - 29, 99

教師

- 個人に手を差し伸べるよう努力する, 258 - 260

生徒が教師に従う状態を作るべきでない, 258
 生徒が心の変化の奇跡を味わえるように助ける, 261
 父なる神とイエス・キリストを直接求めるよう生徒に勧める, 258
 聖文への信頼を育めるように他の人を助ける, 255 - 256
 御霊によって教える, 256 - 257
 模範によって教える, 253, 255, 269
 キリスト, 「イエス・キリスト」の項を参照

け

決意

__は単なる貢献ではない, 221 - 222
 アブラハムの__, 224 - 225
 生きている教会員は絶対的な__を持つよう努力する, 227 - 228
 シヤドラク, メシヤク, アベデネゴの__, 221 - 222
 他の人が何をしようとも__を示す, 223
 ヨシュアの__, 223

結婚

__していないふさわしい個人が祝福を拒まれることはない, 192 - 193
 __における愛, 190 - 191, 193 - 197
 __における一致, 195
 __における幸福, 194 - 195, 194 - 197
 __における慈愛, 194 - 195
 __における親密な関係, 195 - 196
 __における忠誠, 194 - 195
 __における無私的心, 197
 __のきずなを強める, 194 - 197
 __の決意をする人々への勧告, 191, 192
 __は学習行動である, 193 - 194
 神との協力関係である, 190 - 191
 神により定められたもので, 永遠に続く関係として計画された, 190 - 191
 神殿における__, 168, 174, 191
 ハワード・W・ハンターとイニッシ・スタン
 トンの__, 24 - 25, 190
 ハワード・W・ハンターとクレア・ジェフ
 スの__, 8 - 9, 21 - 23, 141, 142, 189, 190, 199, 201

福音の原則に従って生きるための最善の
 努力が必要である, 193 - 194

謙遜さ

逆境は__を育む, 25, 56, 57 - 58, 60
 ハワード・W・ハンターの__, 141, 142, 265, 266

こ

幸福

イエス・キリストを知り, 従うように努める
 ことは__をもたらず, 33
 戒めを守ることは__をもたらず, 61
 結婚生活における__, 193 - 194, 194 - 195
 困難な時における__, 59 - 60
 正直は__をもたらず, 212, 217
 人に奉仕することは__をもたらず, 273
 不適切な比較は__を壊す, 142 - 144

子供

__に神殿について教える, 167 - 168
 __に対する両親の責任, 201 - 208
 __に福音を教える, 255
 __を模範によって教える, 253, 255, 260
 道から離れた__, 205 - 207

さ

最初の示現, 69 - 72, 81 - 82

し

慈愛

__によって世界は大きな恩恵を受ける, 238
 __の道をさらに固い決意をもって歩む, 236 - 238
 __はとこしえに続く, 238 - 239
 __は平安をもたらず, 47
 __は他の神聖な徳を全て含んでいる, 238
 ハワード・W・ハンターの__, 231 - 232
 夫婦の間の__, 194 - 195
 165
 「愛」「純潔」の項も参照

死者のためのバプテスマ, 168, 173

従順

__と聖文研究, 132 - 133

__に徹した道を選ぶ, 224 - 225
 アブラハムの__, 224 - 225
 信仰を伴わなければならない, 225 - 227
 他の人の行動にかかわらず__を貫く, 223
 ヨシユアの__, 223
 「決意」の項も参照

什分の一

__に関する主の定義, 122
 __の用途, 124
 __の律法は単純である, 122
 __の律法は時の初めからあり, 今も続いている, 122 - 123
 __は贈り物であるとともに債務である, 125
 __を納めることがもたらす祝福, 126 - 127
 重荷ではなく特権である, 124
 ハワード・W・ハンターが__を完全に納め始める, 121

正直さ

__に関する主の戒め, 212 - 213
 __は真の幸福をもたらす, 216 - 217
 __は日常生活でのささいな, 目立たないことの中で育まれる, 213 - 214
 家庭での__, 204
 神に対する__, 216 - 217
 個人の生活や仕事の取り引きにおける__, 214 - 215
 自分に対する__, 214, 216 - 217
 神殿に参入するときの__, 165
 ハワード・W・ハンターの__, 12, 211 - 212
 人に対する__, 216 - 217
 「誠実」の項も参照

贖罪, 「イエス・キリスト, の贖罪」の項を参照

ジョセフ・スミス, 「スミス, ジョセフ」の項を参照

試練, 「逆境」の項を参照

神権

__と神殿, 172 - 173, 174
 家庭における__, 203 - 204, 205

結婚における__, 195, 208

信仰

__に基づいて行動すると証を得る, 249 - 251
 __は目に見えない事柄に対する確信を与える, 246 - 248
 __を通して, わたしたちは神を見いだし, 神が生きておられるのを知ることができる, 244 - 246
 生まれつきの盲人の__, 248
 逆境の中で救い主を信じる__, 37 - 41, 47 - 52, 60 - 61
 全世界で最も必要とされているのは救い主を信じる__である, 36 - 37

神殿

__活動の祝福, 166 - 168
 __における結婚, 168, 174, 191
 __に参入する民となる, 1, 3, 167 - 168, 176 - 177
 __の儀式は救いに不可欠である, 172 - 173
 __の業を速めなければならない, 27, 176 - 177
 教会員であることの象徴, 1, 27, 161 - 163
 死者のためのバプテスマ, 173
 推薦状を受けるふさわしさを保つ, 1, 164 - 166
 平安を受ける場所, 1, 162, 168

す

過越, 93, 181 - 185

スミス, ジョセフ

__が経験した逆境, 57 - 59
 __の生涯と業, 85 - 88
 __を通して教会は回復された, 82 - 83
 祈りに関する__の模範, 69 - 72
 最初の示現, 69 - 72, 81 - 82
 聖文に頼る__の模範, 69 - 72
 人の世話をし, 彼らに奉仕した, 145 - 147
 預言者, 聖見者, 啓示者であった, 83 - 85

せ

聖餐

- __のパスと祝福を行うハワード・W・ハンター, 4, 179, 181
 __を取ることで聖約を更新する, 116, 185 - 186
 救い主によって定められた, 93, 182 - 185

誠実さ

- シャデラク, メシヤク, アベデネゴの__, 221 - 222
 神殿に参入するときの__, 165
 ハワード・W・ハンターの__, 12, 211 - 212
 ヨブの__, 215 - 216
 わたしたちを悪から守り, 成功の助けとなり, わたしたちを救う, 215 - 216

聖地, 19 - 21, 33

聖文

- __から教える, 258
 __研究は神の御心を知り, 神に従うのに役立つ, 132 - 133
 __研究は高い所から教えを受けるのに役立つ, 69 - 72
 __研究は最も有益な学習, 131 - 132
 __研究はわたしたちをキリストに近づける, 137 - 138
 __を深く研究した例, 134 - 137
 __を理解するには, 密度の濃い学習を折りをもってたゆまず行わなければならない, 133 - 134
 家族の__研究, 131, 132, 133, 134
 他の人が__への信頼を育めるように助ける, 255 - 256

聖霊

- __によって教える, 256 - 257
 __の御霊を受けるには正直さが必要である, 216 - 217
 __は聖見者の霊的な目を変える, 84
 __は霊的な知識を与える, 72, 75, 134

セミナープログラム, 13

ち

父親

- __の責任, 132, 134, 202 - 204, 205
 「家族」「両親」の項も参照
 父なる神, 「天の御父」の項を参照

て

天の御父

- __が実在するという知識を得るためには, 努力, 従順, 祈りが必要である, 245 - 246
 __に祈る, 73 - 75
 __は助けと導きを与えると約束しておられる, 69
 __への愛, 92 - 93, 112 - 115
 __への忠誠を決意する, 219 - 228
 __を見いだすことは人生で最も偉大な達成である, 244 - 245
 教師は__を求めるように生徒に勧める, 258
 最初の示現で御姿を現された, 81 - 82

伝道活動

- __と贖罪, 115 - 117
 __における主の御手, 111
 __を行うという教会の使命, 113 - 114
 個人的な義務である, 115 - 117
 全ての国民のためにある, 112 - 115
 分かち合う際の障害を乗り越える, 117 - 118

の

ノウエル, ナンシー (高祖母), 79

は

母親

- __の責任, 132, 134, 202 - 204
 「家族」「両親」の項も参照

バプテスマ

- __の聖約, 116, 154, 157 - 158
 __の正しい形式, 191
 イエスの__, 278
 ハワード・W・ハンターの__, 4, 179
 ハワード・W・ハンターの父親の__, 6, 161

ハンター, クララ・メイ (クレア) (最初の妻),
8 - 10, 12, 13, 21 - 23, 43, 121, 141
- 142, 189, 190, 199, 201

ハンター, ドロシー (妹), 3 - 6, 14

ハンター, ハワード・W
__とブリガム・ヤング大学近東研究エル
サレムセンター, 19 - 21, 43, 112
__の証, 4, 25, 26, 29, 33, 56, 79, 81,
91, 92, 243, 244
__のアロン神権の聖任, 4, 179
__の勤勉さ, 5, 9, 14
__の謙遜さ, 141, 142, 265, 266
__の心の平安, 25, 43, 45, 266
__の慈愛, 5, 231 - 232
__の正直, 12, 211 - 212
__の誕生, 3
__のパプテスマ, 4 - 5, 179
イーグルスカウト賞を受ける, 4
イニッシ・スタントンとの結婚, 25, 190
夫としての__, 22 - 23, 43, 141, 142,
189, 190
音楽の才能, 6, 7, 8, 199
家族歴史に対する愛, 171, 172
教会の大管長になる, 26 - 30, 101, 103
教会歴史家としての奉仕, 18 - 19
クレア・ジェフスとの結婚, 8 - 9, 21 -
23, 141, 145, 189, 190, 199, 201
健康上の問題, 21, 22, 23, 28 - 30
子供時代, 3 - 5
死, 28 - 29
十二使徒定員会会長としての奉仕, 23 -
26
十二使徒定員会の一員としての奉仕, 15
- 17, 219
什分の一を完全に納めるようになる, 121
ステーキ会長としての奉仕, 12 - 15
聖餐のパスと祝福を行う, 4, 182 - 183,
198 - 199
聖地に対する愛, 19 - 21, 33
聖文に対する愛, 129
父親, 祖父としての__, 12, 199, 201
爆弾脅迫犯に対する反応, 25, 43, 44
母親から祈りについて学ぶ, 4, 67

ビショップとしての奉仕, 10 - 11
福音研究に対する愛, 7, 129, 243
弁護士としての働き, 9, 12, 16, 29, 219
- 221, 231
ポリネシア文化センターのセンター長とし
ての奉仕, 18
メキシコシティでステーキを組織する,
21, 28
ユタ系図協会における奉仕, 17 - 18, 27,
172
両親, 3 - 7, 14, 161, 171
両親との結び固め, 14, 161

ハンター, イニッシ・バーニス・イーガン・ス
タントン (二人目の妻), 24 - 25, 190

ハンター, ジョン・ウィリアム (ウィル) (父),
3 - 4, 6, 14, 161, 170

ハンター, ネリー・マリー・ラスマッセン (母),
3 - 4, 14, 161, 170

ハンター, ハワード・ウィリアム・ジュニア
(ビリー) (息子), 9, 91

ふ

福音

__に従った生活は幸せな結婚生活をもた
らず, 194
__は行動の計画である, 249
__は全ての人に対する神の愛のメッセー
ジである, 113
__は世の人々が平和を得るための唯一の
道である, 46 - 48, 114, 237
__は, 霊的な成長のための神の計画であ
る, 76
__を教える, 204 - 205, 253 - 261
__を分かち合う際の障害を乗り越える,
117 - 118
完全な__が回復された, 79, 81 - 82,
105, 172
全世界に__を携えて行く, 111 - 118
世の人々は__を必要としている, 47,
114, 237

福祉プロジェクト, 14
復活, 36, 39, 91, 92, 94 - 99, 184

ブリガム・ヤング大学近東研究エルサレムセンター, 19 - 21, 43, 123

へ

平安

イエスは__の源である, 36, 45 - 52
 混乱における__, 48 - 52
 神殿は__の場所である, 3, 167 - 169, 185
 救い主に無条件に身を委ねることでもたらされる, 47
 福音の原則に従って生活することで__を育む, 46 - 48
 福音は世に__をもたらす唯一の方法である, 46 - 48, 114, 236 - 237

ほ

奉仕

__の機会を探す, 281
 神への忠誠を測る主の試金石である, 233
 困難な状態にある人への__, 235 - 236
 ささやかで簡単な方法で__する, 266 - 271
 幸せをもたらす, 273
 静かに目立たず__する, 265, 266 - 271, 273 - 274
 真の偉大さをもたらす, 141, 142, 145, 147 - 148
 場所よりも理由に関心を持つ, 271 - 273, 281
 人々の称賛に注意深くある, 273 - 274
 平安をもたらす, 48
 ホームティーチング, 6, 153 - 154, 172, 202
 ポリネシア文化センター, 18

ま

末日

希望にあふれ、胸の高鳴る時代, 63 - 65
 忠実な聖徒は__の艱難を恐れる必要はない, 61 - 65
 末日聖徒イエス・キリスト教会
 __には全ての国民に福音を教えるという使命がある, 113 - 115

__は啓示によって導かれている, 104, 105, 106 - 107
 __は預言者ジョセフ・スミスを通して再び設立された, 82 - 83
 イエス・キリストは__の頭である, 101, 103

も

模範

__によって教える, 253, 255, 260
 両親の__, 202
 モルモン書, 129, 137

ゆ

ユタ系図協会, 17 - 18, 27, 172

よ

預言者

現世にやってくるはるか以前に選ばれていた, 103
 今日導きを与える, 104 - 105
 真理を教える, 83
 聖見者としての__, 83 - 85
 それぞれの神権時代における主の代弁者, 83, 103 - 104

末日聖徒
イエスキリスト
教会

JAPANESE

